

2022年度

シラバス



聖 霊 女 子 短 期 大 学

生活文化科生活文化専攻《2022年度生 1年次開講科目》

科 目 名	頁	科 目 名	頁
[教養教育科目全学共通]		比較文化B	55
キリスト教学Ⅰ	1	地域とグローバル教育A	56
女性論Ⅰ※	2	地域とグローバル教育B	本年度開講せず
体験学習Ⅰ※	3	日本文化史A	57
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4	日本文化史B	58
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5	フィリピン文化セミナー※	本年度開講せず
情報システム論	6	スポーツ科学A	59
国語表現Ⅰ	7	スポーツ科学B	60
職場体験学習※	15 頁参照	アメリカ文化A	61
[専門教育科目 語学文学分野]		イギリス文化A	本年度開講せず
アメリカ語学セミナー※	本年度開講せず	ドイツ語圏文化A	62
Basic English Skills Ⅰ	16	韓国文化A	63
Basic English Skills Ⅱ	18	地域リーダーシップ論	64
Listening Ⅰ	20	市民社会論	65
Listening Ⅱ	21	[専門教育科目 食分野]	
Oral Communication Ⅰ	22	食生活論	66
Oral Communication Ⅱ	24	食物と調理	67
Writing	26	調理演習A	68
Reading A	本年度開講せず	調理演習B	69
Reading B	本年度開講せず	[専門教育科目 デザイン分野]	
News English Ⅰ	本年度開講せず	コンピュータグラフィックス	70
TOEFL Ⅰ※	27	グラフィックデザイン演習	71
TOEIC Ⅰ	28	[専門教育科目 ビジネス分野]	
TOEIC Ⅱ	29	基礎経済論	72
英文法A	本年度開講せず	時事経済	73
英文法B	本年度開講せず	消費生活論	74
ドイツ語Ⅰ	30	食料経済	75
ドイツ語Ⅱ	31	秘書学概論	76
韓国語Ⅰ	32	秘書実務Ⅰ	77
韓国語Ⅱ	33	ビジネス実務総論	78
中国語Ⅰ	34	ビジネス実務演習Ⅰ	79
中国語Ⅱ	35	グローバル経済	80
[専門教育科目 情報文化分野]		インドビジネス文化	81
プログラミングⅠ	36		
表計算活用学A	37		
ワードプロセッサ活用学A	38		
ICT基礎	39		
情報科学入門	40		
[専門教育科目 教養文化分野]			
心理学A	41		
心理学B	42		
哲学A	43		
哲学B	44		
日本文学A	45		
日本文学B	47		
日本国憲法	49		
法学	50		
人間関係論	51		
リーダーシップのコーチングA	52		
リーダーシップのコーチングB	53		
比較文化A	54		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活文化專攻《2021年度生 2年次開講科目》

[illegible]

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活こども専攻《2022年度生 1年次開講科目》

科 目 名	頁	科 目 名	頁
[教養教育科目必修]			
キリスト教学Ⅰ	1 頁参照		
女性論Ⅰ※	2 頁参照		
体験学習Ⅰ※	3 頁参照		
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4 頁参照		
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5 頁参照		
情報システム論	6 頁参照		
国語表現Ⅰ	7 頁参照		
[教養教育科目選択]			
情報処理演習	109		
日本国憲法	49 頁参照		
フィリピン文化セミナー※	本年度開講せず		
[外国語科目]			
英語A	110		
英語B	111		
[体育科目]			
体育講義	112		
体育実技	113		
[専門教育科目 必修]			
保育原理	114		
社会的養護Ⅰ	115		
教育原理	116		
教育心理学	117		
こどもの保健	118		
[専門教育科目 選択]			
社会的養護Ⅱ	119		
こどもの健康と安全	120		
保育内容総論	121		
保育内容・人間関係	122		
保育内容・言葉A	123		
保育内容・表現（音楽A）	124		
保育内容・表現（身体A）	125		
保育内容・表現（身体B）	126		
保育内容・表現（造形A）	127		
保育内容・表現（造形B）	128		
乳児保育Ⅰ	129		
乳児保育Ⅱ	130		
こどもの音楽A	131		
こどもの音楽B	132		
保育実習指導Ⅰ※	133		
保育実習ⅠA※	134		
教職概論（幼稚園・保育所）	135		
幼稚園教育実習指導	136		
幼稚園教育実習	138		
人間関係論	139		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科生活こども専攻《2021年度生 2年次開講科目》

科 目 名	頁	科 目 名	頁
[教養教育科目全学共通]			
キリスト教学Ⅱ	9 頁参照		
女性論Ⅱ*	10 頁参照		
キャリアデザインⅡ (就職コース)	11 頁参照		
キャリアデザインⅡ (進学コース)	12 頁参照		
[教養教育科目選択]			
体験学習Ⅱ	13 頁参照		
国語表現Ⅱ	14 頁参照		
哲学A	43 頁参照		
哲学B	44 頁参照		
法学	50 頁参照		
比較文化A	54 頁参照		
比較文化B	55 頁参照		
日本文化史A	57 頁参照		
日本文化史B	58 頁参照		
フィリピン文化セミナー*	本年度開講せず		
[専門教育科目 必修]			
社会福祉	140		
こども家庭福祉	141		
こども家庭支援論	142		
[専門教育科目 選択]			
こども家庭支援の心理学	143		
こどもの理解と援助	144		
こどもの食と栄養	145		
保育指導法	146		
保育内容・健康	147		
保育内容・環境A	148		
保育内容・環境B	149		
保育内容・言葉B	150		
保育内容・表現 (音楽B)	151		
特別支援教育	152		
子育て支援	153		
こどもの英語	154		
鍵盤楽器奏法A	155		
鍵盤楽器奏法B	156		
教職実践演習(幼稚園・保育所)	157		
保育実習ⅠB*	134 頁参照		
保育実習指導ⅡA*	158		
保育実習指導ⅡB	159		
保育実習ⅡA*	160		
保育実習ⅡB	160		
教育制度論	161		
教育課程総論	162		
教育方法論	163		
幼児理解	164		
教育相談	165		
幼稚園教育実習指導	137 頁参照		
幼稚園教育実習*	138 頁参照		
コミュニケーション	本年度開講せず		

注) ※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《2022年度生 1年次開講科目》

科 目 名	頁	科 目 名	頁
[教養教育科目 必修]		ライフステージ栄養学	176
キリスト教学Ⅰ	1 頁参照	臨床栄養学Ⅰ	177
女性論Ⅰ※	2 頁参照	給食管理	178
体験学習Ⅰ※	3 頁参照	調理学	179
キャリアデザインⅠ（就職コース）	4 頁参照	[専門教育科目 選択]	
キャリアデザインⅠ（進学コース）	5 頁参照	食品学実験	180
情報システム論	6 頁参照	食品加工衛生学実験	181
国語表現Ⅰ	7 頁参照	基礎調理実習	183
[教養教育科目 選択]		応用調理実習	184
プログラミングⅠ	36 頁参照	食生活論	66 頁参照
表計算活用学A	37 頁参照	学校栄養教育論	185
ワードプロセッサ活用学A	38 頁参照	[卒業所要単位に含まれない科目]	
職場体験学習※	15 頁参照	教職概論	186
心理学A	41 頁参照	教育原理	187
心理学B	42 頁参照	教育制度論	188
哲学A	43 頁参照	教育心理学	189
哲学B	44 頁参照	特別支援教育	190
日本文学A	46 頁参照	教育課程総論	191
日本文学B	48 頁参照	教育方法論	192
基礎経済論	72 頁参照	道徳・特別活動及び総合的な学習	193
時事経済	73 頁参照		
日本国憲法	49 頁参照		
法学	50 頁参照		
人間関係論	51 頁参照		
リーダーシップのコーチングA	52 頁参照		
リーダーシップのコーチングB	53 頁参照		
比較文化A	54 頁参照		
比較文化B	55 頁参照		
地域とグローバル教育A	56 頁参照		
地域とグローバル教育B	本年度開講せず		
日本文化史A	57 頁参照		
日本文化史B	58 頁参照		
フィリピン文化セミナー※	本年度開講せず		
スポーツ科学A	59 頁参照		
スポーツ科学B	60 頁参照		
秘書学概論	76 頁参照		
秘書実務Ⅰ	77 頁参照		
ビジネス実務総論	78 頁参照		
ビジネス実務演習Ⅰ	79 頁参照		
総合基礎（教職）A	166		
[外国語科目]			
英語A	167		
英語B	168		
[専門教育科目 必修]			
解剖生理学Ⅰ	169		
解剖生理学Ⅱ	170		
生化学	171		
食品学総論	172		
食品学各論	173		
食品衛生学	174		
栄養学総論	175		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

生活文化科健康栄養専攻《2021年度生 2年次開講科目》

科 目 名	頁	科 目 名	頁
【教養教育科目 必修】			
キリスト教学Ⅱ	8 頁参照		
女性論Ⅱ※	10 頁参照		
キャリアデザインⅡ（就職コース）	11 頁参照		
キャリアデザインⅡ（進学コース）	12 頁参照		
体験学習Ⅱ	13 頁参照		
【教養教育科目 選択】			
社会情報学	97 頁参照		
プログラミングⅡ	98 頁参照		
表計算活用学B	99 頁参照		
ワードプロセッサ活用学B	100 頁参照		
国語表現Ⅱ	14 頁参照		
職場体験学習	15 頁参照		
フィリピン文化セミナー※	本年度開講せず		
秘書実務Ⅱ	107 頁参照		
ビジネス実務演習Ⅱ	108 頁参照		
総合基礎（教職）B	194		
【外国語科目】			
英語C	本年度開講せず		
英語D	本年度開講せず		
【専門教育科目 必修】			
社会福祉概論	195		
公衆衛生学	196		
解剖生理学Ⅱ	170 頁参照		
運動生理学	197		
臨床栄養学Ⅱ	198		
スポーツ栄養学	199		
公衆栄養学	200		
栄養指導論	201		
ライフステージ栄養指導論	202		
【専門教育科目 選択】			
解剖生理学実験※	203		
生化学実験	204		
栄養学実習	205		
ライフステージ栄養学実習	206		
臨床栄養学実習※	207		
栄養指導実習※	208		
ライフステージ栄養指導実習※	209		
給食管理実習Ⅰ※	210		
給食管理実習Ⅱ※	211		
食料経済	75 頁参照		
調理学実験	212		
フードコーディネート論	213		
食品の官能評価・鑑別演習	214		
簿記	106 頁参照		
【卒業所要単位に含まれない科目】			
生徒指導	215		
教育相談	216		
栄養教育実習指導	217		
栄養教育実習※	217		
教職実践演習（栄養教諭）	218		

注）※印が付いている科目は、実務経験のある教員が担当する授業科目である。

科 目 名	キリスト教学Ⅰ		担当者	片山 桃子
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／全学			
評 価 基 準	受講態度 (20%)、中間レポート (20%)、毎授業のリアクションペーパー (20%)、学期末試験 (記述式) (40%)			
課題に対するフィードバック	毎授業のリアクションペーパー等を随時授業で取り上げコメントする。			
目 的	・ 宗教そのものの深い理解を目指し、宗教の定義、キリスト教とはいかなる宗教であるか、発展とその特徴、神の存在の意義を通して考えを深める。 ・ 人間とは何か、人としてどう生きるべきか、をキリスト教思想において考え、真に大切なものへの価値観を深める。			
到 達 目 標	・ 宗教の概念を理解している。 ・ キリスト教について、聖書を中心にイエス・キリストの生涯、教え、今日までの成立過程を理解している。 ・ 現代でキリスト教の精神を生きるとはどのようなことなのかを理解している。			
履修上の注意				
オフィスアワー	毎週火曜日 13:00～15:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、宗教とは		・ 自分と宗教、宗教について知っていること、自分の考えをまとめる。(1 時間) ・ 配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(0.5 時間)	
2	キリスト教とは		・ キリスト教について知っていることを考え、キリスト教に持っている自分のイメージをまとめる。(1 時間) ・ 配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5 時間)	
3	聖書という書物Ⅰ (旧約聖書)		・ 聖書全般について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1 時間) ・ 配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5 時間)	
4	聖書という書物Ⅱ (新約聖書)		・ 新約聖書について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1 時間) ・ 配布資料を通覧し、疑問点や意見等をメモしておく。(0.5 時間)	
5	イエス・キリストの生き方Ⅰ―受肉と誕生		・ 指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1 時間)	
6	イエス・キリストの生き方Ⅱ―使命と活動		・ 指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(1 時間)	
7	イエス・キリストの生き方Ⅲ―愛といのち 中間レポート (授業内で実施)		・ キリスト教における愛といのちとは何か自分の考えをまとめておく。(1 時間) ・ 中間レポートのテーマを調べ、学習して自分の考えをまとめておく。(1 時間)	
8	イエス・キリストの生き方Ⅳ―死と復活		・ 指定した聖書箇所を読んで疑問点や感じたことをまとめる。(0.5 時間) ・ キリスト教における死と復活とは何か自分の考えをまとめておく。(1 時間)	
9	キリスト教の広まり、使徒の活躍		・ 配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(1 時間)	
10	キリスト教の生き方		・ 配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(1 時間)	
11	キリスト教と信仰Ⅰ―キリスト教を生きた人々		・ 信仰を生きたとは何か自分の考えをまとめておく。(1 時間) ・ 配布資料を復習し、重要語句を確認し、内容を整理する。(0.5 時間)	
12	キリスト教と信仰Ⅱ ―現代のキリスト教		・ 現代世界で見られるキリスト教について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1 時間)	
13	日本におけるキリスト教		・ 日本のキリスト教や歴史について知っていること、自分の考えをまとめておく。(1 時間)	
14	キリスト教とわたしたち キリスト教芸術		・ キリスト教の芸術 (美術、音楽)、今の社会とキリスト教の繋がりについて知っていること、自分の考えをまとめておく。(1 時間)	
15	まとめ		・ これまでの配布資料を復習し、重要語句を確認し、疑問点、内容を整理する。(1 時間) ・ 事前に出されるテーマから学期末試験 (記述式) の準備。(1 時間)	
テキスト	授業ごとに資料を配布する。授業内で参考文献を適宜紹介する。			
指定図書	なし。			

科 目 名	女性論Ⅰ	担当者	菅野 薫
区 分 等	1 年次・通年〔講義〕 1 単位 必修／全学		
評 価 基 準	①課題レポート (30%) ②授業ごとの提出ノート (授業への参加態度も含む) (40%) ③自由課題レポート (30%)		
課題に対するフィードバック	授業ごとの提出ノートや課題レポートに適宜フィードバックをし、返却する。		
目 的	女性としての尊厳に目覚め、家庭と社会、世界における自己の使命、役割と責任を認識するとともに実行できる力を養う。		
到 達 目 標	①聖霊学園建学の精神について知り、女性の生き方を自覚し、行動できるようになる。 ②生命の尊厳について学び、命の大切さを深く考え、命を守ることができるようになる。 ③マナーを身に付け、他の人を思いやる心を育み、行うことができるようになる。		
履修上の注意	各アセンブリー、C.G. 等への出席も「女性論Ⅰ」の出席に含める。 学内、学外の講師の講話を主体とする。		
オフィスアワー	月曜日 12 時 50 分～15 時 00 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション／菅野 薫 建学の精神がめざす女性／マッテュ・フィリップ (4 月 14 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
2	女性のマナー／小林 紀子 (6 月 2 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
3	自信を持つために／菅野 薫 (7 月 7 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
4	世界の実情と課題／菅野 薫 (8 月 25 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
5	静修／マッテュ・フィリップ (9 月 20 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
6	自分を生かすために／織田 栄子 (10 月 13 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
7	女性の結婚と男女協同参画／佐藤 加代子 (11 月 17 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
8	女性と社会Ⅰ／鈴木 聖子 (12 月 1 日)	まとめ・資料整理と次回テーマの確認 (2 時間)	
テキスト	沖 守弘著『マザー・テレサ～あふれる愛～』(講談社)		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容

企業・施設・国際機関等で活躍している女性外部講師を招き、現場での実務経験を通じた内容の講話を聴き、女性としての尊厳に目覚め、家庭と社会、世界における自己の使命、役割と責任を認識するとともに実行できる力を養う。

科 目 名	体験学習Ⅰ	担当者	Mathew Philip
区 分 等	1 年次・通年〔講義・実習〕 1 単位 必修／全学		
評 価 基 準	①受講・参加態度、特に地域や施設活動における主体性、積極性（80%）。 ②活動報告書〔2 回提出〕（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、コメントをする。		
目 的	建学の精神が目指す隣人愛を体験に基づいて理解する。他者と関わり、生まれながら与えられているリーダーシップの能力に気づき、地域ネットワークや活動プラットフォームの立ち上げ方を学ぶ。今、重要視される情報発信と地域活性化スキルを学び、助けを必要とする地元の事業や人々と接することを通して、共生社会実現への関心を深め、地域問題の解決に自己の役割に気づく。		
到達目標	1. 援助を必要とする事業や人と接するとき、助けの手を惜しまない者になる。 2. 共生社会がどれほど実現しているか、地域社会の現状についての知見を得、困難にある人との連帯の可能性を知る。 3. 地域の事業者や困っている人と住民を情報で繋ぐことが出来るようになる。 4. 活動プラットフォームの立ち上げが出来るようになる。 5. 挨拶、礼儀など社会生活上求められることを実行できるようになる。		
履修上の注意	1. 単位取得には 1 回の学外イベントの実施（学内）活動が必要であり、学外イベントや所定の施設活動を欠課した場合、その分を補う奉仕活動を行う。 2. 木曜午後に授業および活動を 9 回実施。それに加え 1 2 月「クリスマスの日」に学外イベント(学内イベント)を行う。 3. 三つのイベントから受講者が 生活こども専攻：ロボット活用した子ども向けのイベントを準備し、学内や外部で行う。 健康栄養専攻：地域活性化のため秋田の食材を使用してお菓子を作り。 生活文化専攻：商店街や NPO などと合同イベントを学内や外部で行う		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画 ※木曜午後「年間計画」参照。		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーションおよび講義「リーダーシップ総論	国内外で尊厳されているリーダーについて調べ、自分のロールモデルを見つける（1 時間）	
2	自己リーダーシップについて 自分自身や仲間を理解する能力 施設活動に求められる心構えと留意点	今国内外で人が抱えている悩みについて調べ、乗り越えるために求められる心構え調べる。(1 時間)	
3	地域・リーダーシップについて (地域リーダーに必要なスキル)	秋田の現状と問題点」について調べる（1 時間） 担当する施設について調べる。（1 時間） 地域の現状と問題点」について調べる（1 時間）	
4	グローバル・リーダーシップについて 必要なスキル	SDGs について調べる（1 時間） SDGs を評価し、それをもとに学内外で出来るイベントを作成する。(1 時間)	
5	イベントのガイダンスと企画	企画をふりかえり、自己評価し、それをもとに準備をする。	
6	イベントの準備	同 上	
7	同 上	同 上	
8	イベントの実施	なし。	
9	事後指導と施設活動報告会のガイダンス	次回活動報告会での報告・プレゼンテーション内容を検討、準備する。(2 時間)	
10	活動報告会—活動内容と成果を発表する 街頭募金（学内活動）に関する説明	募金の送り先とその国について調べる（1 時間）	
11	街頭募金（学内活動） （「クリスマスの日」に実施）	なし。	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容

地域活動での実践的学習を通して、ネットワークの立ち上げや助けを必要とする人々と接して、共生社会実現への関心を深め、自己の役割に気づく。

科 目 名	キャリアデザインⅠ（就職コース）	担当者	佐藤 恵
区 分 等	1 年次・通年〔講義〕 1 単位 必修／全学		
評 価 基 準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目 的	卒業後の進路や職業選択に向けて、いま自分自身で知っておかなければならないこと、社会人として準備しておかなければならないことをこの授業を通じて勉強し、行動するきっかけをつくる。		
到 達 目 標	キャリアおよびキャリアデザインの意味を理解し、近い将来の就職、自分が志望する職種、社会人像などについて理解できるようになる。		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とでクラス分けする。 ②課題のレポート 100%提出を要す。 ③進路指導アセンブリーの出席状況も評価の対象となる。		
オフィスアワー	前期：火曜日 11 時～14 時、後期：月曜日 11 時～14 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション	テキストを読んでキャリアについて考える（1 時間）。	
2	専攻ごとの授業	テーマを明確にして臨むための準備を心がける（1 時間）。	
3	社会人になるための基礎力講座（国語・SPI2） 近藤清兄・小林弥生	自分に不足していると思われる部分の補強を意識して復習に力を入れる（1 時間）。	
4	社会人になるための基礎力講座（社会） 佐藤光咲	自分に不足していると思われる部分の補強を意識して復習に力を入れる（1 時間）。	
5	自己分析①	テキストの「自分が知っている自分自身」「エゴグラム」を回答し、自分自身について考える。（1 時間）	
6	自己理解のための就職模試・適性検査	結果を熟読し、適性を理解する（1 時間）。	
7	自己分析②	自己分析①を基に、300 字程度で自己紹介文を考える。（1 時間）	
8	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するよう努める（1 時間）。	
9	講演「働く目的・自己理解の仕方」	テキストを熟読し、学修した内容と照らし合わせる。（1 時間）。	
10	働き方を考える	テキストを読んで「何のために働くのか」考えまとめる。（1 時間）	
11	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するよう努める（1 時間）。	
12	就職活動の実務	履歴書・エントリーシートを記入してみる。（1 時間）	
13	就職活動体験発表	就職活動の現状を理解し、自分の活動の軸について考える（1 時間）。	
14	就職戦線へ向けて	就職活動の流れを確認し、説明会に参加する準備をする（1 時間）。	
15	面接対策	学修した内容から想定質問を考え、面接練習を繰り返す（1 時間）。	
テキスト	水原道子編著『キャリアデザイン』 『自分で動く就職』（財団法人雇用開発センター）		
指定図書	なし。		

科 目 名	キャリアデザインⅠ（進学コース）	担当者	横溝真理
区 分 等	1 年次・通年〔講義〕 1 単位 必修／全学		
評 価 基 準	①毎回の課題(50%) ②定期試験(50%)		
課題に対するフィードバック	毎回の課題については次の授業中に解説する。		
目 的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到 達 目 標	①編入学試験に必要な英語力を身につける。 ②文法の復習をしながら、構文を正しく把握できる力を身につける。		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ②毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳してくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝真理)		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	名詞構文の訳し方(1)	主述の関係がどこに発生しているか(2 時間)。	
2	名詞構文の訳し方(2)	主述の関係がどこに発生しているか(2 時間)。	
3	物主構文の訳し方	主語と動詞の関係を見分ける(2 時間)。	
4	分詞句と分詞構文(1)	分詞の文中での役割を考える(2 時間)。	
5	分詞句と分詞構文(2)	省略されている接続詞と主語は何か(2 時間)。	
6	関係代名詞(1)	先行詞は何か、どこまでが関係文か(2 時間)。	
7	関係代名詞(2)	先行詞は何か、どこまでが関係文か(2 時間)。	
8	関係代名詞(3)	先行詞は何か、どこまでが関係文か(2 時間)。	
9	関係副詞	先行詞は何か、どこまでが関係文か(2 時間)。	
10	前置詞の用法(1)	動詞と前置詞の関係を考える(2 時間)。	
11	前置詞の用法(2)	動詞と前置詞の関係を考える(2 時間)。	
12	長文読解練習(1)	主述の関係をはじめ、構文の把握(2 時間)。	
13	長文読解練習(2)	主述の関係をはじめ、構文の把握(2 時間)。	
14	長文読解練習(3)	主述の関係をはじめ、構文の把握(2 時間)。	
15	長文読解練習(4)	主述の関係をはじめ、構文の把握(2 時間)。	
テキスト	プリントを用意する。		
指定図書	なし。		

科 目 名	情報システム論	担当者	小林弥生
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／全学		
評 価 基 準	①授業への取り組み姿勢 (20%) ②課題提出 (50%) ③小テスト (30%)		
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。 小テストは採点し、返却時に解説をする。		
目 的	アプリケーションソフト (Word、Excel、PowerPoint) の利用技術を習得し、情報を適切に整理・加工し、発信するための能力を養う。 情報モラルやセキュリティ対策の意識を身につけ、情報化社会と主体的に関わる能力を育む。		
到 達 目 標	①レポート作成のための文書作成技術を身につける。 ②目的に応じてデータを加工・集計することができ、視覚的に表現するためのグラフ作成方法に習熟する。 ③インターネットを利用するときの情報モラルやセキュリティについての理解を深め、安全に活用することができる。 ④パワーポイントを用いたプレゼンテーション用スライドの作成方法を学び、豊かな表現力を身につける。		
履修上の注意	特になし		
オフィスアワー	木曜日 10:30～12:00		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンス コンピュータの基本操作 ファイルとフォルダの扱い方	テキストを読み、講義の内容を復習する (4 時間)	
2	ワードの基本操作 文書作成、文字の配置・修飾、段落設定	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
3	ワードによる表の作成 表の書式設定、セルの結合・分割	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
4	表現力豊かな文章の作成 レイアウトの設定、図・図形などの挿入	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
5	長文作成を支援する機能 見出しスタイル、アウトライン番号	提出課題の完成 (4 時間)	
6	エクセルの基本操作 表の作成、数式の入力	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
7	エクセルによるデータの加工 1 関数の利用	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
8	エクセルによるデータの加工 2 グラフの作成	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
9	エクセルによるデータベース機能 並べ替え・抽出	提出課題の完成 (4 時間)	
10	インターネットの仕組みと情報セキュリティについて	テキスト・資料を読み、講義の内容を復習する (4 時間)	
11	情報モラルについて	テキスト・資料を読み、講義の内容を復習する (4 時間)	
12	小テスト プレゼンテーションの基本 パワーポイントによるスライドの作成 1	情報セキュリティ・モラルについての資料を読み復習する。 講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
13	パワーポイントによるスライドの作成 2	講義の復習と演習問題による確認 (4 時間)	
14	インターネットによる情報検索について プレゼンテーション用資料の収集 プレゼンテーション用アウトラインの作成	スライド用資料の収集と整理 (4 時間)	
15	プレゼンテーション用スライドの作成 発表用資料の作成	スライドの完成とプレゼンテーションの練習 (4 時間)	
テキスト	杉本くみ子・大澤栄子『 30 時間アカデミック Office2019 』(実教出版)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	国語表現Ⅰ	担当者	栗森 貢
区分等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／全学		
評価基準	授業に取り組む姿勢（50%）、授業で提出する課題（50%）		
課題に対するフィードバック	机間巡視の折に学生に応じたアドバイスをし、提出した学習シートに必要なコメントを記して返却する。		
目的	○テーマに沿った情報等を選択し、適切な言葉遣いで論理的な文章表現ができる力を養う。 ○効果的な表現構成の仕方を身に付け、分かりやすい文章を書く力を高める。		
到達目標	1. 自己や社会全般を見つめて得た意見や感想を、説得力のある文章で表現することができる。 2. テーマや時間、字数等の条件に従って、分かりやすい文章を書くことができる。		
履修上の注意	優れた表現から学び、積極的に自分の表現に生かすことに努めること。		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 【1】基礎レッスン—ことばと情報の操作 (1) ことばに変える	この科目で学習する全体計画を見通すことができ、学習内容をイメージする。テキストの『日本語表現のレッスン』の第1部を読んでくる。(1時間)	
2	(2) 情報を要約する	文章を要約するトレーニングをするので、ノートやメモ帳を準備する。	
3	(3) 情報の探し方	情報を探すために、パソコン室や図書室を利用することもある。	
4	【2】アカデミックライティング—「正確な表現」 (1) ウォーミングアップ—「何を書くか」	レポートと論文の違いや「論理的な文章」の書き方について学ぶので、テキスト第2部を読んでくる。(1時間)	
5	(2) 論理力トレーニング	紙上ディベートを行ったり、小論文の構成について学んだりして、実際に小論文を書くことに挑戦する。「何を書くか」というテーマと内容を考えてくる。(1時間)	
6	(3) 文章を書く技法	前時に書いた小論文を教材として活用し、書きやすく読みやすい文章の技法を学ぶとともに、推敲する力も身に付ける。(1.5時間)	
7	(4) レポートから論文へ	レポートや論文作成の手順と方法について学ぶので、予習をしてくる。(1時間)	
8	【3】テクニカルライティング—「わかりやすい表現」 (1) わかりやすい表現の基礎	相手にわかりやすくこちらの意図や考えを伝えるために、どんな工夫や技術が必要かを学ぶので、テキスト第3部を読んでくる。(1時間)	
9	(2) ライティング技法	身近な文章を観察し、分かりにくい表現を探して来る。(1時間)	
10	(3) わかりやすいマニュアルを制作する	パソコンの解説書や製品の取扱説明書などを準備し、その内容の分かりにくい部分を書き改めてみる。(1時間)	
11	【4】クリエイティブライティング—「創造的な表現」	表現する自分自身を中心にした文章、ことばのもつリズムやイメージを生かした表現などを生かして、自分史やモノ語りなどを創作する学習である。自分自身をどのような形で表現するかを考えて、形の残る創造的な表現活動に取り組む。(各1時間)	
12	(1) 自分史		
13	(2) モノ語り—モノを通して自分を表現する		
14	(3) 創作		
15	(4) 本を作る	数多くの視点から日本語表現について学んだので、その成果を意見文にまとめる。(1.5時間)	
16	本科目で学んだことを振り返り、日本語表現について自分自身が身に付けた成果を意見文として書く。		
17	テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』（教育出版） 松村明 校閲『表記の手引き』（第七版）（教育出版編集部）	
18	指定図書	あり（巻末参照）。	

科 目 名	キリスト教Ⅱ		担当者	ヒダヤット メナ
区 分 等	2 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	①受講態度(20%) ②授業ごとの提出ノート・感想文 (30%) ③定期試験〔筆記〕(50%)			
課題に対するフィードバック	毎回学生が提出した感想文を評価し、コメントを書く。			
目 的	キリスト教思想における人間観およびそれに関連付けられる歴史的、社会的問題について学ぶことを通して、人間の尊厳や人生の意義に対する考えを深め、人間らしく豊かに生きるための指針を得る。			
到 達 目 標	1. キリスト教思想に関する基礎知識、教養を習得し、それについて説明できるようになる。 2. 習得した知識、教養を活かして、人生の課題に主体的に取り組めるようになる。			
履修上の注意	1. 授業中にパワーポイント用意、DVDを見ての討議に積極的に参加する。 2. 毎回講義内容や8回の感想文をノートに記録する。講義終了時に提出する。 3. 積極的にグループディスカッションに参加する。(第12回と第15回の授業)			
オフィスアワー	授業料後、10 分程度。事前に予約してください。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス「キリスト教による3つの美德（信仰、希望、愛）」		1 コリント13：13を読んで、今学期の各自の目標や期待などを考えておく。【1 時間】	
2	愛に生きる①“Pay it Forward”の意味①		積極的にDVDを見ながら“Pay it forward”の意味を理解し、自分の生きがいを考えておく。【1 時間】	
3	愛に生きる②“Pay it Forward”の精神②		積極的にDVDを見ながら“Pay it forward”の精神を学び、今学期の自分の目標を考えておく。配った資料を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
4	愛に生きる③—生命の尊さ		動画を観察しながら、生命の大切さに気づき、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記2：7を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
5	愛に生きる④—貧困と国際共同体		DVDを見ながら、地球家族の一員として広い心を持つ大切さに気づき、関連ある記事やマタイ25：40を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
6	愛に生きる⑤—エコスピリチュアル		動画を観察しながら、キリスト教の教えにおける環境問題を意識し、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記1：1～11を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
7	神の国の福音—愛の教え		内容を深めていく為、ヨハネ15：1～17を読んでおく。【1 時間】	
8	神の国の福音（イエス・キリストの言葉と行い）隣人愛について		内容を深めていく為、ルカ10：25～37を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
9	神の国の福音（イエス・キリストの言葉と行い）「赦しあい」		内容を深めていく為、マタイ18：21～22を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
10	生と死について①		「モリー先生との火曜日」のDVDを観察しながら、気付いたことや疑問や学んだことなどを記録する。【1 時間】	
11	生と死について②		DVD の続き、「キリスト教と私」p．255～263を読んでおく。【1 時間】感想文【10 分】	
12	聖書における幸福		授業で指示してある聖句、特にマタイ5：1～12や「キリスト教と私」p．30～38を読んでおく。【1 時間】	
13	幸せの力①		DVD を観察しながらこれからの人生の幸せな力を考えておく。マタイ5：1～12を読んでおく。【1 時間】	
14	幸せの力②		DVD の続き、自分の幸せについて反省し、第15回目の課題として考えて置く。【1 時間】感想文【10 分】	
15	まとめ		1．授業の目的と到達目標を確認しながら、各自の目標や期待することなどを振り返ってみる。 2．自分の幸せの妨げになる課題を見つめ、それに対応できる次のステップを考えておく。 3．A5サイズのレポートを作成する。【1 時間】	
テキスト	『聖書—旧約聖書続編つき 新共同訳』（日本聖書協会）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	キリスト教Ⅱ		担当者	ヒダヤット メナ
区 分 等	2 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／生活こども専攻			
評 価 基 準	① 受講態度(20%) ② 授業ごとの提出ノート・感想文 (30%) ③ 定期試験〔筆記〕(50%)			
課題に対するフィードバック	毎回学生が提出した感想文を評価し、コメントを書く。			
目 的	キリスト教思想における世界観、人間観を学ぶことを通して、人生の意義や人間の尊厳、特に保育者のまなざしを身につけ、人間らしく豊かに生きるための指針を深める。			
到 達 目 標	1. キリスト教思想に関する基礎知識、教養を習得し、それについて説明できるようになる。 2. 習得した知識・教養を活かして、人生の課題、又、現在の子どもたちや保育の現場の課題に主体的に取り組めるようになる。			
履修上の注意	1. 授業中にパワーポイント用意、DVDを見ての討議に積極的に参加する。 2. 講義内容や 8 回の感想文をノートに記録する。講義終了時に提出する。 3. 積極的にグループディスカッションに参加する。(第 12 回と第 15 回の授業)			
オフィスアワー	授業料後、10 分程度。事前に予約してください。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	キリスト教保育の目標①		今学期の各自の目標や期待などを考えておく。キリスト教保育の目標を呼んでおく。DVDを見る前の準備。【1 時間】	
2	キリスト教保育の目標②		DVDを見ながらそれぞれの目標を理解するためノートに書いてある「キリスト教目標」を読んでおく。【1 時間】	
3	キリスト教保育の目標③		テーマと関連性がある聖書の御ことばを読んでおく 例、マタイ 19：13～15、マルコ 10：13～16、ルカ 15：18：15～17 【1 時間】 感想文 【10 分】	
4	キリスト教による 3 つの美德（信仰、希望、愛）		配った資料を参考して、疑問を考えておく。授業の中で問いかけたり、感想文に書いたりしても大丈夫。【1 時間】 感想文 【10 分】	
5	子どもと共にキリストと出会うー（神について物語る）		マタイ 18：10～15、ルカ 15：3～7 と配った資料を読んでおく。【1 時間】 感想文 【10 分】	
6	善と悪の間の子どもたち		マタイ 18：6、10； マルコ 9：42、ルカ 17：1～2 を読んで置く。【1 時間】	
7	子どもと死		資料や「キリスト教と私」 p. 255～263 を読んでおく。【1 時間】	
8	イエス・キリストの言葉と行いー愛に生きる		内容を深めていく為、ヨハネ 15：1－17 を読んでおく。【1 時間】	
9	愛に生きる(1)ー生命の尊さ		動画を観察しながら、生命の大切さに気付き、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記 2：7 を読んでおく。【1 時間】 感想文 【10 分】	
10	愛に生きる(2)ー貧困と国際共同体		DVDを見ながら、地球家族の一員として広い心を持つ大切さに気付き、関連ある記事やマタイ 25：40 を読んでおく。【1 時間】 感想文 【10 分】	
11	愛に生きる(3)ーエコスピリチュアル		動画を観察しながら、キリスト教の教えにおける環境問題を意識し、疑問や学んだことを感想文に書く。創世記 1：1～11 を読んでおく。【1 時間】 感想文 【10 分】	
12	聖書のお話を物語るー 子ども向きの絵本		聖書シリーズの絵本を選んで、そのメッセージをこども向きの言葉で発表する。【1 時間】 感想文 【10 分】	
13	幸せの力①		DVDを観察しながらこれからの人生の幸せな力を考えておく。「キリスト教と私」 p. 30～38 とマタイ 5：1～12 を読んでおく。【1 時間】	
14	幸せの力②		DVDの続き、自分の幸せについて反省し、第 15 回目の課題として考えて置く。【1 時間】 感想文 【10 分】	
15	まとめ		1. 授業の目的と到達目標を確認しながら、各自の目標や期待することなどを振り返ってみる。 2. 自分の幸せの妨げになる課題を見つめ、それに対応できる次のステップを考えておく。 3. A5サイズのレポートを作成する。【1 時間】	
テキスト	『聖書ー旧約聖書続編つき 新共同訳』（日本聖書協会） アルフォンス・デーケン著『キリスト教と私』（聖母の騎士社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	女性論Ⅱ		担当者	菅野 薫
区 分 等	2年次・通年〔講義〕 1単位 必修／全学			
評 価 基 準	①課題レポート (30%) ②授業ごとの提出ノート (授業への参加態度も含む) (40%) ③自由課題レポート (30%)			
課題に対するフィードバック	授業ごとの提出ノートや課題レポートに適宜フィードバックをし、返却する。			
目 的	グローバルな視点を養いながら、女性としての尊厳に目覚め、家庭と社会、世界における自己の使命、役割と責任を認識するとともに実行できる力を養う。			
到 達 目 標	①女性の使命および尊厳について理解し、女性の生き方を理解し、行動できるようになる。 ②アディクションと犯罪被害について知り、自分自身を守ることができるようになる。 ③マナーを身に付け、他の人を思いやる心を育み、行うことができるようになる。			
履修上の注意	各アセンブリー、C.G.等への出席も「女性論Ⅱ」の出席に含める。 学内、学外の講師の講話を主体とする。			
オフィスアワー	月曜日 12時50分～15時00分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション／菅野 薫 女性の使命／マッテュ・フィリップ （4月7日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
2	自信を持つために／菅野 薫 （5月19日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
3	おもてなしの心／小林 美津子 （6月23日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
4	自分を生かすために／織田 栄子 （7月14日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
5	女性と平和／マッテュ・フィリップ （9月8日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
6	女性と社会Ⅱ／鈴木 聖子 （9月29日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
7	女性のライフステージと健康／太田 敦子 （11月10日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
8	静修／外部講師 （1月26日）		まとめ・資料整理と次回テーマの確認(2時間)	
テキスト	池上彰著『お茶の水女子大学特別講義 世界を変えた10人の女性』（文藝春秋）			
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。			

※実務経験のある教員による授業科目の教育内容

企業・施設・国際機関等で活躍している女性外部講師を招き、現場での実務経験を通じた内容の講話を聴き、女性としての尊厳に目覚め、家庭と社会、世界における自己の使命、役割と責任を認識するとともに実行できる力を養う。

科 目 名	キャリアデザインⅡ（就職コース）	担当者	佐藤 恵
区 分 等	2年次・通年〔講義〕 1単位 必修／全学		
評 価 基 準	①レポート(70%) ②取組姿勢(30%)		
課題に対するフィードバック	空き時間に進路支援室で個別に指導する。		
目 的	就職意欲の向上、実際の就職活動の実践など、初期キャリアの獲得に向けて就職をあきらめないための行動力とともに基礎的社会人力等の養成を目指す。		
到 達 目 標	企業の具体的内容、自分が志望する仕事、働く意義などを理解し、新たな発見のもと目標に向けてチャレンジする意欲が育まれる。		
履修上の注意	①就職希望と進学希望とクラス分けする。 ②課題のレポート 100%提出を要す。 ③進路指導アセンブリーの出席状況も評価の対象となる。		
オフィスアワー	前期：火曜日 11 時～14 時、後期：月曜日 11 時～14 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	就職活動の進め方	テキストを再読し、自分のキャリアの発達を考えて授業に参加する（1 時間）。	
2	社会人になるための基礎力講座（国語関連・数学関連） 近藤清兄・小林弥生	自分に不足していると思われる部分の補強を意識して復習に力を入れる（1 時間）。	
3	社会人になるための基礎力講座（社会科学関連） 佐藤光咲	自分に不足していると思われる部分の補強を意識して復習に力を入れる（1 時間）。	
4	面接試験対策	講師に積極的に質問できるよう準備しておく（1 時間）。	
5	グループディスカッション①	学修内容から、グループディスカッションのための、準備をする（1 時間）。	
6	グループディスカッション②	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）。	
7	社会人と学生の違い	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）。	
8	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するよう努める（1 時間）。	
9	講演「新社会人のためのマナー講座」	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）。	
10	専攻ごとの授業	自分のロールモデルを見つけるため、多くの情報に接するよう努める（1 時間）。	
11	講演「職場で求められる人になるために」	学修した内容を日常生活において実践する（1 時間）。	
12	専攻ごとの授業	学修したこと、体験から得たことを振り返り、整理する（1 時間）。	
13	講演「働く時に必要な法知識」	学修した内容を整理する（1 時間）。	
14	講演「女性活躍の時代～自分らしい働き方」	自立した社会人になるために必要なことを考え、準備の状況を確認する（1 時間）。	
15	今年度の振り返り	社会人としてスタートするにあたり、今しなければならぬことを考える（1 時間）。	
テキスト	『自分で動く就職』（財団法人雇用開発センター）		
指定図書	なし。		

科 目 名	キャリアデザインⅡ（進学コース・英語）	担当者	横溝眞理
区 分 等	2年次・通年〔講義〕 1単位 必修／全学		
評 価 基 準	①毎回の課題(50%) ②定期試験(50%)		
課題に対するフィードバック	毎回の課題については次の授業中に解説する。		
目 的	四年制大学編入学に必要な英語力を身につける。		
到 達 目 標	①英文を正しく読み取ることができるよう、特殊構文の読み方を身につける。 ②長文問題を正しく読む技術を身につける。		
履修上の注意	①授業に英和辞書を持参すること。 ②毎回の授業に臨む前に、わからない単語は辞書で調べ、例文をあらかじめ訳しておくこと。 ③編入学試験に英語以外の専門科目が必要な者については、別途、栄養学・教育学等に関する専門科目内容、また論文作成についても指導を受けることができる。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝眞理)		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	倒置構文(1)	主語と動詞の位置関係を考える(2時間)。	
2	倒置構文(2)	主語と動詞の位置関係を考える(2時間)。	
3	強調構文(1)	強調されているのはどの語なのか(2時間)	
4	強調構文(2)	強調されているのはどの語なのか(2時間)	
5	省略構文	語句の重複を避けるために省略されている部分はどこなのかを考える(2時間)。	
6	共通構文	どの部分に共通関係が生じているのか(2時間)。	
7	挿入構文	どの部分が挿入句であるのか(2時間)。	
8	It … that	意味上の主語はどこか(2時間)。	
9	as … as	何と何を比較しているのか(2時間)。	
10	前置詞の用法(1)	動詞との結びつきはどうなっているか(2時間)。	
11	前置詞の用法(2)	動詞との結びつきはどうなっているか(2時間)。	
12	長文読解練習(1)	文章のテーマは何か。キーワードはどれか(2時間)。	
13	長文読解練習(2)	文章のテーマは何か。キーワードはどれか(2時間)。	
14	長文読解練習(3)	文章のテーマは何か。キーワードはどれか(2時間)。	
15	長文読解練習(4)	文章のテーマは何か。キーワードはどれか(2時間)。	
テキスト	プリントを用意する。		
指定図書	なし。		

科 目 名	体験学習Ⅱ		担当者	伊藤雅子
区 分 等	2年次・通年〔実習〕 1単位 選択／生活文化専攻、生活こども専攻 2年次・通年〔実習〕 1単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	活動報告、感想レポート、活動への参加態度で評価する。			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	学内外の行事を通じて、様々な人々との交流や地域貢献を体験し、視野を広げる。			
到 達 目 標	自主的、積極的な行動の効果を知り、客観的視野を広げることができる。			
履修上の注意	授業内容・時間が変則的なので予定表・掲示板で確認すること。 学内行事・学外活動には必ず参加すること。			
オフィスアワー	月曜日 16時～17時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 体験学習Ⅱ実施内容発表会			机上の勉強だけでなく、様々なことに挑戦、体験をする。 外部講師の話を聞き見聞を広げる。
2	・学内行事（ピア祭、クリスマスオープンキャンパスなど）における調理、サービス、クリスマスカード等の作製、テーブルセッティング ・学外活動（地域で開催されるイベントや公開講座等のアシスタント、短大・専攻が届出を受理しているボランティア活動） ・外部講師による講話 ・体験学習Ⅱについての発表・報告会			
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科目名	国語表現Ⅱ	担当者	栗森 貢
区分等	2年次・前期〔講義〕2単位 選択／全学		
評価基準	学習に望む姿勢（50%）課題提出内容（50%）により、総合的に評価する。		
課題に対するフィードバック	机間巡視しながら、個々に応じてアドバイスをし、回収した学習シートに必要に応じたコメントを書いて返却する。		
目的	テーマに沿った具体的な事例等を根拠に、効果的な文章構成や言葉遣いで説得力のある文章を書く力を養う。		
到達目標	1. 文章構成や言葉遣いを工夫して、自分の意見や感想を読み手に分かりやすく伝えることができる。 2. 興味を引く根拠をもとに、テーマを掘り下げた文章を書くことができる。		
履修上の注意	優れた文章表現を書き留め、その表現を目的に応じて使おうとする習慣を身に付けること		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後 金曜日：午後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 自分自身の紹介文を書く	自分の良さや弱点を客観的に見つめて書き留める（2時間）	
2	自分の良さを観点ごとに整理し、読み手にとって読みやすく書く方法を理解する	随筆や論文から、優れた文章表現を見いだす（2時間）	
3	職種に応じた自分の長所を取り入れ、簡潔な志望動機を書く	仕事内容や職場の場面を想定し、そのことと関連させて、自分の良さをまとめる（2時間）	
4	決められた文字数で職種に応じた自己PR文を書き、相互批評をしながら推敲する	想定した職種を対象にして、字数に応じた文章を書く練習をする（2時間）	
5	仕事に関する文章を自分の経験や社会で求められている姿とつながる事例等を取り入れて書く	自分が希望する職種に関する情報をいくつかの側面からまとめる（2時間）	
6	仕事に関することについて伝えたいことが明瞭に読み手に届くように構成を工夫して書く	一つのテーマをいくつかの構成で文章を書き、それぞれの良さを調べる（2時間）	
7	自分が就きたい職業を対象とした「好ましい論作文の書き方」や「面接質問への好ましい回答」についてのリーフレットを作成する	好ましい論作文の観点や面接時の質問内容を想定し、よりよい印象を伝える内容とはどのようなものかを書き留めておく（2時間）	
8	取り上げたい社会問題に関して、よりよい事例とはどのようなものかを吟味することができる	取り上げたい事例をいくつか選択し、それぞれの良さを調べる（2時間）	
9	取り上げる事例に相応しい構成を考えて、社会問題に関する文章を書く	読み手に対して説得力をもつ感想であるための事例を取り上げておく（2時間）	
10	国際情勢に関する文章を論点が明確になるように取り上げる事例を吟味して書く	論点が明確になるよう取り上げたい事例を何点かまとめておく（2時間）	
11	論点を明確にできるよう構成や事例を工夫して国際情勢に関する文章を書く	工夫した書き出しの文になるよう、書き出しの仕方を何例か準備する（2時間）	
12	郷土秋田を文章でアピールする方法、伝えるテーマに応じた事例を数点取り上げ、構成を考える	取り上げる事例を分野に応じて調べ、具体例を記録する（2時間）	
13	秋田の良さに関する文章を書き、構成や事例の点から推敲する	文章全体が説得力をもつための推敲の観点を見いだす（2時間）	
14	テーマに沿ったスピーチメモを作り、スピーチを聞き合い互いに批評し合う	メモに沿って聞き手を意識したスピーチの練習をする（2時間）	
15	テーマに沿って小集団による協議をし、事例の取り上げ方や協議の進め方を学び合う	発言した内容を受けて、自分の考えを述べる仕方を練習する（2時間）	
テキスト	長沼行太郎、青嶋康文 他著『日本語表現のレッスン』（教育出版） 松村明 校閲『表記の手引き』（第七版）（教育出版編集部）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	職場体験学習	担当者	伊藤雅子
区 分 等	不定期・集中〔実習〕 1 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評 価 基 準	事前・事後指導を含んだ 45 時間以上の活動を対象とする。 活動証明書の指導責任者の所見、活動報告書などから総合評価する。		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントを付けて返却する。		
目 的	学生が実社会で必要となる専門知識および技術を職場で体験することにより学習し、自らが適応する職域を見つけ、問題意識・意欲の向上につなげる。		
到 達 目 標	①事前学習により、職場体験学習の目的を理解し、個人の目標を明確にすることができる。 ②職場体験学習を通して実社会の現状を把握することができる。 ③職場体験学習を通して職場での職員間の連携の大切さを理解できる。 ④職場体験学習により、学習意欲の向上や職業観を身に付けることができる。 ⑤職場体験学習終了後、自らの経験や今後の学生生活の取組方針についてまとめることができる。		
履修上の注意	①活動証明書は事前に事務局から受け取り、活動場所で証明を受ける。 ②就業体験中は各施設の諸規定や規則を厳守し、指導者の指示に従う。 ③白衣または施設が指示した着衣を身に付け、身だしなみ、態度、言葉づかい等に注意する。 ④施設で知り得た情報を口外してはならない。 ⑤開始時間は厳重に守る。 やむを得ず欠席あるいは遅刻する場合には、指導者に必ず連絡する。 ⑥健康管理に注意する。 ⑦提出物の期限を厳守する。 ⑧インフルエンザ流行期に就業体験に臨む場合は事前に予防接種をする。		
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実施の流れ 1. 職場体験学習の説明 2. 希望調査 3. 事前指導 4. 施設での事前面接 5. 就業体験 6. 報告書作成 7. 事後指導		健康栄養専攻の学生については就業活動に際し、食中毒予防のための食品の衛生、就業先の給食を提供する対象者の年代を踏まえた栄養的な特徴について理解する。	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	Basic English Skills I		担当者	近藤清兄
区分等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評価基準	(1) 定期試験 (70%) (2) 基礎単語小テスト (前期 10 回) (10%) (3) 授業態度 (20%)			
課題に対するフィードバック	小テスト答案はコメントを付け返却する。その他随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力(高卒・2500 語+α 程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1) 毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついです。が、がんばって学習しましょう。 (2) Listening I を併せて履修することを推奨します。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1) [予習] Words, Expressions, Grammar and Usage を調べる。 (2) [予習] Let' s try(練習問題)： Words, Expressions, Grammar and Usage で見たことをヒントに解いてみましょう。 (3) [復習] Words と 4 択問題は重要です。	
2	Unit 1 品詞 【小テスト①p12-19】		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	Unit 2 動詞 【小テスト②p20-31】			
4	Unit 3 句動詞 【小テスト③p32-43】			
5	Unit 4 基本時制 【小テスト④p44-55】			
6	Unit 5 進行形・完了形 【小テスト⑤p56-61】			
7	Unit 6 名詞・冠詞 【小テスト⑥p68-77】			
8	Unit 7 代名詞 【小テスト⑦p78-91】			
9	Unit 8 形容詞 【小テスト⑧p92-103】			
10	Unit 9 副詞 【小テスト⑨p104-117】			
11	Lesson 10 助動詞 【小テスト⑩p118-129】			
12	復習 (Unit 1-3)			
13	復習 (Unit 4-6)			
14	復習 (unit 7-8)			
15	復習 (Unit 9-10)			
テキスト	Hidehiko Konaka: “Happy Days with Snoopy ” (Asahi Press) 桐原書店編集部編『データベース 3000 基本英単語・熟語[5 th Edition]』(桐原書店)【小テスト用】			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科 目 名	Basic English Skills I		担当者	Didy Huang
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) Quizzes (30%) 2) Column Writing (10%) 3) Composition (20%) 4) Test (40%)			
課題に対するフィードバック	Comments and feedback will be given after evaluations.			
目 的	To enhance the students' reading, writing, speaking and listening skills in English through the use of the popular book, The Little Prince. Students will: 1) Further develop their reading comprehension and grammar skills 2) Share their thoughts and opinions using common English expressions 3) Understand the cultural context of the book and its impact on the youth			
到 達 目 標	The students will be able to analyze a work of English and express their ideas and opinions clearly.			
履修上の注意	None			
オフィスアワー	水曜日 9：00～11：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Introduction to The Little Prince			
2	Chapters 1-2		Students should skim Chapters 1-2. (1 hour)	
3	Chapters 3-4		Students should skim Chapters 3-4. (1 hour)	
4	Quiz ① (Chapters 1-4) English Expressions ①		1) Students should review for Quiz ①. 2) Students should read p. 40-45. (1 hour)	
5	Column Writing ①		Students should read p. 46. and prepare notes. (1 hour)	
6	Chapters 5-6		Students should skim Chapters 5-6. (1 hour)	
7	Chapters 7-8		Students should skim Chapters 7-8. (1 hour)	
8	Quiz ② (Chapters 5-8) English Expressions ②		1) Students should review for Quiz ②. 2) Students should read p. 70-74. (1 hour)	
9	Chapters 9-10		Students should skim Chapters 9-10. (1 hour)	
10	Chapters 11-12		Students should skim Chapters 11-12. (1 hour)	
11	Quiz ③ (Chapters 9-12) English Expressions ③		1) Students should review for Quiz ③. 2) Students should read p. 98-102. (1 hour)	
12	Review (Chapters 1-6)		Students should prepare their notes. (1 hour)	
13	Review (Chapters 7-12)		Students should prepare their notes. (1 hour)	
14	Composition		Students should review their Column Writing and English Expressions. (1 hour)	
15	Returning Compositions and Comments			
テキスト	サン＝テグジュペリ（著者）、井上久美（解説・監修）「英語で読む星の王子さま The Little Prince」（IBC パブリッシング）（2012 年 4 月）			
指定図書	None			

科目名	Basic English Skills II		担当者	近藤清兄
区分等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評価基準	(1) 定期試験 (70%) (2) 基礎単語小テスト (後期 10 回) (10%) (3) 授業態度 (20%)			
課題に対するフィードバック	小テスト答案はコメントを付け返却する。その他随時助言・提案を行う。			
目的	読み、書き、話し、聞くための基本的な英語力：(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力 (2)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力 (3)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる程度の単語力 (高卒・2500 語+α 程度)、を養成します。漫画 <i>Peanuts</i> と関連するテーマの文章を読み、練習問題を考えます。また、英語圏の文化的背景についても解説します。			
到達目標	各課の重要単語と文法テーマを理解し、それを用いた日常的表現に習熟し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1) 毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついです、がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Unit 11 主語と動詞の一致 【小テスト⑪p130-141】		(1) [予習] Words, Expressions, Grammar and Usage を調べる。 (2) [予習] Let' s try (練習問題) : Words, Expressions, Grammar and Usage で見たことをヒントに解いてみましょう。 (3) [復習] Words と 4 択問題は重要です。	
2	Unit 12 受動態 【小テスト⑫p142-157】			
3	Unit 13 不定詞 【小テスト⑬p158-173】		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
4	Unit 14 動名詞 【小テスト⑭p182-197】			
5	Unit 15 分詞 【小テスト⑮p198-211】			
6	Unit 16 前置詞 【小テスト⑯p212-225】			
7	Unit 17 接続詞 【小テスト⑰p226-231】			
8	Unit 18 関係詞 【小テスト⑱p238-245】			
9	Unit 19 V 比較 【小テスト⑲p246-259】			
10	Unit 20 否定 【小テスト⑳p260-273】			
11	復習 (Unit11-12)			
12	復習 (Unit13-14)			
13	復習 (Unit15-16)			
14	復習 (Unit17-18)			
15	復習 (Unit19-20)			
テキスト	Hidehiko Konaka: “ <i>Eappy Days with Snoopy</i> ” (Asahi Press) 桐原書店編集部編『データベース 3000 基本英単語・熟語 [5 th Edition]』(桐原書店)【小テスト用】			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科 目 名	Basic English Skills II		担当者	Didy Huang
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) Quizzes (40%) 2) Column Writing (20%) 3) Test (40%)			
課題に対するフィードバック	Comments and feedback will be given after evaluations.			
目 的	To enhance the students' reading, writing, speaking and listening skills in English through the use of the popular book, The Little Prince. Students will: 1) Further develop their reading comprehension and grammar skills 2) Share their thoughts and opinions using common English expressions 3) Understand the cultural context of the book and its impact on the youth			
到 達 目 標	The students will be able to analyze a work of English and express their ideas and opinions clearly.			
履修上の注意	Students should take Basic English Skills I.			
オフィスアワー	水曜日 9：00～11：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Chapter 13-14		Students should skim Chapters 13-14. (1 hour)	
2	Chapter 15-16		Students should skim Chapters 15-16. (1 hour)	
3	Quiz ④ (Chapters 13-16) English Expressions ④		1) Students should review for Quiz ④. 2) Students should read p. 130-134. (1 hour)	
4	Column Writing ②		Students should read p. 135. and prepare notes. (1 hour)	
5	Chapter 17-18		Students should skim Chapters 17-18. (1 hour)	
6	Chapter 19-20		Students should skim Chapters 18-19. (1 hour)	
7	Quiz ⑤ (Chapters 17-20) English Expressions ⑤		1) Students should review for Quiz ⑤. 2) Students should read p. 152-155. (1 hour)	
8	Chapter 21-22		Students should skim Chapters 21-22. (1 hour)	
9	Chapter 23-24		Students should skim Chapters 23-24. (1 hour)	
10	Quiz ⑥ (Chapters 21-24) English Expressions ⑥		1) Students should review for Quiz ⑥. 2) Students should read p. 182-188. (1 hour)	
11	Column Writing ③		Students should read p. 189. and prepare notes. (1 hour)	
12	Chapter 25-27		Students should skim Chapters 25-27. (1 hour)	
13	Quiz ⑦ (Chapters 25-27) English Expressions ⑦		1) Students should review for Quiz ⑦. 2) Students should read p. 220.	
14	Review (Chapters 13-20)		Students should prepare their notes. (1 hour)	
15	Review (Chapters 21-27)		Students should prepare their notes. (1 hour)	
テキスト	サン＝テグジュペリ（著者）、井上久美（解説・監修）「英語で読む星の王子さま The Little Prince」（IBC パブリッシング）（2012 年 4 月）			
指定図書	None			

科 目 名	Listening I		担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	(1) 定期試験 (70%) (2) 授業態度 (30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目 的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語力全般の向上の障害をとりのぞいてしっかりとした基礎を築き、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。			
到 達 目 標	英語の母音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1) 反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。 (2) Basic English Skills I を併せて履修することを推奨します。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1) 学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2) 「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。	
2	母音 1. [i :] 2. [i]		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3	3. [e] 4. [æ] 5. [a]			
4	6. [a :] 7. [a : r] 8. [ʌ]			
5	9. [ə] 10. [ə : r]			
6	11. [ɔ] 12. [ɔ :] 13. [ɔ : r]			
7	14. [u] 15. [u :]			
8	16. [ei] 17. [ai]			
9	18. [au] 19. [ɔ i]			
10	20. [ou] 21. [i ə] [i ə r]			
11	22. [ɛ ə] [ɛ ə r] 23. [u ə] [u ə r] 24. [ai ə] [ai ə r]			
12	復習 (1-6)			
13	復習 (7-12)			
14	復習 (13-18)			
15	復習 (19-24)			
テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』（朝日出版社）			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科 目 名	Listening II		担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目 的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語力全般の向上の障害をとりのぞいてしっかりと基礎を築き、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。			
到 達 目 標	英語の子音の発音の基礎を学習し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	子音	1. [p][b]	(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「SENTENCE」の各例文はしっかりと復習してください。	
2		2. [t][d] 3. [k][g]	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
3		4. [f][v] 5. [θ][ð]		
4		6. [s][z] 7. [ʃ][ʒ]		
5		8. [t ʃ][dʒ] 9. [ts][dz]		
6		10. [m] 11. [n]		
7		12. [ŋ]		
8		13. [l] 14. [r]		
9		15. [h] 16. [j]		
10		17. [w] 18. [hw]		
11		19. [pl][tr][st]		
12	復習(1-5)			
13	復習(6-10)			
14	復習(11-15)			
15	復習(16-19)			
テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー著『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』（朝日出版社）			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科 目 名	Oral Communication I		担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) Test (70%) 2) Homework (10%) 3) Class participation (20%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目 的	(1)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力。 (2)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる力。			
到 達 目 標	各課 24 個の基本単語を使い、自己紹介、依頼、意見（賛成、反対、異なる意見を遠回しに伝える）、会話を途切れさせずつなぐ、近況報告、などの技能を習得し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	(1)毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついです、がんばって学習しましょう。 (2)「Basic English Skills I」を併せて履修することを推奨します。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Introduction		(1)〔予習〕配付プリントのクロスワード、単語の意味テスト。	
2	Unit 1/Good to Meet You		(2)〔予習〕Key Vocabulary 調べ。	
3	Unit 1/Good to Meet You		(3)学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用し反復練習する。	
4	Unit 2/It Runs in the Family		(4)〔復習〕Strategy1, 2 の構造のおさらい。	
5	Unit 2/It Runs in the Family			
6	Unit 3/School Daze		上記以外に教室で指示する文献等を読む。	
7	Unit 3/School Daze			
8	Unit 4/You Are What You Eat			
9	Unit 4/You Are What You Eat			
10	Unit 5/Shop ‘Till You Drop			
11	Unit 5/Shop ‘Till You Drop			
12	Unit 6/TGIF			
13	Unit 7/Friends			
14	Unit 7/Friends			
15	復習			
16	Unit 8/Road Trip			
17	Unit 8/Road Trip			
18	Unit 9/ Blind Date			
19	Unit 9/ Blind Date			
20	Unit 10/Job Hunting			
21	Unit 10/Job Hunting			
22	Unit 11/Let’ s Catch a Flick			
23	Unit 11/Let’ s Catch a Flick			
24	Unit 12/School’ s Out[完結]			
25	復習(Unit 1- Unit 3)			
26	復習(Unit 4- Unit 6)			
27	復習(Unit 7- Unit 9)			
28	復習(Unit 10- Unit 12)			
29	総復習・応用			
30	総復習・応用			
テキスト	Michael Hensley/Bill Burns, “By the Way” (Macmillan Languagehouse)			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科目名	Oral Communication I		担当者	Didy Huang
区分等	1 年次・前期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評価基準	1) Classroom participation (70%) 2) Quizzes (30%)			
課題に対するフィードバック	Comments and suggestions for improvement will be given after each class.			
目的	To enable the students to acquire a basic grasp of English conversational skills.			
到達目標	The students will acquire enough grammar and vocabulary to hold a 5 minute conversation with someone on everyday topics.			
履修上の注意	None			
オフィスアワー	水曜日 9：00～11：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Orientation, verbal and non-verbal language		Students should read the syllabus and the preface. (1 hour)	
2	Unit 1 Good to meet you (vocabulary check)		Students should prepare unit 1. (1 hour)	
3	Unit 1 Good to meet you (strategies)		Students should learn the vocabulary for unit 2. (1 hour)	
4	Unit 2 It runs in the family (vocabulary)		Students should prepare Unit 2. (1 hour)	
5	Unit 2 It runs in the family (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
6	Unit 3 School daze (vocabulary)		Students should prepare Unit 3. (1 hour)	
7	Unit 3 School daze (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
8	Unit 4 You are what you eat (vocabulary		Students should prepare Unit 4. (1 hour)	
9	Unit 4 You are what you eat (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
10	Unit 5 Shop ‘till you drop (vocabulary)		Students should prepare Unit 5. (1 hour)	
11	Unit 5 Shop ‘till you drop (strategies)		Students should review their notes. (1 hour)	
12	Unit 6 TGIF (review)		Students should review their notes. (1 hour)	
13	Unit 6 Putting it all together		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
14	Unit 7 Friends (vocabulary)		Students should prepare unit 7. (1 hour)	
15	Unit 7 Friends (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
16	Unit 8 Road trip (vocabulary)		Students should prepare unit 8. (1 hour)	
17	Unit 8 Road trip (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
18	Unit 9 Blind date (vocabulary)		Students should prepare unit 9. (1 hour)	
19	Unit 9 Blind date (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
20	Unit 10 Job hunting (vocabulary)		Students should prepare unit 10. (1 hour)	
21	Unit 10 Job hunting (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
22	Unit 11 Let’ s catch a flick (vocabulary)		Students should prepare unit 11. (1 hour)	
23	Unit 11 Let’ s catch a flick (strategies)		Students should learn the vocabulary for the next unit. (1 hour)	
24	Unit 12 School’ s out (vocabulary)		Students should prepare unit 12. (1 hour)	
25	Unit 12 School’ s out (strategies)		Students should review units 1-6. (1 hour)	
26	Review (units 1-6)		Students should review units 7-12. (1 hour)	
27	Review (units 7-12)		Students should review their notes. (1 hour)	
28	Questions and answers		Students should prepare their presentations. (1 hour)	
29	Presentations		Students should prepare their pair presentations. (1 hour)	
30	Presentations and reflection		Nothing special	
テキスト	HENSLEY, M. and BURNS, B. “By the Way...” (Macmillan Languagehouse)			
指定図書	None			

科 目 名	Oral Communication II		担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) Test (70%) 2) Homework (10%) 3) Class participation (20%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目 的	(1)「言いたいことを箇条書きに分解」して簡潔に正しく伝え、誤解や失礼のないように配慮するコミュニケーション能力。 (2)「自分の日常のものごと」を大体英語に置き換えられる力。以上の養成。			
到 達 目 標	自分の性格、考え方、自分ならどうする、といったことを見つめ直し、日常的なテーマについて自分の立場を平易な英語(高校卒業+α程度)で人に伝えることができるようになる。			
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、基礎コースとはいえ、いささかきついです。がんばって学習しましょう。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Introduction		(1) [予習] Vocabulary 調べ。 (2) [予習] EXERCISE に答えておく。 (3) [復習] Vocabulary の定着。 (4) 学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用すること。	
2	Unit 1/All About the “Real” Me			
3	Unit 2/Friends Forever		上記以外に教室で指示する文献等を読む。	
4	Unit 3/Finding a “Special” Friend			
5	Unit 4/Shopping for Bargains			
6	Unit 5/Dreaming About Summer			
7	Unit 6/I’ d Better Get a Job			
8	Unit 7/What Do You Think?			
9	Unit 8/Rap, Rock and Reggae			
10	Unit 9/What a Character!			
11	Unit 10/Money Matters			
12	Unit 11/Situations in Life			
13	Unit 12/Facing the Future[完結]			
14	復習 (1-6)			
15	復習 (7-12)			
テキスト	Dale Fuller/Corey Fuller “Face to Face” (Macmillan Languagehouse)			
指定図書	必要に応じ教室で指示する。			

科 目 名	Oral Communication II		担当者	Didy Huang
区 分 等	1年次・後期〔演習〕1単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) Classroom participation (70%) 2) Quizzes (30%)			
課題に対するフィードバック	Comments and suggestions for improvement will be given after each class.			
目 的	To further develop the students' ability to use English for practical communication.			
到 達 目 標	The students will become able to use their English skills to hold unscripted conversations with other students.			
履修上の注意	None			
オフィスアワー	水曜日 9：00～11：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Introduction to the course.		Students should prepare the first unit. (1 hour)	
2	Meeting new people		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
3	Leisure activities		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
4	Asking for and giving directions		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
5	Reserving hotel rooms		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
6	Checking into a hotel		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
7	Shopping for new clothes		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
8	At the post office		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
9	At the bank		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
10	Ordering a meal		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
11	Reserving theatre seats		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
12	Reserving bus seats		Students should prepare the next unit. (1 hour)	
13	Consulting a doctor		Students should review their notes. (1 hour)	
14	Review and preparation for the presentations		Students should prepare for the next class. (1 hour)	
15	Presentations		Nothing special	
テキスト		PEATY, David “New All Talk I” (Macmillan)		
指定図書		None		

科 目 名	Writing		担当者	Didy Huang
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1) In-class Free Writing (40%) 2) Journal Entries (40%) 3) Final Essay (20%)			
課題に対するフィードバック	Comments and feedback will be given after each submission,			
目 的	To develop the students' ability to express their thoughts and opinions through a variety of essay formats.			
到 達 目 標	The students will be able to write short texts/essays and express their thoughts in correct English.			
履修上の注意	1) Students should have an interest in writing in English. 2) Students should keep up with their journal entries on their own time.			
オフィスアワー	水曜日 9：00～11：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	An Introduction to the 4 Main Types of Essays		Students should read and understand the notes. (1 hour)	
2	In-class Free Writing ①		Students should write Journal Entry ①. (1 hour)	
3	The Expository Essay		Students should read and understand the notes. (1 hour)	
4	Writing Practice: Expository		Students should prepare a topic and a mind-map/outline. (1 hour)	
5	In-class Free Writing ②		Students should write Journal Entry ②. (1 hour)	
6	The Narrative Essay		Students should read and understand the notes. (1 hour)	
7	Writing Practice: Narrative		Students should prepare a topic and a mind-map/outline. (1 hour)	
8	In-class Free Writing ③		Students should write Journal Entry ③. (1 hour)	
9	The Descriptive Essay		Students should read and understand the notes. (1 hour)	
10	Writing Practice: Descriptive		Prepare a topic and a mind-map/outline. (1 hour)	
11	In-class Free Writing ④		Students should write Journal Entry ④. (1 hour)	
12	The Argumentative Essay		Students should read and understand the notes. (1 hour)	
13	Writing Practice: Argumentative		Students should prepare a topic and a mind-map/outline. (1 hour)	
14	Final Essay Writing and Journal Submissions		Students should prepare a topic and a mind-map/outline. (1 hour)	
15	Returning Essays and Final Feedback			
テキスト		Presentations and printed materials will be prepared.		
指定図書		None		

科目名	TOEFL I	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (30%)、宿題 (30%)、レポート (20%)、最終スピーチ (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は海外の大学への留学や国内の編入学に必要な試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて自分の意見をまとめ、伝える力を養成することを目標とする。まずは母国語で意見を論理的にまとめる力を身につけていく。		
到達目標	リスニング：フレーズごとの発音が聞き取れるようになる。 ライティング：アウトラインをもとに分かりやすい文章を書くことができるようになる。(主に日本語)・英語と日本語の語順の違いに気づき、分かりやすく伝える方法を身に付ける。 スピーキング：考えを他者に分かりやすく伝えられるようになる。(主に日本語) 上の技能を通じて社会に出てからも役に立つであろうコミュニケーション力を身に付ける。また、ニュースや社会問題を題材に自分の意見を分かりやすく伝えるコツをつかむことを目標とする。		
履修上の注意	主に日本語での発信力を身につけるための科目となります。英語の不得意な学生もどんどん履修してください。自分の意見をまとめる方法の指導が中心となります。		
オフィスアワー	月曜日 12 時 50 分～15 時 00 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・エッセイライティング	意見サポート型課題 1A (1 時間)	
2	アウトラインの解説 (意見サポート型①) ディクテーション Unit 1	日本語エッセイのアウトライン書き直し・アウトラインを元にエッセイの書き直し (1 時間)	
3	アウトラインの解説 (補足)・文章構成の解説 1 ディクテーション Unit 2	意見サポート 1C (1 時間)	
4	日本語エッセイ添削済み返却・意見サポート型①解説・ディクテーション Unit 3	日本語エッセイの添削の確認と書き直し (1 時間)	
5	意見サポート型分析② ディクテーション Unit 4	ディスカッション準備 (1 時間)	
6	ディスカッション・ニュースリーディング	日本語エッセイの添削の確認と書き直し (1 時間)	
7	意見サポート型②③ ディクテーション Unit 5	意見サポート型分析 2A (1 時間)	
8	英訳練習 1・ディクテーション Unit 6	日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか (各自進捗状況による) (1 時間)	
9	英訳指導 2・ディクテーション Unit 7	意見サポート型 2C (1 時間)	
10	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか (各自進捗状況による) (1 時間)	
11	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	スピーチ練習 (1 時間)	
12	洋画鑑賞 (文化学習・リスニング・ディクテーション練習)	日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか (各自進捗状況による)・スピーチ練習・鑑賞レポート (1 時間)	
13	ディスカッション・英訳指導 3	鑑賞レポート・スピーチ練習 (1 時間)	
14	ディクテーション練習 Unit 8・ディスカッション	鑑賞レポート・スピーチ練習 (1 時間)	
15	スピーチ練習	これまでの反省と復習 (1 時間)	
テキスト	宮野智靖著『ゼロからスタートディクテーション』(J リサーチ出版) 石谷由美子『Skills for Better Writing (初級編)』(南雲堂) 主に授業ではプリントを配付して進めていきます。必要に応じて授業中に数冊紹介し、受講生にとって最も使いやすいものを相談しながら選定することもあります。		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語でのディスカッションやスピーチを通して分かりやすく伝える力を身につける。自分の考えを伝えられる語彙力を鍛え、論理的にまとめる力を実践的に学ぶ。

科目名	TOEIC I	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・前期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (40%)、宿題 (50%)、テスト (団体用 TOEIC 受験者対象) (10%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEIC (Test of English for International Communication) は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して文法の基礎を踏まえた日常の様々な場面で使える英語能力を養成する。		
到達目標	リーディング：基本的な英文法・語彙を身につける。英文中にある主語、述語を的確に見つけ、大意を捉えられるようになる。 リスニング：会話からシーンを想像できるようになる。 実際の TOEIC で 350 点以上のスコアをとれるようになることが望まれる。 学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC (¥4,230 円) の受験をできるだけ希望してください。また、宿題はほぼ毎回出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	月曜日 12 時 50 分～15 時 00 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	TOEIC 概要説明・実力診断テスト・目標設定	TOEIC 概要確認 (1 時間)	
2	実力診断テスト解説 1	英文法プリント解答 (1 時間)	
3	実力診断テスト解説 2	文法確認トレーニング Unit1・(1 時間)	
4	品詞・時制等基本事項解説	Unit L1,2・R1 (1 時間)	
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit2,3 (1 時間)	
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L3,4・R2 (1 時間)	
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit4,5 (1 時間)	
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L5,6・R3 (1 時間)	
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	前回の復習・文法確認トレーニング Unit6 (1 時間)	
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L7・R4 (1 時間)	
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit7,8 スニング (1 時間)	
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L8・R5 (1 時間)	
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit9,10 (1 時間)	
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L9・R6 (1 時間)	
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit11・ディクテーション Unit14 (1 時間)	
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L10・R7 (1 時間)	
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit12・ディクテーション Unit15 (1 時間)	
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L11・R8 (1 時間)	
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit13・ディクテーション Unit16 (1 時間)	
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L12・R9 (1 時間)	
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit14,15・ディクテーション Unit17 (1 時間)	
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L13・R10 (1 時間)	
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit16,17 (1 時間)	
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit L14・R11,12 (1 時間)	
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit18・ディクテーション Unit18 (1 時間)	
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit R13 (1 時間)	
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	文法確認トレーニング Unit19,20 (1 時間)	
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit R14 (1 時間)	
29	前回の復習・宿題丸付け、解説	ディクテーション Unit19,20,22 (1 時間)	
30	まとめ・振り返り	ディクテーション Unit23,24 (1 時間)	
テキスト	佐藤誠司著『5 分間 基本英文法確認トレーニング』(南雲堂) 西谷敦子著『TOEIC L&R テスト戦略的トレーニング：レベル 400』(朝日出版社) 宮野智靖著『ゼロからスタートディクテーション』(J リサーチ出版) 主に教科書とプリントを配付して進めていきます。		
指定図書	あり (巻末参照)。 授業中に紹介します。		

科 目 名	TOEIC II	担当者	菅野 薫
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	学習態度 (40%)、宿題 (40%)、テスト (団体用 TOEIC 受験者対象) (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目 的	TOEIC (Test of English for International Communication) は英語によるコミュニケーション能力を評価するためのもので就職や国内の編入学の際、多くの企業や大学が評価基準として示すようになってきている。準備学習を通して身につけたスキルを日常生活でも使えるよう応用力を身に付ける。		
到 達 目 標	リーディング：英文法・語彙の知識を身につけ、キーワードを見つけながらテンポよく読解できるようになる。 リスニング：フレーズ単位にキーワードを聞き取り、大意を理解できるようになる。 実際の TOEIC で 350～380 点以上のスコアをとれることが望まれる。 また、学生が自発的に学んでいく姿勢を身につけることも望まれる。		
履修上の注意	受験技能の習得というよりもむしろ、TOEIC の教材を使いながら勉強法を学び、基本的な英語力を高めるという心構えで受講してください。受講希望者は評価にも加味されますので、長期休暇明け実施予定の団体用 TOEIC (¥4,230 円) の受験をできるだけ希望してください。また、宿題はほぼ毎回出ます。確実に解き、提出することが望まれます。		
オフィスアワー	月曜日 12 時 50 分～15 時 00 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	実力診断・目標設定	ディクテーション Unit23, 24 (1 時間)	
2	実力診断テスト解説 1	実力診断見直し・ディクテーション Unit25 (1 時間)	
3	実力診断テスト解説 2	名言に学ぶ動詞構文 Unit1, 2 (1 時間)	
4	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit1, 2 (1 時間)	
5	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit3 (1 時間)	
6	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit3 (1 時間)	
7	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit・ディクテーション Unit26 (1 時間)	
8	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit4 (1 時間)	
9	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit4 (1 時間)	
10	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit5 (1 時間)	
11	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit5・ディクテーション Unit27 (1 時間)	
12	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit6 (1 時間)	
13	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit6 (1 時間)	
14	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit7 (1 時間)	
15	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit7, 8・ディクテーション Unit28 (1 時間)	
16	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit8 (1 時間)	
17	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit9, 10 (1 時間)	
18	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit9 (1 時間)	
19	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit11, 12・ディクテーション Unit29 (1 時間)	
20	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit10 (1 時間)	
21	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit13 (32-34) (1 時間)	
22	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit11 (1 時間)	
23	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit14, 15・ディクテーション Unit30 (1 時間)	
24	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit12・ディクテーションまとめ (1 時間)	
25	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit16 (1 時間)	
26	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit13 (1 時間)	
27	前回の復習・宿題丸付け、解説	名言に学ぶ動詞構文 Unit17, 18 (1 時間)	
28	前回の復習・宿題丸付け、解説	Unit14 (1 時間)	
29	前回の復習・ディクテーション試験	名言に学ぶ動詞構文 Unit19, 20 (1 時間)	
30	まとめ・振り返り	今までの復習 (1 時間)	
テキスト	小中秀彦著『5 分間 名言に学ぶ動詞構文』(南雲堂) 西谷敦子著『一歩上を目指す TOEIC LISTENING AND READING TEST : LEVEL 2』(朝日出版社) 宮野智靖著『ゼロからスタートディクテーション』(J リサーチ出版) 主に教科書とプリントを配付して進めていきます。		
指定図書	あり (巻末参照)。授業中に紹介します。		

科 目 名	ドイツ語Ⅰ	担当者	横溝眞理
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 4 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	①授業中の小テスト(75%) ②定期試験(25%)		
目 的	ドイツ語の基礎力を身につけること。		
到 達 目 標	①綴りと発音の関係を理解する。 ②動詞の現在人称変化をマスターする。 ③名詞・代名詞の格変化を理解する。 ④話法の助動詞の用法をマスターする。		
履修上の注意	①独和辞典が必要。初回の授業時に説明する。 ②教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、前期中に小テストを6 回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ドイツ語とはどんな言葉？	教科書 6～7 ページの地図を読み、欧州におけるドイツ語圏の国について調べる(2 時間)。	
2	アルファベートと挨拶表現	付録の CD でアルファベートの発音を練習(2 時間)。	
3	ドイツ語の綴りと発音の関係(1)	ドイツ語の綴りと発音の関係を練習(2 時間)	
4	ドイツ語の疑問詞	補足疑問文の使い方を練習する(2 時間)。	
5	動詞の現在人称変化(1)	教科書 14～17 ページの練習(2 時間)。	
6	たずね方	教科書 14～17 ページの練習(2 時間)。	
7	2 人称の Sie と du	教科書 14～17 ページの練習(2 時間)。	
8	ドイツ語の綴りと発音の関係(2)	教科書 18～19 ページの練習(2 時間)。	
9	名詞の性と冠詞	教科書 20～23 ページの練習(2 時間)。	
10	sein と haben	教科書 20～23 ページの練習(2 時間)。	
11	Ihr と mein	教科書 20～23 ページの練習(2 時間)。	
12	定型第 2 位	教科書 20～23 ページの練習(2 時間)。	
13	否定語 nicht	教科書 20～23 ページの練習(2 時間)。	
14	名詞の格	教科書 24～27 ページの練習(2 時間)。	
15	定冠詞と不定冠詞の格変化	教科書 24～27 ページの練習(2 時間)。	
16	名詞の複数形と男性弱変化名詞	教科書 24～27 ページの練習(2 時間)。	
17	否定冠詞 kein	教科書 24～27 ページの練習(2 時間)。	
18	動詞の現在人称変化(2)	教科書 30～33 ページの練習(2 時間)。	
19	前置詞	教科書 30～33 ページの練習(2 時間)。	
20	数字(基数)	教科書 34～35 ページの練習(2 時間)。	
21	冠詞グループの格変化	教科書 36～39 ページの練習(2 時間)。	
22	人称代名詞の格変化	教科書 36～39 ページの練習(2 時間)。	
23	形容詞の格変化	教科書 40～43 ページの練習(2 時間)。	
24	形容詞の比較変化	教科書 40～43 ページの練習(2 時間)。	
25	話法の助動詞(1)	教科書 44～47 ページの練習(2 時間)。	
26	話法の助動詞(2)	教科書 44～47 ページの練習(2 時間)。	
27	分離動詞	教科書 44～47 ページの練習(2 時間)。	
28	副文	教科書 44～47 ページの練習(2 時間)。	
29	補充問題(1)	プリントの予習・復習(2 時間)。	
30	補充問題(2)	プリントの予習・復習(2 時間)。	
テキスト	大谷弘道/Ursula Otani『問いかけるドイツ語 初級表現トレーニング』(三修社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者	横溝眞理
区分等	1 年次・後期〔演習〕 4 単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	①授業中の小テスト(75%) ②定期試験(25%)		
目的	ドイツ語の基礎力を身につけること。		
到達目標	①動詞の過去人称変化をマスターする。 ②現在完了時制の文が言えるようになる。 ③形容詞の活用や比較表現を理解する。 ④受動態や関係詞、接続法について、その用法を理解する。		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ」(4 単位)を履修済みであること。 ②教科書以外にも、プリント等で練習問題を補う予定。 ③授業時間の一部を使って、後期中に小テストを 6 回行う。出題範囲と形式はそのつど事前にプリントで知らせる。 ④授業外学習として教科書やプリントのわからない単語の意味をあらかじめ独和辞典で調べてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	動詞の 3 基本形	教科書 60～63 ページの練習(2 時間)。	
2	過去の人称変化	教科書 60～63 ページの練習(2 時間)。	
3	接続詞	教科書 60～63 ページの練習(2 時間)。	
4	現在完了	教科書 64～67 ページの練習(2 時間)。	
5	話法の助動詞の完了形	教科書 64～67 ページの練習(2 時間)。	
6	過去分詞に ge-のつかない動詞	教科書 64～67 ページの練習(2 時間)。	
7	分離動詞の過去分詞	教科書 64～67 ページの練習(2 時間)。	
8	受動(1)	教科書 68～71 ページの練習(2 時間)。	
9	受動(2)	教科書 68～71 ページの練習(2 時間)。	
10	再帰動詞	教科書 68～71 ページの練習(2 時間)。	
11	zu 不定句	教科書 72～75 ページの練習(2 時間)。	
12	zu 不定句の用法	教科書 72～75 ページの練習(2 時間)。	
13	現在分詞	教科書 72～75 ページの練習(2 時間)。	
14	nicht の位置	教科書 72～75 ページの練習(2 時間)。	
15	定関係代名詞	教科書 76～79 ページの練習(2 時間)。	
16	指示代名詞	教科書 76～79 ページの練習(2 時間)。	
17	不定代名詞	教科書 76～79 ページの練習(2 時間)。	
18	命令形	教科書 80～83 ページの練習(2 時間)。	
19	疑問代名詞	教科書 80～83 ページの練習(2 時間)。	
20	不定関係代名詞	教科書 80～83 ページの練習(2 時間)。	
21	接続法第Ⅱ式(1)	教科書 84～87 ページの練習(2 時間)。	
22	接続法第Ⅱ式(2)	教科書 84～87 ページの練習(2 時間)。	
23	接続法第Ⅰ式(1)	教科書 88～91 ページの練習(2 時間)。	
24	接続法第Ⅰ式(2)	教科書 88～91 ページの練習(2 時間)。	
25	数字(序数)	教科書 92～94 ページの練習(2 時間)。	
26	時刻の表現	教科書 92～94 ページの練習(2 時間)。	
27	語順、過去完了、過去分詞	教科書 99 ページと補充プリントの練習(2 時間)。	
28	使役動詞、不定代名詞	補充プリントの練習(2 時間)。	
29	補充問題	補充プリントの練習(2 時間)。	
30	補充問題	補充プリントの練習(2 時間)。	
テキスト	大谷弘道/Ursula Otani『問いかけるドイツ語 初級表現トレーニング』(三修社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科 目 名	韓国語 I	担当者	李 承俊
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	課題・平常点（50％）、定期試験（50％）		
課題に対するフィードバック	提出された課題にコメントをつけて返却する。 随時アドバイスや提案をする。		
目 的	初めて韓国語を学ぶ受講生を対象に、韓国語の基礎的な知識と運用力を養成する。		
到 達 目 標	①「読む・書く・聞く・話す」ための初級レベルの韓国語能力を総合的に高める。 ②韓国および朝鮮半島の歴史・社会・文化に関する理解を深める。		
履修上の注意	授業に積極的に参加してください。発音することを恥ずかしがらないでください。 ハングルに慣れるまでは時間がかかります。前半のハングル学習に力を入れてください。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業中に案内します。		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス 韓国・韓国人・韓国語について	シラバスを確認する（30 分） 韓国語・ハングルについて自由に調べる（30 分）	
2	ハングル 基本母音	基本母音を復習する（1 時間）	
3	ハングル 基本子音①	基本子音（平音）を復習する（1 時間）	
4	ハングル 基本子音②	基本子音（激音・濃音）を復習する（1 時間）	
5	ハングル パッチム①	3 種類のパッチムを復習する（1 時間）	
6	ハングル パッチム②	3 種類のパッチムを復習する（1 時間）	
7	ハングル パッチム③	パッチム全体を復習する（1 時間）	
8	ハングル 合成母音	合成母音を復習する（1 時間）	
9	ハングル 復習・発音練習	ハングル全体を復習する（1 時間）	
10	～です／～ですか ～は	第 1 課を復習する（1 時間）	
11	～ではありません ～が	第 2 課を復習する（1 時間）	
12	～です／ですか ～ではありません	第 3 課を復習する（1 時間）	
13	あります・います ありません・いません	第 4 課を復習する（1 時間）	
14	にあります・います	第 5 課を復習する（1 時間）	
15	基本文型・発音復習	定期試験を準備する（2 時間）	
テキスト	新大久保語学院・李志暎『できる韓国語 初級 I<新装版>』（DEKIRU 出版）2010		
指定図書	なし		

科 目 名	韓国語Ⅱ	担当者	李 承俊
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	課題・平常点（50％）、定期試験（50％）		
課題に対するフィードバック	提出された課題にコメントをつけて返却する。 随時アドバイスや提案をする。		
目 的	韓国語Ⅰを履修した受講生を対象に、韓国語の基礎的な知識と運用力を養成する。		
到 達 目 標	①前期に引き続き、「読む・書く・聞く・話す」ための初級レベルの韓国語能力を総合的に高める。 ②韓国および朝鮮半島の歴史・社会・文化に関する理解を深める。		
履修上の注意	授業に積極的に参加してください。発音することを恥ずかしがらないでください。 韓国語は日本語と文法体系が似ているので、語彙を覚えることが非常に重要です。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業中に案内します。		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス 韓国語Ⅰの復習	シラバスを確認する（30 分） 韓国語Ⅰの内容を復習する（30 分）	
2	～ます・です① ～して・～くて	第 6 課を復習する（1 時間）	
3	否定文 ～から～まで	第 7 課を復習する（1 時間）	
4	漢字語数詞①	漢字語数詞を復習する（1 時間）	
5	漢字語数詞② ～ですね・ますね	第 8 課を復習する（1 時間）	
6	～ます・です②	p. 88（1）（2）（3）を復習する（1 時間）	
7	～ます・です③	pp. 88～89（4）（5）（6）を復習する（1 時間）	
8	～ます・です④	第 9 課を復習する（1 時間）	
9	固有語数詞①	固有語数詞を復習する（1 時間）	
10	固有語数詞②	第 10 課を復習する（1 時間）	
11	～ました・でした①	p. 104（1）（2）（3）を復習する（1 時間）	
12	～ました・でした②	p. 105（4）（5）（6）を復習する（1 時間）	
13	～ました・でした③	第 11 課を復習する（1 時間）	
14	作文「私の旅行」 日記を書く	作文に必要な文法と語彙を復習する（1 時間）	
15	基本文型・発音復習	定期試験を準備する（2 時間）	
テキスト	新大久保語学院・李志暎『できる韓国語 初級Ⅰ<新装版>』（DEKIRU 出版）2010		
指定図書	なし		

科 目 名	中国語Ⅰ		担当者	松田紗代子
区 分 等	1年次・前期〔演習〕2単位・選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	練習課題、発表（20%）、試験（80%）。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目 的	中国語の発音記号（ピンイン）を始め、中国語の日常的な挨拶、自己紹介の表現、及び基本文型を学習することによって、楽しく中国語の基礎能力を養う。			
到 達 目 標	1)中国語の発音と基礎文法を身に着ける。 2)日常的な挨拶や自己紹介をすることができる。 3)基本文型を理解し、簡単な文章が書ける。 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	授業の後 10 分間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	発音①（声調、単母音）		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
2	発音②（複母音）		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
3	発音③（子音）		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
4	発音④（鼻母音、声調の変化）		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
5	会話「こんにちは」； 文法「挨拶、苗字や名前の言い方、人称代名詞」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
6	会話「私は日本人です」； 文法「動詞「是～」の文：AはBです」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
7	会話「これは辞書ですか」； 文法「指示代名詞； “～吗”を使う疑問文」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
8	会話「夏は暑い」； 文法「形容詞述語文； 副詞“也”，～も」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
9	会話「何を買いますか」； 文法「動詞述語文； 疑問詞を使った疑問文」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
10	会話「メニューがありますか」； 文法「存在を表す“有”と“在”； 場所代名詞」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
11	会話「今日は何月何日ですか」； 文法「数字に関連する表現、日付、曜日の言い方」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
12	会話「いま何時ですか」； 文法「時刻の言い方」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
13	会話「テーブルの上に何がありますか」； 文法「方位詞，～の上； 量詞，ものの数え方」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
14	会話「あなたの家は学校まで遠いですか」； 文法「所有、所属を表す“～的”； 前置詞」		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
15	勉強した発音、会話、文法事項をまとめる。		教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』（同学社）			
指定図書	なし			

科目名	中国語Ⅱ	担当者	松田紗代子
区分等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位・選択／生活文化専攻		
評価基準	練習課題と発表（20%）、試験（80%）。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	初級中国語の基礎表現や文法ポイントを学習することによって、簡単な中国語のコミュニケーション能力を養う。		
到達目標	1)発音（ピンイン）に慣れ、自分で綴りを讀んだり、聴き分けしたりすることができる。 2)勉強した日常会話や表現を応用することができる。 3)初級中国語の文法について理解し、基本文を聴いたり、讀んだり、書いたり、話したりすることができる。 4)日々の学習を通じて、中国の生活や文化を理解する。		
履修上の注意	「中国語Ⅰ」を履修済みであること。		
オフィスアワー	授業の後 10 分間		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	会話「コーヒー、それとも紅茶を飲みますか、」； 文法「選択疑問文； 助動詞その①、～したい」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
2	会話「あなたは中国に行ったことがありますか」； 文法「過去の経験を表す； 接続詞、～と」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
3	会話「王さんは来ましたか」； 文法「動作の完了を表す； 助動詞その②、～できる」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
4	会話「明日、一緒にスキーに行きましょう」； 文法「語気助詞、～でしょう； 二重主語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
5	会話「二か月間中国語を勉強しました」； 文法「動作の量を表す； 語気助詞、～は」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
6	会話「彼は卓球をやっています」； 文法「動詞の進行形； 様態補語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
7	会話「私たちは映画を見に行きたい」； 文法「目的を表す連動式； 手段を表す連動式」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
8	会話「彼女にボーイフレンドがいますか」； 文法「動詞の重ね型； 反復疑問文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
9	会話「張さんはまもなく結婚します」； 文法「“まもなく～”； 方向補語」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
10	会話「先生は王さんを行かせます」； 文法「副詞の“都”； 兼語（使役）式、～させる」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
11	会話「私の話、あなたは聞いてわかりましたか」； 文法「結果補語； 形容詞＋ “一点儿、少し～”	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
12	会話「あなたはどこから来たのですか」； 文法「“～したのです”」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
13	会話「私の自転車は彼に借りて行かれた」； 文法「受け身の表現； 存現文」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
14	会話「中国語は英語より難しい」； 文法「比較の表現； やはり～」	教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）	
15	勉強した内容をまとめる。 教科書に付属したCDを聴いて、授業で勉強した内容を復習し、定着させる。（一時間）		
テキスト	山下輝彦著『入門中国語の小窓』（同学社）		
指定図書	なし		

科 目 名	プログラミングⅠ		担当者	小林弥生
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	① 授業への取り組み姿勢（20%） ② 課題提出（40%） ③ 小テスト（40%）			
課題に対するフィードバック	提出された課題をチェックし、適宜コメントをつけて返却する。 小テストは採点し、返却時に解説をする。			
目 的	簡単な Web ページを作成することを通して、Web ページの動作の基本を理解する。また、動的な Web ページを作成するための技術として、JavaScript の基礎的な知識を身につけ、プログラミングの考え方の基礎を習得する。			
到 達 目 標	Web ページの仕組みを理解し、説明することができる。 HTML 言語と CSS の基礎を理解し、簡単な Web ページを作成できる。 JavaScript の基礎を習得し、簡単なプログラムを読んで理解することができ、必要に応じて変更することができる。			
履修上の注意	毎回、前回の授業に関する小テストを行います。			
オフィスアワー	木曜日 10:30 ～ 12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Web の仕組み エディタとブラウザの使い方		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
2	HTML とは HTML 文書の構造と基本タグの使い方		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
3	HTML による画像の表示と表の作成		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
4	CSS とは 文書を装飾するための基本的なプロパティ、セレクタの使い方		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
5	HTML と CSS の演習		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
6	課題の作成 HTML と CSS を利用した簡単な Web ページの作成		課題の完成（2 時間）	
7	JavaScript とは データ型、代入、演算子		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
8	変数の利用		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
9	繰り返し文 for 文、while 文		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
10	条件分岐 if 文、if～else if 文		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
11	課題の作成		課題の完成（2 時間）	
12	関数の基本 関数の定義と呼び出し		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
13	イベント処理の基本 イベントの種類とイベント処理関数の定義		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
14	HTML 要素の操作 HTML 要素の取得と書き換え		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
15	課題作成とまとめ		課題の完成（2 時間）	
テキスト	なし 授業時に資料配布			
指定図書	あり（巻末参照）			

科 目 名	表計算活用学A		担当者	石沢千佳子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	課題提出(30%)、授業内小テスト(70%)。			
課題に対するフィードバック	随時、質問に応じてアドバイスをする。 提出物（授業内小テスト）にコメントを付けて返却する。			
目 的	表計算ソフトウェア Excel の主要な操作方法について説明する。 情報処理技能検定（表計算） 2 級程度の情報処理能力を養う。			
到 達 目 標	① Excel を用いたデータ入力、データのコピーと移動、行と列の操作、セルの書式設定、表示形式の指定を行うことができる。 ② Excel のデータに対して計算式や各種関数を用いた処理、グラフ作成を行うことができる。			
履修上の注意	授業内容は段階的に進めていくので、欠席した場合は担当者から内容を聞き、処理を実行できるようにしておくこと。復習が必要。			
オフィスアワー	水曜日 16:15～17:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	データの入力・コピー・移動、行と列の操作、セルを用いた計算式、セルの書式設定		授業の復習（2 時間）	
2	関数を用いた計算、表示形式の指定 情報処理技能検定(表計算) 4 級問題（1）		授業の復習（2 時間）	
3	情報処理技能検定(表計算) 4 級問題（2） 判断文、絶対参照、端数処理		授業の復習（2 時間）	
4	最大値・最小値の検索、順位付け、並べ替え 情報処理技能検定(表計算) 3 級問題（1）		授業の復習（2 時間）	
5	情報処理技能検定(表計算) 3 級問題（2）		授業の復習（2 時間）	
6	情報処理技能検定(表計算) 3 級問題（3）		授業の復習（2 時間） 小テストのための練習	
7	小テスト 表検索		授業の復習（2 時間）	
8	多重判断文、論理演算子 情報処理技能検定(表計算) 準 2 級問題（1）		授業の復習（2 時間）	
9	セルの証明、棒グラフの作成 情報処理技能検定(表計算) 準 2 級問題（2）		授業の復習（2 時間）	
10	情報処理技能検定(表計算) 準 2 級問題（3）		授業の復習（2 時間） 小テストのための練習	
11	小テスト 表検索の応用、多重判断文の応用		授業の復習（2 時間）	
12	日時の計算、様々なグラフの作成 情報処理技能検定(表計算) 2 級問題（1）		授業の復習（2 時間）	
13	情報処理技能検定(表計算) 2 級問題（2）		授業の復習（2 時間）	
14	情報処理技能検定(表計算) 2 級問題（3）		授業の復習（2 時間） 小テストのための練習	
15	小テストと解説		授業の復習（2 時間）	
テキスト	適宜資料を配布します。			
指定図書	なし。			

科 目 名	ワードプロセッサ活用学A		担当者	佐藤 恵
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	課題提出(30%)、小テスト(70%)。			
課題に対するフィードバック	課題や小テストについては、評価を付けて返却する。			
目 的	①Microsoft Office Word の基本操作を学ぶ。 ②ビジネス文書に必要な、話しことばと口語体の書きことば、手紙文のことばなどについて学ぶ。 ③ビジネス文書を理解するために、多くの基本文例に触れる。また、的確で分かりやすいビジネス文書を理解するために、メモをもとにした、ビジネス文書の作成方法を学ぶ。 ④ワープロ検定試験 2 級程度の実力を身につける。			
到 達 目 標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。 ②正しい書きことば(口語体)を使うことができる。 ③ビジネス文書の種類に応じた文書作成ができる。 ④ワープロ検定試験 2 級問題を制限時間内に完成できる。			
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。			
オフィスアワー	月曜日 11 時～14 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	文書の基礎知識： 文の成り立ち、文章の構成、文体の統一		タッチタイピング練習。整理と確認。(1 時間)	
2	社外文書：日本語ワープロ検定問題準 2 級「罫線」		タッチタイピング練習。準 2 級練習問題。(1 時間)	
3	社外文書：日本語ワープロ検定問題準 2 級「配置と基準」		タッチタイピング練習。準 2 級練習問題。(1 時間)	
4	社外文書：日本語ワープロ検定問題 2 級「タブ」		タッチタイピング練習。2 級練習問題。(1 時間)	
5	社外文書：日本語ワープロ検定問題 2 級「罫線－線種の変更」		タッチタイピング練習。2 級練習問題。(1 時間)	
6	社外文書：日本語ワープロ検定問題 2 級「インデント」		タッチタイピング練習。2 級練習問題。(1 時間)	
7	社外文書：日本語ワープロ検定問題準 1 級「レイアウト設定」		タッチタイピング練習。準 1 級練習問題。(1 時間)	
8	社外文書：日本語ワープロ検定問題準 1 級「図形描画」①		タッチタイピング練習。準 1 級練習問題。(1 時間)	
9	社外文書：日本語ワープロ検定問題準 1 級「図形描画」②		タッチタイピング練習。準 1 級練習問題。(1 時間)	
10	社外文書：日本語ワープロ検定問題 1 級「図形描画」①		タッチタイピング練習。1 級練習問題。(1 時間)	
11	社外文書：日本語ワープロ検定問題 1 級「図形描画」②		タッチタイピング練習。1 級練習問題。(1 時間)	
12	表題の付け方・口語体の書き言葉		整理と確認。(1 時間)	
13	社内文書：ビジネス文書の表現技能 (1)		整理と確認。社内文書練習問題 (1 時間)	
14	社外文書：ビジネス文書の表現技能 (2)		整理と確認。社外文書練習問題 (1 時間)	
15	社外文書：ビジネス文書の表現技能 (3)		整理と確認。社外文書練習問題 (1 時間)	
テキスト	講座でプリントを作成・配付。			
指定図書	なし。			

科 目 名	I C T基礎	担当者	Damian Stachowski
区 分 等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	グループプロジェクト (30%) , 課題提出 (30%) , 授業内小テスト (40%) Group project (30%), Assignments (30%), In-class quizzes (40%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。解説は次の授業で行います。 Assignments and in-class quizzes will be graded and returned. Explanations will be given in the next class.		
目 的	情報通信技術 (ICT) の基本を理解する。 コンピューターのハードウェア、インターネット、コンピューターソフトウェア、トラブルシューティング、カスタマーサービスなど、ICT のさまざまな側面を知る。 ユーザー中心のインターアクションデザインを理解する。 To understand the basics of Information and Communication Technology (ICT, including computer hardware, the Internet, various software, troubleshooting, and customer service. To understand user centered interaction design.		
到達目標	① 二進法の仕組みの理解。 ② コンピュータを一から組み立てる。 ③ オペレーティングシステムを選択し、コンピュータにインストールする。 ④ インターネットとは何か、どのように機能するか、そして現代社会に与える影響について理解する。 ⑤ アプリケーションがどのように作られ、コンピュータの内部でどのように動作しているかを知る。 ⑥ ICT 分野における一般的な問題解決方法とソフトスキルを活用する。 ① You will understand the mechanism of the binary system. ② You will know how to assemble a computer from scratch. ③ You will know how to install an operating system on a computer. ④ You will understand what the Internet is, how it works, and its impact on modern society. ⑤ You will understand how applications are created and how they work inside a computer. ⑥ You will use general problem-solving methods and soft skills in the ICT field.		
履修上の注意	前回の授業に関する小テストを行います。 You will be given a quiz on the previous lesson.		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ICT 入門、コンピューティングの歴史 Introduction to ICT, History of computing	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間) Review the lecture and practice questions (2 hours)	
2	デジタル論理、コンピュータの構造 Digital logic, Structure of a computer	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
3	現代のコンピュータ、構成部品 Modern computers, Components	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
4	オペレーティングシステム (OS) Operating systems (OS)	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
5	ネットワーク、インターネットの影響 Networks, Impact of the Internet	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
6	モノのインターネット (IoT), ロボットとの共存 Internet of Things (IoT), Coexistence with Robots	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
7	コンピューターソフトウェア Computer software	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
8	トラブルシューティング Troubleshooting	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
9	ユーザー中心型インターアクションデザイン (UCID) の紹介 Introduction to User-Centered Interaction Design (UCID)	統合体験に関するエッセイ (1 時間) Essay on integrative experiences (1 hour)	
10	インターアクションデザイン (IxD) Interaction Design (IxD)	コンテクスチュアル・インクワイアリーのグループワーク (1 時間) Group work on a contextual inquiry (1 hour)	
11	ユーザーモデル The User Model	モデル・要件のグループワーク (1 時間) Group work on models and requirements (1 hour)	
12	コンセプト・デザインの実現 The Realization of Concept and Design	コンセプトデザインのグループワーク (1 時間) Group work on conceptual designs (1 hour)	
13	プロトタイピング Prototyping	グループプロジェクト制作 (1 時間) Group project work (1 hour)	
14	授業中のアクティビティ In-class activity	グループプロジェクト制作 (1 時間)	
15	グループ発表会 Group Presentations		
テキスト	授業時に資料配付 Prints will be handed out when necessary.		
指定図書	なし。None.		

科 目 名	情報科学入門		担当者	小林弥生
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	① 授業への取り組み姿勢 (20%) ② 提出課題 (40%) ③ 定期試験 (40%)			
課題に対するフィードバック	提出されたレポートはコメントをつけて返却する。			
目 的	情報通信技術（ICT）を活用して様々な問題を解決する力を養うために必要な、コンピュータに関する基礎知識の習得を目指す。また、データ構造や基本的なアルゴリズムについて理解し、プログラミングを行う上で基本となる考え方を身につける。			
到 達 目 標	情報の表現方法について理解し、説明することができる。 コンピュータの基本的な構成や動作について理解し、説明することができる。 基本的なアルゴリズムについて理解し、説明することができる。			
履修上の注意				
オフィスアワー	木曜日 10:30 ～ 12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス 情報とは何か、身近な情報システムについて考える		授業の復習（4 時間）	
2	コンピュータ上での情報の表現 2 進法と 16 進法		テキスト第 2 章を事前に読む（1 時間） 授業の復習（3 時間）	
3	数値と文字の符号化 文字コード		授業の復習（4 時間）	
4	アナログ情報とデジタル情報 音声データや画像データの表現		授業の復習（2 時間） 課題についてレポートの作成（2 時間）	
5	符号圧縮と情報量 可逆圧縮と比可逆圧縮について		授業の復習（2 時間） 課題についてレポートの作成（2 時間）	
6	コンピュータの構成要素とその役割		テキスト第 3 章を事前に読む（1 時間） 授業の復習（3 時間）	
7	OS の基本機能について		テキスト 4.2 節を事前に読む（1 時間） 授業の復習（3 時間）	
8	中間まとめ		これまでの授業内容の復習（4 時間）	
9	アルゴリズムとフローチャート		テキスト第 6 章を事前に読む（1 時間） 授業の復習（3 時間）	
10	データ構造 （変数、配列、リスト）		授業の復習（4 時間）	
11	データ構造 （スタック、キュー、木構造）		授業の復習（1 時間） 課題についてレポートの作成（3 時間）	
12	代表的なアルゴリズム 1 探索		授業の復習（4 時間）	
13	代表的なアルゴリズム 2 並べ替え		授業の復習と演習問題（4 時間）	
14	計算量とアルゴリズム		授業の復習と演習問題（4 時間）	
15	基本的なアルゴリズムをプログラミング言語で実装		課題についてレポートの作成（4 時間）	
テキスト	田嶋拓也、阿部武彦 『コンピュータ科学の基礎』（共立出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	心理学A	担当者	織田栄子
区分等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験でのテスト(30%)、課題作成内容 (20%)、提出物 (20%)、受講態度(30%)。		
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	人間関係や集団の特徴、性格の成り立ちや心の持ち方、行動から捉える人間の特徴などを学ぶことにより、人間の心のしくみを理解する力を身に付ける。		
到達目標	①心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。 ②自己理解、他者理解を深める。		
履修上の注意	なし。		
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	授業に関連した文献を読んでおく（1 時間）	
2	社会的行動（社会心理学） 1 ・自己形成 ・対人認知	ノートの整理と確認（1 時間）	
3	社会的行動（社会心理学） 2 ・非言語的コミュニケーション ・説得的コミュニケーション	ノートの整理と確認（1 時間）	
4	社会的行動（社会心理学） 3 ・対人魅力 ・恋愛のスタイル	ノートの整理と確認（1 時間）	
5	社会的行動（社会心理学） 4 ・リーダーシップ ・群集行動 ・普及と流行	1～5 回までの授業の復習（1 時間）	
6	パーソナリティと適応（臨床心理学） 1 ・パーソナリティ ・心理テスト ・知能検査	ノートの整理と確認（1 時間）	
7	パーソナリティと適応（臨床心理学） 2 ・ストレスやフラストレーションと反応 ・防衛機制 ・コンフリクト（葛藤）	ノートの整理と確認（1 時間）	
8	パーソナリティと適応（臨床心理学） 3 ・不適応や様々な心理的問題 1 ・中間まとめと解説	6～8 回までの授業の復習、及び 2 冊以上「不適応や様々な心理的問題」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる（2 時間）	
9	パーソナリティと適応（臨床心理学） 4 ・不適応や様々な心理的問題 2	ノートの整理と確認（1 時間）	
10	パーソナリティと適応（臨床心理学） 5 ・心理的援助（心理的介入） ・様々な心理療法	ノートの整理と確認（1 時間）	
11	パーソナリティと適応（臨床心理学） 6 ・非行・犯罪 ・ダークトライアド	9～11 回までの授業の復習（1 時間）	
12	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 1 ・様々な学習	ノートの整理と確認（1 時間）	
13	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 2 ・学習の応用	ノートの整理と確認（1 時間）	
14	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 3 ・動機づけ	ノートの整理と確認（1 時間）	
15	学習と動機づけ・情動（行動心理学） 4 ・欲求	12～15 回までの復習（1 時間）	
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門 四訂版』（培風館）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	心理学B	担当者	織田栄子
区分等	1年次・後期〔講義〕2単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	定期試験でのテスト(30%)、課題作成内容(20%)、提出物(20%)、受講態度(30%)。		
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。		
目的	人間の成長に伴う心身の特徴、人間の物の見方や捉え方の特徴、記憶や思考、身体の特徴と心の働きなど学ぶことにより、人間のこころのしくみを理解する力を身に付ける。		
到達目標	①心的機能、心的過程を学ぶことにより、人間を理解できる。 ②自己理解、他者理解を深める。		
履修上の注意	なし。		
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・心理学とは何か	授業に関連した文献を読んでおく（1時間）	
2	成熟と成長（発達心理学）1 ・発達とは何か	ノートの整理と確認（1時間）	
3	成熟と成長（発達心理学）2 ・遺伝と環境	ノートの整理と確認（1時間）	
4	成熟と成長（発達心理学）3 ・認知・言語・知能の発達	1～4回の授業の復習（1時間）	
5	成熟と成長（発達心理学）4 ・社会的発達 ・中間まとめと解説	1～5回の授業の復習、及び2冊以上「発達」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる（2時間）	
6	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）1 ・感覚と知覚	ノートの整理と確認（1時間）	
7	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）2 ・錯覚	ノートの整理と確認（1時間）	
8	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）3 ・空間知覚	ノートの整理と確認（1時間）	
9	感覚と知覚（認知心理学Ⅰ）4 ・実生活での応用	6～9回の授業の復習（1時間）	
10	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅱ）1 ・記憶と忘却	ノートの整理と確認（1時間）	
11	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅱ）2 ・思考のしくみ	ノートの整理と確認（1時間）	
12	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅱ）3 ・心的イメージ	ノートの整理と確認（1時間）	
13	記憶・思考・言語（認知心理学Ⅱ）4 ・言語とコミュニケーション	10～13回の授業の復習（1時間）	
14	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）1 ・脳のしくみ	ノートの整理と確認（1時間）	
15	心的活動の生理学的基礎（生理心理学）2 ・睡眠	14～15回の授業の復習（1時間）	
テキスト	金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説現代心理学入門 四訂版』（培風館）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	哲学A		担当者	Mathew Philip
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)			
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの意見や感想をできる限り授業に反映する。			
目 的	人間は「考える」生き物である。「哲学」は「考え方」を学ぶ学問であり、それによって「人間」や人生について考える学問である。ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』と映画『あん』を通して「哲学」を試みる。			
到 達 目 標	「レポートの作成」によって上記の目的を自己評価する。			
履修上の注意	この科目は英語と日本語で開講します。英語と日本語の講義内容は同じです。			
オフィスアワー	授業内で紹介。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスと総論 Guidence and Introduction to Philosophy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	「考える」ということ Philosophy of Thinking		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	「考える」ということ Philosophy of Thinking		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	「考える」ということ Philosophy of Thinking		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	「人生」について Philosophy of Life		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	「人生」について Philosophy of Life		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	「文明」と「歴史」について Philosophy of Culture and History		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
10	ジブリアニメ『おもひでぽろぽろ』を観る Ghibli Anime 「Only Yesterday」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
11	『おもひでぽろぽろ』を哲学する Philosophizing Movie 「Only Yesterday」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
12	映画『あん』を観る Movie 「Ann」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
13	映画『あん』を観る Movie 「ANN」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
14	『あん』を哲学する Philosophizing Movie 「Ann」		前半 8 回までの講義資料をチェックしておく。	
15	世界の主な哲学 Various Philosophies of the World		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名		哲学B	担当者	Mathew Philip
区 分 等		1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準		1. 研究レポート(80%) 1. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック		リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目 的		「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。		
到 達 目 標		1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。 2. 人として、自分として・・・2つの視点に立つということ。		
履修上の注意		授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1200字以上）。		
オフィスアワー		授業内で紹介。		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスと総論		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	「食べる」について（1） Philosophy of Eating		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	「食べる」について（2） Philosophy of Eating		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	「住む」について（1） Philosophy of Living		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	「住む」について（2） Philosophy of Living		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	「着る」について（1） Philosophy of Wearing		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	「着る」について（2） Philosophy of Wearing		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	「家族」について（1） Philosophy of Family		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	「家族」について（2） Philosophy of Family		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	人間を考える Philosophy of Human Beings		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	個人としての人間 Man as Person		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	青年期と人間の目覚め Adolescence and Human Awakening		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	意識・思考の世界の人間 Human Beings in the World of Consciousness and Thinking		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	存在と命に対する基本的姿勢 Basic attitude towards existence and life		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	誠の愛を求めて In Search of True love		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト		なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。		
指定図書		なし。		

科 目 名	日本文学A		担当者	李 承俊
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	課題・発表・平常点（50%）、レポート（50%）			
課題に対するフィードバック	提出された課題にコメントをつけて返却する。 随時アドバイスや提案をし、議論を行う。			
目 的	日本近現代文学の代表的な作家や作品を中心に、「読む」ためのトレーニングを行う。			
到 達 目 標	①テキスト分析の基本的な方法を修得する。 ②文献調査、プレゼンテーション、議論、レポート作成の方法を身につける。 ③文学作品を「読む」ことの学術的・社会的な意義を確認し、社会人になるための教養を獲得する。			
履修上の注意	指定作品は必ず読んでください。 授業に積極的に参加してください。たくさん質問し、発言してください。 受講において日本近現代文学史に関する基礎的な知識（高校まで学習した内容程度）が要求されます。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。			
オフィスアワー	授業中に案内します。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス 作家・作品とテキストについて		シラバスを確認する（30 分） 第 1 章を読む（30 分） 聖霊女子短期大学図書館を利用する（1 時間）	
2	資料調査の方法		秋田県立図書館を利用する（1 時間） CiNii と NDL ONLINE で自由に調べる（1 時間）	
3	夏目漱石『夢十夜』①		『夢十夜』「第一夜」を読む（1 時間） 第 2 章を読む（1 時間）	
4	夏目漱石『夢十夜』②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
5	森鷗外「高瀬舟」①		「高瀬舟」を読む（1 時間） 第 3・4・5 章を読む（1 時間）	
6	森鷗外「高瀬舟」②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
7	芥川龍之介「南京の基督」①		「南京の基督」を読む（1 時間） 第 6・7・8 章を読む（1 時間）	
8	芥川龍之介「南京の基督」②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
9	川端康成「伊豆の踊子」①		「伊豆の踊子」を読む（1 時間） 第 9・10・11 章を読む（1 時間）	
10	川端康成「伊豆の踊子」②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
11	岡本かの子「老妓抄」①		「老妓抄」を読む（1 時間） 第 12・13 章を読む（1 時間）	
12	岡本かの子「老妓抄」②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
13	太宰治「桜桃」①		「桜桃」を読む（1 時間） 第 14・15 章を読む（1 時間）	
14	太宰治「桜桃」②		先行研究を調べる（1 時間） 作品に対する感想と意見を整理する（1 時間）	
15	まとめと補足 テキストとコンテキストについて		面白かった作品と作家を決め、その理由をまとめる （2 時間）	
テキスト	松本和也編『テキスト分析入門 小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房） 2016			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	日本文学A	担当者	栗森 貢
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択／健康栄養専攻		
評価基準	授業に取り組む姿勢（40%）、授業で提出する課題（60%）により、総合的に評価する。		
課題に対するフィードバック	学生の進捗に応じて個々にアドバイスをし、提出した学習シートにコメントを付して返却する。		
目的	古代から近世までの物語や日記、随筆などの解釈や音読を通して、当時の人々の考え方や日本人固有の情緒を感じ取るなどして、優れた作品を鑑賞する。		
到達目標	1. 作品に展開されている自然観や人間観などを捉えることができる。 2. 作中に織り込まれている心情や情景描写を味わったり、好きな表現箇所を積極的に自己の表現の中に取り入れようとしたりすることができる。		
履修上の注意	古語の意味確認や音読を積極的に行い、楽しみながら古文を読み味わうことに努めること。		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 「竹取物語」を概観し、作品のよさに触れる	授業計画に載っている作品を取り上げ、自分なりの鑑賞をする（2時間）	
2	「竹取物語」を作中人物の特徴を表す言葉を取り上げながら読み、音読の楽しさを味わう	竹取物語の中から慣れ親しんでいる箇所を読み、作品の特徴を整理する（2時間）	
3	「土佐日記」を読み、京へ帰る喜びとともに世話になった土佐の人々と別れる寂しさ等を味わう	土佐日記に紹介される各土地の地理的な特徴や紀貫之の業績等について調べる（2時間）	
4	「土佐日記」を読み、旅の途上に立ち寄った土地の情景や歌物語の叙情性を想像豊かに味わう	土佐日記を読み、そこから感じ取られる筆者の人生観を調べる（2時間）	
5	「枕草子」を読み、物事を機知的に捉える「をかし」を読み味わう	中学や高校で学習してきた枕草子を読み返し、その特色をまとめる（2時間）	
6	「枕草子」を読み、随筆という新しい文学を開拓した清少納言の感性を味わう	「をかし」を基本理念に据えた枕草子の特色をまとめる（2時間）	
7	「源氏物語」のおおよそのあらすじを知り、和歌的情緒の文体を味わう	「源氏物語」の内容構成を登場人物を中心に調べる（2時間）	
8	「源氏物語」を読み、作り話の面白さや歌物語の叙情性を味わう	帖の中から好きな箇所を取り上げ、何度か音読をする（2時間）	
9	「平家物語」を読み、戦いに生きる悲壮や仏教的無常観を基調としている特徴を理解する	源氏と平家の興亡の様子や、軍記物語の特色を調べる（2時間）	
10	「徒然草」を読み、簡潔な和漢混合文や和文の美しさを感じ、平易で説得力のある文章を味わう	中学や高校で学習で触れてきた徒然草を読み返し、その特色をまとめる（2時間）	
11	「徒然草」を読み、吉田兼好の人間観や仏教的無常観を味わう	徒然草に表されている無常観や人間観などの特色をまとめる（2時間）	
12	「奥の細道」を読み、旅に心を寄せる思いや江戸を発つ心情を表現している和漢混合文を味わう	中学や高校で学習してきた奥の細道を読み返し、その特色をまとめる（2時間）	
13	「奥の細道」の中から風光明媚な松島と象潟を読み、相違点や類似点等を対比しながら味わう	松島と象潟について、地図や雑誌等から見えるそれぞれの特色や美しさを調べる（2時間）	
14	新潟以南の「奥の細道」を読み、芭蕉の風雅の世界が展開されている紀行文を味わう	好きな箇所を詳しく読み、暗唱や視写などをして楽しむ（2時間）	
15	それぞれの文学の特色を振り返り、現代の日本人に深く通じる感性を中心にまとめる	本科目を振り返り、それぞれの作品の特色を整理する（2時間）	
テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。		
指定図書	授業内で適宜紹介。		

科 目 名	日本文学B	担当者	李 承俊
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	課題・発表・平常点（50%）、レポート（50%）		
課題に対するフィードバック	提出された課題にコメントをつけて返却する。 随時アドバイスや提案をし、議論を行う。		
目 的	日本文学Aで磨いたテキスト分析スキルを駆使しながら小説を精読する。同時に、文学を取り巻いているコンテキストについても考察し、より説得力のある文学研究の成果を導出するためのトレーニングを行う。		
到 達 目 標	①文学テキストを中心に、歴史・社会・思想など人文学的な知を修得する。 ②文献調査、プレゼンテーション、議論、レポート作成の方法を身につける。 ③文学テキストを「読む」ことの学術的・社会的な意義を確認し、社会人になるための教養を獲得する。		
履修上の注意	指定作品は必ず読んでください。 授業に積極的に参加してください。たくさん質問し、発言してください。 気になる点を自ら見つけ、それについてじっくり考えてください。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。		
オフィスアワー	授業中に案内します。		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス コンテキストについて	シラバスを確認する（30 分） 日本文学A の授業内容を復習する（1 時間） 志賀直哉と菊池寛について自由に調べる（30 分）	
2	疫病と文学① 志賀直哉「流行感冒」	「流行感冒」を読む（1 時間） スペイン風邪について調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
3	疫病と文学② 菊池寛「マスク」	「マスク」を読む（1 時間） スペイン風邪について調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
4	大江健三郎について	大江健三郎について自由に調べる（2 時間）	
5	『芽むしり仔撃ち』①	第1 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
6	『芽むしり仔撃ち』②	第2 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
7	『芽むしり仔撃ち』③	第3 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
8	『芽むしり仔撃ち』④	第4 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
9	『芽むしり仔撃ち』⑤ 前半のまとめ、中間討論	第5 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間） 疑問点をまとめて答えを考える（30 分）	
10	『芽むしり仔撃ち』⑥	第6 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
11	『芽むしり仔撃ち』⑦	第7 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
12	『芽むしり仔撃ち』⑧	第8 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
13	『芽むしり仔撃ち』⑨	第9 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
14	『芽むしり仔撃ち』⑩ まとめ、全体討論	第10 章を読み、自由に調べる（1 時間） 先行研究を調べる（1 時間） 疑問点をまとめて答えを考える（30 分）	
15	「人間の羊」 テキスト分析・コンテキスト分析	「人間の羊」を読み、自由に調べる（2 時間） 先行研究を調べる（1 時間）	
テキスト	大江健三郎『死者の奢り・飼育』（新潮社）1959 大江健三郎『芽むしり仔撃ち』（新潮社）1997 その他は授業中に提示・配布		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	日本文学B	担当者	栗森 貢
区分等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／健康栄養専攻		
評価基準	授業に取り組む姿勢（40%）、授業で提出する課題（60%）により、総合的に評価する。		
課題に対するフィードバック	机間巡視の折に個々に応じたアドバイスをし、提出された学習シートに必要なコメントを付して返却する。		
目的	古代から近代までの詩歌、および近代の小説の鑑賞を通して、日本文学の特徴を理解する。		
到達目標	1. 古代から近代までの詩歌を読み、作品の特色を理解し味わうことができる。 2. 近代の優れた小説を鑑賞し、また特定の作家の特色をまとめたりすることで、近代日本文学の特徴の一端を理解する。		
履修上の注意	多くの詩歌を詠じたり、作品集を編集したりすることを通して、日本文学の良さを体感的に味わうように努める。		
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、全体計画等 「万葉集」のいくつかを読み味わう	ジャンルの概要を調べ、それぞれの作品を読み自分の鑑賞を深める（2 時間）	
2	「万葉集」の中から歌を選び出して情景や心情を味わい、古人の言葉による表現のよさを味わう	万葉集の中から素朴さや雄大さの感じられる作品を取り上げて、声を出して詠む（2 時間）	
3	「古今和歌集」の調子や修辞の特徴を感じ取り、繊細で優美な作品の良さを味わう	古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして楽しむ（2 時間）	
4	技巧的で幽玄な「新古今和歌集」を批評を添えて読み、独特な歌風を味わう	新古今和歌集から好きな作品を取り上げ、朗読したり暗唱したりして楽しむ（2 時間）	
5	「小倉百人一首」を朗読し、情景や心情等の作品の特色を味わう	百人一首から好きな作品群を取り上げ、朗々と詠う楽しさを味わう（2 時間）	
6	「小倉百人一首」を「かるた」の方法で親しみ、何首かを暗唱して、日本文化に一層親しむ	百人一首を「かるた」で楽しむために必要な基本的な知識や技法を身に付ける（2 時間）	
7	上代から中古までの歌を読み返し、批評を添えた小冊子を編集する	作者や歌の特色をまとめ、冊子編集の見通しをもつ（2 時間）	
8	芭蕉の風雅や蕪村の絵画性、一茶の生活感などに代表される江戸の俳諧を読み味わう	代表的な俳人や俳句について調べ、好きな俳句についての批評をまとめる（2 時間）	
9	明治以降の近代短歌や正岡子規にはじまる俳句を読み味わう	近代短歌・俳句から好きな作家や作品について、その特色等を調べる（2 時間）	
10	近代短歌・俳句の中からテーマを決め、それに沿って批評を添えたアンソロジーを作る	好きな作家や作品について、編集する小冊子の見通しをもつ（2 時間）	
11	明治以降に完成した口語自由詩の中から、特徴的な詩を取り上げ、批評を加えて読み味わう	明治から現代までの中から好きな詩を数点取り上げ、短い批評を加える（2 時間）	
12	「芥川龍之介」の洗練された技巧的な作品を読み、鮮やかな手法に関して自分の感想をまとめる	芥川龍之介の作品の何点かを読み、感想をもつ（2 時間）	
13	「宮沢賢治」の作品を読み、賢治の人生観に貫かれた作品の価値に触れ、自分の感想をまとめる	宮沢賢治の作品を読み、独特の言葉遣いや宗教的な価値観に対する感想をもつ（2 時間）	
14	自分が好きな近代作家を取り上げ、作品の特色や作家の功績について感想を添えてまとめる	取り上げたい作家を決め、多方面について特色をまとめる（2 時間）	
15	取り上げた作家について、特色的な部分を取り上げて発表し合い、感想を交流する	自分が紹介する作家について、発表の仕方を練習する（2 時間）	
テキスト	授業時に文学に関する資料や記録のための用紙を配付。		
指定図書	授業内で適宜紹介。		

科目名	日本国憲法	担当者	山本隆弘
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択／全学		
評価基準	①定期試験(70%)、②授業ごとの提出書類（講義に関する問題を出題）(30%)		
課題に対するフィードバック	小テストの実施、意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目的	日本国憲法の条文解釈を通じて、人権感覚を養い、統治機構に関する知識を身に付けさせる。		
到達目標	どのような目的で憲法が制定されているのか、日常生活の中で憲法がどのように活かされているのかを理解し、日本国憲法の存在理由を知ることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 16 時 15 分～16 時 30 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	憲法とは何か	日本国憲法の条文に目を通しておく（2 時間）	
2	新しい人権と公共の福祉	講義資料の整理と確認（2 時間）	
3	表現の自由	講義資料の整理と確認（2 時間）	
4	精神的自由権と経済的自由権	講義資料の整理と確認（2 時間）	
5	自由権と社会権	講義資料の整理と確認（2 時間）	
6	労働と貧困	講義資料の整理と確認（2 時間）	
7	外国人の人権	講義資料の整理と確認（2 時間）	
8	人権と統治	講義資料の整理と確認（2 時間）	
9	日本国憲法成立の経緯	小テストの復習（2 時間）	
10	三権分立と法の支配	講義資料の整理と確認（2 時間）	
11	国民主権と国会の役割	講義資料の整理と確認（2 時間）	
12	裁判所の役割	講義資料の整理と確認（2 時間）	
13	国際法と国内法	講義資料の整理と確認（2 時間）	
14	日本国憲法の全体像	小テストの復習（2 時間）	
15	まとめ	これまでの復習（2 時間）	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科 目 名	法学	担当者	山本隆弘
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	①定期試験(70%)、②授業ごとの提出書類（講義に関する問題を出題）(30%)		
課題に対するフィードバック	小テストの実施、意見や質問に対し、随時助言や解説をする。		
目 的	社会生活において役立つ法に関する基礎知識を身に付けさせる。		
到 達 目 標	日常生活の中で起こり得る種々の法律問題について理解し、解決するための基礎的能力を修得する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 16 時 15 分～16 時 30 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	法とは何か	講義に関連した文献を読んでおく（2 時間）	
2	結婚と離婚	講義資料の整理と確認（2 時間）	
3	契約について	講義資料の整理と確認（2 時間）	
4	悪徳商法と消費者問題	講義資料の整理と確認（2 時間）	
5	成年後見制度	講義資料の整理と確認（2 時間）	
6	相続と遺言	講義資料の整理と確認（2 時間）	
7	労働をめぐる問題	講義資料の整理と確認（2 時間）	
8	交通事故にあったら	講義資料の整理と確認（2 時間）	
9	警察に呼び出されたら	講義資料の整理と確認（2 時間）	
10	民事裁判の進み方	講義資料の整理と確認（2 時間）	
11	刑事裁判の進み方	講義資料の整理と確認（2 時間）	
12	子どもの非行	講義資料の整理と確認（2 時間）	
13	女性と法律	講義資料の整理と確認（2 時間）	
14	法の解釈と適用	講義資料の整理と確認（2 時間）	
15	まとめ	これまでの復習（2 時間）	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科目名	人間関係論		担当者	片山 桃子
区分等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	学期末試験（記述式）（40%）、課題レポート（20%）、毎授業のリアクションペーパー（30%）			
課題に対するフィードバック	毎授業のリアクションペーパー等を随時授業で取り上げコメントする。			
目的	・自己と他己の関わり合いから学び発達させる人間関係について学ぶ。 ・人間関係の理論を学びつつ、体験学習を通して人間関係を育んでいく自己と他己の関性理解する。			
到達目標	・自分と他者の関係性を理論、体験を持って理解する。 ・日常生活や身近な事例に当てはめ、コミュニケーション、集団、社会の人間関係を考えることができる。			
履修上の注意				
オフィスアワー	毎週火曜日 10:00～12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、人間と人間関係		・自身の経験から人間とはどのような存在か。人間関係はどのように生き方に影響させるのか、自分の考えをまとめる（1 時間）	
2	自己とは		・資料について復習し、重要語句などについてまとめておくこと。自分を知ることの大切さについて自分の考えをまとめる。（1 時間）	
3	対人関係		・日常生活における対人関係に関する自分の体験や気づいたことをまとめる。（1 時間）	
4	人間的コミュニケーション		・人間が日常的に行うコミュニケーション手段について、その種類と自分の生活中でのコミュニケーション手段を振り返ってまとめる。（1 時間）	
5	人間関係における困難		・対人関係の病気について調べておく。（1 時間）	
6	人間関係と協力 課題レポート（授業内で実施）		・課題レポートのテーマについて調べ、考えをまとめる。（1 時間）	
7	家族における人間関係		・家族内の人間関係について自分の考えをまとめる。（1 時間）	
8	学校における人間関係		・学校における人間関係について自分の考えをまとめる。（1 時間）	
9	いじめにおける人間関係		・いじめにおける人間関係について自分の考えをまとめる。（1 時間）	
10	女性の人間関係		・女性特有の人間関係について自分の考えをまとめる。（1 時間）	
11	「鬼滅の刃」に見る人間関係		・これまでの授業内容を振り返り、人間関係について自分の考えをまとめる。（1 時間） ・アドラー 心理学について調べる。（0.5 時間）	
12	人間関係における健康と幸福 課題レポート		・人間関係が影響を及ぼす健康状態や幸福について考えておく。（1 時間） ・課題レポートの課題について調べておく。（1 時間）	
13	インターネットにおける人間関係Ⅰ		・SNS のイメージについて自分の考えをまとめる。（1 時間）	
14	インターネットにおける人間関係Ⅱ		・SNS のメリット・デメリットについて自分の考えをまとめる。（1 時間）	
15	まとめ		・これまでの授業内容を振り返り、重要語句の復習、自分の意見についてまとめておくこと。（2 時間）	
テキスト	授業ごとに資料を配布する。授業内で参考文献を適宜紹介する。			
指定図書	なし。			

科 目 名	リーダーシップのコーチング A セルフ・リーダーシップ (Self Leadership)	担当者	Mathew PHILIP
区 分 等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評 価 基 準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ② リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③ 仲間の自分を幸せにする力 (セルフ・リーダーシップ) スキルの評価 (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目 的	① リーダーシップ・コーチングは、ロジャースの「人は誰でも自らの内部に、自己を成長させ、実現させる力を持っている」という考え方に基づいている。人には誰でも自分が望んでいる目標があり、その目標を自ら達成することができるように、自分が持っている個人的な特性と強みを活かして、自分がその能力と可能性を最大限に発揮し、自分で自分を幸せにするスキルを養成する。 ② 優しさと強さを兼ね備えた心を育成する。		
到 達 目 標	① 高い自己認識・高い人格・夢・目標を持ち、主体的になりたい自分を実現させる力を感じる。 ② キャリア教育的視点を踏まえ、各々の夢を磨き、実現に向け目標の設定を行う。		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンスと自己リーダーシップ論 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項		
2	自己リーダーシップって何・・・「自分を幸せにする力」What is Self Leadership)	「Leadership」という英語の単語の日本語の意味を調べる 予習 (30 分)	
3	自分を幸せにする力 (Self Leadership) 私ってだれ(Who am I)	自分の事はどう思っているか家族に聞いてみる。 予習 (20 分)	
4	① 人に私たちがどう見られていますか (How others see me)	「私ってだれ」というタイトルで 10 行の詩を書く。 予習 (30 分)	
5	② 人間の意思決定の過程(How do I make decisions)	自分の価値観のリストを作成する。予習 (30 分)	
6	③ リーダーシップと関係性 (Relating to others) ジョハリの窓 自己開示・フィードバック	弱い立場に置かれている女性の話をテレビや新聞で収集する。 予習 (40 分)	
7	④ 私の家族の事を知る (Knowing my family)	自分が思っている家族の良いところと嫌いなところのリストの作成。 予習 (20 分)	
8	⑤ 自分が置かれている状況の確認 (Know your world)	「忘れられない友情」というタイトルで自分の友だちの話を 200 字で書く。 予習 (20 分)	
9	⑥ 大切な私の使命 (Your mission)	自分が出来ることのリストを作成する。 予習 (20 分)	
10	⑦ どうやって自分のキャリアを選ぶのか。 (How do I choose my career)	自分が良いなと思うことのリストを作成する。 予習 (20 分)	
11	⑧ 自分で自分を励ます能力 (Ability to encourage oneself)	自分のために自分が買った物のリストを作成する。予習 (20 分)	
12	⑨ 自分のモチベーションを意識する才能 (Motivation awareness)	授業内で紹介 (予習 40 分)	
13	⑩ 自分が変えられるものと変えられないものを区別する能力 Talent to find what can be changed and cannot be changed	自分が変えられない自分のもののリストを作成する。予習 (30 分)	
14	⑪ 【リーダーシップに関するスキル】 「聴く」スキル・「伝える」スキル 実習「聴くスキル・伝えるスキルのトレーニング」Listening, Hearing, and Speaking Skill	家でママの話を聞いてあげましょう。 予習 (40 分)	
15	仲間のリーダーシップスキルを評価するリーダーシップ評価表の作成 How to Give Feedback	授業内で紹介 予習 (40 分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科 目 名	リーダーシップのコーチング B サーバントとグローバル・リーダーシ ップ(Servant and Global Leadership)	担当者	Mathew PHILIP
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評 価 基 準	① 授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ② リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③ 仲間の (サーバントとグローバル・リーダーシップ) スキルの評価 (50%)		
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントする。		
目 的	① 私たちは誰でも生まれながら、人の成長を支え、幸せにする力を持っている。自分の人を 幸せにする力 (サーバント・リーダーシップ) を認識し、日常生活の中で出会う人を幸せ にし、会社や世界の舞台で活躍するスキルを育む。 ② 自ら規範を示し、周りや組織に奉仕しながら目標を成し遂げる力を身につける。 ③ 世界を幸せにする力を育成する。		
到 達 目 標	① 社会の一員としての自覚を持ち、貢献する精神の自体験を行う。 ② 広い教養・国際性をもって異なる世界の文化や価値観を受容し、自らの考えをしっかりと 伝え、グローバル舞台で活躍し世界を幸せにする。 ③ 他者、会社、地域社会のために活躍する。 ④ 人を考えさせ、行動を促し、取るべき手段を引き出す。		
履修上の注意	リーダーシップ・コーチングは英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じ です。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー	授業内で紹介。		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	ガイダンスとグローバル地域リーダーシップ論 (Orientation) Global and Local Leadership) 授業概要と進め方、成績評価説明、注意事項	世界の有名なリーダーについて調べ、自分ロールモデル を探す。(1 時間)	
2	II. 人を幸せにする力 「サーバント・リーダーシ ップ」(Servant Leadership) って何。	人を幸せにした経験を 200 字で書く。(30 分)	
3	① 自分と関わり合う人々を心得る (The people in my life)	最近自分と関わりのあるリストを作成する。 予習 (40 分)	
4	② 友情 (Friendship)	聖書の良いサマリア人の話を読む。準備 (20 分)	
5	③ 人間関係構築スキル(Some skills for relationship)	協力で成長した企業についての新聞記事を見つける。 予習 (50 分)	
6	④ 自分が関わる組織や人を知る能力 (Getting to know your group) ①	自分が今秋田でしたいと思うことのリストを作成する。 予習 (40 分)	
7	⑤ 会社や仲間を理解する能力 (Getting to know your group) ② ・交流分析・構造分析・ライフボディション	最近関わっている団体での自分の一つの経験を 200 字で 書く。予習 (40 分)	
8	⑥ 役割分担能力 (Sharing responsibility)	家族内での役割分担について 100 字で書く。 予習 (40 分)	
9	⑦ 情報収集能力(Understanding how the groups work)	学校の自分の部活動の経験を 100 字で書く。 予習 (40 分)	
10	⑧ 問題解決能力(Dealing with problems in the group)	新聞の戦争についての記事を読む。 予習 (20 分)	
11	⑨ 行動を起こす能力(Doing actions)	Zoom を使って海外の NGO と交流 予習 (30 分)	
12	III. 世界を幸せにする力 (Global Leadership) (グロ ーバル・リーダーシップ) 情報分析能力 (How to look up information)	自分が世界のためにできることのリストを作成する。 予習 (20 分)	
13	① グローバルに友情を育む才能 Ability to foster global friendship	外国に住んでいる友だちのリストを作成する。 予習 (20 分)	
14	② 世界的な経験とリスクマネジメント能力 Global experience and risk management ability	自分のグローバル・リーダーシップの評価表を作る。 予習 (30 分)	
15	③ 仲間の① (①グローバル②サーバント・リーダ ーシップ) 評価表の作成 How to Give Feedback	自分のサーバント・リーダーシップの評価表を作る。 予習 (40 分)	
テキスト	授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書	授業内で紹介。		

科 目 名	比較文化A		担当者	横溝眞理
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	前期講義の内容に関するレポート。			
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。			
目 的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。			
到 達 目 標	①日本においては当たり前のことが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。 ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。 ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見るができるようになる。			
履修上の注意	前期講義の中で2人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業に3回とも出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝眞理)			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	4 月 1 3 日 アジアと米 講師：佐藤光咲		事前：米や稲とは何かなど、その特色を、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
2	4 月 2 0 日 ヨーロッパと牧畜(肉食) 講師：佐藤光咲		事前：米を主食としない理由やヨーロッパの食事情について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
3	4 月 2 7 日 世界を救ったジャガイモ 講師：佐藤光咲		事前：ジャガイモやその料理について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
4	5 月 1 1 日 世界の食育事情 講師：片山桃子		食育の目的を考え、食育について大切なことは何か自分の考えをまとめておく(2 時間)。	
5	5 月 1 8 日 世界の給食 講師：片山桃子		給食の歴史を調べ、自分の子ども時代の給食事情を振り返ってまとめておく(2 時間)。	
6	5 月 2 5 日 世界の朝食 講師：片山桃子		朝食に対する自分の価値観、考えをまとめておく(2 時間)。	
7	6 月 1 日 比較言語学への招待(1) 講師：近藤清兄		教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。	
8	6 月 8 日 比較言語学への招待(2) 講師：近藤清兄		教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。	
9	6 月 1 5 日 比較言語学への招待(3) 講師：近藤清兄		教室で指示された参考書籍を読んでおく(2 時間)。	
10	6 月 2 2 日 文化とは何か ― 文化のバリエーションを知る 講師：菅野 薫		講義の復習・日本とその他の国の文化の比較(2 時間)	
11	6 月 2 9 日 言語からみる文化 ― 日本語と英語の比較 講師：菅野 薫		講義の復習・日本語と英語の比較(2 時間)	
12	7 月 6 日 国際語としての英語 ― 世界で話される英語の比較 講師：菅野 薫		講義の復習・国際語としての英語と英語圏で話される英語の比較(2 時間)	
13	7 月 1 3 日 韓国のフェミニズム① 講師：李 承俊		韓国のフェミニズム文学を読み、関連事項を調べる(2 時間)。	
14	8 月 2 4 日 韓国のフェミニズム② 講師：李 承俊		韓国のフェミニズム文学を読み、関連事項を調べる(2 時間)。	
15	8 月 3 1 日 韓国のフェミニズム③ 講師：李 承俊		韓国のフェミニズム文学を読み、関連事項を調べる(2 時間)。	
テキスト	なし。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科 目 名	比較文化B		担当者	横溝眞理
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	後期講義の内容に関するレポート。			
課題に対するフィードバック	提出されたレポートについては、学生の要望に応じて、添削箇所を開示し、教科内容についての理解をいっそう深められるようにする。			
目 的	広い視野から紹介される日本・海外の様々な文化の特色について理解を深める。			
到 達 目 標	①日本においては当たり前のことが海外では必ずしも当たり前でないことを知る。 ②海外の様々な文化について学ぶことにより、視野を広げる。 ③日本の文化を、今までとは異なった視点から見るができるようになる。			
履修上の注意	後期講義の中で 2 人の担当講師にレポートを提出する。課題の内容・分量は各担当講師が指示する。なお、レポートを作成するためには、その担当講師の授業にすべて出席していることが条件である。座席は受講者が決定次第指定する。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15(横溝眞理)			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	9 月 2 8 日 教会暦とクリスマス 講師：横溝眞理		教会暦に関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2 時間)。	
2	1 0 月 5 日 ドイツのクリスマスで飾るもの 講師：横溝眞理		ドイツ語圏のクリスマスに関する参考書籍を授業中に指示するので、目を通しておくこと(2 時間)。	
3	1 0 月 1 2 日 ドイツのクリスマスで食べるもの 講師：横溝眞理		3 回分の講義に基づいて、ドイツにおける祝祭日の特徴を考察し、文章にまとめる(2 時間)。	
4	1 0 月 1 9 日 異文化理解とアメリカ合衆国 講師：佐藤光咲		事前：アメリカ合衆国について知っていること、イメージをまとめる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
5	1 0 月 2 6 日 世界の学校・日本の学校 講師：佐藤光咲		事前：外国の学校について、その特色を図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
6	1 1 月 9 日 ヨーロッパ文化の成立と歴史 講師：佐藤光咲		事前：ヨーロッパ文化の特色について、図書やネットで調べる。(1 時間) 事後：授業の内容をまとめ、要点を確認する。(1 時間)	
7	1 1 月 1 6 日 アメリカの健康志向とその発展 講師：片山桃子		アメリカにおける健康志向にはどのような生き方と様式があるのか調べておく(2 時間)。	
8	1 1 月 3 0 日 アメリカにおけるヴィーガンという選択 講師：片山桃子		ヴィーガンとはどのような生き方かを調べ、その背景にあるいくつかの理由を考察しておく(2 時間)。	
9	1 2 月 7 日 アメリカにおけるファストフードの変化 講師：片山桃子		アメリカにおけるファストフードの発展を調べる。ファストフードへの自分の考えと知識をまとめる(2 時間)。	
10	1 2 月 1 4 日 各国のインターネット利用状況 講師：佐藤 恵		(事前) インターネットの歴史を調べる。 (事後) まとめと確認(2 時間)	
11	1 2 月 2 1 日 インターネットショッピング 講師：佐藤 恵		(事前) ネットショッピングサイトを閲覧し、利便性を比較する。 (事後) まとめと確認(2 時間)	
12	1 月 1 4 日 ネットコミュニティ 講師：佐藤 恵		(事前) ネットを利用したコミュニケーションについて、自分の考えをまとめておく。 (事後) まとめと確認(2 時間)	
13	1 月 2 5 日 植民地支配の傷跡 講師：李 承俊		講義を復習し、意見をまとめる(2 時間)。	
14	2 月 1 日 日韓関係と若者 講師：李 承俊		講義を復習し、意見をまとめる(2 時間)。	
15	2 月 8 日 日韓の大衆文化 講師：李 承俊		講義を復習し、意見をまとめる(2 時間)。	
テキスト	なし。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名		グローバル世界と地域文化A Global World and Local Culture A	担当者	Mathew PHILIP
区 分 等		1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評 価 基 準		① 授業への参加姿勢：20％ ② 授業のテーマへのコメントペーパー：20％ ③ 地域で自分が出来るプロジェクト作成：60％		
課題に対するフィードバック		提出物等について、適宜コメントする。		
目 的		① 「地域文化」のグローバル化を学ぶ中で、日本に滞在をしている世界の人々を大切にし、一緒に働き地域で暮らす日本人の現状と課題を研究し、学ぶことで、「地域」と「グローバル」社会をさまざまな視点から考察する力を養い、世界の舞台で活躍するスキルを習得する。 ② 表面化されていない地域文化のグローバルな広がりや秋田のグローバル化を調査し、浮き彫りにして行く中で、調査能力を育む。 ③ 地域や世界のグローバル化への関心を高め、関連する新聞記事や資料を受講前よりも深く読めるようになる。 ④ グローバル化（および世の中の出来事）の分析能力を養う。 ⑤ グループ・ディスカッションに慣れる。		
到 達 目 標		① 秋田で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成する。 ② グローバル社会と日本（社会）との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。 ③ グローバル化や地域文化を評価し、グローバルマナーを身につけ、世界で活躍できるようになる。 ④ 地域社会においてもグローバル社会でも恥じないマナーをもってコミュニケーションを出来るようになる。		
履修上の注意		グローバル世界と地域文化 A は英語と日本語で開講しています。英語と日本語の内容は同じです。授業はコーチング形式で行います。		
オフィスアワー		授業内で紹介		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・グローバル世界論(Orientation) Theories of Globalization			
2	グローバル化って何 History of Globalization		Global という言葉の意味を辞書で調べてノートに書く。予習（20 分）	
3	日本の可能性を広げるグローバル化 Globalization that expands the possibilities of Japan		外国で活躍している日本人についての新聞記事を読む。予習（30 分）	
4	グローバル化によって広がる秋田地域の絆 Bonds in the Akita region that are expanding due to globalization		秋田市に住んでいる外国人の数と国籍を調べる。予習（30 分）	
5	秋田における教育のグローバル化		秋田でグローバルな教育をしている学校のリストを作る。予習（30 分）	
6	近所付き合いや生活のグローバル化における変化 Globalization of life and Changes in neighborhood relationships		（Zoom 使用）在日外国人の話を聞く予習（30 分）	
7	地域家庭生活のグローバル化 Globalization of local family life		（Zoom 使用）国際結婚について話を聞く（30 分）	
8	グローバル化によって世界に広がる日本の文化 Globalization of Japanese Culture		外国で流行りの日本の文化についての新聞記事を読む。予習（30 分）	
9	グローバル化による日本人とお金の移動変化 Changes in the movement of Japanese people and money due to globalization		日本が外国でできる事業のリストを作成する。予習（30 分）	
10	世界政治にグローバル化がもたらした変化 Changes brought about by globalization in world politics		アメリカの大統領選挙について新聞記事を読む。	
11	グローバル化を支える国際機関 International organizations that support globalization		ネットで国連について調べる。予習（30 分）	
12	世界の地域文明を豊かにするグローバル化 Globalization that enriches the world's regional civilization		世界で人気のある日本料理のリストを作成する。	
13	グローバル化の中で世界に広がる秋田 Akita that spreads around the world in the midst of globalization		秋田の世界に誇れる地域文化や食べ物を探し、リストを作成する。予習（30 分）	
14	秋田の食習慣のグローバル化 Globalization of Akita's Culinary Traditions		秋田で人気のある外国料理や外国ツアーのリストを作成する。予習（30 分）	
15	グローバル化の中で広がる人の夢 Growing Dreams of People in the midst of globalization		世界で行ってみたい国、やってみたいことのリストを作成する。予習（30 分）	
テキスト		授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書		授業内で紹介。		

科 目 名	日本文化史A		担当者	渡部育子
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	授業中に提出するミニレポート 40 点、期末に提出するレポート 60 点、合計 100 点。合計 100 点の 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	秋田に展開した生活・文化の歴史を中心に、歴史学の基礎的教養を修得する。			
到 達 目 標	1. 秋田の文化史について自分自身の言葉で説明することができる。 2. 古代国際社会のなかの秋田について理解することができる。 3. 学舎が隣接する国指定史跡・秋田城跡の価値を理解できる。			
履修上の注意	1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。			
オフィスアワー	水曜日 14:15～14:45 左記以外の時間帯は要アポイントメント			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	秋田のルーツを探る		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。（2 時間）	
2	日本文化と東アジア		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。東アジアから伝来した日本文化について考える。（2 時間）	
3	日本古代国家の国際化		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。当時の国際世界である東アジアとの外交における秋田の位置づけについて考える。（2 時間）	
4	「あきた」の登場（『日本書紀』に見える「あきた」）		配付プリントの復習。7 世紀半ばに秋田が歴史書に登場したことの意味について考える。（2 時間）	
5	出羽国の成立		学歌の「出羽の国のおとめ吾」という歌詞を読んでみる。古代の出羽国の成立について授業の内容を復習する。（2 時間）	
6	出羽柵の「秋田村高清水岡」への移転と秋田城東門の造営（学舎から見える奈良時代の建物です）		「秋田村高清水岡」の地名は 733 年、『続日本紀』に記される。復習としてノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。（2 時間）	
7	秋田城の多様な人びと		指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習、復習をする。（2 時間）	
8	天長の秋田大地震（830 年にマグニチュード 7.5）		配付プリントをチェックする。分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。（2 時間）	
9	秋田城跡の見学		指定図書『図説秋田市の歴史』を利用して予習。秋田城跡見学で分かったことをまとめる。（2 時間）	
10	自分で興味をもつ秋田の文化に関するテーマを探す（テーマ設定）		現代の秋田がかかえる諸問題、秋田の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。（2 時間）	
11	現代から見る古代の人々		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。1300 年前の人びとの生活について、現代との相違点・共通点を考える。（2 時間）	
12	日本古代の社会に生きる人々		これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。古代の人びとの「生きる力」を想像してみる。（2 時間）	
13	古代国家の北の玄関口（北方外交）・秋田の人びとの仕事と暮らし		ノートとこれまでの配付プリントの整理。秋田城が古代国家最北の行政機関であり、北方外交の拠点であったことから、古代の秋田について考える。（2 時間）	
14	日本列島のなかでみる秋田の文化 レポート、学術論文の書き方について		レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。（2 時間）	
15	まとめ		自分で興味を持つテーマを発展させる。（2 時間）	
テキスト		授業中に参考文献を紹介する。		
指定図書		あり（巻末参照）。		

科 目 名		日本文化史B	担当者	渡部育子
区 分 等		1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻 2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準		授業中に提出するミニレポート 40 点、期末に提出するレポート 60 点、合計 100 点。合計 100 点の 60 点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック		随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目 的		日本文化・日本社会の歴史的特質について理解し、21 世紀において歴史学が果たすべき課題について考察する力を養う。		
到達目標		1. 日本古代に生きた人々の生活・文化について理解し、説明することができる。 2. 日本列島に展開した文化の特徴について説明できる。 3. 自分自身が興味をもっているテーマについて、簡単なレポートを作成することができる。		
履修上の注意		1. 高校で日本史・世界史を履修していなくてもさしつかえない。 2. 授業中、復習のポイント（重要な点）と次回の内容（予習の方法）について指示する。 3. レポート作成に際しては必要に応じて個別指導も行い、目標達成に向けて努力する。		
オフィスアワー		水曜日 14:15～14:45 左記以外の時間帯は要アポイントメント		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	日本文化のルーツを探る		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。（2 時間）	
2	歴史を読みなおして分かること		中学校や高等学校で学んだ歴史についてわからないことはなかったか、おもしろいかえてみる。何のために歴史を学ぶのか、考えてみる。新たな発見があったかどうか、確認する。（2 時間）	
3	奈良の都に住む多様な人々		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。現代都市と古代都市の共通点について考える。（2 時間）	
4	古代の人びとの暮らしと文化		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。（2 時間）	
5	自分で興味をもつ日本の文化に関するテーマを探す（テーマ設定）		現代の日本がかかえる諸問題、日本の文化の特質について考え、授業中に質問したいことをメモする。図書館の蔵書を検索する。（2 時間）	
6	古代の女性たちの多様生き方		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。古代の女性の生き方について考える。（2 時間）	
7	女性天皇について考える。初めての女帝・推古天皇		「女帝」は律令の法律用語です。ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。（2 時間）	
8	秋田に注目した斉明天皇		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『図説秋田市の歴史』を見る。（2 時間）	
9	激動の時代を生きた持統天皇		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。皇位継承についてプリントを確認する。（2 時間）	
10	奈良時代は女帝の世紀。平城京遷都をなしとげた元明天皇		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』（2 時間）	
11	母から娘への皇位継承。元正天皇		ノートの整理。分からないことはなかったか、新たな発見があったかどうか確認する。指定図書『元明天皇・元正天皇』（2 時間）	
12	古代最後の女帝・称徳天皇とその時代		ノートの整理。天平文化の時代の政治・社会について復習する。華やかな文化財については、図書館の図録を参考にしてもよい。（2 時間）	
13	女性と政治について考える		これまでの授業を振り返り、分からなかったこと、新たに発見したことをメモする。（2 時間）	
14	世界史的にみる日本文化 レポート、学術論文の書き方について		レポート作成内容について予測を立ててみる。分からないことについて質問をメモしておく。 レポート作成のため図書館の蔵書を検索する。（2 時間）	
15	まとめ		自分で興味をもつテーマを発展させる（2 時間）	
テキスト		授業中に参考文献を紹介する。		
指定図書		あり（巻末参照）。		

科 目 名	スポーツ科学A		担当者	大貫 葉子
区 分 等	1 年次・前期〔講義・実技〕 2 単位・選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	スキルテスト、レポートおよび、学習態度などを総合して評価する。			
課題に対するフィードバック	授業内で、個別に対応する。			
目 的	健康を保持増進するためには、日常生活において身体活動・運動を取り込んだライフスタイルの形成が重要である。この時間では、積極的に身体活動・運動に取り組み、生涯を通してスポーツに関わることができる資質や能力を身につける。			
到 達 目 標	実技では、心と体を一体としてとらえ、身体活動・運動についての理解と実践を通して、明るく豊かで活力ある生活を営むことができる資質や能力を育てることを目標とする。ゴール型球技では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。ネット型球技では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。また講義では、豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を中心に、スポーツの歴史と文化的特性や現代のスポーツの特徴について知識を習得する。			
履修上の注意	体育館シューズ、季節に見合ったトレーニングウェアを着用してください。怪我防止のため、アクセサリ類は外してください。各自筆記用具を持参してください。 諸事情により欠席、もしくは見学する場合は、事前に担当教員に連絡してください。 ※受講者数により、開設種目について変更する場合があります。			
オフィスアワー	16：20～16：30			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		種目の基本動作やルールを確認しておく。	
2	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
3	バスケットボール パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
4	バスケットボール 総合練習、トーナメント・リーグの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。	
5	卓球 フォアハンド・バックハンドストロークの技術		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
6	卓球 サーブ・スマッシュの技術		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
7	卓球 総合練習 ダブルスゲームの進め方		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
8	卓球 総合練習 トーナメント・リーグの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。	
9	フットサル パス・ドリブルの基本練習①、ミニゲーム		技術のポイントを反省し、まとめておく。	
10	フットサル パス・ドリブルの基本練習②、ミニゲーム		簡易ゲームのポイントを反省し、まとめておく。	
11	フットサル 総合練習、トーナメント・リーグの進め方		ゲームのポイントを反省し、まとめておく。	
12	スポーツの歴史と変遷		講義ノートを整理しておく。	
13	オリンピックと国際理解		講義ノートを整理しておく。	
14	ドーピングとスポーツ倫理		講義ノートを整理しておく。	
15	まとめ		これまでの実技と講義の内容を整理しておく。	
テキスト	プリントを配付する。			
指定図書	指定しない。			

科 目 名	スポーツ科学B		担当者	渡邊和仁
区 分 等	1 年次・後期〔講義・実技〕 1 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	スキルテスト、レポートおよび学習態度などを総合して評価する。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案を行うことにより受講者へフィードバックする。			
目 的	各種スポーツのルール・技術・戦術などを学習しながら、生涯に渡ってスポーツを実践できる能力や態度を身につける。また、現代社会におけるスポーツの意義や運動に関する科学的知識などを学び、心身ともに健康で豊かな生活を送るための基礎を培う。			
到 達 目 標	実技では、打ち返し型のボールゲーム（バドミントン・バレーボール）の技術・戦術上の基本的な動きと簡易ゲームができること。また、講義ではスポーツの意義や運動が心身に及ぼす効果に関する知識を習得すること。			
履修上の注意	体育館シューズとスポーツウェアを準備してください。やむを得ない事情により見学または欠席する場合は、担当教員に連絡してください。 *受講者数などを考慮し、実施するスポーツ種目について変更する場合があります。			
オフィスアワー	月曜日 12:20～12:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および時間	
1	オリエンテーション		種目のルールを確認しておく（1.5 時間）	
2	バドミントン オーバーアームストロークの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
3	バドミントン サイドアームストロークの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
4	バドミントン サーブ・クリア・ドライブ・スマッシュの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
5	バドミントン 総合練習 ダブルスゲームの進め方		簡易ゲームのポイントを反省し、まとめておく（1 時間）	
6	バドミントン 総合練習 トーナメントの進め方・リーグの進め方		トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく（1 時間）	
7	バレーボール オーバーハンドパスの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
8	バレーボール アンダーハンドパスの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
9	バレーボール サーブ・アタックの技術説明		技術ポイントを反省し、まとめておく（0.5 時間）	
10	バレーボール グループ戦術の基本		戦術ポイントを反省し、まとめておく（1 時間）	
11	バレーボール チーム戦術の基本 トーナメントの進め方・リーグの進め方		戦術ポイントを反省するとともに、トーナメントやリーグの仕方を反省し、まとめておく（1 時間）	
12	現代におけるスポーツの意義		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5 時間）	
13	運動による肥満の予防・改善		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5 時間）	
14	運動による身体諸機能の向上		プリントを用いて講義内容を復習する（1.5 時間）	
15	まとめ		これまでの実技と講義の内容を整理する（2 時間）	
テキスト	プリントを配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	アメリカ文化A	担当者	Damian Stachowski
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業への取り組み姿勢 (30%)、課題提出 (30%)、学期末のレポート (40%) Attitude toward class (30%), Assignments (30%), End of semester report (40%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削し、講評をつけて返却する。 Assignments will be corrected, critiqued, and returned.		
目 的	アメリカ文化の様々な側面について理解を深める。 今後のアメリカ訪問に備える。 To deepen their understanding of various aspects of American culture. To prepare for future possible visits to the United States.		
到達目標	①アメリカ文化の重要な側面とその歴史的なルーツについて学びます。 ②アメリカで遭遇する可能性のある状況に備えて、英語を使用するようになります。 ①You will learn about important aspects of American culture and their historical roots. ②You will learn the appropriate English vocabulary to prepare for situations you may encounter in the United States.		
履修上の注意	「Basic English Skills I」を履修していること。 テーマ一つを選んでレポートを作成してもらう。 Students must have taken "Basic English Skills I". Students are required to choose one topic and write a report on it.		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	コースの紹介、文化とは？ Introduction to the course, What is Culture?	講義の復習と演習問題による確認（2 時間） Review of the lecture and practice questions (2 hours)	
2	アメリカ史の概要 Overview of American History	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
3	アメリカの暗い過去。ネイティブアメリカンの歴史と奴隷制度。 America's dark past. Native American history and slavery.	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
4	米国宗教 Religions in the Americas	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
5	アメリカにおける政治 Politics in the U.S.	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
6	アメリカへの移民 Immigration to the United States	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
7	アメリカの家族（マイ・ビッグ・ファット・グreek・ウェディング DVD） The American Family (My Big Fat Greek Wedding DVD)	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
8	食事 Food	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
9	社会階級と人種 Social Class and Race	Think about which topic you want to choose for the report	
10	教育体制 The Educational System		
11	アメリカにおける高齢者と葬儀 The Elderly and Funerals in America		
12	世界の中のアメリカ文化 American Culture in the World		
13	アメリカでの祝日 Holidays in the U.S.		
14	アメリカ在住日本人とのインタビュー Interview with a Japanese citizen living in the U.S.	インタビュー後の感想（1 時間） Write your impressions after the interview (1 hour)	
15	レビュー、質疑応答 Review, Q & A	学期末レポートの作成 Writing your end-of-semester report (3 hours)	
テキスト	授業時に資料配付 Prints will be handed out when necessary.		
指定図書	なし。None.		

科 目 名	ドイツ語圏文化A		担当者	横溝真理
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	①レポート(80%) ②授業毎の課題(20%)			
課題に対するフィードバック	課題は添削し、講評をつけて返却する。			
目 的	ドイツ語圏についての理解を深めること。			
到 達 目 標	①ドイツ語圏に住む人々の文化・歴史・社会・生活習慣について知識を得る。 ②ドイツ語圏と日本との違いを考える。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修していること。 ②冬休み前に提示されるテーマから一つを選んでレポート(2000 字以上)を作成してもらう。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	中欧とドイツ		教科書 10～16 ページを読む。「中欧」とはどのあたりなのか、教科書 177 ページの地図を見ながら考える。(2 時間)	
2	ドイツという国		教科書 16～21 ページを読む。「連邦共和国」とは何か、考える。(2 時間)	
3	同じ車社会であっても		教科書 26～27 ページを読む。日本との違いを調べる。(2 時間)	
4	ドイツ的経済合理性		教科書 28～29 ページを読む。ドイツ人らしい「質実剛健」とはどのようなものなのか、考える。(2 時間)	
5	清潔感あれこれ		教科書 29～30 ページを読む(2 時間)。	
6	マイスター制度とドイツ・ブランド		教科書 30～35 ページを読み、ドイツを代表するブランドには何があるか、調べてみる。(2 時間)	
7	ドイツの新聞・雑誌・放送		教科書 35～38 ページを読む。新聞発行部数について日独の違いを調べる。(2 時間)	
8	「君よ知るや南の国」ードイツ人のイタリア憧憬		事前に配付された詩の対訳を読み、どのような季節感が描かれているのかを考える。(2 時間)	
9	余暇先進国ドイツ		教科書 38～40 ページを読む。ドイツにおける労働時間短縮にはどのような背景があるのか、考える。(2 時間)	
10	結婚と離婚、子育て事情		教科書 44～49 ページを読む。結婚と離婚、子育て事情について、日本との違いを考える。(2 時間)	
11	ドイツのクリスマス		事前に配付された詩について、単語の意味を調べ、授業中に訳せるようにしておく。(2 時間)	
12	ゴミ処理と環境問題		教科書 41～44 ページを読む。環境保護に関する先進的な取り組みが成功している背景について考える。(2 時間)	
13	ドイツのショッピング事情		教科書 96～98 ページを読む。「商店閉店法」について調べるとともに、24 時間営業のコンビニエンスストアがたくさんある日本との違いを考える。(2 時間)	
14	ナチスドイツと、現代におけるヒトラー回帰		教科書 155～159 ページを読む。ナチスによる政権奪取の過程を調べるとともに、現代におけるネオナチ問題について考える。(2 時間)	
15	ドイツのこれからの課題、そして日本		教科書 186 ページに列挙された課題から、レポートのテーマを選び、ドイツと日本の違いについてまとめる。(2 時間)	
テキスト	高橋憲著『最新版 ドイツの街角から』(郁文堂)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科 目 名	韓国文化A		担当者	李 承俊
区 分 等	1年次・後期〔講義〕 2単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	課題・平常点（50%）、レポート（50%）			
課題に対するフィードバック	提出された課題にコメントをつけて返却する。 随時アドバイスや提案をし、議論を行う。			
目 的	「文化」という概念を中心に、韓国と韓国人に対する思考を深める。			
到 達 目 標	①包括的かつ抽象的な概念である「文化」から、限定的かつ具体的な概念である「韓国」と「韓国人」をいかに考えることができるかに関して、多様な事例と資料をもって学ぶことができる。 ②日本の中の韓国文化、韓国の中の日本文化をめぐる多様な現象や事象と触れ合い、グローバル社会で活躍するための教養を自分のものにする。			
履修上の注意	授業に積極的に参加してください。たくさん質問し、発言してください。 毎回、授業に関する感想、意見、質問などを書いたミニ・ペーパーを提出してもらいます。 その次の授業でミニ・ペーパーに対する総合的なフィードバックを行います。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。			
オフィスアワー	授業中に案内します。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロ 「韓国文化」とは？		シラバスを確認する（30分） 「韓国」「韓国人」「韓国文化」について自由に調べる（2時間）	
2	伝統文化と大衆文化 現代社会と大衆文化		「文化」の定義について自由に調べる（2時間）	
3	「複製」技術と大衆文化 文化の「複製」とグローバリゼーション		大衆文化について自由に調べる（2時間）	
4	J-POPとK-POP 大衆文化の「複製」と交流		J-POPとK-POPについて自由に調べる（2時間）	
5	K-POPとGirl Crush 韓国のフェミニズム		フェミニズムについて自由に調べる（2時間）	
6	『82年生まれ、キム・ジョン』 日韓の女性の共感と連帯		フェミニズム小説について自由に調べる（2時間）	
7	歴史と伝統文化 白村江の戦いと戦後処理		白村江の戦いについて自由に調べる（2時間）	
8	文禄・慶長の役と戦後処理 対馬と雨森芳洲		文禄・慶長の役、対馬と雨森芳洲について自由に調べる（2時間）	
9	日本に留学する植民地朝鮮の若者 光化門と柳宗悦		尹東柱について自由に調べる（1時間） 柳宗悦について自由に調べる（1時間）	
10	日本の敗戦と朝鮮の光復 引揚げと森崎和江		引揚げについて自由に調べる（2時間）	
11	朝鮮戦争と日本の戦後特需 徴兵制		朝鮮戦争について自由に調べる（1時間） 韓国の徴兵制について自由に調べる（1時間）	
12	関東大震災と朝鮮人虐殺 戦後処理と「在日」		在日朝鮮人、在日韓国人の歴史について自由に調べる（2時間）	
13	内なる他者「在日」 グローバリゼーションと「在日」		在日朝鮮人、在日韓国人、在日コリアンの現状について自由に調べる（2時間）	
14	倭色と日本大衆文化解放 「純血」文化と「混血」文化		韓国の日本大衆文化解放について自由に調べる（2時間）	
15	国民国家と文化 再び、「韓国文化」とは何か？		今までの授業を振り返る（1時間） 「韓国文化」に対する考えをまとめる（1時間）	
テキスト	授業中に資料を提示・配布			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	地域リーダーシップ論		担当者	Mathew Philip
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)			
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。			
目 的	「人がそれなしで生きていけないものについて考えるのが哲学である」という定義に基づいてそれぞれの思いを深める。			
到 達 目 標	1. 「それなしで生きられないもの」とは何か、自分なりの答えを得る。 2. 人として、自分として・・・2つの視点に立つということ。			
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1200 字以上）。			
オフィスアワー	授業で紹介			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Guidence and Theories of Local Leadership		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Leadership Styles as Determinant of Community Organization Effectiveness in a Local Community		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	Skills to Adaptable to Situations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Being Alert to Social Environment		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Skills to be Ambitious and achievement-oriented		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Skills to be Kind and Assertive		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	Skills to be Cooperative		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	Need to be Decisive and Giving		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	Skills to Become Dependable		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Being Dominant (Human Desire to Influence Others)		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Skills to be Energetic (High Activity Level)		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	Goal and Persistence for Local Community Building		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	Self-confidence		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Tolerant of Stress		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	Willing to assume Responsibility		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名	市民社会論		担当者	Mathew Philip
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)			
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。			
目 的	1. 市民社会は、私たちが公益のために行動する場として、貧しい人々や社会から取り残された人々を、支援を動員できるグループと結びつける方法を学ぶ。 2. NPO や NGO の立ち上げ方法を学ぶ			
到 達 目 標	1. 貧しい人々や疎外された人々を、支援できるようになる。 2. 地域の困っている人を助けるために仲間と一緒に NGO を立ち上げることが出来るようになる。			
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1000 字以上）。			
オフィスアワー	授業で紹介			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Guidence and The Concept of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Theories and Definition of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	Causes of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Philosophy of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Early History of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Modern History of Civil Society		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	Natute of Civil Society Organizations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	Local Civil Society Organizations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	Global Civil Society Organizations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Social enterprises Social Movement Organizations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Support groups, Trade Unions, Voluntary Associations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	Cooperatives Foundations		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	Non-governmental Organizations (NGOs) Non-profit Organizations (NPOs) Private Voluntary Organizations (PVOs)		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Academia Activist Groups and Charities		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	Japanese Civil Society		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名	食生活論		担当者	熊谷昌則
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの解説を授業内で行う。			
目 的	食の歴史や現代の食生活・食文化等について論じ、専門職であるフードスペシャリストとしての知識と心構えを身につけさせると同時に、食生活のあり方等についても考察させる。			
到達目標	生活文化専攻の学習成果の一つである、食に関する知的理解と実践的な力が身につく。健康栄養専攻の学習成果である、栄養士としての基本的知識を身につけることに関連し、次の到達目標を掲げる。 1. フードスペシャリストとして必要な食に関わる専門知識が身につき、その特徴を正しく説明できる。 2. フードスペシャリストの概念、責務等を理解し、その特徴を正しく説明できる。			
履修上の注意	1. フードスペシャリスト資格取得を目指す者は、必ず履修すること。 2. 予習と復習をしっかりと行うこと。 3. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 4. 食品学総論、食品学各論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション フードスペシャリストとは		テキスト 1～ 26 頁の予習（2 時間）	
2	人類と食物（Ⅰ） 人類の歩みと食物		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 27～ 35 頁の予習（2 時間）	
3	人類と食物（Ⅱ） 食品加工・保存技術史		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 36～ 44 頁の予習（2 時間）	
4	世界の食 食作法、食の禁忌と忌避、世界各地の食事情		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 45～ 60 頁の予習（2 時間）	
5	日本の食（Ⅰ） 日本食物史		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 61～ 71 頁の予習（2 時間）	
6	日本の食（Ⅱ） 食の地域差		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 71～ 78 頁の予習（2 時間）	
7	現代日本の食生活（Ⅰ） 食生活の変化		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 79～ 93 頁の予習（2 時間）	
8	現代日本の食生活（Ⅱ） 食料自給率		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 94～102 頁の予習（2 時間）	
9	食品産業の役割 フードシステムと食品産業		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 103～122 頁の予習（2 時間）	
10	食品の品質規格と表示（Ⅰ） J A S		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 123～135 頁の予習（2 時間）	
11	食品の品質規格と表示（Ⅱ） 食品表示法		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 135～149 頁の予習（2 時間）	
12	食品の品質規格と表示（Ⅲ） 食品添加物		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 149～156 頁の予習（2 時間）	
13	食品の品質規格と表示（Ⅳ） 健康や栄養に関する表示制度		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 156～172 頁の予習（2 時間）	
14	食情報 発信と受容、濫用、情報管理		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 173～180 頁の予習（2 時間）	
15	消費者保護 食品の安全と安心		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 180～189 頁の予習（2 時間）と復習（2 時間）	
テキスト		『四訂フードスペシャリスト論 第7版』（建帛社）		
指定図書		あり（巻末参照）。		

科 目 名	食品と調理		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	1 年次・後期 [講義] 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1. 授業内試験及び提出物(80%) 2. 受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。			
目 的	健康な食生活を送るために必要な調理理論を習得する。			
到 達 目 標	食品の調理特性、調理操作、調理機器の特徴を総合的に学び、食事設計の基本について理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 15：00～16：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	調理の概念		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
2	基礎調理操作 (1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
3	基礎調理操作：加熱調理操作		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
4	基礎調理操作：非加熱調理・中間まとめ等		小テストに備え、該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
5	食品の調理特性と調理 (1) 植物性食品 米、日本料理		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(30 分)	
6	日本料理のマナー・箸の使い方		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
7	外国の食文化		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
8	食品の調理特性と調理 (2) 植物性食品 野菜類・果実類・きのこ類・藻類、中間まとめ等		小テストに備え、テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(2 時間)	
9	食品の調理特性と調理 (1) 動物性食品 食肉類・魚介類		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
10	食品の調理特性と調理 (2) 動物性食品 卵・牛乳・乳製品		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
11	正月料理 箸袋作製		オリジナル箸袋を作製する (2 時間)	
12	フードコーディネート (食卓の演出①)		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(30 分)	
13	フードコーディネート (食卓の演出②)		該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(30 分)	
14	郷土料理		レポートを作成し、発表の準備をする。(2 時間)	
15	郷土料理発表		レポートを作成し、発表の準備をする。(2 時間)	
テキスト	なし			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科 目 名	調理演習A		担当者	松田律子
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	演習記録(60%)、レポート課題(40%)。			
課題に対するフィードバック	提出物は、コメントをつけて返却する。			
目 的	調理理論に基づいた調理技術および手法を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 食品の扱い方、基本的な調理操作を身に付ける。 2. 調理手順どおり調理することができる。			
履修上の注意	材料費は別途で徴収する。 調理に適した服装で授業に臨むこと（エプロン・三角巾など着用）。			
オフィスアワー	火曜日 14 時～15 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	実習の目標と内容 調理の基本操作		授業内容の整理とまとめ（0.5 時間）	
2	〔日本料理〕三色丼、麩のすまし汁、ほうれん草の朝地あえ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
3	〔西洋料理〕コンソメジュリアン、プレーンオムレツ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
4	〔中国料理〕鶏の中華風唐揚げ、かに玉、炒豆芽		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
5	〔菓子〕マーブルケーキ、紅茶		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
6	〔日本料理〕手まり寿司、吉野鶏の吸いもの、水ようかん		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
7	〔西洋料理〕鮭のムニエル、ニンジンのサラダ、コーンポタージュスープ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
8	〔日本料理〕厚焼き卵、グリーンアスパラガスの胡麻和え、夏みかんかん		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
9	〔中国料理〕五目炒飯、酸辣湯、涼拌茄子		演習した調理のふり返りと記（0.5 時間）	
10	〔西洋料理〕煮込みハンバーグ、ミネストローネ、プリン		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
11	〔中国料理〕涼拌麺、麻婆豆腐、ザーサイと豚肉のスープ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
12	〔日本料理〕ちらし寿司、卵豆腐の吸い物、フルーツみつ豆		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
13	タコライス、コンソメスープ、ミルクプリン		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
14	自由献立（計画）		献立の確認と次回の予習	
15	自由献立（調理演習）		献立作成・調理内容のふり返りとまとめ	
テキスト	資料を配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	調理演習B		担当者	松田律子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	演習記録(60%)、レポート課題(40%)。			
課題に対するフィードバック	提出物は、コメントをつけて返却する。			
目 的	調理理論に基づいた調理技術および手法を学ぶ。			
到 達 目 標	基本的な調理操作を使い、日本料理・西洋料理・中国料理の日常食と行事食を作ることができる。			
履修上の注意	材料費は別途で徴収する。 「調理演習A」の履修、または同等の調理技術を必要とする。 調理に適した服装で授業に臨むこと（エプロン・三角巾など着用）。			
オフィスアワー	水曜日 10 時～11 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 調理の基本操作 実習計画		授業内容の記録（0.5 時間）	
2	[日本料理]秋刀魚の蒲焼丼、里いもと舞茸の味噌汁、白和え		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
3	[西洋料理]スパゲッティミートソース、海草サラダ、季節の果物		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
4	[中国料理]棒棒鶏、エビチリ、卵のスープ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
5	[日本料理]だまこ鍋、とんぶりの月見、茶巾しぼり		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
6	[西洋料理]ピッツァ・マルゲリータ、豚肉の粒マスタード焼き、りんごサラダ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
7	[中国料理]涼拌三絲、酢豚、豆腐皮湯		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
8	[菓子]パウンドケーキ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
9	[行事食]正月料理：伊達巻、ぶりの照り焼き、なます、紅白羹、お吸い物		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
10	[行事食]クリスマス料理：フライドチキン、フライドポテト、カボチャのポタージュ、カナッペ、ロールケーキ		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
11	[中国料理]あんかけ焼きそば、ワンタン、豆沙麻球、中国茶		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
12	[自由献立]弁当の献立作成		献立の確認と次回の予習（0.5 時間）	
13	[自由献立]弁当の調理		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
14	[自由献立]行事食の献立作成		献立の確認と次回の予習（0.5 時間）	
15	[自由献立]行事食の調理		演習した調理のふり返りと記録（0.5 時間）	
テキスト	資料を配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	コンピュータグラフィックス		担当者	坂本憲信
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	①授業への取り組み姿勢（40%） ②課題提出（60%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評もしくは適宜コメントをつけて返却する。			
目 的	P C ツール（イラストレーター、フォトショップ等）を用いて画像をデザインし計画的に作成するための基本的な操作について習得すること。			
到 達 目 標	P C ツールを用いて、意図する画像をデザインし計画的に作成することができる。			
履修上の注意	特になし			
オフィスアワー	授業終了後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション イラストレーター（１～７回） 基本機能について		授業内容の復習（１時間）	
2	「キャラクターマーク」の作図 （作図、トレース、描線、彩色、加工、文字入力等について学ぶ。）		授業内容の復習（１時間）	
3	「キャラクターマーク」の作図（継続）		授業内容の復習（１時間）	
4	「キャラクターマーク」の完成		授業内容の復習（１時間）	
5	「地図」の作図 （より複雑な作図やオブジェクトの加工、整列等について学ぶ。）		授業内容の復習（１時間）	
6	「地図」の作図（継続）		授業内容の復習（１時間）	
7	「地図」の完成		授業内容の復習（１時間）	
8	フォトショップ（８～１２回） 基本機能について		授業内容の復習（１時間）	
9	画像の切り抜き・合成のレッスンと応用		授業内容の復習（１時間）	
10	レタッチ・色調補正のレッスンと応用		授業内容の復習（１時間）	
11	コラージュのレッスン		授業内容の復習（１時間）	
12	コラージュの作成		授業内容の復習（１時間）	
13	イラストレーターとフォトショップの複合操作 （１３～１５回） 課題「１ヶ月カレンダー」のテンプレート作成		授業内容の復習（１時間）	
14	「１ヶ月カレンダー」の作成		授業内容の復習（１時間）	
15	「１ヶ月カレンダー」の完成および講評 まとめ		授業内容の復習（１時間）	
テキスト	授業時に資料を配付する。			
指定図書	授業内で適宜紹介する。			

科 目 名	グラフィックデザイン演習		担当者	坂本憲信
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	①授業への取り組み姿勢（40%） ②課題提出（60%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評もしくは適宜コメントをつけて返却する。			
目 的	意図した内容を画面上に、具体的にデザイン表現できる能力を身につけること。			
到 達 目 標	意図した内容を画面上に、具体的にデザイン表現することができる。			
履修上の注意	P C ツール（イラストレーターおよびフォトショップ）の基本操作ができること。 「コンピュータグラフィックス」（前期）を履修していることが望ましい。			
オフィスアワー	授業終了後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 「名刺」の課題説明 課題作成に向けてのレッスン（P C ツール操作の振り返り）		自分の名刺のデザイン検討（1 時間）	
2	自分の名刺を作成する（タテ・ヨコ）		授業内容の復習（1 時間）	
3	「名刺」の講評 「ZINE（手作り雑誌）」の課題説明		「ZINE」の内容検討、画像素材の準備（1 時間）	
4	「ZINE」の素材作成・加工		「ZINE」のページ構成検討（1 時間）	
5	「ZINE」の作成		授業内容の復習（1 時間）	
6	「ZINE」の完成データ提出		授業内容の復習（1 時間）	
7	「ZINE」の製本および講評		授業内容の復習（1 時間）	
8	「カレンダー」の課題説明およびテンプレート作成		「カレンダー」の内容および構成の検討（1 時間）	
9	「カレンダー」の素材作成・加工		「カレンダー」の素材作成・加工（1 時間）	
10	「カレンダー」の作成		授業内容の復習（1 時間）	
11	「カレンダー」の完成データ提出		授業内容の復習（1 時間）	
12	「カレンダー」の製本および講評 「アニメーション」の課題説明		「アニメーション」の内容検討（1 時間）	
13	「アニメーション」のレッスン		「アニメーション」の素材準備（1 時間）	
14	「アニメーション」の作成		授業内容の復習（1 時間）	
15	「アニメーション」の講評 まとめ		授業内容の復習（1 時間）	
テキスト	授業時に資料を配付する。			
指定図書	授業内で適宜紹介する。			

科 目 名	基礎経済論		担当者	荒井壮一
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	定期試験 70%、受講態度（小レポート課題含む） 30%			
課題に対するフィードバック	講義中に行う小レポート課題に対して、その次の回の授業にてフィードバックを行う。			
目 的	経済学の基礎的知識の取得を通して、経済学的な思考様式を身につける。			
到 達 目 標	・標準的な経済学が扱うトピックについて列挙できる。 ・経済学的思考を身につけ、日々の新聞・ニュースで扱われる経済問題に対して、自分なりの見解を持つことができる。			
履修上の注意	予習・復習は当然として、日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨むこと。			
オフィスアワー	講義終了後の時間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロダクション ——経済学的思考とは——		「経済学」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも 1 つ探し、経済学に対する自分なりのイメージを固めて（あるいは再構築して）みる（1 時間）。	
2	資本主義の変化、経済学の変化		主流派経済学者とその批判者の論争について、指定図書を参考にしつつ自らの考えをまとめてみる（1 時間）。	
3	経済活動と企業（1）：企業とは何か		テキストの対応箇所を読み、練習問題を解いてみる（2 時間）。	
4	経済活動と企業（2）：企業が活動する市場・業界		現実にはどのような業界があるのかを調べ、自分が興味を持てる業界を少なくとも 1 つ見つける（1 時間）。	
5	市場のメカニズム（1）：ミクロ経済学の基礎知識		テキストの対応箇所を読み、練習問題を解いてみる（2 時間）。	
6	市場のメカニズム（2）：市場原理主義と市場の限界		テキストの対応箇所を読み、練習問題を解いてみる（2 時間）。	
7	政府の役割と財政政策（1）：財政の機能		「日本国債」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（1 時間）。	
8	政府の役割と財政政策（2）：日本の財政の現状		「社会保障」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
9	金融の基本（1）：貨幣と金利		「金融」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
10	金融の基本（2）：金融市場と金融資産		「株式市場」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
11	マクロ経済学の基礎（1）：GDP、物価、失業		テキストの対応箇所を読み、練習問題を解いてみる（2 時間）。	
12	マクロ経済学の基礎（2）：景気循環と経済成長		「景気」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（1 時間）。	
13	国際経済学の基礎（1）：外国為替と資本移動		「為替レート」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（1 時間）。	
14	国際経済学の基礎（2）：貿易の意義と比較優位		「貿易交渉」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
15	日本経済のこれまでとこれから		これまでの授業を振り返りつつ、日本経済の今後の姿について考えてみる（1 時間）。	
テキスト		矢口和宏・坂本直樹編『経済学概論』（みらい）		
指定図書		あり（巻末参照）。		

科目名	時事経済		担当者	荒井壮一
区分等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	定期試験 70%、受講態度（小レポート課題含む） 30%			
課題に対するフィードバック	講義中に行う小レポート課題に対して、その次の回の授業にてフィードバックを行う。			
目的	現代社会が内包する多種多様な経済問題を適切に理解するためには、それらの歴史的な背景を知ることが欠かせない。主に金融システムを中心として日本経済の歴史を概観し、現代的な諸問題を自らの頭で考えていくための土台を築く。			
到達目標	・日本経済の歩みの中で、金融システムに生じた変化およびその背景について説明できる。 ・近年の日本経済に生じている変化について列挙できる。			
履修上の注意	予習・復習は当然として、日々のニュース・新聞記事等に関心を持って講義に臨むこと。			
オフィスアワー	講義終了後の時間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロダクション ——日本経済の概要——		「日本経済」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも 1 つ探し、これからの日本経済の展望について自分なりに見解をまとめてみる（1 時間）。	
2	日本経済史と金融システム（1）：明治維新～戦前		世界の通貨およびその通貨発行体制について自分なりに調べてみる（2 時間）。	
3	日本経済史と金融システム（2）：戦時中～戦後		「護送船団方式」の概要について、指定図書等を活用しつつ自分なりにまとめてみる（2 時間）。	
4	日本経済史と金融システム（3）：高度経済成長期		具体的にどのような企業および銀行が「メインバンク」関係にあったか、授業で扱ったもの以外について自分なりに調べてみる（1 時間）。	
5	日本経済史と金融システム（4）：プラザ合意とバブル経済		「バブル経済」に関わる雑誌記事やニュース記事等を少なくとも 1 つ探し、現在においてバブル経済がどのような評価を受けているか、調べてみる（2 時間）。	
6	閑話休題：バブル経済と金融業界		バブル経済から不良債権問題にかけての時代の雰囲気について、各種の資料、指定図書等を活用しつつ自分なりにまとめてみる（1 時間）。	
7	日本経済史と金融システム（5）：不良債権問題と「失われた 10 年」		「デフレスパイラル」発生の原因およびその帰結について、指定図書等を活用しつつ自分なりにまとめてみる（2 時間）。	
8	日本経済史と金融システム（6）：現代		ここ 5～10 年程度以内のうち、自分にとってインパクトのあった経済関連の時事問題を少なくとも 1 つ見つけ出し、関連するニュース記事等を収集する（1 時間）。	
9	閑話休題：時代の変化とこれから		ここまでの授業を踏まえ、経済社会における自分の立ち位置について具体的に考えてみる（2 時間）。	
10	時事問題（1）：日本における企業救済手法の変化		「経営破綻に陥った企業のその後」について、授業で扱ったもの以外で少なくとも一つ探し、自分なりにまとめてみる（2 時間）。	
11	時事問題（2）：企業の不祥事とどう向き合うか		「企業の不祥事」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
12	時事問題（3）：お金の流れに伴うもの		「投資」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
13	時事問題（4）：現代の格差社会問題		「格差社会」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
14	時事問題（5）：コロナショックと経済学		授業で取り上げた以外の産業について、コロナショックの影響に関するニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
15	閑話休題：アメリカと自動車産業、労働者		「日本とアメリカの労働」に関わるニュース記事を少なくとも 1 つ探し、自分なりに理解してみる（2 時間）。	
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	消費生活論		担当者	小野寺倫子
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位・選択／生活文化専攻 2 年次・前期〔講義〕 2 単位・選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	期末レポート（40％）および授業ごとの提出物（ふりかえりシート）（60％）によって評価する。 60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスやコメントをする等によりフィードバックを行う。			
目 的	現代の消費者に求められる基本的な知識を身に着け、健全な消費生活を実践できる力を養う。			
到 達 目 標	①現代の消費社会の特徴を理解し、健全な消費生活を実践できるようになる。 ②消費者保護のための制度や相談窓口について知り、悪徳商法等から身を守ることができるようになる。 ③生産者の生活や環境に配慮することの大切さを理解し、消費者市民としての自覚を持つことができるようになる。			
履修上の注意	身近な生活の中で消費生活にかかわる問題に関心を払ってください。			
オフィスアワー	授業後 10 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロダクション：私たちの生活と消費、消費者問題		新聞やインターネットなどで最近、消費生活に関連してどのような問題が起きているのか調べる（2 時間）	
2	日本における消費者問題・消費者政策の歴史		前回のノートの整理と確認、テキストでの予習、復習（2 時間）	
3	市場競争と消費者保護		同上	
4	消費者の権利と消費者法		同上	
5	消費生活における未成年者、高齢者の保護		同上	
6	消費者契約の特色、クーリングオフ		同上	
7	消費者向け金融と消費者の保護		同上	
8	クレジットカード取引		同上	
9	欠陥商品被害からの消費者救済		同上	
10	食品、医薬品等の安全と消費者		同上	
11	環境問題と消費者（消費生活と環境配慮、ゴミ問題）		同上	
12	消費生活の向上における消費者運動、消費者団体の役割		同上	
13	消費者保護のための行政の仕組み		同上	
14	消費者を育てる：消費者教育		同上	
15	まとめ		これまでの授業全体の内容についてふりかえりを行い、自分自身の消費生活上の課題を検討する（2 時間）	
テキスト		坂東俊矢・細川幸一『18 歳から考える消費者と法〔第 2 版〕』（法律文化社）		
指定図書		あり（巻末参照）。		

科 目 名	食料経済		担当者	佐藤 了
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻 2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①定期試験・レポート（70%） ②受講態度（30%）			
課題に対するフィードバック	私たちの食卓からさかのぼって、食料の生産・流通・消費のつながりとその変遷、世界と日本の食料事情と安全性に関する課題などについて理解を深める。			
目 的	授業を通して次のことができる力を養う。 1 『豊かな食卓』を支える仕組みの概要を理解する。 2 農場と食卓の距離拡大の実態と問題点の概要を理解する。 3 『安全な食料の安定的確保』に向けて、自覚的消費者として自らで調べ、行動していく能力を身に付ける。			
到 達 目 標	1 教科書の予習・復習を欠かさず実行すること。 2 授業の中で取り上げる小演習問題等を活用して自らの調査力・行動力をきたえること。			
履修上の注意	講義の前後の時間			
オフィスアワー	講義の前後の時間			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	イントロダクション 食料経済で何を学ぶか 第 1 編 “豊かな食卓” の解析		事前に 1 時間、事後に 1 時間、教科書等を熟読し、自分を食生活のスペシャリストに育てるのに有益な食料経済情報を、自分から進んでノートすること。	
2	日本の食生活の変遷と特徴		(以下、同上)	
3	成熟期にきた食の需給			
4	すすむ食の外部化			
5	マーケティング基礎編			
6	マーケティング応用編			
7	第 2 編 遠ざかる農場から食卓への距離 農畜水産物の生産			
8	食品製造業の展開			
9	食品の流通			
10	増える食料・食品輸入			
11	第 3 編 国民食料の安定確保 世界の食糧問題			
12	日本の食料政策と食品政策			
13	食品の安全性と食をめぐる環境問題			
14	日本の食料問題			
15	討論：私たちが安全で安定した食生活を営むための課題			
テキスト	高橋正郎監修・清水みゆき編著『食料経済（第 6 版）』（オーム社、2022. 3. 24）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	秘書学概論		担当者	佐藤 恵
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	・小テスト(80%) ・課題(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。			
目 的	秘書の仕事、組織での秘書の存在、秘書に求められる資質や能力など、秘書の役割全般について学習すると共に、その業務を通して企業組織についても学ぶ。			
到 達 目 標	秘書とは実際どういう仕事をするのか、秘書の業務や役割について説明することができる。			
履修上の注意	①秘書士課程の必修科目である。 ②秘書検定問題集の解説を授業の中に取り入れる。 ③科目の特性上、生活行動面を含めたマナーも求める。			
オフィスアワー	火曜日 11 時～14 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		テキストを読んでおくこと。(0.5 時間)	
2	秘書の定義と求められる基本能力		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
3	秘書と企業環境		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
4	秘書と会社組織		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
5	秘書の職務と職能		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
6	秘書に求められる資質		ノートのまとめと確認。レポート作成 (2 時間)	
7	秘書と人間関係		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
8	秘書とコミュニケーション		ノートのまとめと確認。レポート作成 (2 時間)	
9	秘書と情報管理		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
10	秘書とキャリア		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
11	秘書と国際化		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
12	秘書と異文化理解		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
13	秘書とプロトコール		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
14	これからの秘書		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
15	まとめ		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
テキスト	高橋眞知子他著『秘書概論』（樹村房）			
指定図書	なし。			

科 目 名	秘書実務Ⅰ		担当者	小林紀子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	①授業内演習 5 割 ②授業内まとめテスト 5 割			
課題に対するフィードバック	①提出課題については、随時解説をし返却する。 ②模擬試験などは、個別に添削指導する。			
目 的	秘書士として職務を果たすのに必要な基礎的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作れる資質やセンスのある人格育成、並びに、状況判断、問題解決、表現などの職能開発をする。			
到 達 目 標	実務課題に対する知識を理解し、基礎的演習ができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 12 時 15 分～13 時 05 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション オフィスワーカーの能力開発の方向づけ		秘書検定 2 級以上の合格を推奨していますので、各自計画的に学習すること。（2 時間以上）	
2	マナー・接遇Ⅰ 敬語、接遇用語基礎演習		問題集 （2 時間以上） 言葉づかい記述対策	
3	マナー・接遇Ⅱ 慶弔業務の知識と演習		問題集 （2 時間以上） 上書き学習	
4	技能Ⅰ ビジネス文書の作成		問題集 （2 時間以上） 文書用語学習	
5	技能Ⅱ 通信業務と文書取扱い業務演習		問題集 （2 時間以上） 一般知識用語学習	
6	ファシリティ・マネジメント オフィス環境とバーチャルファイリング		技能領域テキスト見直し（1 時間）	
7	話し方 人間関係をつくる話し方演習		マナー・接遇領域テキスト見直し（1 時間）	
8	来客応対Ⅰ 基本要領とパターントレーニング		振り返り（1 時間）	
9	来客応対Ⅱ 状況に応じたロールプレイング		振り返り（1 時間）	
10	サービスと接遇 ホスピタリティの理解と模擬演習		振り返り（1 時間）	
11	電話応対Ⅰ 基本要領を知るためのケース・スタディ		振り返り（1 時間）	
12	電話応対Ⅱ 状況に応じたロールプレイング		振り返り（1 時間）	
13	電話応対Ⅲ 異なるオフィス形態でのロールプレイング		振り返り（1 時間）	
14	検定対策 秘書検定 2 級対応		模擬試験（2 時間）	
15	まとめ デスクワークと実技		テキスト・問題集の見直し（2 時間）	
テキスト	『秘書検定集中講義 2 級』（早稲田教育出版） 『秘書検定実問題集 2 級』（早稲田教育出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	ビジネス実務総論		担当者	佐藤 恵
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	・小テスト(50%) ・レポート(30%) ・課題 (20%)			
課題に対するフィードバック	提出物（課題・レポート）については、随時コメントをつけて返却する。			
目 的	将来社会人となり仕事（ビジネス）に就いたとき、仕事（ビジネス）にはどのような知識や能力が求められるかを学ぶ。 ビジネス実務マナー検定問題を通して、基本的なビジネス実務マナーについて学ぶ。			
到 達 目 標	ビジネス実務の概念、個人業務、協働業務、ビジネスの変化について説明することができる。 ビジネスの基本的なマナーを知ることができる。			
履修上の注意	ビジネス実務士課程の必修科目である。 遅刻・欠席の場合、事前に連絡をする。課題の提出期限を守る。			
オフィスアワー	火曜日 11 時～14 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		「あいさつ」はなぜ必要か、自分の考えをまとめる。(1 時間)	
2	ビジネス実務の定義		「仕事の責任」について、自分の考えをまとめる。 ノートの整理と確認。(1 時間)	
3	ビジネス社会とは① ビジネスと経営資源		ふりかえり(1)。関心のある 3 業種×3 社の「企業理念」を調べる。(2 時間)	
4	ビジネス社会とは② 社会と企業		ふりかえり(2)。ノートの整理と確認 (1 時間)	
5	企業とは① 企業の目的・経営理念		ふりかえり(3)。関心のある 3 業種×3 社の「社会貢献活動」を調べる。(2 時間)	
6	企業とは② 企業の会計		ふりかえり(4)。関心のある 3 業種×3 社の「財務諸表」を調べる。(2 時間)	
7	経済の動きと日常生活① 経済主体と経済現象		ふりかえり(5)。市場価格調査。(2 時間)	
8	経済の動きと日常生活② 貧困・格差社会		ふりかえり(6)。市場価格調査。(2 時間)	
9	グローバル社会とビジネス グローバル化と新興国		ふりかえり(7)。普段使用している物の原材料、や製品の輸出入先を調べる (2 時間)。	
10	さまざまな働き方 働く意義と働き方の変化		ふりかえり(8)。理想の働き方を考える。(2 時間)	
11	税と社会保険 税の役割と社会保険		ふりかえり(9)(10)。税金について調べる。(2 時間)	
12	地域連携とボランティア ボランティアの意義と地域連携の背景		ふりかえり(11)。ボランティアの必要性について考えをまとめる。(2 時間)	
13	現代社会における情報管理 情報管理・インターネットとビジネス		ふりかえり(12)。これまでに起きた情報に関する事件を調べる。(2 時間)	
14	協働業務とマネジメント		プリントを読む。ノートの整理と確認。(1 時間)	
15	まとめ		ノートの整理と確認。(1 時間)	
テキスト	水原道子・大島武 編著『新版 ビジネス実務総論』（樹村房）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	ビジネス実務演習Ⅰ		担当者	佐藤 恵
区 分 等	1年次・後期〔演習〕 1単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(70%) ②グループワークへの貢献(30%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。			
目 的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。			
到 達 目 標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーが身につき、実践できるようになる。			
履修上の注意	ビジネス実務士（全国大学実務教育協会）課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。			
オフィスアワー	月曜日 11 時～14 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ビジネスパーソンとマナー		テキストを読み、予習と復習を行う。（1 時間）	
2	自己表現：言語表現と非言語表現		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
3	ビジネスの言葉遣い：挨拶と発声		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
4	ビジネスの言葉遣い：敬語		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
5	ビジネスの会話		まとめと確認。ワークノートの解答。	
6	受付応対のマナー① 心構え		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
7	受付応対のマナー② 取り次ぎ		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
8	受付応対のマナー③ 案内		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
9	受付応対のマナー④ もてなし		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
10	訪問のマナー		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
11	電話応対：受け方、かけ方①		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
12	電話応対：受け方、かけ方②		まとめと確認。ワークノートの解答。	
13	電話応対：受け方、かけ方③		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
14	面接のマナー①：印象		まとめと確認。ワークノートの解答。（1 時間）	
15	面接のマナー②：話し方		まとめと確認。（1 時間）	
テキスト	『ワークで学ぶビジネスマナー』（西文社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	グローバル経済		担当者	Mathew Philip
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)			
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。			
目 的	1. 世界経済を理解し、参加し、地域経済の活性化の方法を学ぶ。 2. 文化的小および言語的に多様な世界の中で経済の動きの知識を深める。			
到 達 目 標	1. 地域のグローバル化を支えることができるようになる。 2. 地域住民として、グローバル市民として・・・2つの視点に立つということ。			
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1200 字以上）。			
オフィスアワー	授業で紹介しします。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Overview of the Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Does Globalisation Promote Economic Growth? A Meta-analysis		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	How does the Global Economy Work?		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Global Supply Chain		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Global Production Chain		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Global Digital Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	Services and sustainable development.		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	Global Economics: Trade, Investment and Development		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	European Union in the Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Economics of Africa		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Chinese Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	Japan in Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	China in Global Economy		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Global Labour Market		講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	World Economy - How economic policy can help the world recover		研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名	インドビジネス文化	担当者	Mathew Philip
区 分 等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	1. 研究レポート(80%) 2. リアクションペーパー(20%)		
課題に対するフィードバック	リアクションペーパーの感想や意見をできる限り授業に反映する。		
目 的	文化はビジネスの重要な要素であり、ビジネスの戦略的方向性に影響を与える事を知る。企業で働き、インドや南アジアでビジネスを行う際の大切なビジネス文化とマナーを学ぶ。文化の違いがグローバルビジネスに与える影響を特定する。		
到 達 目 標	1. 地域企業のグローバルビジネスの促進力なる。 2. 南アジアへの地元企業の進出を支えるに必要なスキルを身につく。		
履修上の注意	講義は英語で行います。 授業テーマのなかから各自選んで研究レポートをまとめる（1000字以上）。		
オフィスアワー	授業で紹介		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Orientation, Concept of Indian Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
2	Japanese Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
3	Indian Business Culture and Etiquette インドのビジネス文化とマナー	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
4	Language and Communication in Indian Traditonal Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
5	Indian Global Companies Business Meetings and Negotiations	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
6	Understanding Business Relationships in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
7	The Role of Net Working with Local Communities in Indian Business	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
8	The Ways to Create Business Platforms in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
9	Cultural Differences between Japan and India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
10	Indian Traditional Business Negotiations and Practices	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
11	Understanding the impact of culture on Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
12	India's Economy, Its Challenges, Opportunities, and Impact	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
13	Business Oppertunitis in Indian Rligious Practices and Festivals	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
14	Starting a Business in India	講義レジュメを使い、復習する。関連する図書を読む。	
15	Greate Businness Opportunity in India for Japanes Companies	研究レポートのテーマに関連する資料を読む。レポートを書く。	
テキスト	なし（テーマごとに講義レジュメ、プリント資料を配付する）。		
指定図書	なし。		

科目名		卒業研究	担当者	Mathew PHILIP
区分等		2 年次・通年〔演習〕 4 単位 必修／生活文化専攻		
評価基準		①授業内での活動における達成度や参加姿勢 (20%) ②リアクションペーパーによるミニレポート (30%) ③論文 (50%)		
課題に対するフィードバック		提出物等について、適宜コメントする。		
目的		① 地域と世界の文化・習慣・政治・経済を学び、日本にいる世界の人々と楽しく働き、暮らすスキルの取得。 ② 海外で日本企業や現地の企業で働き、生活を楽しむことや、国際公務員のキャリアに興味を持ち、必要なスキルを身につける。 ③ グローバル社会と日本(社会)との関係について、具体的な現象とその背景を知り、さらに考えるヒントを得る。 ④ 授業に組み込むプレゼンテーションやディスカッションを通じて、学術的な議論の力を身につける。 ⑤ 「セミナー形式」で行うこの授業では、課題の設定、情報の収集、情報の整理・分析、まとめ・表現という課題探究的な学習活動により知的トレーニングを行う。 ⑥ 自分たちの生活の中で「南アジアと日本」を常に意識する。また、この社会を主体的に生きるために、関連知識をどのように身につければよいかわや技術を修得する。		
到達目標		① 国際機関や日本の海外企業で働く意欲を示す。 ② 世界で自分が出来るプロジェクトについてグループでディスカッションし、作成することができるようになる。 ③ 世界各地や日本国内で実践されているグローバル化の取り組みを知る。グローバル化によって各地がどのような課題を抱えているのかを理解し、わたしたちの身の回りの出来事に対して、グローバル精神の視点から考える。 ④ 表面化されていない秋田のグローバル化を調査して浮き彫りにし、コメントを新聞やネットに投稿ができる。 ⑤ グローバル精神の基礎知識をもって、グローバル化の日本社会の現状を論じる。人権を基調としたグローバル感覚やメディア・リテラシー情報を読み解く。 ⑥ 生活の中で「日本と世界」を常に意識し、グローバル社会で主体的に生きる。		
履修上の注意		本卒業研究では論文を英語で書きます。授業の多くは英語です。フィールドワークはZoomを使用して遠隔で行う予定です。英語力は必要です。		
オフィスアワー		授業内で紹介		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・グローバル世界と地域文化論			
2	グローバル化によって繋がる地域文化 Globalization and Local Culture		日本で人気がある世界の行事を調べる。予習（40 分）	
3	グローバル化による世界の女性の意識変化 Globalization and Women		最近自分が感じた自分自身の意識の変化を 50 字で書く。予習（40 分）	
4	グローバル化がもたらした地域の働き方の変化 Globalization and Working Habit		最近自分が感じた自分自身の働き方の変化を 50 字で書く。予習（40 分）	
5	グローバル化の中の人々の生き方 Human living and Globalization		アフリカのグローバル化の現状について新聞の記事を読む。予習（30 分）	
6	グローバル宗教文化 Global Religious Culture		世界の宗教について調べる。（40 分）	
7	南アジア・インドの習慣と食文化体験 South Asia and Indian Food Culture and Customs		インドの食文化体験でインド料理を受講者の皆で食べにいきましょう。	
8	地域のもの作りと企業のグローバル化 Globalization of Local Business		グローバル化による日本企業のメリットをネットで調べる。予習（40 分）	
9	グローバル文化（Global Culture）		ネットで世界の最近の流行りごとを調べる。予習（30 分）	
10	世界の食文化のグローバル化（Globalization of Food Culture in the World）		授業内で紹介。予習（40 分）	
11	グローバル化による世界の人の移動と課題		世界の人の移動について調べる。（30 分）	
12	Global Business グローバルビジネス企画方法		グローバル化について自分の考えを 100 字で書く。（予習（20 分）	
13	グローバル化の中で広がる子どもの可能性		研究課題を決める。予習（30 分）	
14	事例研究方法の学習		事例研究について本で調べる。予習（2 時間）	
15	Global Migration and Women（グローバル移住労働者と女性		外国から日本にきた宗教についてネットで調べる。予習（20 分）	
16	研究課題と研究方法の選択 事例研究の地域や課題の選択と問題提起の作成。		課題を選び問題提起をノートに 200 字で作成する。予習（30 分）	
17	プレゼンテーションの作成方法の指導		事例研究用のアンケートの作成。予習（30 分）	
18	世界の働き方		世界の働き方について調べる。（1 時間）	
19	グローバル化の現場から② ゲストスピーカーのお話（Zoom）インド		聞き込み調査で秋田独自の日本語の表現やジョークを探す。予習（50 分）	
20	グローバル化の現場から③ ゲストスピーカーのお話（Zoom）インド		南インドで活躍している日本人事業家の現状と課題をネットで調べる。	
21	グローバル化の現場から④ ゲストスピーカーのお話（Zoom）インド		授業内で紹介 予習（30 分）	
22	地域事例研究と論文指導		アンケートの集計。予習（30 分）	
23	地域事例研究と論文指導		聞き込み調査のまとめ。予習（30 分）	
24	事例研究と論文指導		授業内で紹介 予習（2 時間）	
25	論文やプロジェクトの作成指導		研究課題の文献研究をする。 予習（3 時間）	
26	論文やプロジェクトの作成指導		授業内で紹介 予習（2 時間）	
27	論文やプロジェクトの作成指導		授業内で紹介 予習（30 分）	
28	論文やプロジェクトの作成指導		授業内で紹介 予習（2 時間）	
29	論文やプロジェクトの作成指導		授業内で紹介予習 予習（3 時間）	
30	日本から見た 21 世紀の南アジア・グローバル化			
テキスト		授業内で適宜資料配布または紹介。		
指定図書		ガンジー（Gandhi）という映画を見る。		

科目名	卒業研究		担当者	横溝真理
区分等	2年次・通年〔演習〕 4単位 必修／生活文化専攻			
評価基準	①レポート提出(60%) ②授業中のプレゼンテーション(40%)			
課題に対するフィードバック	前期のプレゼンテーションはレジュメを前日に確認・添削する。後期は毎週原稿を添削する。			
目的	ドイツ語圏内における地域の特性を知るとともに、「地方」というものあり方について、日本との違いを考察する。			
到達目標	①前期から後期前半にかけて、ドイツ語圏各地域の現状を参加者が分担して調べ、授業中に発表することによって、地域ごとに異なる歴史や文化を理解する。 ②後期後半は、各自でテーマを選び、レポートを書いて、ドイツ語圏の文化に関する理解をいっそう深める。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。 ②「ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」を履修すること。 ③ピア祭において前年度の旅行に関する展示を担当してもらう。 ④レポートの概要を2月4日(金)までに提出すること。 ⑤例年は冬休みにドイツ語圏へ研修旅行に出かけ(希望者のみ)、調べたことを実際に確かめるが、新型コロナウイルスの感染状況が改善されないかぎり、旅行は実施できない。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		発表担当をどこにするか、ガイドブック等を参考にしながら、あらかじめ考える(2時間)。	
2	シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン州		北ドイツならではの特徴について調べる(2時間)。	
3	ハンブルク、ニーダーザクセン州、エリカ街道		なぜ「エリカ街道」と呼ばれるのか。ニーダーザクセンとイギリスとの関係は何か(2時間)。	
4	ブレーメン、メルヘン街道		「メルヘン」とはどんな意味か。人口50万人ほどのブレーメンがなぜ「都市州」なのか(2時間)。	
5	ザクセン＝アンハルト州、テューリンゲン州		この地域の世界遺産について調べる(2時間)。	
6	ザクセン州		ザクセン人は進取の精神に富むと言われるが、どのようなところにそれが現れているだろうか(2時間)。	
7	バーデン＝ヴュルテンベルク州		「バーデン」と「ヴュルテンベルク」の気質の違いは何に由来しているのだろうか(2時間)。	
8	バイエルン州		この地域が持つ独立意識の背景とは(2時間)。	
9	ロマンティック街道		なぜ「ロマンティック」か(2時間)。	
10	ベルリン		ベルリンの歴史は意外に新しいのだが、それゆえに他の地域とは異なる特徴がある。それは何か(2時間)。	
11	メクレンブルク＝フォアポンメルン州、ブランデンブルク州		歴代のブランデンブルク選帝侯・プロイセン国王の名前に特徴的なこととは(2時間)。	
12	ヘッセン州		ヘッセン州の特徴は何か(2時間)。	
13	ノ르트ライン＝ヴェストファーレン州		この地方に大都市が集中しているのはなぜ(2時間)。	
14	ラインラント＝プファルツ州、ザールラント州		ザールラントが辿った特殊な歴史とは(2時間)。	
15	ウィーン		オーストリアとドイツの相違点を調べる(2時間)。	
16	ザルツブルク、インスブルック		ザルツブルク繁栄の源は何だったか(2時間)。	
17	スイス、リヒテンシュタイン		スイスという国の特徴について調べる(2時間)。	
18	イタリア領南ティロル、フランス・アルザス		戦争のたびに国境線が変わった経緯とは(2時間)。	
19	レポート推敲(1)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
20	レポート推敲(2)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
21	レポート推敲(3)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
22	レポート推敲(4)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
23	レポート推敲(5)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
24	レポート推敲(6)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
25	レポート推敲(7)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
26	レポート推敲(8)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
27	レポート推敲(9)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
28	レポート推敲(10)		レポートの原稿作成 (2時間)。	
29	発表会		発表原稿の作成、使用資料の整理(2時間)。	
30	発表会		発表原稿の作成、使用資料の整理(2時間)。	
テキスト	プリントを用意する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	卒業研究		担当者	佐藤光咲
区 分 等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修／生活文化専攻			
評 価 基 準	①論文（60%）②発表や研究に取り組む姿勢（30%）③履修カードの内容及び小レポートの提出（10%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題レポートや発表等を課し、発表の成果やレポートの返却時に評価を付し解説する。			
目 的	世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史との関連で研究を行い、論文を完成させることができるようにする。			
到達目標	①世界の主な食べ物について、そのルーツや食生活の特色を風土や歴史などとの関連で考察し、説明できる。 ②食べ物や食文化に関心をもち、生活を豊かなものにしていこうという態度を身に付ける。 ③小論文をまとめ、発表できるようにする。			
履修上の注意	3時間の学習内容から各自小テーマを決め、発表、ディスカッションを行う。（前期3回）			
オフィスアワー	（前期）火曜日 15 時～16 時、（後期）金曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	「世界の食文化」ガイダンス、米のルーツ		米や稲作に関する情報を図書やネットから調べ、まとめる。（0.5 時間） 授業内容のまとめと確認（1.5 時間）	
2	我が国への伝播と広がり、稲作（米）と日本人一年中行事、祭り		関連図書を読んでおく、授業のまとめと確認（1 時間）	
3	米と秋田ーふるさと秋田の文化と祭り		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
4	小テーマの設定と研究		これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。（2 時間）	
5	研究のまとめとディスカッション		研究のまとめと発表の準備（2 時間）	
6	麦（パン）と西ヨーロッパ		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
7	牧畜（肉）と西ヨーロッパ		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
8	香辛料と西ヨーロッパ（大航海時代の歴史的背景）		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
9	小テーマの設定と研究		これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める（2 時間）	
10	研究のまとめとディスカッション		研究のまとめと発表の準備（2 時間）	
11	ジャガイモとヨーロッパ		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
12	トマト、パスタとイタリア トウガラシと東アジア		関連図書を読んでおく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
13	小テーマの設定と研究		これまでの授業内容から小テーマを設定し、研究を進める。（2 時間）	
14	研究のまとめとディスカッション		研究のまとめと発表の準備（2 時間）	
15	後期ガイダンス、卒業研究及びテーマの設定		授業のまとめと研究の見通し（2 時間）	
16	テーマの設定（1）		授業のまとめとテーマの絞込み（1 時間）	
17	テーマの設定（2）		研究のまとめとテーマの設定（1 時間）	
18	研究方法と進め方（1）		研究のまとめと研究計画（1 時間）	
19	研究方法と進め方（2）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
20	論文・参考文献の書き方		研究のまとめと執筆（2 時間）	
21	執筆作業と論文指導（1）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
22	執筆作業と論文指導（2）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
23	執筆作業と論文指導（3）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
24	執筆作業と論文指導（4）		研究のまとめと中間発表会の準備（2 時間）	
25	中間発表会		中間発表会の準備と研究のまとめ（2 時間）	
26	執筆作業と論文指導（5）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
27	執筆作業と論文指導（6）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
28	執筆作業と論文指導（7）		研究のまとめと執筆（2 時間）	
29	研究発表会		研究のまとめと最終発表会の準備（2 時間）	
30	総括・評価		論文のまとめと提出の準備（2 時間）	
テキスト	教室でプリント配付（毎時間）。			
指定図書	あり（巻末参照）。適宜、指示します。			

科 目 名	卒業研究		担当者	栗森 貢
区 分 等	2年次・通年〔演習〕 4単位 必修／生活文化専攻			
評 価 基 準	①論文(50%) ②授業内における研究や発表に取り組む姿勢(30%) ③レポートやプレゼンテーションの出来映え(20%)			
課題に対するフィードバック	提出物等について、適宜コメントして返却する。			
目 的	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)について身近なことから関心をもち、基礎知識を身に付ける。 (オリエンテーションを通して、17の目標に触れる) ②世界の国々の深刻な問題に目を向け、グローバルな視点で社会情勢を把握する。 ③世界の中で日本(政府及び民間企業)の取組はどう評価されているかを調査する。 ④秋田県内で「SDGs 達成目標に挑む企業」に突撃インタビューし、達成の成果と課題を調査し、レポートやプレゼンテーションにまとめてミニ発表会を実施する。 ⑤「SDGs の認知度を高め、国際貢献や企業経営のためには何が必要か。」を共通テーマとして自分なりに課題を設定し、論文作成やプレゼンテーション資料を作成する。			
到達目標	①SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)について身近な問題に関心をもち、理解する。 ②秋田から日本、そして世界へとグローバルな視点で物事を俯瞰して見ることができる。 ③諸課題の解決に向けて、課題提示―仮説―検証―結論という形で研究する方法を身に付け具体的な提言をまとめることができる。 ③民間企業や行政の取材を体験し、挨拶の仕方や取材のノウハウを体得することができる。 ④研究テーマを論文にまとめ上げる過程を大事にし、検証データや資料の収集の仕方を身に付ける。			
履修上の注意	特になし			
オフィスアワー				
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション、授業計画の概要		SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)についてアンケート(0.5時間) 授業計画を示し見通しをもつ。(0.5時間)	
2	基礎学習1(「10年後、20年後にどんな社会で暮らしていきたいか?」)		「2030年の未来を作るのは自分たちだ」という当事者意識をもたせ、17の目標が関わり合い、繋がり合うことから、パートナーシップを取り合うことの重要性に気づく。	
3	基礎学習2[「私たちの身近にあるどんな課題があるか?(SDGsと関連させて)」①]		貧困、食料問題、温暖化対策、超高齢化社会など、私たちの社会を取り巻く身近な問題について考える。(1時間)	
4	基礎学習3[「私たちの身近にどんな課題があるか?(SDGsと関連させて)」②]		貧困、食料問題、温暖化対策、超高齢化社会など、私たちの社会を取り巻く身近な問題について考える。(1時間)	
5	基礎学習を通して見えてきた課題①		関連図書を読んでおく。(1時間)	
6	基礎学習を通して見えてきた課題②		関連図書を読んでおく。(1時間)	
7	日本の取組は世界からどう評価されているか。		関連図書を読んでおく。(1時間)	
8	研究テーマの検討①		研究テーマの方向性を検討する。	
9	研究テーマの検討②		研究テーマの方向性を検討する。	
10	秋田県内の「SDGs 達成目標に挑む企業」をチェック&リサーチをする。①		県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。	
11	秋田県内の「SDGs 達成目標に挑む企業」をチェック&リサーチをする。②		県内の先進的に取り組んでいる企業をリサーチする。	
12	企業訪問又はリモート取材の準備		取材が可能かどうかコンタクトを取る。(2時間)	
13	企業訪問又はリモート取材①		訪問取材かリモート取材を行う。(2時間)	
14	企業訪問又はリモート取材②		訪問取材かリモート取材を行う。(2時間)	
15	企業訪問等取材のまとめ①		取材を通して知ったことをレポートにまとめる。(2時間)	
16	企業訪問等取材のまとめ②…ミニ発表会		レポートにまとめ、ミニ発表会を行う。(2時間)	
17	研究テーマの設定①		研究テーマを決定する準備をする。(1時間)	
18	研究テーマの設定②		研究テーマを決定する準備をする。(1時間)	
19	研究論文作成の構想案①		論文の構想案を複数パターンを持参する。(1時間)	
20	研究論文作成の構想案②		論文の構想案を複数パターンを持参する。(1時間)	
21	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導①		研究のまとめと執筆(2時間)	
22	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導②		研究のまとめと執筆(2時間)	
23	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導③		研究のまとめと執筆(2時間)	
24	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導④		研究のまとめと執筆(2時間)	
25	中間発表会・・・相互批評		中間発表会の準備と研究のまとめ(2時間)	
26	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑤		研究のまとめと執筆(2時間)	
27	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑥		研究のまとめと執筆(2時間)	
28	研究論文指導とプレゼンテーション作成指導⑦		研究のまとめと執筆(2時間)	
29	研究発表会①		研究論文のまとめと研究発表会の準備(2時間)	
30	研究発表会②		研究論文のまとめと研究発表会の準備(2時間)	
テキスト	教室でプリント配布(毎時間)			
指定図書	あり(巻末参照)			

科 目 名		卒業研究	担当者	片山 桃子
区 分 等		2 年次・通年〔演習〕 4 単位 必修／生活文化専攻		
評 価 基 準		授業内の発表（30%）課題・研究への取組姿勢(20%) 卒業論文—専門知識、論理的、批判的思考力、表現力[発表・討論・対話の観点から](50%)		
課題に対するフィードバック		毎授業のリアクションペーパー等を随時授業で取り上げコメントする。 卒業論文については定期的にアドバイスと添削をする。		
目 的		(1) 現代のアメリカ文化についての理解を深めると同時に、日本文化にも多大な影響を与えている現代のアメリカについて自発的に考える。 (2) 基本的知識を身につけながら、多文化の共生、協働する社会について理解を深める。 (3) アメリカと日本、双方の文化の影響と繋がり現状を、資料分析を通して主体的に学ぶ。 (4) 学んだ知識をもとに、自分の視点、表現方法によって伝えていく。		
到達目標		(1) アメリカ文化を様々な観点から理解し、さらに関心を高めている。 (2) 自分のテーマにあった先行研究、文献を調査し、データ整理ができる。 (3) 基本的な調査の仕方、文献の読み方と論文の書き方が身についている。 (4) 発表の仕方、討論の仕方が身についている。 (5) 自分のテーマだけでなく、他の学生の取り上げたテーマについても深く考え、考えを持つことができる。		
履修上の注意		視聴覚資料は日本語と英語（日本語字幕なしの場合もあり）の両方を使用します。		
オフィスアワー		毎週水曜日 11:00～12:00		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	オリエンテーション	・授業の概要を読み、興味のあるテーマについて考える。(1 時間) ・研究の意味を知るための準備をする。(1 時間)		
2	アメリカ合衆国とは I	・アメリカについて知っていること、持っている自分のイメージをまとめる。(1 時間) ・授業内容について復習し、重要語句や気になることなどについてまとめておく。(1 時間)		
3	アメリカ合衆国とは II	・授業内容について復習し、重要語句や気になることなどについてまとめておく。(1 時間)		
4	国の記念日と祝日	・アメリカにはどんな祝日と記念日があるか調べておく。(1 時間)		
5	アメリカの地理 州についての発表	・担当の州の発表準備をする。(2 時間)		
6	アメリカの宗教	・アメリカで信仰されている宗教やその特徴について調べる。(1 時間)		
7	アメリカにおける家族	・アメリカの家族の価値観、共に過ごす時について調べてまとめる。(1 時間) ・復習として授業で見た資料からその家族観についてまとめる。(1 時間)		
8	アメリカにおける教育	・アメリカの教育について知っていること、持っている自分のイメージ、気になることなどについてまとめる。(1 時間) ・アメリカの教育制度、学校の種類について調べる。		
9	アメリカの食文化	・アメリカの食文化についてのイメージ、考えをまとめる。(1 時間)		
10	アメリカにおける健康思考と日本食ブーム	・アメリカの食文化についてのイメージ、考えをまとめる。(1 時間)		
11	ハワイと日本 I	・様々な視点からハワイ州、ハワイと日本の関わりについて歴史、知っていること、持っている自分のイメージ、気になることなどについてまとめる。(1 時間)		
12	ハワイと日本 II—日系人の歩み	・ハワイの歴史と特徴を調べておく。(1 時間)		
13	ハワイと日本 III—日本文化	・ハワイにはどのような日本文化が生きているかを調べる。(1 時間)		
14	卒業研究 テーマ設定 I	・授業の復習とテーマの選定を準備する。(1 時間) ・テーマについて構想をふくらませる。(1 時間)		
15	卒業研究 テーマ設定 II	・それぞれのテーマを確定する。(1 時間) ・研究の方法論としての展開を考えていく。(1 時間)		
16	卒業研究の進め方 研究計画書作成	・研究方法とその目的について準備する。(1 時間) ・計画書の指摘を受けた部分を再度チェックする。(1 時間)		
17	研究テーマと資料	・テーマとそのアウトライン及び調査方法について準備する。(1 時間) ・テーマにそった関連論文の種類を調べ、研究や制作に必要な情報を収集する。(1 時間)		
18	執筆作業	・具体的に文章化し、執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
19	執筆作業	・具体的に文章化し、研究と執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
20	執筆作業	・具体的に文章化し、研究と執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
21	執筆作業	・具体的に文章化し、研究と執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
22	中間報告会 I	・中間報告の準備 (1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
23	中間報告会 II	・中間報告の準備 (1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
24	執筆作業	・具体的に文章化し、研究と執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
25	執筆作業	・具体的に文章化し、研究と執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
26	執筆作業	・研究と考察した内容について結論付けて執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
27	執筆作業	・研究と考察した内容について結論付けて執筆作業を進める。(1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
28	卒業論文の完成	・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく (1 時間) ・論文を完成させる。		
29	卒論論文発表会	・卒業論文発表会の準備 (1 時間) ・指摘を受けた部分を再度チェックし、手直しをしていく。(1 時間)		
30	卒論論文発表会とまとめ	・卒業論文発表会の準備 (1 時間) ・卒業論文提出準備。(1 時間)		
テキスト		授業ごとに資料を配布する。 卒業論文執筆には、井上淳『レポート・卒業論文作成のための手引き』を配布する。		
指定図書		とくに指定図書はないが、卒業研究のそれぞれのテーマに応じ、各自に必要な図書や論文などを紹介する。		

科 目 名	卒業研究		担当者	近藤清兄
区 分 等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修／生活文化専攻			
評 価 基 準	(1) 小論文(前期は評価なし)(70%) (2) 授業態度(20%) (3) 提出物等(10%)			
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。また随時助言・提案を行う。			
目 的	「方言の調査と記録」を通じて、ことばの科学を追求する。			
到 達 目 標	秋田の方言をローマ字(近藤式「無補助記号型(プレーン)」及び「ファンシー」)で表記することを学び、それによる記録資料(ローマ字本文・標準語訳・解説)を作成できるようになる。			
履修上の注意	①電子メールでのレポート提出を求めることがある。 ②小論文の要旨を2月4日(金)までに提出すること(『要旨集』掲載用原稿)。 ③卒業研究発表会が木曜日に開催される場合、金曜日が振替休講になる場合がある。			
オフィスアワー	火 12 時限、金 78 時限			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	ローマ字と音韻(1)母音と子音		方言ローマ字表記法に、プリントの練習問題を通じてよく習熟すること。	
2	ローマ字と音韻(2)アクセント			
3	ローマ字と音韻(3)		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
4	ローマ字と音韻(4)			
5	動詞(1) I 類(1)イテ系・イデ系			
6	動詞(2) I 類(2)ッテ系			
7	動詞(3) I 類(3)ンデ系・シテ系			
8	動詞(4) II 類{2}・{3+}/不規則動詞			
9	動詞(5) 助動詞(1)使役・受身			
10	動詞(6) 助動詞(2)否定・完了			
11	終助詞構造とその外側			
12	『日本言語地図』の中の秋田(1)			
13	『日本言語地図』の中の秋田(2)			
14	『日本言語地図』の中の秋田(3)			
15	執筆のガイドライン			
16	テーマ選定について(1)			
17	テーマ選定について(2)			
18	テーマ選定について(3)			
19	執筆作業(1)			
20	執筆作業(2)			
21	執筆作業(3)			
22	執筆作業(4)			
23	執筆作業(5)			
24	執筆作業(6)			
25	執筆作業(7)			
26	執筆作業(8)			
27	中間発表会			
28	執筆作業(9)			
29	執筆作業(10)			
30	卒業研究発表会			
テキスト		教室でプリント配付。		
指定図書		あり(巻末参照)。		

科目名	卒業研究	担当者	菅野 薫
区分等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修／生活文化専攻		
評価基準	研究姿勢・参加態度(40%)、提出物等(30%)、作品(30%)		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	課題①：現在日本では「ビジット ジャパン キャンペーン」の下、海外からの旅行客招致に力を入れている。外国人旅行客訪問率の低い秋田県は秋田の魅力をもどのように世界へアピールしていけるのか、秋田の魅力について調査・研究を行い、最終的に調べ上げたことを外国人向けのパンフレット(英語版)としてまとめる。 課題②：秋田市立秋田城跡歴史資料館発行のパンフレットの英語版を作る。年度末に秋田市から予算を受け、英語版パンフレットが発行され、実際に施設内に設置される。 ※ 受講人数によって①②を選択もしくは両方を仕上げる。		
到達目標	秋田のアピールポイントを探す。 外国人の日本に対する興味・関心を知る。 (外国人へアンケートを実施予定) テーマを選び、情報収集し、パンフレットとしてまとめ上げる。		
履修上の注意	英訳時は全面的にサポートしますので英語の能力は問いませんが、授業外での準備がかなり忙しくなることを覚悟して臨んでください。 書類や作品の提出期限は厳守です。		
オフィスアワー	月曜日 12時50分～15時00分		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション	配付プリントの完成(2時間)	
2	ビジット ジャパン キャンペーンについて	秋田での取り組みについて調べる(2時間)	
3	秋田県/秋田市の外国人観光客招致事業について(1)	興味を持った部分について詳しく調べる(2時間)	
4	秋田県/秋田市の外国人観光客招致事業について(2)	秋田の観光分野について調べる(2時間)	
5	秋田の観光について(1)	授業で触れたこと以外の項目を調べる(2時間)	
6	秋田の観光について(2)	外国人目線からの観光項目を調べる(2時間)	
7	外国人への意識調査(準備1)	アンケートの項目を考える(2時間)	
8	外国人への意識調査(準備2)	アンケートの英訳(2時間)	
9	外国人への意識調査(結果集計)	アンケート実施後の集計結果をまとめる(2時間)	
10	外国人への意識調査(考察)	興味のある項目を調べる(2時間)	
11	フィールドワーク(予定)	テーマ決定のための準備(下調べ)(2時間)	
12	テーマの決定(1)	テーマ決定のための準備(2時間)	
13	テーマの決定(2)	テーマに関する調べ学習(2時間)	
14	研究の進め方について	進め方の説明に沿った計画準備(2時間)	
15	研究計画作成	計画書に沿った調べ学習(2時間)	
16	進捗状況の確認と発表(1)	テーマに関する調べ学習(2時間)	
17	進捗状況の確認と発表(2)	テーマに関する調べ学習(2時間)	
18	今後の進め方について	テーマに関する調べ学習(2時間)	
19	プレゼンテーション資料等のまとめ方について	テーマに関する調べ学習(2時間)	
20	プレゼンテーション資料等のまとめ方について	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
21	作品・プレゼンテーション資料の作成(1)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
22	作品・プレゼンテーション資料の作成(2)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
23	作品・プレゼンテーション資料の作成(3)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
24	進捗状況の確認	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
25	作品・プレゼンテーション資料の作成(4)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
26	作品・プレゼンテーション資料の作成(5)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
27	作品・プレゼンテーション資料の作成(6)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
28	作品・プレゼンテーション資料の作成(7)	テーマに関する調べ学習・作品制作(2時間)	
29	研究発表	研究発表準備(2時間)	
30	研究発表・総括・評価	まとめと振り返り(2時間)	
テキスト	授業の際にプリントを配付する。		
指定図書	あり(巻末参照)。 各自のテーマに応じて適宜紹介する。		

科 目 名	卒業研究		担当者	李 承俊
区 分 等	2年次・通年〔演習〕4単位 必修／生活文化専攻			
評 価 基 準	課題・発表・平常点（50％）、卒業論文（50％）			
目 的	文学テキストを読むこと、文学テキストを分析することの意義を共有する。テキストに即して道筋の立った議論を展開し、自分の言葉で研究成果を披露できるように導く。			
到 達 目 標	①文学テキストを精読し、作品分析の方法を学ぶ。 ②分析結果の伝え方を磨く（プレゼンテーション）。 ③説得力のある分析結果を導出して言語化する（卒業論文）。			
履修上の注意	授業に積極的に参加してください。たくさん質問し、発言してください。 気になる点を自ら見つけ、それについてじっくり考えてください。 授業の進行状況等によってシラバスと異なる場合があります。			
オフィスアワー	授業中に案内します。			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	前期のガイダンス		卒業研究でやりたいことを考える（1時間）	
2	研究テーマと研究方法①		調べたいテーマを考える（1時間）	
3	研究テーマと研究方法②		調べたいテーマを考える（1時間）	
4	先行研究調査		先行研究を調べる（1時間）	
5	プレゼンテーションの方法		プレゼンテーションの方法について考える（1時間）	
6	※以下の作品は例。実際は履修者が選択。 研究報告① 太宰治「薄明」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
7	研究報告② 坂口安吾「墮落論」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
8	研究報告③ 大江健三郎「飼育」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
9	研究報告④ 小島信夫「アメリカン・スクール」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
10	研究報告⑤ 安岡章太郎「海辺の光景」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
11	研究報告⑥ 高井有一「北の河」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
12	研究報告⑦ 李恢成「砧をうつ女」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
13	研究報告⑧ 古井由吉「赤牛」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
14	研究報告⑨ 李良枝「由熙」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
15	研究報告⑩ 小山田浩子「穴」		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
16	後期のガイダンス		夏休みの研究をまとめる（2時間）	
17	研究テーマを決める①		気になる作家や作品を調べる（2時間）	
18	研究テーマを決める②		気になる作家や作品を調べる（2時間）	
19	中間報告①		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
20	中間報告②		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
21	中間報告③		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
22	中間報告④		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
23	中間報告⑤		発表者：発表を準備する（2時間） 参加者：指定作品を読んで質問を用意する（2時間）	
24	研究発表のまとめ・反省会		議論を振り返り、問題点をまとめる（2時間）	
25	論文執筆指導①		論文を執筆する（2時間）	
26	論文執筆指導②		論文を執筆する（2時間）	
27	論文執筆指導③		論文を執筆する（2時間）	
28	推敲と校正①		論文を執筆する（2時間）	
29	推敲と校正②		論文を執筆する（2時間）	
30	全体評価とまとめ		論文を完成する（2時間）	
テキスト	授業中に提示・配布			
指定図書	授業中に紹介			

科 目 名		卒業研究	担当者	Damian Stachowski
区 分 等		2 年次・通年〔演習〕 4 単位 必修／生活文化専攻		
評 価 基 準		テスト (30%)、ファイナルゲーム (50%)、ゲームの感想とレポート (10%)、発表 (10%) Tests (30%), Final Game (50%), Game Comments Report (10%), Presentation (10%)		
課題に対するフィードバック		前期はテストと宿題が採点されます。解説は次の授業で行います。後期はプロジェクトが毎週チェックされます。		
目 的		問題解決能力の向上。To improve problem solving skills. プログラミング言語 PYTHON の基本を理解する。 To understand the basics of the PYTHON programming language. ゲーム開発の基本を理解する。To understand the basics of game development.		
到 達 目 標		自分のゲームを作り、他のユーザーからフィードバックを受けることができます。 クラス設計の方法とオブジェクト指向プログラミングの基本原則を理解することができます。 Students will create their own game and receive feedback from other users. Students will understand how to design PYTHON classes and the basic principles of object-oriented programming.		
履 修 上 の 注 意		練習をするためには、パソコンへのアクセスが必要です。 In the second semester, projects will be checked weekly. You will need access to a computer in order to practice.		
オフィスアワー		未定		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	クラスのオリエンテーション, Python の設定 Class Orientation, Python Configuration		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間) Review of the lecture and practice questions (2 hours)	
2	Python インタプリタ、変数、式、代入。 コアデータ型 (数値型、文字列、リスト)。 オブジェクトとクラス (使用法のみ) Python interpreter, variables, expressions, assignments. Core data types (numeric, string, list). Objects and classes (usage only).		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
3	Python プログラミング; 一方向・双方向の条件分岐文、シーケンスオブジェクトの反復処理、関数とパラメータ受け渡し Python programming: one-way and two-way conditional statements, iterating over sequence objects, functions		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
4	文字列処理、ファイル I/O、例外処理 String processing; file I/O; exception handling.		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
5	多方向条件構造 ; ループパターン Multi-directional conditional structures; loop patterns		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
6	多次元リスト、より多くのループパターン Multidimensional lists, more loop patterns		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
7	テスト Test 1			
8	名前空間とスコープ; オブジェクト指向 1 Namespaces and scopes; object-oriented 1		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
9	オブジェクト指向 2 Object oriented 2		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
10	オブジェクト指向プログラミング - コンテナと継承 Object Oriented Programming - Containers and Inheritance		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
11	オブジェクト指向プログラミング Python をまとめ Summary of object-oriented programming Python		講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
12	テスト Test 2			
13	PyGame の紹介, 設定 Introduction to PyGame, Setup			
14	PyGame 1: ゲーム開発の第一歩 PyGame 1: The first step in game development		講義の復習 Review of the lecture (1 hour)	
15	PyGame 1: 物理シミュレーションをしよう PyGame 1: Let's do a physics simulation		講義の復習 (1 時間)	
16	PyGame 2: 隕石ゲーム PyGame 2: The meteorite game		講義の復習 (1 時間)	
17	PyGame 2: 隕石ゲーム 2 PyGame 2: Meteorite game 2		講義の復習 (1 時間)	
18	Godot の紹介 Introduction to Godot		講義の復習 (1 時間)	
19	Godot フロッグゲーム Godot frog game		講義の復習 (1 時間)	
20	Godot 3D ゲーム 1 Godot 3D Game 1		講義の復習 (1 時間)	
21	Godot 3D ゲーム 2 Godot 3D Games 2		講義の復習 (1 時間)	
22	ファイナルゲーム選定について Introducing the Final Game Project		講義の復習 (1 時間)	
23	ファイナルゲームの作成 (1) Creating the Final Game (1)		ゲーム作成 (1 時間) Game creation (1 hour)	
24	ファイナルゲームの作成 (2)		ゲーム作成 (1 時間)	
25	ファイナルゲームの作成 (3)		ゲーム作成 (1 時間)	
26	ファイナルゲームの作成 (4)		ゲーム作成 (1 時間)	
27	ファイナルゲームの作成 (5)		ゲーム作成 (1 時間)	
28	クラスメイトにゲームをテストしてもらう Have your classmates test your game		ゲームの感想とレポート作成 (1 時間) Game feedback report (1 hour)	
29	ファイナルゲームの作成 (6) Creating the Final Game (6) & Bug Fixes		ゲームと発表の作成 (2 時間) Game and presentation creation (2 hours)	
30	ゲーム発表 Present your game		ゲーム作成 (1 時間) Game creation (1 hour)	
テキスト	なし 授業時に資料配布 Prints will be handed out when necessary			
指定図書	なし。None.			

科 目 名	Listening III	担当者	近藤清兄
区 分 等	2年次・前期 [演習] 1単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	(1)定期試験(70%) (2)授業態度(30%)		
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。		
目 的	英語の音声の基礎を身に付けることにより、英語力全般の向上の障害をとりのぞいてしっかりとした基礎を築き、英語のリスニングとスピーキングの力の向上をめざす。		
到 達 目 標	英語のアクセントとリズムとイントネーションを学習し、実際に運用できるようになる。		
履修上の注意	反復練習は時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。		
オフィスアワー	火曜日 9時～10時35分、金曜日 14時45分～16時15分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	同化 (assimilation)	(1)学生用共有ドライブに音声ファイルがあります。各自で反復練習してください。 (2)「EXERCISE」の各例文はしっかりと復習してください。	
2	脱落 (elision)		
3	リエゾン (liaison)	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
4	脱落+リエゾン (elision+liaison)		
5	弱形 (weak form)		
6	短縮形 (contracted form)		
7	アクセント		
8	リズム・イントネーション		
9	「英語の聴解法について」・Exercise 1		
10	Exercise 2		
11	Exercise 3 01. -10.		
12	Exercise 3 11. -20.		
13	Exercise 3 21. -30.		
14	Exercise 4		
15	Exercise 5		
テキスト	杉野健太郎、ジョゼフ・ラウアー『増補改訂版 英語発音・聴き取りの基礎』（朝日出版社）		
指定図書	必要に応じ教室で指示する。		

科 目 名	Listening IV		担当者	近藤清兄
区 分 等	2 年次・後期 [演習] 1 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	(1) 定期試験 (70%) (2) 授業態度 (30%)			
課題に対するフィードバック	課題はコメントを付けた上で返却する。その他随時助言・提案を行う。			
目 的	コナン・ドイル作「まだらの紐」を全編通して聞きます。小説の朗読の徹底的な聴取を通じて、英語の句単位・文単位の音声イメージに慣れていきます。英国の文化・歴史的背景についても解説します。			
到 達 目 標	数千語程度の英文を標準的発音で中程度の速さで朗読したものを、文面を見ず聴取してほぼ理解できるようになる。			
履修上の注意	毎回かなりの量の予習が必要ですから、いささかきついです。がんばって学習しましょう。訳書も読んで参考にしてください。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1) [予習] プリント粗読み。1 語ずつ頭から訳したりせず、必ず「句単位」「節単位」のかたまりで捉えてください。文中の動詞にすべてマーカーを引いてみましょう。文の流れがよくわかります。 (2) [復習] 授業中に文アクセントやポーズ、イントネーションなどを観察し、記録したので、それに従って文の構造と朗読の音声的特徴の関係を見直してみてください。 (3) 学生用共有ドライブに音声ファイル(別バージョン含む)があるので利用してください。 (4) 図書館(指定図書)コーナーに別バージョン CD 付きの書籍がありますので利用してください。	
2	<01><02>	“On glancing over my notes of the seventy odd cases…”		
3	<03><04>	“You must not fear…”		
4	<05><06>	“Last week he hurled the local blacksmith over a parapet…”		
5	<07><08>	“It was a wild night…”		
6	<09><10>	“There was a long silence…”		
7	<11><12>	“It was nearly one o’ clock…”		
8	<13><14>	“The building was grey, lichen-blotted stone,…”		
9	<15>	“Dr. Grimesby Roylott’ s chamber was larger…”		
10	<16><17>	“I believe, Mr. Holmes…”		
11	<18>	“About nine o’ clock the light among the trees was…”		
12	<19><20>	“Suddenly there was the momentary gleam of a light…”		
13	<21>	“Such are the true facts…” [完結]		
14	DVD[英国グレナダ TV 版(1983 年)]視聴			
15	DVD[別バージョン映画(1931 年)]視聴			
テキスト	The Adventures of Sherlock Holmes - The Adventure of the Speckled Band(プリント使用)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科目名	TOEFL II	担当者	菅野 薫
区分等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	学習態度 (30%)、宿題(30%)、レポート(20%)、最終スピーチ (20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目的	TOEFL (Test of English as a Foreign Language) は海外の大学への留学や国内の編入学に必要な試験である。リスニング、リーディングのみならず、自分の意見を論じる技術も必要とされることから授業を通じて自分の意見をまとめ、述べる力を養成する。		
到達目標	リスニング：シーンを思い浮かべて要旨を捉えられるようになる。 ライティング：自分の主張を論理的に書き表せるようになる。 (日本語、英語ともに) スピーキング：人前で話すときの立ち居振る舞いを身につける。 このような技能を通じて総合的な語学力を身に付ける。また、世の中で起きている出来事に関心を持ち、自分の意見を主張できるグローバル人材としてのスキルを身につけることを目標とする。		
履修上の注意	実際の TOEFL は非常にレベルの高い試験ですが、まずは科目としての英語ではなく、コミュニケーションツールとしての英語力を身に付けるような気持ちで受講してください。		
オフィスアワー	月曜日 12時50分～15時00分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	実力診断（日本語エッセイ）・目標設定	意見サポート型課題（1時間）	
2	日本語エッセイ結果返却と解説・アウトラインの解説（列挙比較型）	日本語エッセイのアウトライン書き直し・アウトラインを元にエッセイの書き直し（1時間）	
3	アウトラインの解説（補足）・文章構成の解説	気になる言葉の説明（Part5）（1時間）	
4	日本語エッセイ添削済み返却・宿題エッセイ発表・聴解練習（ディクテーション）	日本語エッセイの添削の確認と書き直し（1時間）	
5	異質パラグラフ型の説明・聴解練習（ディクテーション）	異質パラグラフ型でエッセイを書く PP77-105（1時間）	
6	スピーチ	日本語エッセイの添削の確認と書き直し（1時間）	
7	パラグラフ並列型・直線型	P31-50（1時間）	
8	英訳指導1・聴解練習（ディクテーション）	6C・日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか（各自進捗状況による）（1時間）	
9	直線型エッセイ・英訳指導2・聴解練習（ディクテーション）	様々なエッセイの方の型の比較（1時間）	
10	洋画鑑賞（文化学習・リスニング・ディクテーション練習）	日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか（各自進捗状況による）（1時間）	
11	洋画鑑賞（文化学習・リスニング・ディクテーション練習）	映画鑑賞の振り返り（1時間）	
12	洋画鑑賞（文化学習・リスニング・ディクテーション練習）	日本語エッセイの添削の確認と書き直し/ エッセイの一部英訳のいずれか（各自進捗状況による）・スピーチ練習・鑑賞レポート（1時間）	
13	ディスカッション・英訳指導3	鑑賞レポート・スピーチ練習（1時間）	
14	聴解練習（ディクテーション）	鑑賞レポート・スピーチ練習（1時間）	
15	スピーチ練習	これまでの反省と復習（1時間）	
テキスト	宮野智靖著『ゼロからスタートディクテーション』（Jリサーチ出版） 石谷由美子『Skills for Better Writing（初級編）』（南雲堂） いずれのテキストも TOEFL I と同じです。主に授業ではプリントを配付して進めていきます。必要に応じて授業中に数冊紹介し、受講生にとって最も使いやすいものを相談しながら選定することもあります。		
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：リスニングやリーディングのみならず、自分の意見を述べる力を身につける。ディスカッションやスピーチを通して総合的な語学を実践的に学ぶ。

科 目 名	Essay and Speech	担当者	菅野 薫
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業への参加態度（50%）、宿題(30%)、最終スピーチ（20%）		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし返却をする。		
目 的	社会に出ると自分の考えを相手にわかりやすく伝える力ー話す力、説明し、表現する力が必要不可欠である。英語で表現する力をつける際も母語のスキルを上達させることが大切であることから、総合的な言葉の表現力を身に付ける。		
到 達 目 標	英語でのコミュニケーションへ自信をつけてもらうことはもちろんだが、母語による考えの組み立て方の部分から指導していくので英語や母語の表現力が身につくことが望まれる。また趣味の話から社会問題まで幅広い題材を扱うことで社会人としての必要な知識と教養を養うことができる。当科目での最終目標は英語で自分の意見を書いたり話したりできるようになることだが、最低限、日本語でこのようなことできるスキルを身につける。		
履修上の注意	履修する学生の英語レベルに応じた指導をしますが、英語で表現できるようになることを目標としていますので英語を話したい学生は受講して下さい。また、TOEFL I・IIを受講することが望まれます。 最終スピーチでは1人6分程度の英語のスピーチをしてもらう予定です。		
オフィスアワー	月曜日 12時50分～15時00分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	自己紹介スピーチ・目標設定	第0講（1時間）	
2	話し方の指導1（姿勢）・第0・1講	第1講（1時間）	
3	ライティング構成指導1（小スピーチ用の原稿作成）・第1・2講	第2講（1時間）	
4	ライティング構成指導2（小スピーチ用の原稿作成）・第2・3講	第3講（1時間）	
5	小スピーチ1・指導（姿勢・話し方）・第3・4講	第4講（1時間）	
6	小スピーチ2（ニュースを用いて）・第5講	第5講（1時間）	
7	ライティング添削指導1（構成と展開）・第6講	第6講（1時間）	
8	ライティング添削指導2（構成と展開）・第7講	第7講（1時間）	
9	小スピーチ3（添削後のものを発表）・指導（滑舌）・第8・9講	第8・9講（1時間）	
10	即興スピーチ・講評	スピーチ振り返り（1時間）	
11	ディスカッション・指導（分かりやすさについて）・第10講	第10講（1時間）	
12	ディスカッション・指導（分かりやすさについて）第11・12講	第11・12講（1時間）	
13	ディスカッション・最終スピーチ準備1	スピーチ練習（1時間）	
14	ディスカッション・最終スピーチ準備2	スピーチ練習（1時間）	
15	ディスカッション・最終スピーチ準備3	これまでの反省と復習	
テキスト	神林サリー編著『英語でショートスピーチ』（研究社）		
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：行政機関にて通訳・翻訳業務に携わる。

教育内容：英語での会話を中心に、決められたトピックに関して時間内で組み立てて話すディスカッションやスピーチ等による実践形式の学習内容で総合的な言葉の表現力を身に付ける。

科 目 名	ドイツ語Ⅲ	担当者	横溝真理
区 分 等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	①定期試験(80%) ②授業毎の課題(20%)		
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。		
目 的	1年次で学習した大まかなドイツ語の知識を確認しながら、中級用の教科書を使用し、ドイツ語運用能力を向上させる。		
到 達 目 標	①関係詞、完了時制、再帰表現、助動詞など、1年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。 ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力を向上させる。 ③観光案内所、ホテル、レストラン、デパートなどにおける会話の基本表現を身につける。		
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のCDを聴いてくること。		
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	「ドイツ人と知り合う」 [会話の基本]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
2	「到着」(1) [到着の挨拶表現]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
3	「到着」(2) [関係代名詞・不規則人称変化]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
4	「到着」(3) [完了の助動詞・再帰代名詞]	教科書 12～17 ページの予習・復習(2時間)。	
5	「ホテル探し」(1) [前置詞・話法の助動詞]	教科書 18～23 ページの予習・復習(2時間)。	
6	「ホテル探し」(2) [フロントでの会話]	教科書 18～23 ページの予習・復習(2時間)。	
7	「ホテルにて」(1) [zu 不定詞句]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
8	「ホテルにて」(2) [指示代名詞]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
9	「ホテルにて」(3) [朝食での表現]	教科書 24～29 ページの予習・復習(2時間)。	
10	「レストランで」(1) [比較]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
11	「レストランで」(2) [現在分詞と過去分詞]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
12	「レストランで」(3) [注文の仕方]	教科書 36～41 ページの予習・復習(2時間)。	
13	「買物」(1) [序数・完了形]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
14	「買物」(2) [おみやげを買う]	教科書 42～47 ページの予習・復習(2時間)。	
15	まとめ	定期試験へ向けて、復習(2時間)。	
テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新 ドイツ語話し方教室』(三修社)		
指定図書	あり(巻末参照)。		

科 目 名	ドイツ語Ⅳ		担当者	横溝真理
区 分 等	2 年次・後期 [演習] 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	①定期試験 (80%) ②授業毎の課題 (20%)			
課題に対するフィードバック	課題は添削して返却する。			
目 的	2 年次前期までに学習したドイツ語の知識を確認しながら、ドイツ語運用能力をさらに向上させる。			
到 達 目 標	①過去形、受動態、接続法など、1 年次で学習した文法項目を復習しながら、とくに副文の構造について理解を深める。 ②聴き取り練習を毎回行って、聴解力をさらに向上させる。 ③食事や健康、人との交際の場面における会話の基本表現を身につける。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修済みであること。 ②毎回、わからない単語を辞書で調べ、練習問題を授業前にやっておくこと。付録のCD を聴いてくること。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	「アパート探し」(1) [命令法・副文・前置詞]		教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。	
2	「アパート探し」(2) [電話をかける]		教科書 42～47 ページの予習・復習(2 時間)。	
3	「ハイキング」(1) [過去形]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。	
4	「ハイキング」(2) [受動態]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。	
5	「ハイキング」(3) [ハイキングに誘われて]		教科書 48～53 ページの予習・復習(2 時間)。	
6	「招待される」(1) [接続法第Ⅱ式]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。	
7	「招待される」(2) [前置詞と人称代名詞の融合形]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。	
8	「招待される」(3) [訪問先での会話]		教科書 54～63 ページの予習・復習(2 時間)。	
9	「医者にて」(1) [nicht と kein・間接話法]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。	
10	「医者にて」(2) [過去分詞の形容詞化]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。	
11	「医者にて」(3) [診察室／薬局にて]		教科書 64～71 ページの予習・復習(2 時間)。	
12	「手紙」(1) [形容詞の名詞化]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。	
13	「手紙」(2) [再帰動詞と前置詞の結びつき・方向を表す前置詞]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。	
14	「手紙」(3) [手紙の書き方・カードの書き方]		教科書 72～79 ページの予習・復習(2 時間)。	
15	まとめ		定期試験へ向けて、復習(2 時間)。	
テキスト	大谷弘道、Ursula Otani 著『新 ドイツ語話し方教室』(三修社)			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科 目 名	社会情報学		担当者	小林弥生
区 分 等	2 年次・前期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	①授業への取り組み姿勢（20%） ②提出課題（40%） ③定期試験（40%）			
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。			
目 的	情報化社会では、電子データを適切に管理・活用することが業務の効率化に欠かせない技術である。データベースに関する知識を身につけ、データベースを構築、活用するための基礎的な技術を習得することを目指す。			
到 達 目 標	①データベースの概念を理解し、説明することができる。 ②Microsoft Access を活用してデータを利用しやすい形に蓄積・加工することができる。 ③使いやすいフォームの作成や目的に合ったレポートを作成することができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	木曜日 10:30～12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	データベースとは Access の概要		テキストを読む。身近なところで使われているデータベースを調べる（2 時間）	
2	テーブル機能 テーブルの作成、編集、データのインポート		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
3	フォーム機能 フォームの作成、デザインの変更		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
4	クエリ機能 1 クエリの作成（選択クエリ）		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
5	クエリ機能 2 計算式の利用 集計クエリの作成		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
6	レポート機能 レポートの作成、デザインの変更		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
7	リレーションシップとは リレーションシップの設定方法		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
8	まとめと演習問題 情報処理技能検定試験問題（データベース）		基本機能についての総復習 提出課題の完成（2 時間）	
9	データベースシステムの構築① テーブルの設計、データのインポート フォームの作成		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
10	データベースシステムの構築② クエリの作成と活用		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
11	データベースシステムの構築③ レポートの作成 メニューパネルの作成		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
12	演習問題 情報処理技能検定試験問題（データベース）		提出課題の完成（2 時間）	
13	アクションクエリについて レコードの追加・削除・更新		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
14	アクションクエリの活用		授業内容の復習と練習課題の完成（2 時間）	
15	まとめと演習問題 情報処理技能検定試験問題（データベース）		提出課題の完成（2 時間）	
テキスト	『誰でも使えるデータベース!Access』（n o a 出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	プログラミングⅡ		担当者	小林弥生
区 分 等	2年次・前期〔演習〕2単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	① 授業への取り組み姿勢 (20%) ② 課題提出 (40%) ③ 定期試験 (40%)			
課題に対するフィードバック	提出された課題をチェックし、適宜コメントをつけて返却する。			
目 的	JavaScript で書かれたプログラムを理解する力を養う。 プログラミングの基礎的な知識を身につけ、活用する技術を習得することを目指す。			
到 達 目 標	DOM 操作やイベント処理の基礎を理解し、利用することができる。 簡単なアプリケーションを作成するためのアルゴリズムを考えることができる。 JavaScript を利用して動的な Web ページを作成することができる。			
履修上の注意	プログラミングⅠを履修していること			
オフィスアワー	木曜日 10:30 ～ 12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス JavaScript の基礎復習		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
2	イベントハンドラ 様々なイベントハンドラの取り扱い		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
3	配列の利用 最大値の探索		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
4	関数の活用 引数と戻り値の使い方		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
5	DOM 操作 複数要素の取得、要素の削除と追加		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
6	DOM の操作の演習課題 DOM の操作を利用した Web ページの作成		課題の作成（2 時間）	
7	オブジェクトについて プロパティとメソッド		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
8	Date オブジェクト、Math オブジェクト等の利用		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
9	フォームの操作 1 テキストボックスの利用		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
10	フォームの操作 2 チェックボックス、セレクトボックスの利用		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
11	フォームの演習課題 フォームを利用した Web ページの成		課題の作成（2 時間）	
12	canvas 要素の利用		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
13	一定間隔で繰り返し処理、タイマー処理		講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
14	総合演習 1 アプリケーションの検討と作成		アプリケーションの検討・作成、（2 時間）	
15	総合演習2 アプリケーションの作成		アプリケーションの作成、動作確認とデバック（2 時間）	
テキスト	相澤裕介 『情報処理演習 36 JavaScript ワークブック』（カットシステム）			
指定図書	あり（巻末参照）			

科目名	表計算活用学B	担当者	Damian Stachowski
区分等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	課題提出(30%)、授業内小テスト(70%)。		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。		
目的	①Microsoft Office EXCEL 応用機能について学ぶ。 ②EXCEL を用いた課題解決方法を考える。 ③操作上のトラブルの原因を考え、その対処方法を学ぶ。		
到達目標	EXCEL を用いた実践的な課題解決ができる。		
履修上の注意	授業内容は段階を経て進めていくので、欠課した場合は担当者から内容を聞き、できるようにしておくこと。復習が必要。		
オフィスアワー			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ブック、シートの応用	授業の復習（1時間）	
2	書式設定およびレイアウト	授業の復習（1時間）	
3	関数の応用①	授業の復習（1時間）	
4	関数の応用②	授業の復習（1時間）	
5	データベースの応用	授業の復習（1時間）	
6	ピボットテーブル	授業の復習（1時間）	
7	グラフの応用	授業の復習（1時間）	
8	マクロ機能①マクロの記録・登録	授業の復習（1時間）	
9	マクロ機能②マクロの修正	授業の復習（1時間）	
10	データ分析	授業の復習（1時間）	
11	アンケート作成① アンケート用紙作成	アンケートの題材を考える。授業の復習（1時間）	
12	アンケート作成② アンケート確認	授業の復習（1時間）	
13	データ入力・処理	授業の復習（1時間）	
14	データ集計・分析	授業の復習（1時間）	
15	発表・レポート作成	発表のための資料とレポート作成（2時間）	
テキスト	ムゲンダイ出版『Excel マスター演習問題集 応用編 2019 対応』		
指定図書	なし。		

科 目 名	ワードプロセッサ活用学B	担当者	佐藤 恵
区 分 等	2年次・前期 [演習] 2単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評 価 基 準	タッチタイピング(20%) …正確性、ワープロ検定試験基準による速度レベル 課題提出(30%)、授業内での小テスト(50%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価をつけて返却する。		
目 的	①Microsoft Office Word 応用機能について学ぶ。 ②各種文書の基本文例を学ぶ。 ③目的を達成するために必要な Word の機能をあげ、効率的な方法を考える。 ④操作上のトラブルの原因を考え、その対処方法を学ぶ。		
到 達 目 標	①タッチタイピングの習得を通して、自らのタイピングの問題点に気づき、課題を解決することで速度アップすることができる。 ②目的に応じた文書を的確で分かりやすくするための機能を提示することができる。また、その機能を十分に活用することができる。 ③文書の種類に応じた文書作成ができる。		
履修上の注意	授業開始時にログオンが完了していること。課題は期限内に提出し、教員のチェックを受けること。		
オフィスアワー	月曜日 11 時～14 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、文字書式	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
2	受講申込書：表作成とページ罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
3	旅行行程表：レイアウトを重視した罫線	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
4	タブとリーダーの効果的な利用（1）	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
5	チラシ：タブとリーダーの効果的な利用（2）	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
6	チラシ：段組み	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
7	チラシ：段落スタイルの作成と変更	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
8	チラシ：組み込みスタイルの利用とスタイルの変更・更新	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
9	表紙の挿入：セクション区切り	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
10	表紙の挿入：ヘッダー・フッター	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
11	報告書：S m a r t A r t の作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
12	チラシ：テキストボックスのリンク	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
13	宛名ラベル：差し込み印刷	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
14	表紙の挿入：目次作成	タッチタイピング練習。課題の復習。(1 時間)	
15	報告書：E X C E L データの貼り付け	タッチタイピング練習。課題の復習（1 時間）	
テキスト	講座で準備		
指定図書	なし。		

科 目 名	Web ページ作成 I	担当者	Damian Stachowski
区 分 等	2 年次・前期 [演習] 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業への取り組み姿勢 (20%)、課題提出 (40%)、授業内小テスト (40%) Attitude toward class (20%), Assignments (40%), In-class quizzes (40%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。解説は次の授業で行います。 Assignments and in-class quizzes will be graded and returned. Explanations will be given in the next class.		
目 的	HTML5、CSS3、JavaScript の基本を理解する。 最新の技術を使って簡単な Web ページを作成する。 簡単な英語の技術用語を理解する。 To understand the basics of HTML5, CSS3, and JavaScript. To create a simple web page using the latest technologies. To understand simple tech terms in English.		
到 達 目 標	HTML5、CSS3、JavaScript がどのように組み合わせられて Web ページが作られているかを理解できる。 テクノロジーに関連した適切な英単語を使うことができる。 The students will understand how HTML5, CSS3, and JavaScript are combined to create a web page. The students will be able to use appropriate English vocabulary related to technology.		
履修上の注意	練習をするためには、パソコンへのアクセスが必要です。 前回の授業に関する小テストを行います。 You will need access to a computer in order to practice. You will be given a quiz on the previous lesson.		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	コースオリエンテーション: Web 開発入門 Course Orientation: Introduction to Web Development	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間) Review the lecture and practice questions (2 hours)	
2	HTML: 基本 HTML: Basics	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
3	HTML: フォームとテーブル HTML: Forms and Tables	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
4	CSS: 基本 CSS: Basics	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
5	CSS: ボックスモデル CSS: The Box Model	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
6	レスポンシブ CSS とフレックスボックス Responsive CSS and Flexbox CSS Framework: Bootstrap	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
7	CSS 授業内プロジェクト 1 CSS Framework: Bootstrap CSS in-class project 1	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
8	CSS フレームワーク: Bootstrap CSS Framework: Bootstrap	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
9	CSS 授業内プロジェクト 2 CSS in-class project 2	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
10	JavaScript の基本 JavaScript Basics	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
11	JavaScript 意思決定 (If-Else など) JavaScript Decision Making (If-Else, etc.)	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
12	JavaScript 配列 JavaScript Arrays	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
13	JavaScript のループ JavaScript Loops	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
14	JavaScript 関数 JavaScript Functions	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
15	JavaScript 関数の応用 JavaScript Function Applications	講義の復習と演習問題による確認 (2 時間)	
テキスト	授業時に資料配付 Prints will be handed out when necessary.		
指定図書	なし。None.		

科 目 名	Web ページ作成Ⅱ	担当者	Damian Stachowski
区 分 等	2 年次・後期〔演習〕 2 単位 選択／生活文化専攻		
評 価 基 準	授業への取り組み姿勢 (20%)、個人プロジェクト (60%)、授業内小テスト (20%) Attitude toward class (20%), Individual Project (60%), In-class quizzes (20%)		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価を付けて返却する。解説は次の授業で行います。 Assignments and in-class quizzes will be graded and returned. Explanations will be given in the next class.		
目 的	中級の JavaScript、データベース、バックエンドプログラミングを理解する。 REST プロトコルに従った動的なウェブサイトを作成する。 簡単な英語の技術用語を理解する。 To understand intermediate JavaScript, databases and backend programming. To create dynamic websites that follow the REST protocol. To understand simple English technical terms.		
到 達 目 標	フロントエンドとバックエンドのプログラミングを使い、実際にウェブサイトを作成できる。 テクノロジーに関連した適切な英単語を使うことができる。 The students will be able to use front-end and back-end programming to create a real website. The students will be able to use appropriate English vocabulary related to technology.		
履修上の注意	練習をするためには、パソコンへのアクセスが必要です。 前回の授業に関する小テストを行います。 You will need access to a computer in order to practice. You will be given a quiz on the previous lesson.		
オフィスアワー	未定		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	DOM の紹介 Introduction to the DOM	講義の復習と演習問題による確認（2 時間） Review the lecture and practice questions (2 hours)	
2	DOM イベント DOM Events	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
3	AJAX と API AJAX and APIs	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
4	オブジェクト指向 JavaScript Object Oriented JavaScript	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
5	NODE 入門 Introduction to NODE	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
6	EXPRESS でサーバを作る Creating a server with EXPRESS	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
7	REST プロトコル REST Protocol	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
8	MONGO データベースの紹介 Introduction to the MONGO database	講義の復習と演習問題による確認（2 時間）	
9	プロジェクトの紹介 Project Introduction	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間） Review the lecture and individual project work (2 hours)	
10	プロジェクト:スタイルの追加 Project: Adding Styles	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
11	プロジェクト:データの検証 Project: Validating Data	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
12	プロジェクト:データと MONGO Project: Data and MONGO	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
13	プロジェクト:認証と認可 Project: Authentication and Authorization	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
14	プロジェクト:画像の追加 Project: Adding images	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
15	プロジェクト:デプロイメント Project: Deployment	講義の復習と個人プロジェクト制作（2 時間）	
テキスト	授業時に資料配付。		
指定図書	なし。None.		

科 目 名	ドイツ語圏文化B		担当者	横溝真理
区 分 等	2 年次・前期 [講義] 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	①学期末のレポート(80%) ②授業毎の課題(20%)			
課題に対するフィードバック	課題は添削し、講評をつけて返却する。			
目 的	ドイツ語圏を中心に、ヨーロッパについて理解を深めつつ、日本との違いを考える。			
到 達 目 標	①ドイツ語圏を旅行するときに必要な知識を学ぶ。 ②ドイツ語圏に住む人々の文化や宗教、生活事情について、日本(人)との違いを考える。			
履修上の注意	①「ドイツ語Ⅰ～Ⅲ」を履修していること。 ②夏休み前に提示されるテーマの中から一つを選んでレポート(2000 字以上)を作成してもらう。			
オフィスアワー	毎週火曜日 14:45～16:15			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーションー地名の語源を考える	ドイツ語圏の地名に特徴的な語尾は何か、地図から探す(2 時間)。		
2	ドイツの町の構造(Rathaus/Marktplatz/Dom)	Markt や Messe にはどんな意味があるのか。なぜターミナル駅は町外れにあるのか(2 時間)。		
3	建築様式(1)(バジリカ・ビザンティン・ロマネスク)	ギリシャ語由来の「アゴラ」や「ストア」の意味。キリスト教における数字「8」の象徴について(2 時間)。		
4	建築様式(2)(ロマネスク・ゴシック)	接尾辞「-esque」を持つ単語には何があるか。ゴシックの語源は何か(2 時間)。		
5	建築様式(3)(ルネサンス・バロック)	ゴシックとルネサンス・バロックは対極ともいえるが、何がどう違うのだろうか(2 時間)。		
6	建築様式(4)(ロココ・ネオクラシック・世紀末……)	ロココの語源は何か。19 世紀の建築の特徴とは。アール・ヌーヴォーとは何か(2 時間)。		
7	ドイツ人の食事情と食生活(1)ー「一日何食」か?	「朝食」を意味する欧米語の語源は何か。ドイツ語圏とそれ以外とでは朝食の習慣にいかなる違いがあるのか(2 時間)。		
8	ドイツ人の食事情と食生活(2)ードイツならではの食材	ドイツ人が「旬」を感じる食材とは何か。ハムやソーセージがドイツで発達した背景は何か(2 時間)。		
9	ドイツ人の食事情と食生活(3)ーカフェ文化とケーキ	コーヒーはどのようにヨーロッパに伝わったか。コーヒーの種類にはどのようなものがあるか(2 時間)。		
10	ドイツ人の食事情と食生活(4)ー水事情、ワインとビール	硬水と軟水は何が違うのか。「-schorle」という飲み物はどんなものか(2 時間)。		
11	宿泊施設あれこれ Hotel, Hotel garni, Pension, Gasthof, Privatzimmer	Hotel や Pension の語源は何か。日本とヨーロッパでは宿泊施設にどのような違いがあるのか(2 時間)。		
12	保養地・温泉	Bad や Spa の由来は何か。日本の温泉とは何が違うのか(2 時間)。		
13	チップとは	Tip の語源は何か。どのような場面で必要なのか(2 時間)。		
14	欧州ショッピング事情	日本と欧州とでは商店の営業時間や税金の仕組みの何が違うのだろうか(2 時間)。		
15	付加価値税と通貨統合	欧州各国の付加価値税はどのように違うか。通貨統合にはいかなるメリット・デメリットがあるか(2 時間)。		
テキスト	プリントを配付する。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科 目 名	現代家族論		担当者	大曾基宣
区 分 等	2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活文化専攻			
評 価 基 準	到達目標 1・2：レポートにより評価する。(70%) 到達目標 3：シャトルカードにより評価する。(30%)			
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。			
目 的	個人・家族・社会の関係の歴史の変遷を理解し、現代家族の実態を踏まえ、多様な家族のあり方、生活共同のあり方について思考する力を養うことを目的とする。			
到 達 目 標	1. 個人・家族・社会の歴史の変遷を理解する。 2. 現代における多様な家族のあり方および生活共同のあり方について、自分の言葉で説明できる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。			
履修上の注意	授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスアワー	金曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	家族とは		第 1 回の学習内容の振り返り（2 時間）	
2	近代の家族		第 2 回の学習内容の振り返り、 第 3 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
3	社会構造と現代の家族の実態		第 3 回の学習内容の振り返り、 第 4 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
4	結婚の動向		第 4 回の学習内容の振り返り、 第 5 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
5	夫婦関係		第 5 回の学習内容の振り返り、 第 6 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
6	妊娠・出産・生殖技術 〔視聴覚教材 動画「隣の家族は青く見える」編集版〕		第 6 回の学習内容の振り返り、 第 7 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
7	子育て		第 7 回の学習内容の振り返り、 第 8 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
8	親子関係と子どもの人権 〔視聴覚教材 映画「そして父になる」編集版〕		第 8 回の学習内容の振り返り、 第 9 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
9	家族のライフスタイル		第 9 回の学習内容の振り返り、 第 10 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
10	高齢期の家族		第 10 回の学習内容の振り返り、 第 11 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
11	虐待の実態と虐待への気づき 〔視聴覚教材 映画「誰も知らない」編集版〕		第 11 回の学習内容の振り返り、 第 12 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
12	家族の貧困		第 12 回の学習内容の振り返り、 第 13 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
13	ワークライフバランス 〔視聴覚教材 映画「夜間もやってる保育園」編集版〕		第 13 回の学習内容の振り返り、 第 14 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
14	日本における多様な家族の形		第 14 回の学習内容の振り返り、 第 15 回で学習予定のテキスト内容の確認（2 時間）	
15	開かれた家族		第 15 回の学習内容の振り返り（2 時間）	
テキスト	神原文子ほか『よくわかる現代家族〔第 2 版〕』（ミネルヴァ書房）。			
指定図書	なし。			

科目名	保育学	担当者	石井美和子
区分等	2年次・後期〔講義〕2単位 選択／生活文化専攻		
評価基準	①課題提出（40%） ②レポート提出・発表（50%） ③授業への取り組み姿勢（10%）		
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。		
目的	核家族化、少子化、ライフスタイルの多様化、幼児教育、新たな子育てが求められる時代に、育つ子どもを理解し、子どもを育てる大人や親になるとはどういうことなのかを理解できるようにする。		
到達目標	・乳幼児を取り巻く社会情勢の変化の中で、どんな子育てが求められているのかを知ることができる。 ・子どもを健やかに生み、心身ともに健康に成長させるために必要な知識や技術を知ることができる。		
履修上の注意	妊娠・出産・育児についての知識を学び、自分なりの考え方をきちんと持てるように、積極的な態度で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	木曜日 16 時 30 分～17 時 30 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育学とは	・新聞などに掲載されている保育に関する記事に積極的に目を通し、コピーまたは書き出しておく。（1時間）	
2	赤ちゃん学を学ぶ①	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
3	赤ちゃん学を学ぶ②	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
4	赤ちゃん学を学ぶ③	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
5	赤ちゃん学を学ぶ④	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
6	赤ちゃん学を学ぶ⑤	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
7	ライフスタイルを考える①	・自分のライフスタイルについて考える。（1時間）	
8	子どもの養育の意義・目標	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・課題に取り組む。（1時間）	
9	妊娠と出産 DVD（生まれる）	・育児雑誌について調べる。（1時間）	
10	子育てとは①	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・育児雑誌を調べて発表の準備をする。（1時間）	
11	子育てとは②	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・育児雑誌のメリット・デメリットを考える。（1時間）	
12	子育てに必要な用品の選択と準備	・配布資料を読み重要なポイントをおさえて授業に臨む。 ・おもちゃについて調べる。（1時間）	
13	具体的な育児の方法 DVD（抱っこの仕方・赤ちゃんのお風呂の入れ方・安全な調乳）	・実際に体験する。 ・体験したことのポイントを捉えてまとめる。（1時間）	
14	保育学についてのレポート作成	・レポート作成（自分の課題を持ってまとめる）（3時間）	
15	発表・振り返り・講評	・これまでの学習の復習（2時間）	
テキスト	なし。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	簿記	担当者	佐藤 恵
区分等	2年次・後期 [講義] 2単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻		
評価基準	①定期試験(80%)、②課題(20%)を総合して評価する。		
課題に対するフィードバック	課題や授業内小テストについては、評価をつけて返却する。		
目的	企業の経営成績および財政状態を把握するためには、簿記の知識が要求される。業務を遂行するための基礎的な複式簿記を学ぶ。		
到達目標	勘定科目や複式簿記の原理や実務が理解できる。		
履修上の注意	①簿記初学者を対象に日商簿記検定3級の基礎的な内容とする。 ②授業では練習問題を解く時間が限られるので、知識の定着を図るため宿題が多くなる。 ③講義・試験時に電卓を持参すること。		
オフィスアワー	月曜日 11 時～14 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	簿記の意義としくみ	計算書の種類と、基本的な勘定科目を覚える	
2	仕分と転記	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
3	仕訳帳と元帳	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
4	決算①	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
5	決算②	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
6	現金と預金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
7	繰越商品・仕入・売上①	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
8	繰越商品・仕入・売上②	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
9	仕入帳・売上帳	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
10	売掛金と買掛金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
11	その他の債権と債務	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
12	受取手形と支払手形	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
13	有価証券	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
14	固定資産	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
15	貸倒損失と貸倒引当金	テキストの例題・練習問題の復習。(1 時間)	
テキスト	渡部裕亘他著『検定簿記講義 3 級商業簿記』（中央経済社）		
指定図書	なし。		

科 目 名	秘書実務Ⅱ		担当者	小林紀子
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評 価 基 準	①授業内演習 5割 ②授業内まとめテスト 5割			
課題に対するフィードバック	①提出課題は、随時解説をつけ返却する。 ②秘書検定面接試験については個別指導をする。			
目 的	秘書士として職務を果たすのに必要な実践的知識・技術を学び、円滑な人間関係を作る資質やセンスのある人格育成、並びに、コミュニケーション能力、状況判断、問題解決などの職能開発をする。			
到 達 目 標	①説得力のあるプレゼンテーションができる。 ②ビジネスタスクをシミュレーションできる。 ③自分で考え、スキルを使って仕事を処理することができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 12時15分～13時05分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	プレゼンテーション 聴き手に判断や意思決定させるための実践		企画シート作成と自己評価（1時間）	
2	タスク・ベース・シミュレーション オフィスコミュニケーション		話し方と人間関係復習（1時間）	
3	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午前）		来客応対・電話応対復習（1時間）	
4	タスク・ベース・シミュレーション 受付（午後）		秘書英語復習（1時間）	
5	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午前）		言葉づかい復習（1時間）	
6	タスク・ベース・シミュレーション スケジューリング（午後）		言葉づかい復習（1時間）	
7	タスク・ベース・シミュレーション 出張準備		時刻表の見方復習（1時間）	
8	タスク・ベース・シミュレーション 出張後の仕事		伝票の復習（1時間）	
9	タスク・ベース・シミュレーション 会議（取締役会）		文書の復習（1時間）	
10	タスク・ベース・シミュレーション ビジネスメール		電子メール復習（1時間）	
11	総合演習 イン・バスケットⅠ オフィスの仕事（第1回）		演習ふりかえり（1時間）	
12	総合演習 イン・バスケットⅡ オフィスの仕事（第2回）		演習ふりかえり（1時間）	
13	総合演習 イン・バスケットⅢ オフィスの仕事（第3回）		演習ふりかえり（1時間）	
14	検定対策 秘書検定準1級対応		秘書検定準1級合格を目指す学習を継続すること。 （2時間以上）	
15	まとめ イン・バスケットと実技		これまでの復習（1時間）	
テキスト	自作教材使用。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	ビジネス実務演習Ⅱ		担当者	佐藤 恵
区分等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活文化専攻、健康栄養専攻			
評価基準	①プレゼンテーション・ロールプレイングなどの発表(50%) ②グループワークへの貢献(50%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をして学生にフィードバックする。			
目的	職場で役立つビジネス実務を身につけるために、ビジネス実務マナーやオフィスワークの理論を学ぶ。また、理論を実践に移すためにトレーニング学習を通して、ビジネス実務を学ぶ。			
到達目標	ロールプレイングによる実務訓練により、社会人としての基本的なマナーが身につき、実践できるようになる。			
履修上の注意	ビジネス実務士（全国大学実務教育協会）課程の必修科目である。 授業内の課題や演習問題は積極的に取り組むこと。			
オフィスアワー	火曜日 11 時～14 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	キャリアと仕事		自分の仕事観とキャリアについて考えをまとめる。(1 時間)	
2	話し方、コミュニケーション、面接練習		面接練習を振り返る。ノートのまとめと確認。(1 時間)	
3	ビジネスゲーム：チームワーク		(事前)自分の経験からチームワークを高める方法をまとめておく。(0.5 時間) ノートのまとめと確認。(1 時間)	
4	ミスの防止と処理		(事前)バイトや日常生活で、自分や周囲のミス事例とその時の対応策をまとめておく。(0.5 時間) ノートのまとめと確認。(1 時間)	
5	報告・連絡・相談①		(事前)伝達方法について調べる。(0.5 時間) ノートのまとめと確認 (1 時間)	
6	報告・連絡・相談②ロールプレイング		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
7	報告・連絡・相談③ロールプレイング		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
8	苦情処理①		(事前)苦情はなぜ生じるのか。自分の経験を振り返り考えをまとめる。(0.5 時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1 時間)	
9	苦情処理②ロールプレイング		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
10	ビジネスゲーム：調整と交渉		ノートのまとめと確認。(1 時間)	
11	会議の技術：準備と心構え・意見の述べ方		(事前)「会議のテーマ」について自分の考えをまとめておく。(0.5 時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1 時間)	
12	総合演習：会議の実際		(事前) グループ考案の「会議のテーマ」について、自分の考えをまとめておく。(0.5 時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1 時間)	
13	情報収集：データの読み方、まとめ方		(事前)新聞・ネットから、現在話題になっていること、自身が気になっているニュースを集め、発表準備をする。(2 時間) (事後)ノートのまとめと確認。(1 時間)	
14	総合演習：プレゼンテーション		プレゼンテーション振り返りをする (1 時間)	
15	交際のマナー		(事前)冠婚葬祭のマナーについて知っていることをまとめておく。(0.5 時間) (事後) ノートのまとめと確認 (1 時間)	
テキスト	『ワークで学ぶビジネスマナー』（西文社）、プリントの配付。			
指定図書	なし。			

科 目 名	情報処理演習		担当者	小林弥生
区 分 等	1 年次・後期 [演習] 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①授業への取り組み姿勢 (30%) ②提出課題 (50%) ③小テスト (20%)			
課題に対するフィードバック	提出された課題は採点し、適宜コメントをつけて返却する。 小テストは採点し、返却時に解説をする。			
目 的	Word や Excel、PowerPoint を使いこなし、保育の現場で必要となる文書作成やデータの管理方法などの技術の習得を目指す。 デジタルメディアの扱いに習熟し、教材等の作成に活用する技術を養う。			
到 達 目 標	画像や表、文章を自由に配置し、読みやすい文書を作成することができる。 Excel を活用してデータを管理、活用することができる。 動画の編集、画像の作成・編集するための技術を身につける。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	木曜日 10:30 ～ 12:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	Word の基本的な操作 通知文の文書構造とお知らせの作成		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
2	複雑な表の作成 実習指導案の作成		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
3	差し込み印刷 案内文書の宛名の挿入、ラベルの作成		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
4	催事案内ポスターの作成 図形や写真などの挿入		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
5	お便りの作成 文書のレイアウト クリップアート、写真など画像の挿入		提出課題の完成（2 時間）	
6	Excel による表の作成と関数の利用		Excel の基本的な操作の復習（2 時間）	
7	Excel を利用したデータベースの活用 1 入力規則の設定、		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
8	Excel を利用したデータベースの活用 2 並べ替え、フィルター、集計		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
9	グラフの作成		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
10	Excel のまとめ		講義内容の復習（2 時間）	
11	デジタル画像の作成と編集		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
12	PowerPoint を利用したポスターの作成		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
13	動画の編集		講義内容の復習と課題の完成（2 時間）	
14	音や動画を挿入した PowerPoint の活用方法		講義内容の復習（2 時間）	
15	総復習課題		提出課題の完成（2 時間）	
テキスト		授業時に資料を配布		
指定図書		あり（巻末参照）		

科目名	英語 A	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・前期 [演習] 2 単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	学習態度 (40%)、宿題 (30%)、定期試験 (30%)		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や最低限の英語のルールを身につけることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、英語での会話力とコミュニケーション力を身につける。		
履修上の注意	予習・復習は確実にを行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	月・水・金曜日 12 時 15 分～13 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・英会話	(K.T.) Unit 8 予習（1 時間）	
2	(K.T.) Unit 8	(K.T.) Unit 復習・Unit 3 予習（1 時間）	
3	(K.T.) Unit 8 振り返り、Unit9	(K.T.) Unit3 復習・文法 Unit 1 予習（1 時間）	
4	文法 Unit	品詞の復習・文法 Unit 2・3 予習（1 時間）	
5	文法 Unit 2・3 (be 動詞)	文法 Unit 2・3 復習・文法 Unit 4・5 予習（1 時間）	
6	文法 Unit 4・5 (be 動詞・There 構文)	文法 Unit 4・5 復習・文法 Unit 7・8 予習（1 時間）	
7	文法 Unit 7・8 (一般動詞 1)	文法 Unit 7・8 復習・文法 Unit 9・10 予習（1 時間）	
8	文法 Unit 9・10 (一般動詞 2)	文法復習（1 時間）	
9	文法総復習	(K.T.) Unit 4 予習（1 時間）	
10	(K.T.) Unit 4	(K.T.) Unit 4 復習・Unit 5 予習（1 時間）	
11	(K.T.) Unit 5	(K.T.) Unit 5・Unit 6 予習（1 時間）	
12	(K.T.) Unit 6	(K.T.) Unit 6・Unit 7 予習（1 時間）	
13	(K.T.) Unit 7	(K.T.) Unit 7 復習（1 時間）	
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習（1 時間）	
15	総まとめ	文法と英会話復習（1 時間）	
テキスト	Kazuyo Murata et al. “Keep Talking” Kiri-hara Shoten 佐藤誠司 『5 分間 基本英文法確認トレーニング』 南雲堂		
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。		

科目名	英語 B	担当者	菅野 薫
区分等	1 年次・後期〔演習〕2 単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	学習態度 (40%)、宿題 (30%)、定期試験 (30%)		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目的	英語教育低年齢化に伴い、保育現場でも活かせる実用的な英会話や会話に必要な英語のルールを身につけることを目指す。		
到達目標	英語圏の文化や文法なども学びながら、英語での会話力とコミュニケーション力を身につける。		
履修上の注意	予習・復習は確実にを行うこと。英会話が中心の授業もあるため、授業中は積極的に取り組むこと。		
オフィスアワー	月・水・金曜日 12 時 15 分～13 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	文法・英会話の確認	(K.T.) Unit 8 予習（1 時間）	
2	(K.T.) Unit 8	(K.T.) Unit8 復習・Unit 9 予習（1 時間）	
3	(K.T.) Unit 8 振り返り、Unit 9	(K.T.) Unit9 復習・文法 Unit 11 予習（1 時間）	
4	(K.T.) Unit 9 振り返り、文法 Unit 11	品詞の復習・文法 Unit 14・15 予習（1 時間）	
5	文法 Unit 14・15（疑問詞）	文法 Unit 14・15 復習・文法 Unit 16・17 予習（1 時間）	
6	文法 Unit 16・17（助動詞 1）	文法 Unit16・17 復習・文法 Unit 18 予習（1 時間）	
7	文法 Unit 18（助動詞 2）	文法 Unit18 復習・文法 Unit 19・20 予習（1 時間）	
8	文法 Unit 19・20（不定詞・動名詞）	文法復習（1 時間）	
9	文法総復習	(K.T.) Unit 10・11	
10	(K.T.) Unit 10・11	(K.T.) Unit10・11 復習・Unit 12・13 予習（1 時間）	
11	(K.T.) Unit 12・13	(K.T.) Unit 12・13 復習・Unit 14 予習（1 時間）	
12	(K.T.) Unit 14	(K.T.) Unit 14 復習・Unit 15 予習（1 時間）	
13	(K.T.) Unit 15	(K.T.) Unit 15 復習・会話練習（1 時間）	
14	文法を活用した会話練習	授業内容の復習（1 時間）	
15	総まとめ	文法と英会話復習（1 時間）	
テキスト	Kazuyo Murata et al. “Keep Talking” Kiri-hara Shoten 佐藤誠司 『5 分間 基本英文法確認トレーニング』 南雲堂		
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。		

科 目 名	体育講義	担当者	松本奈緒
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕1 単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	定期試験、学習態度などを総合して評価する。60 点以上を合格とする。		
課題に対するフィードバック			
目 的	生涯スポーツの視点から人間の一生と健康な生活、運動について理解する。		
到 達 目 標	健康な生活と運動、運動の行い方、人間の発達段階と運動についての知識を得る。これに関連する用語を覚え、また、資料やVTRから自分の考えをまとめることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業の前後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、講義 1「子どもの発達と運動 1」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
2	講義 2「子どもの発達と運動 2」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
3	講義 3「運動のしくみと技能」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
4	講義 4「高齢者と運動」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
5	講義 5「薬物乱用、飲酒、喫煙と健康」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
6	講義 6「運動の重要性と体力トレーニング、運動処方」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
7	講義 7「戦後スポーツ史」	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
8	講義のまとめ	プリントを用いて講義内容を復習する。(30 分)	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科 目 名	体育実技		担当者	松本奈緒
区 分 等	1 年次・前期、後期 [実技] 1 単位 必修／生活こども専攻			
評 価 基 準	スキルテスト、学習態度などを総合して評価する。60 点以上を合格とする。			
課題に対するフィードバック				
目 的	運動に親しみ、スポーツに必要なスキルを身につける			
到 達 目 標	運動に親しむ態度、スキル、ルール、マナー、運動に関する知識を身につける。具体的には、バスケットボール、バドミントン、バレーボールの基本的な技術・マナーを身につけ、簡易なルールで試合を行うことができる。			
履修上の注意	運動にふさわしい服装（ジャージ、体育館シューズ等）着用。			
オフィスアワー	授業の前後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション、グルーピング		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
2	バスケットボール 1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
3	バスケットボール 2		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
4	バスケットボール 3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
5	バスケットボール 4		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
6	バスケットボール 5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
7	バスケットボール 6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
8	バスケットボール 7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
9	バドミントン 1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
10	バドミントン 2		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
11	バドミントン 3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
12	バドミントン 4		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
13	バドミントン 5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
14	バドミントン 6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
15	バドミントン 7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
16	バドミントン 8		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
17	バレーボール 1		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
18	バレーボール 2		授業で取り上げる各スポーツのルールについて調べる。（30 分）	
19	バレーボール 3		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
20	バレーボール 4		授業で取り上げる各スポーツの技能について調べる（30 分）	
21	バレーボール 5		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
22	バレーボール 6		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
23	バレーボール 7		試合内容を振り返り自分の強化する練習方法について考える。（30 分）	
テキスト		なし。		
指定図書		なし。		

科 目 名	保育原理	担当者	大曾基宣
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	到達目標 1・2・3：授業内確認テストおよびレポートにより評価する。(70%) 到達目標 4：シャトルカードにより評価する。(30%)		
課題に対するフィードバック	授業内確認テスト、レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目 的	保育の考え方や方法の基礎を知ることが目的とする。		
到達目標	1. 保育の理念、思想、歴史的変遷を理解し、保育の基礎となる子ども観、保育観を自身の言葉で説明できる。 2. 保育所保育指針等における保育に関する基礎知識を身につける。 3. 保育の現状と課題について理解し、保育者としての役割と専門性を説明できる。 4. 保育の現状や保育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。		
履修上の注意	1. 授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 2. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	保育の理念と意義	第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	保育の基盤としての子ども観	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
3	保育における子ども理解	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
4	子どもが育つ環境の理解	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
5	保育内容・方法の原理	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
6	保育の計画と実践の原理	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
7	保育における健康・安全の原理	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
8	多様な子どもと共に育つ保育	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
9	子どもを中心とする保育を導いた思想家	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
10	日本における保育の歴史	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
11	諸外国における保育の動向	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
12	保育者の専門性	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
13	現代の子育てと子育て支援	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
14	保育の現状と課題	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
15	「保育原理」の再考	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	渡邊英則ほか『保育原理』（ミネルヴァ書房）。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	社会的養護Ⅰ	担当者	落合晶子
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 必修／生活こども専攻		
評価基準	小テスト(70%)、レポート (20%)、受講態度 (グループ発表を含む) (10%)。		
課題に対するフィードバック	ニュース発表への感想・助言。		
目的	子育て環境の著しい変化や子ども虐待の増加など、子どもの人権を擁護し保護するための社会的養護の重要性は増している。このような現状を理解するとともに、支援する保育士として、関わるための考え方や姿勢また制度、資源等について学ぶ。		
到達目標	①社会的養護を必要とする子どもたち及び取り巻く環境を理解すると共に社会的養護の制度について理解する。 ②社会的養護に関わる保育士としての役割を理解する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業終了後 10 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	児童養護と保育士	新聞、テレビ、インターネット等を通じ「子ども」「家庭」に関わるニュースに関心を持つ。毎時間発表	
2	子どもの養護の歴史	〃	
3	施設養護の種類 1	〃	
4	施設養護の種類 2	〃	
5	施設見学	〃	
6	障がいのある子どもたちへの対応	〃	
7	家庭養護の種類と実際 1	〃	
8	家庭養護の種類と実際 2	〃	
9	子どもの権利	〃	
10	社会的養護の基本的な考え方	〃	
11	施設養護の実際	〃	
12	社会的養護の法体系と実際	〃	
13	施設の運営	〃	
14	児童福祉の援助者としての保育士	〃	
15	まとめ		
テキスト	『新版 保育士をめざす人の社会的養護』		
指定図書	なし。		

科 目 名	教育原理	担当者	大曾基宣
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	到達目標 1・2・3：授業内確認テストおよびレポートにより評価する。(70%) 到達目標 4：シャトルカードにより評価する。(30%)		
課題に対するフィードバック	授業内確認テスト、レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目 的	教育の制度や意義・方法の基礎を知ることが目的とする。		
到達目標	1. 教育の意義、目的、歴史的変遷を理解し、教育の基礎となる子ども観、教育観を自身の言葉で説明できる。 2. 教育制度、教育実践の基礎理論について説明できる。 3. 教育の現状と課題について理解し、解決に向けた方略を提案できる。 4. 教育の現状や教育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。		
履修上の注意	1. 授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 2. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	教育の意義	第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	教育の目的	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
3	教育と児童福祉の関連性	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
4	人間形成と家庭・地域・社会などとの関連性	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
5	諸外国の教育思想と歴史	第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
6	日本の教育思想と歴史	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
7	子ども観・教育観の変遷	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
8	教育制度の基礎	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
9	教育法規・教育行政の基礎	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
10	諸外国の教育制度	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
11	教育実践の基礎理論：内容、方法、計画と評価	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
12	教育実践の多様な取り組み	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
13	生涯学習社会と教育	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
14	現代の教育課題	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
15	今後の教育の展望と課題	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	三宅茂夫『教育原理』（ミネルヴァ書房）。		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	教育心理学		担当者	織田栄子
区 分 等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 必修／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期試験でのテスト (30%)、授業で実施する課題作成 (20%)、提出物 (20%)、受講態度 (30%)。			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目 的	子どもの学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。			
到 達 目 標	①子どもの心身や人間関係等、発達の特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。 ②自己理解を通して、保育者としての心構えができ、子どもや保護者等への理解が深まる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育と教育心理学 1 ・教育心理学とは何か		授業に関連した文献を読んでおく (1 時間)	
2	保育と教育心理学 2 ・教育心理学の研究法		ノートの整理と確認 (1 時間)	
3	保育と教育心理学 3 ・様々な児童観と教育観		1～3 回までの授業の復習 (1 時間)	
4	発達と教育 1 ・発達を規定するもの ・発達段階と発達課題		ノートの整理と確認 (1 時間)	
5	発達と教育 2 ・思考の発達と教育 ・言葉の発達と教育		4～5 回までの授業の復習 (1 時間)	
6	学習のしくみ 1 ・条件づけ ・洞察学習		ノートの整理と確認 (1 時間)	
7	学習のしくみ 2 ・記憶		6～7 回までの授業の復習 (1 時間)	
8	やる気を育てる 1 ・内発的動機づけ、外発的動機づけ		ノートの整理と確認 (1 時間)	
9	やる気を育てる 2 ・内からの「やる気」を育てる ・中間まとめと解説		8～9 回までの授業の復習、及び 2 冊以上「やる気」についての参考文献を読み、要点をまとめる (2 時間)	
10	個人差の理解 1 ・知能とは何か ・知能の測定		ノートの整理と確認 (1 時間)	
11	個人差の理解 2 ・性格とは何か ・性格の測定		ノートの整理と確認 (1 時間)	
12	個人差の理解 3 ・適応		10～12 回までの授業の復習 (1 時間)	
13	個人差の理解 4 ・一人一人の違いを捉える		ノートの整理と確認 (1 時間)	
14	人間関係と社会化 ・親子関係と友だち関係		ノートの整理と確認 (1 時間)	
15	特別な支援を要する子どもたち 親の理解と子育て支援		13～15 回までの授業の復習 (1 時間)	
テキスト		石井正子、松尾直博編著『教育心理学－保育者をめざす人へー』(樹村房)		
指定図書		『幼稚園教育要領および解説』(最新版)(文部科学省著、フレーベル館) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』(最新版)(内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館) その他(巻末参照)。		

科 目 名	こどもの保健		担当者	岸 マサ
区 分 等	1 年次・前期 [講義] 2 単位 必修／生活こども専攻			
評 価 基 準	①定期試験 (50%) ②課題レポート (50%)			
課題に対するフィードバック	提出物 (レポート) については、随時コメントをつけて返却する。			
目 的	子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、子どもの健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など保育における保健的対応に必要な基礎的事項を学ぶ。			
到 達 目 標	①子どもと親の相互作用の中で、子どもと親が共に育つことを理解できる。 ②子どもの健康と保健の意義を理解できる。 ③子どもの発育・発達の理解が出来、子どもの生理機能を知ることができる。 ④子どもの疾病や予防及び適切な対応等基礎的知識をもつことが出来る。			
履修上の注意	初回の授業時に詳しく説明する。			
オフィスアワー	月曜日：12 時 15 分～13 時			
授業計画			準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	こどもの保健		健康に関することを報道記事等から把握し、今日的課題を理解する。(4 時間)	
2	こどもの成長と発達		自分母子健康手帳をみて、各週毎の健康状態を知る。妊婦 (母体) の病気、環境を知る。(4 時間)	
3	こどもの成長と発達		子どもの身体発育 健康状態の評価、保健所保育指針 幼稚園教育要領を読む。(4 時間)	
4	こどもの成長発育 (生理機能の発達)		テキストを読む。(4 時間)	
5	こどもの成長発育 (運動機能の発達)		テキストを読む。(4 時間)	
6	こどもの成長発育 (精神機能の発達)		テキストを読む。(4 時間)	
7	こどもの精神保健		テキストを読む。(4 時間)	
8	こどもの生活と健康		テキストを読む。(4 時間)	
9	こどもの病気		テキストを読む。(4 時間)	
10	こどもの病気		テキストを読む。(4 時間)	
11	こどもの病気		テキストを読む。(4 時間)	
12	こどもの精神保健		テキストを読む。(4 時間)	
13	救急処置について		テキストを読む。(4 時間)	
14	環境と衛生安全管理		テキストを読む。(4 時間)	
15	母とこどもの保健		テキストを読む。(4 時間)	
テキスト		岩田力他編著『こどもの保健・健康と安全ー理論と実際ー改訂新版』(同文書院)		
指定図書		なし。		

科 目 名	社会的養護Ⅱ		担当者	小野寺 恵子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	授業内試験（60%）、レポート（20%）、授業態度（20%）。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	第一に、社会的養育の中の「社会的養護」を理解できるようにする。 時代と共に変化してきた子どもを取り巻く環境が、子育てにどう影響してきたか、それに伴って変化する制度・政策の内容も合わせて理解し、社会的養護の子どもに関わる大人として何ができるかを考えられる力をやしなう。 また、児童虐待や子どもの貧困についての理解を深め、子どもの人権や最善の利益について考えながら「子ども時代」を支援することの大切さを学ぶ。			
到 達 目 標	児童福祉施設における支援の実際とそこにおける保育士としてのあり方を理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	木曜日 12 時 30 分～13 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	子どもの養護と保育士		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
2	児童福祉施設の子どもたち		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
3	家庭養護の現状と課題		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
4	里親制度の現状と課題		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
5	新しい施設養護の理念		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
6	施設養護のプロセスの理解		指定した教科書を事前に読み、グループ討議への心構えを持つこと（2 時間）	
7	施設養護のプロセスの展開内容とその留意点		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
8	保育士の基本的な社会的養護支援		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
9	こころの支援（1）		指定した教科書を事前に読み、グループ討議への心構えを持つこと（2 時間）	
10	こころの支援（2）		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
11	親子関係の支援		指定した教科書を事前に読み、ロールプレイを体験する心構えを持つこと（2 時間）	
12	地域・学校との関係づくり・整備の支援		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
13	自己実現・自立支援への支援		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
14	児童福祉施設の運営管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
15	児童福祉施設における保育士の資質と倫理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間） レポートをまとめること	
テキスト		『改訂 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』（みらい）		
指定図書		なし。		

科 目 名	こどもの健康と安全		担当者	岸 マサ
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①課題レポート（50%） ②受講態度と演習におけるグループ活動（50%）			
課題に対するフィードバック	提出物（レポート）については、随時コメントをつけて返却する。			
目 的	保健的観点に基づき、活動の計画及び評価、心身の保健に関する保健活動や環境、体調不良等に対する適切な対応、救急時の対応や事故防止、衛生管理並びに安全管理等について学ぶ。また、感染症の発生対策及び予防と適切な対応についてより実践的な力を身につける。			
到 達 目 標	①子どもの心身の発育、発達、健康管理を促す健康活動について理解できる。 ②子どもの疾病と予防、緊急時の対応や事故防止、安全管理について知識と技術を習得できる。 ③子どもの養育環境、精神保健、地域活動について理解できる。			
履修上の注意	初回の授業時に詳しく説明する。			
オフィスアワー	水曜日：16 時 15 分～17 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	保育における保健活動		健康に関することを報道記事等から把握し、今日的課題を理解する（2 時間）	
2	子どもの集団生活全体の健康と安全・衛生管理		テキストと配布資料を読む（2 時間）	
3	子どもの保健と環境		テキストを読む（2 時間）	
4	子どもの生活習慣と心身の健康		テキストを読む（2 時間）	
5	子どもの発達援助と保健活動		テキストを読む（2 時間）	
6	子どもの発達援助と保健活動		テキストを読む（2 時間）	
7	感染症の予防と対策		テキストを読む（2 時間）	
8	子どもの病気		テキストを読む（2 時間）	
9	子どもの病気		配布資料を読む（2 時間）	
10	事故防止及び健康管理・安全管理		テキストを読む（2 時間）	
11	子どもの救急法		テキストを読む（2 時間）	
12	子どもに起きやすい自己の応急手当		テキストを読む（2 時間）	
13	災害への備えと危機管理		テキストを読む（2 時間）	
14	心とからだの健康問題と地域保健活動		テキストを読む（2 時間）	
15	心とからだの健康問題と地域保健活動		これまでの復習（2 時間）	
テキスト		岩田力他編著『子どもの保健・健康と安全－理論と実際－改訂新版』（同文書院）		
指定図書		なし。		

科 目 名	保育内容総論		担当者	畠山君子
区 分 等	1 年次・後期 [演習] 1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期試験 (50%)、グループ討議・発表 (30%)、課題レポート (20%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題等は随時コメントをつけて返却する。			
目 的	幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を理解し、具体的な幼児の姿と関連づけながら環境の構成や情報機器及び教材の児童文化材の活用及び実践に必要な知識や技能を身に付ける。 保育内容 5 領域について、幼児の生活や遊びを通して総合的にとらえる能力を養う。			
到 達 目 標	幼児教育は生活全体を通して総合的に指導するということを理解し、実践できるようになる。保育内容と具体的な幼児の姿を関連付けながら教材研究を行い、実践するために必要な知識や技能が身につく。			
履修上の注意	事例検討やグループ討議に積極的に参加する。			
オフィスアワー	毎週木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育の現状と課題		幼稚園教育要領/解説を読む（1 時間）	
2	幼稚園教育の基本と保育内容 5 領域の理解		幼稚園教育要領/解説を読む（1 時間）	
3	幼稚園の一日の理解と教師の役割		幼稚園教育要領/解説を読む 1 時間）	
4	幼児期の教育における見方や考え方 （事例を通して学ぶ：グループワーク）		幼稚園教育要領/解説を読む（1 時間） ノートの整理と確認。（1 時間）	
5	遊びと生活との関係・遊びの姿から学ぶ。 （事例を通して学ぶ：グループワーク）		幼稚園教育要領/解説を読む 幼児にとっての遊びについて復習する。（1 時間）	
6	保育内容を総合的に捉える （事例を通して学ぶ：グループワーク）		幼稚園教育要領/解説を読む 遊びの総合性について復習する。（1 時間）	
7	幼児教育と保育の歴史についての学び。		幼稚園教育要領/解説を読む テキストを読んで復習をする（1 時間）	
8	3 歳児の保育内容の学び（映像の活用）		幼稚園教育要領/解説を読む 3 歳児の発達を理解する（1 時間）	
9	4、5 歳児の保育内容の学び（映像の活用）		幼稚園教育要領/解説を読む 4 歳児の発達を理解する（1 時間）	
10	全体的な計画と指導計画の関係。 小学校との円滑な接続。（アプローチ・スタートカリキュラムの理解）		参考資料を基にアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて復習をする（1 時間）	
11	教材研究を含めた保育の評価と記録		保育の評価について復習し理解する（1 時間）	
12	模擬保育の指導と教材		模擬保育の指導の教材を検討する（1 時間）	
13	模擬保育の指導と計画		模擬保育について振り返りまとめる（1 時間）	
14	情報機器及び、教材を活用し、模擬保育を行う		模擬保育の振り返りと確認（1 時間）	
15	保育内容を深める遊びや児童文化財を用いた保育の効果としての情報機器の活用を考える		児童文化財を調べまとめる（1 時間）	
テキスト	入江玲子・榎沢良彦著『シードブック改定 保育内容総論』（建帛社） 文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（フレーベル館） 谷田貝公昭編集代表『新版 保育用語辞典』（一藝社）			
指定図書	なし。			

科 目 名	保育内容・人間関係		担当者	大曾基宣
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	到達目標 1：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標 2：グループワーク、実践発表および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標 3：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。			
目 的	人間関係を中心とした幼児の育ちを理解し、それを踏まえて自らの保育を構想・改善できるようにすることを目的とする。			
到 達 目 標	1. 領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、人間関係を中心とした幼児の育ちに関する専門的事項について説明できる。 2. 人間関係に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育くまれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。			
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	領域「人間関係」の全体像		第1回の学習内容の振り返り（1時間）	
2	領域「人間関係」のねらいと内容		第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」：他者との出会い（事例検討）		第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」：友だちとのぶつかり（事例検討）		第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
5	子どもと保育者の関わり：信頼関係を築く・自己主張を支える（事例検討）		第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
6	子どもと保育者の関わり：子ども同士の関係をつなぐ（事例検討）		第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
7	子どもと保育者の関わり：自立心と自己調整力の育ち（事例検討）		第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
8	遊びの発達と人間関係		第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定の配付資料内容の確認（1時間）	
9	「人間関係」の指導内容・方法：教材研究・指導計画の作成（情報機器の活用含む）		第9回の学習内容の振り返り、 第10回のための発表準備（1時間）	
10	「人間関係」の指導内容・方法：きまりに関する幼児の葛藤と援助（発表・ロールプレイ）		第10回の学習内容の振り返り、 第11回のための発表準備（1時間）	
11	「人間関係」の指導内容・方法：ルールのある遊びと援助（発表・ロールプレイ）		第11回の学習内容の振り返り、 第12回のための発表準備（1時間）	
12	「人間関係」の指導内容・方法：協同的な遊びの中で育ちあう保育の展開（発表・ロールプレイ）		第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
13	家庭生活・園生活における人との関わり		第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
14	社会生活における多様な人々との関わり		第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定のテキスト内容の確認（1時間）	
15	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題		第15回の学習内容の振り返り（1時間）	
テキスト	無藤隆ほか『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係』（萌文書林）。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	保育内容・言葉A		担当者	栗森 貢
区 分 等	1 年次・前期 [演習] 1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	授業に参加する姿勢(70%)、課題レポート(30%)			
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、回収した学習シートや課題レポートに必要なコメントを付して返却する。			
目 的	話し言葉や書き言葉の意義と機能や、乳幼児期の言葉の獲得や発達の過程について、成長する子供の姿と合わせて理解できるようにする。			
到 達 目 標	①乳幼児における言語の発達の概要を説明できる。 ②言葉の発達とそれを促進する具体的な方法を説明できる。 ③言語発達の促進要因や阻害要因を知ることができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後、金曜日：午後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス 幼児の言葉の発達に関するおおよそを知る			
2	言葉の機能とコミュニケーションの関係を言葉の発達の側面から概観する		言葉をコミュニケーションの視点から調べる（1時間）	
3	0歳～2歳前後の言葉の発達について、大人の乳幼児への関わり方の仕方を中心に学ぶ		喃語や乳幼児の身振りに関することを調べる（1時間）	
4	0歳～2歳前後の言葉の発達を促す保育の方法について、わらべ歌との関係から学ぶ		膝の上でスキンシップをしながらのわらべ歌を調べる（1時間）	
5	2歳～3歳前後の言葉の発達について、大人との会話や幼児の文構造を中心に学ぶ			
6	2歳～3歳前後の言葉の発達を促す保育の方法について、かぞえ歌を参考に学ぶ			
7	3歳～4歳前後の言葉の発達について、自我意識の成長との関係から学ぶ		仲間意識の芽生えや、この年代の人間関係の特徴を調べる（1時間）	
8	3歳～4歳前後の言葉の発達を促す保育方法について、ことば遊びを例に実践的に学ぶ		3歳～4歳前後にふさわしいことば遊びを調べる（1時間）	
9	4歳～5歳前後の言葉の発達について、因果関係に応じた言語表現の観点から学ぶ			
10	4歳～5歳前後の言葉の発達を促す保育の仕方について、読み聞かせの方法を素材にして学ぶ		4歳～5歳前後にふさわしい絵本をいくつか選択する（1時間）	
11	5歳～6歳前後の言葉の発達について、特徴的な生活場面を例に学ぶ			
12	5歳～6歳前後の言葉の発達を促す保育について、ひらがなを中心に具体的な方法を考える		この年代に即応した、ひらがなを使ったことば遊びを調べる（1時間）	
13	幼児期の言語障害の現れ方の特徴やメカニズムを理解する		言語障害に応じた現れ方の状況を調べる（1時間）	
14	言語障害を負う子への様々な働きかけを実践的に理解する			
15	年齢に応じた言語発達の特徴をまとめ、その発達に応じた適切な保育の仕方を整理する			
テキスト	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 授業時に資料や記入用のプリントを配付する。			
指定図書	岡本夏木著『子どもとことば』（岩波書店） 秋田喜代美・野口隆子編集『保育内容言葉』（光生社） 福沢周亮監修・藪中征代・玉瀬友美・星野美穂子編『新版 保育内容・言葉』（教育出版） 日本国語教育学会監修・福山多江子・伊澤永修・大澤洋美・生野金三編著『0～6歳児『言葉育てる』保育』（東洋館出版社）			

科目名	保育内容・表現（音楽A）		担当者	佐藤眞由子
区分等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評価基準	発表とレポート(30%)、授業に対する姿勢(70%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。			
目的	・領域「表現」について学習し、子どもの多様な表現を読み取る重要性を理解する。 ・劇遊びを通して総合的な表現力を身につけると同時に、子どもにとってどのような表現がわかりやすいのか、また、どのような表現をすれば楽しめるのかということをよく考え、実践出来る保育者を育てることを目的とする。 ・共同制作という活動によって得られる、自主性、協調性、創造性等を身につける。			
到達目標	①授業で取り上げた遊び歌、わらべ歌、手遊び歌、手話ソングは、必ずできるようにし、実習で行い、実践力を身につける。 ②ボディ・パーカッション、リトミックを通してアンサンブルの楽しさを味わいながら、リズム感を身につけることができる。 ③劇あそびでは、背景、小道具、コスチュームを作るなどの絵画的な表現力を育てると共に、歌ったり、踊ったり、セリフのやり取りで、言語的な表現力を学ぶことができる。 ④共同制作という活動によって、自主性、協調性、創造性を身につけることができ、他者との連携を取りながら責任を持って自分の役割を理解し、果たすことができる。 ⑤グループごとの劇遊びの発表をし、互いの発表から学び合う。 ⑥実習で取り上げた「手遊び」についてレポートを書き、提出する。			
履修上の注意	「母とおさなごの歌」、授業時に渡したプリント、筆記用具を持参する。			
オフィスアワー	授業の前後や放課後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス（科目内容、授業内容の紹介、子どもの表現とは何か）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
2	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、まねっこリズム、劇遊び①（作品作りの導入）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
3	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、まねっこリズム、劇遊び②（絵本を読む）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
4	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、リズム遊び、劇遊び③（紙芝居を読む）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
5	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、リズム遊び、劇遊び④（大、小道具作り）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
6	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、リトミック、劇遊び⑤（大、小道具作り）（衣装作り）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
7	遊び歌、子どもの歌、わらべ歌、リトミック、劇遊び⑥（衣装作り）		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
8	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、ボディ・パーカッション、劇遊び⑦		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
9	遊び歌、子どもの歌、わらべ歌、ボディ・パーカッション、劇遊び⑧		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
10	遊び歌、季節の歌、わらべ歌、ボディ・パーカッション、劇遊び⑨		授業で行った手遊びを覚え、できるようにしてやる。	
11	劇あそび⑩（振り付け、役作り）		セリフ、役、歌の練習をしてやる。	
12	劇あそび⑪（振り付け、役作り）		セリフ、役、歌の練習をしてやる。	
13	劇あそび⑫（振り付け、役作り）		セリフ、役、歌の練習をしてやる。	
14	劇あそび⑬（総しあげ）		セリフ、役、歌の練習をしてやる。	
15	劇あそびの総リハーサル、「手遊び」のレポート提出		セリフ、役、歌の練習をしてやる。	
テキスト	神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 全日本私立幼稚園連合会編『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	文部科学省著『幼稚園教育要領および解説（最新版）』（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）』（フレーベル館）			

※ 2 クラス合同で劇遊びの発表

科目名	保育内容・表現（身体A）	担当者	藤田洋子
区分等	1 年次・前期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	課題、主体的な演習（80%）、授業参加態度（20%）		
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目的	・ 幼児の表現する具体的な姿から、子どもの「表現したい」の心が動き出す要因を多角的に見出し、十分に楽しめるような言葉かけや動機付けなどを理解する力を養う。 ・ 子どもの心と体の総合的な発達を知るとともに、見て、聴いて、感じて表現することの楽しさを共感する力を養う。		
到達目標	①身体表現をすることの楽しさを実感するとともに楽しさを生み出す要因について理解することができる。 ②幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。		
履修上の注意	授業は体育着・ズック着用のこと		
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	はじめの1歩（表現とは何か） 領域「表現」のねらい及び内容について、幼児の表現する実際の姿と関連付けながら理解する。	幼稚園教育要領領域「表現」を熟読する。（1 時間）	
2	表現の源に出会う 幼児の表現する具体的な姿から、子どもの遊び心や身体が動きだす要因を多角的に見いだす。	アクテブ・ラーニング（主体的で・対話的で・深い学び）の実現のために、子どもの遊ぶ姿をイメージする。（1 時間）	
3	自然とともだち 身近な自然やその素材の特性に触れ、感じる、見る、聞く、楽しむ、を通してイメージを豊かにする。	領域「表現」の内容を熟読する。 身近な自然について調べる。（1 時間）	
4	素材とともだち① 「音日記」をもとに「音」への感覚を楽しむ 「オノマトペ」と身体表現の響きあいを楽しむ	「音日記」をつける。（土・日） 「オノマトペ」について調べる。（1 時間）	
5	素材とともだち②（グループ活動） 「素材の質感」に心を傾け「オノマトペ」との組み合わせを生かした幼児の表現活動の展開を考える。	身近な素材（自然・もの・音・動き・質感など）に関心を向ける。（1 時間）	
6	素材とともだち③（グループ活動②の発表）	協同して発表に生かせるように準備をする。（1 時間）	
7	全身をつかって（わくわくランドによろこそ） 心弾む環境のもとで、全身を使って心と体を十分に働かせた身体表現遊びを実践し、魅力性や面白さ、留意点などを考える。	子どもたちが楽しんでいる身体表現あそびを調べる。（1 時間）	
8	ともだちと一緒に①（リズム表現と即興アレンジ） 表現は相手への呼びかけー応答＝コミュニケーションとして成り立つことを体験し、身体的表現が生まれる過程をとらえ楽しさや要因についていて考える。	普段から、様々な環境から生まれる身体表現を想像してみる。（1 時間）	
9	ともだちと一緒に②（リズム表現 創作と発表） 表現の楽しさを生み出す要因：伝え合い＝受け止め 合いが次につながる意欲となることを理解する。	幼児の喜ぶ身体表現を調べる。 伝え合い＝受け止め合いについてまとめる。（1 時間）	
10	未来につなぐ今（小学校への教育のつながり） 幼児の表現する姿と表現するプロセスの中にみえてくる姿を幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿と重ね合わせ小学校教育につながる育ちを見いだす。	幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」と領域「表現」の内容を熟読する。（1 時間）	
11	身近な教材の活用①（絵本と身体表現活動） 身近な教材を身体 諸感覚を通した表現活動に取組み、幼児の総合的な表現活動の展開を考える。	様々な絵本を見て身体表現あそびを想像してみる。（1 時間）	
12	身近な教材の活用②（絵本と身体表現活動即興アレンジ）、身近な教材を身体 諸感覚を通した表現活動に取組み、楽しさの要因をとらえる。	協働での自分を振り返り、良さや課題について整理する。 楽しいと思ったことをまとめる。（場面・身体表現）（1 時間）	
13	郷土文化から見えてくる身体表現 見て調べて感じて楽しみ、イメージを豊かにする。	郷土文化に関心をむけ調べておく。（1 時間）	
14	郷土文化から見えてくる身体表現（発表） 見て聴いて感じて楽しみ、イメージを豊かにする	分かり易さ、内容の伝わりを重視した説明を準備する。（1 時間）	
15	これまでの学びを振り返りキーワードに沿ったまとめをする。	これまでの学びを自分なりに整理する。	
テキスト	『幼稚園教育要領及び解説』（フレーベル館） 『保育所保育指針及び解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説』（フレーベル館）		
指定図書	なし。		

目 名	保育内容・表現（身体B）		担当者	藤田洋子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	課題、主体的な演習（70%）、履修カード、授業参加態度（30%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目 的	保育内容・表現（身体A）との連続性・系統性を重視させながら、保育者に求められる感性の豊かさや、知識・技能に支えられたより豊かな表現力・創造力を養う。			
到 達 目 標	①幼児の総合的な身体表現を支えるための感性を豊かにすることができる。 ②協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、知識・技能に支えられた豊かな創造力や表現力を身につけることができる。			
履修上の注意	初回の授業時に詳しく説明する。毎回体育着を着用。ICT を授業の準備やグループ発表に役立てる。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 領域「表現」のねらい及び内容の理解		幼稚園教育要領領域「表現」を熟読する。 授業の学びを継続的に活かせるように記録を視覚的に 分かりやすく整理する。（1 時間）	
2	幼児の身体表現の発達の理解（共感） 映像や事例から、幼児の表現の芽生え、発達、 小学校との学びの連続性について考える。		「育みたい資質・能力の 3 つの柱」「幼児期の終わりま でに育ってほしい 10 の姿」を熟読する。（1 時間）	
3	環境との出会い 昔ながらのあそびから身体表現が生まれる環境 を見いだす。		明治・大正・昭和中期の子どもの遊びを調べる。 世界にも目を向けて調べる。（1 時間）	
4	環境との対話 身体の諸感覚と相対する言葉通して感受性 （気き・思考・イメージ）を豊かにする。		普段の生活において、相対する言葉を調べ、その言葉を 意味する身体表現を考える。（1 時間）	
5	豊かな身体表現のために①（協働・話し合い） お話の世界の組み立てにおいて幼児の笑顔を 想像しながら身体表現の工夫を楽しむ。		絵本を読み、子どもの喜ぶ内容展開を考える。（1 時間）	
6	豊かな身体表現のために②（協働・話し合い） お話の世界の組み立てにおいて幼児の笑顔を 想像しながら身体表現の工夫を楽しむ。		子どもの喜ぶ内容に沿う身体表現を考える。（1 時間）	
7	豊かな身体表現のために③（協働・発表） お話の世界の組み立てから幼児の笑顔を想像 しながら身体表現の工夫を楽しむ。		発表に向けて各自でシミュレーションをする。（1 時間）	
8	幼児のあそび心を感じて①（協働・話し合い） 創って成りきって踊って等をモチーフにした 創意ある身体表現のハーモニーを体感する。 （動きの変形）		幼稚園などの発表会をみたり調べたりする。（1 時間）	
9	幼児のあそび心を感じて②（協働・実践） 創って成りきって踊って等をモチーフにした 創意ある身体表現のハーモニーを体感する。 （オノマトペ）		作成のポイントや手順などを考える。（1 時間）	
10	幼児のあそび心を感じて③（協働・発表） 創って成りきって踊って等をモチーフにして 創意ある身体表現のハーモニーを体感する。 （動作とオノマトペ）		発表に向けて各自でシミュレーションをする（1 時間）	
11	乳幼児の身体表現遊びから読み取る「育みたい資 質・能力の 3 つの柱」と「幼児期の終わりま でに育ってほしい 10 の姿」		「育みたい資質・能力の 3 つの柱」「幼児期の終わりま でに育ってほしい 10 の姿」を熟読する。（1 時間）	
12	身体表現のおもしろさを感じて① 音・音楽・表現のシンフォニーを体感する。		冬の自然や事柄から生まれる身体表現を想像する。 （1 時間）	
13	身体表現のおもしろさを感じて② オノマトペ・身体表現をプラスした歌遊びを創 作する。		伝えたい内容を整理する。 環境と身体表現遊びの関連性の中で、幼児の思いを 予想する。（1 時間）	
14	身体表現のおもしろさを感じて③ オノマトペ・身体表現をプラスした創作歌遊び の楽しさを伝え合う。		各自で動きを練習する。（1 時間）	
15	今を未来につなげるために チームでの取り組みにおける自己評価を自己肯 定感や自己課題に繋げる。		これまでの学びを整理する。（1 時間）	
テキスト	『幼稚園教育要領及び解説』（フレーベル館） 『保育所保育指針及び解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説』（フレーベル館）			
指定図書	なし。			

科 目 名	保育内容・表現（造形A）		担当者	鈴木 司
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	・ コラージュでは自由な発想で表現できる。作品（30％） ・ ステンシルでは手順を理解し、イメージ通りに制作することができる。作品（30％） ・ 色彩表現では基礎的な知識を理解し、課題の配色ができる。作品（30％） ・ 授業の取り組み姿勢、課題提出。（10％）			
課題に対するフィードバック	・ 授業課題は適宜返却し、制作物を展示、撮影したものを掲示し、授業内で講評する。			
目 的	保育所や幼稚園の現場で子どもの表現活動を支援できるように、各種の材料や用具の使い方、材料の加工方法を身に付けること。また、色彩の基本的な知識を理解すること。			
到 達 目 標	・ 平面コラージュでは自由な表現ができるように、立体コラージュではいろいろな形の立体を作れるようになる。 ・ ステンシルでは作り方の手順を理解し、イメージ通りに制作ことできるようになる。 ・ 色彩表現では基礎的な色彩の知識を理解し、表現の配色を生かせるようになる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	金曜日 12 時 15 分～13 時 05 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション シンメトリーで動物の顔をつくる (1) アイデアスケッチ		コラージュ、キャラクター、ステンシル、色彩表現の資料調べ。アイデアスケッチ。（1 時間）	
2	(2) 下絵描きと材料の収集		材料収集とアイデアスケッチ（1 時間）	
3	(3) 平面的コラージュの制作		アイデアもとにコラージュ（1 時間）	
4	(4) レリーフ的コラージュの制作		アイデアもとにレリーフ的コラージュ（1 時間）	
5	キャラクターをデザインする (1) 既存のキャラクターを収集・分析する		キャラクターの収集と分析（1 時間）	
6	(2) キャラクターをデザインする		キャラクターデザインの絞り込み（1 時間）	
7	(3) キャラクターをつくる		キャラクターデザインの仕上げ（1 時間）	
8	ステンシルでつくる (1) キャラクターをつくる		ステンシルの下絵作り（1 時間）	
9	(2) 工作用紙をカットしてステンシル作製		ステンシルの完成（1 時間）	
10	(3) 型を写し、複数のキャラクターを作る		アイデアとバリエーションの下絵（1 時間）	
11	(4) 型で写した下絵に描画着色する。		型写しと描画（1 時間）	
12	色彩表現 (1) 色彩の基礎知識 色の三属性とトーン の概念・カップケーキ等の配色描画		色彩の効果調査（1 時間）	
13	(2) カップケーキ等の配色描画 ① 色の見え方 色の進出と後退、膨張と収縮		色イメージの配色練習（1 時間）	
14	(3) 切り絵の表現 ② 対比による色の見えの変化ほか		色イメージの配色練習（1 時間）	
15	(4) 切り絵の表現・講評		表現活動の可能性について（1 時間）	
テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名	保育内容・表現（造形B）		担当者	鈴木 司
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①紙の加工では説明どおり、正しい手順で加工できる。作品（45%） ②切り絵の造形では、イメージ通りに作品ができる。作品（45%） ③授業の取り組み姿勢、課題提出。（10%）			
課題に対するフィードバック	授業課題は適宜返却し、制作物を展示、撮影したものを掲示し、授業内で解説する。			
目 的	保育所や幼稚園の現場で子どもの表現活動を支援できるように、各種の材料や用具の使い方、材料の加工方法を身に付けること。キャラクターの作り方を学ぶこと。			
到 達 目 標	①紙の加工（折り方、切り方、つなぎ方）ができる。 ②造形の技法、着色の方法を理解し、いろいろな形に応用できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	金曜日 14 時 35 分～15 時 35 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション。参考作品解説。 (1)「磁石を使った表裏雪だるま工作」について説明。本体の工作。		紙工作や立体造形の資料調べ。（1 時間）	
2	(2)雪だるまの制作。アイデアスケッチ。部品作り。		雪だるま等の資料調べ（1 時間）	
3	(3)雪だるまの制作。色紙部品作り、貼り付け。		雪だるまの制作（1 時間）	
4	(4)雪だるまの制作。描画用具で制作。作品撮影。		雪だるまの制作（1 時間）	
5	(1)「表裏お面の工作」について説明。アイデアスケッチ。		お面の資料調べ（1 時間）	
6	(2)紙工作でつくるお面の型制作。		お面の資料調べ（1 時間）	
7	(3)目鼻口の部品作り。貼り付けと描画。		目鼻口の資料調べ（1 時間）	
8	(4)描画。作品撮影。		目鼻口の資料調べ（1 時間）	
9	(1)「小箱で作る 2 本指人形」について説明。アイデアスケッチ。箱工作。		指人形の資料調べ（1 時間）	
10	(2)箱人形の部品作り。貼り付け。描画。作品撮影。		指人形の資料調べ（1 時間）	
11	(1)「模造紙で作る動物指人形」について説明。アイデアスケッチ。		指人形の資料調べ（1 時間）	
12	(2)人形の部品作り。描画。作品撮影。講評。		指人形の資料調べ（1 時間）	
13	(1)「切り絵で作る、行事の装飾工作」について説明。カッティング制作。		切り絵の資料調べ（1 時間）	
14	(2)カッティング制作。台紙合わせ。		切り絵の資料調べ（1 時間）	
15	(3)カッティング制作。作品撮影。		切り絵の資料調べ（1 時間）	
テキスト	なし（授業時に資料プリントを配付する）。			
指定図書	なし。			

科 目 名	乳児保育Ⅰ	担当者	石井美和子
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	① 定期試験(40%) ② 課題提出 (40%) ③ 授業への取り組み姿勢(20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。		
目 的	乳児保育は人格の基礎を作る時期であることを理解し、一人一人子どもの発達を保障する保育内容、乳児保育に関する現状や課題について理解を深める。そのうえで、3 歳未満児の発達を踏まえた保育を理解するために必要な知識を身につける。また、職員間連携・協働、及び保護者や地域の関係機関との連携を通して、保育に携わる意義を学ぶ力を養う。		
到 達 目 標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変換及び役割などについて理解する。 2. 多様な保育の場における乳児保育の現状や課題について理解する。 3. 3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	金曜日 16 時 00 分～17 時 00 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ―授業の進め方についての理解― ―乳児保育とは―	・ 保育所保育指針、保育所保育指針解説書の乳児保育の関連部分について熟読し、理解を深める。（1 時間） ・ 事前にテキストを読み予習を行う。（1 時間）	
2	乳児保育の意義・目的と役割 ―乳児保育の意義・目的と歴史― ―乳児保育の役割と機能―	・ テキスト①②の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
3	―乳児保育における養護及び教育―	・ テキスト①の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
4	乳児保育の現状と課題 ―保育所における乳児保育―	・ テキスト①の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
5	―乳児院等における乳児保育―	・ テキスト②の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
6	―家庭的保育等における乳児保育―	・ テキスト②の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
7	―乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題―	・ テキスト①②③の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
8	3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 ―3 歳未満児の生活と環境―	・ テキスト④⑤⑥⑦⑨の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・ 指示された課題に取り組む。（1 時間）	
9	―3 歳未満児の遊びと環境―	・ テキスト④⑤⑥⑦⑨の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・ 指示された課題に取り組む。（1 時間）	
10	―3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり―	・ テキスト③④⑤⑥の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・ 指示された課題に取り組む。（1 時間）	
11	―3 歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮―	・ テキスト③④⑤⑥の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・ 指示された課題に取り組む。（1 時間）	
12	―乳児保育における計画・記録・評価とその意義―	・ テキスト⑩の該当単元を読んで予習・復習を行う。 ・ 指示された課題に取り組む。（1 時間）	
13	乳児保育における連携・協働 ―職員間の連携・協働―	・ テキスト⑫の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
14	―保護者、地域の関係者等との連携・協働―	・ テキスト⑪⑫の該当単元を読んで予習・復習を行う。 （1 時間）	
15	教材研究・課題まとめ	・ 授業内で作成した教材研究課題を整理して綴じる。 ・ これまでの復習（2 時間）	
テキスト	①講義で学ぶ乳児保育（わかば社） ②厚生労働省編 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』（フレーベル館） ③新訂『見る・考える・創り出す 乳児保育』Ⅰ・Ⅱ（萌文書林）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	乳児保育Ⅱ		担当者	石井美和子
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①定期試験(40%) ②課題提出(40%) ③授業への取り組み姿勢(20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。			
目 的	・ 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解を深め、養護や教育の一体化を踏まえ、3 歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境、配慮の実践について、具体的に理解する力を身につけること。 ・ 「乳児保育Ⅰ」で学んだ内容をもとに、3 歳未満児にかかわる保育者の役割、生活の環境などをどのように望ましいものにしていくべきか探求できるようにする。			
到達目標	1. 3 歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり、基本的な考え方について理解する。 2. 養護や教育の一体性を踏まえ、3 歳未満児の子どもの遊びと保育方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記の 1～3 を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 6 時 30 分～17 時 30 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	乳児保育の基本 —子どもと保育士等との関係の重要性— —子どもの体験と学びの芽生え—		・ 配布資料（応答的なかわり・保育者との関係）を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） ・ 課題に取り組む（1 時間）	
2	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた遊びの実践① —子どもの一日の流れと保育環境—		・ 配布資料（デイリープログラム）を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間）	
3	—発達の特性と望ましい保育— —パネルシアター製作— —指導案作成—		・ 配布資料（保育環境・援助の実践）を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む。（1 時間） ・ パネルシアターについて事前学習する。（0.5 時間） ・ 指導案作成の準備をする。（1 時間） ・ 発表に向けて練習をする。（0.5 時間）	
4	—パネルシアターの発表①—		・ 指導案作成の準備をする。（1 時間）	
5	—パネルシアターの発表②—		・ 発表に向けて練習する。（0.5 時間）	
6	3 歳未満児の遊びを支える環境の構成		・ 子どもの発育・発達について事前学習する。（1 時間）	
7	—行事について考える—（演習）		・ 行事について事前学習する。（1 時間）	
8	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活の実践② —乳児保育に生活習慣の援助と関わり①—		・ 乳児の生活（0 歳児）について事前学習する。（1 時間）	
9	—乳児保育に生活習慣の援助と関わり②—		・ 乳児の生活（1、2 歳児）について学習する。（2 時間）	
10	乳児保育における配慮の実践 —2 歳児の発達に合わせた行事のあり方—		・ 2 歳児の発達を踏まえた配慮についての事前学習をする。（2 時間）	
11	—子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮—		・ 配布資料（健康・安全について）を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む（1 時間）	
12	—乳児保育を支える連携—		・ 配布資料（育児担当制・保護者との連携について）を読み、重要なポイントをおさえて授業に臨む（1 時間）	
13	乳児保育の計画の実践①		・ 模擬保育の準備を行う。（指導案作成なども含む）（2 時間） 授業終了時に振り返りをまとめる（1 時間）	
14	乳児保育の計画の実践②		・ 模擬保育の準備を行う。（指導案作成なども含む）（2 時間） 授業終了時に振り返りをまとめる（1 時間）	
15	模擬保育・振り返り発表		・ 授業内で作成した教材研究課題を整理して綴じる。 ・ これまでの復習（2 時間）	
テキスト	①講義で学ぶ乳児保育（わかば社） ②厚生労働省編 『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』（フレーベル館） ③新訂『見る・考える・創り出す 乳児保育』Ⅰ・Ⅱ（萌文書林）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	こどもの音楽A	担当者	佐藤眞由子、山田朗子、柏屋千秋、田代友美
区 分 等	1 年次・前期 [演習] 1 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	演奏技術(50%)、授業に対する姿勢(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目 的	・子どもは、「遊び」の中から生きていくために必要な様々なことを学ぶ。その中でも「音楽」は、人の心に直接響く力を持っており、楽器の演奏や歌うことや手遊びなどを学び教えることは、子どもの身体、精神、感情が、調和のとれた発達をしていくための手助けとなる。 ・音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。 ・音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。 ・子どもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。 ・手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく、表情豊かに歌う。 ・ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。 ・簡易楽器の奏法を習得し、様々な楽器の特徴を理解し、合奏を楽しむ。 ・ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌や、クリスマスの曲などのアンサンブルを楽しむ。		
到達目標	・ピアノ初心者の方はテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅠまでと「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の赤字の曲10曲を弾けることを目標にする。それ以外の方は、ステップⅡまでと、「2年間で必ず弾いてほしい曲」(一覧表)の中の赤字の曲20曲を弾けることを目標にする。 ・様々な楽器(簡易楽器やハンドベルなど)の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。 ・正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌う。 ・季節や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	授業の前後や放課後		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1 クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を 45 分ずつ受講する。			
1	ガイダンス (授業内容、楽譜の説明、個々の練習曲の選択) クラス分け	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典① 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典② 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典③ 季節の歌・手遊び歌・子どもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典④ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑤ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑥ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑦ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑧ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑨ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑩ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑪ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑫ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑬ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 3 0 分行う。	
15	まとめ		
テキスト	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)、『母とおさなごの歌』(全音楽譜出版社)、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科 目 名	こどもの音楽B	担当者	佐藤眞由子、山田朗子、柏屋千秋、 田代友美
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕1 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	演奏技術(50%)、授業に対する姿勢(50%)		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノレッスン活動記録用紙、講義活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目 的	・「こどもの音楽 A」と同様に、音楽を通じて保育現場で生かせる以下のような実践力を身につけることを目的とする。 ・音楽の基礎理論を理解し、楽譜を読めるようにする。 ・こどもの歌、季節の歌を歌うことによって、表現する楽しさを体験させる。 ・手遊び歌、手合わせ歌を覚え、子どもにわかりやすく、表情豊かに歌う。 ・ミサ曲・合唱曲等の歌唱を通して、アンサンブルをする楽しさを味わう。 ・簡易楽器の奏法を確実に習得し、様々な楽器の特徴を理解し、合奏を楽しむ。 ・ミュージックベル・トーンチャイム・ハンドベルの奏法を習得し、子どもの歌や、クリスマスの曲などのアンサンブルを楽しむ。		
到達目標	・初級の人にはテキスト『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』のステップⅡまでと、「2 年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の赤字の曲を 20 曲弾けることを目標とする。 それ以外の人には、ステップⅢまでと、「2 年間で必ず弾いてほしい曲」（一覧表）の中の赤字の曲をすべて弾けることを目標とする。 ・様々な楽器（簡易楽器やハンドベルなど）の特徴を理解し、奏法を習得し、楽しく演奏できる。 ・正しい音程・発声・発音・リズム・ハーモニーで、子どもの歌・季節の歌・ミサ曲・合唱曲を意欲的に楽しんで歌う。 ・季節や子どもの年齢に応じた手遊びを覚え、表情豊かに歌うことができる。		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	授業の前後や放課後		
授業計画		準備学習(予習・復習)の内容および、 時間	
1 クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を 45 分ずつ受講する。			
1	ガイダンス（授業内容、個々の楽譜、練習曲の選択）クラス分け	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑭ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑮ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑯ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑰ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑱ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑲ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典⑳ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉑ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉒ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉓ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉔ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉕ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：楽典㉖ 季節の歌・手遊び歌・こどもの歌・合奏・合唱	ピアノの練習を毎日 30 分行う。	
15	まとめ		
テキスト	『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』（ドレミ楽譜出版社）、『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社）、神原雅之・鈴木恵津子編著『幼児のための音楽教育』（教育芸術社）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	保育実習指導Ⅰ		担当者	畠山君子、石井美和子	
区 分 等	1年次・通年〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻				
評 価 基 準	指導内容の理解（50%）、課題（30%）、実習のまとめと発表（20%）。				
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをして学生にフィードバックする。				
目 的	保育実習の意義・目的・実習内容を学び自らの実習の課題を明確にする力を養う。 実習施設における子どもの生活を学び人権や子どもの最善の利益、プライバシーの保護、 守秘義務の遵守を理解する力を養う。 実習に向けて事前指導により、保育の知識や技術を身につける。				
到 達 目 標	実習の意義や目的・内容を理解し、保育者としての使命感や倫理観が身につく。 実習を通して守秘義務などの理解がより深まる。 実習において技術や知識を活かして実践する力が身につく				
履修上の注意	夏休課題:エプロンシアターの作成。				
オフィスアワー	木曜日 16時20分～16時50分				
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	オリエンテーション		実習する保育所の理解を深める。配付資料の整理をする。 作成した保育教材を保育の中で行えるように自主練習をする。（1時間）		
2	実習の概要		テキストPart1-1を読む。（1時間）		
3	実習の内容		テキストPart1-3を読む。（1時間）		
4	実習の内容（施設）		テキストPart1-1・2を読む。（1時間）		
5	実習の心構え（施設）		テキストPart1-4・5を読む。（1時間）		
6	実技指導①絵本・素話など		テキストPart1-11を読む。課題に取り組む。（1時間）		
7	実技指導②壁面製作		教材研究に取り組む。（1時間）		
8	部分指導案の作成（施設）		テキストPart2-5を読む。課題に取り組む。（1時間）		
9	実技指導③模擬保育		教材研究に取り組む。課題に取り組む。（1時間）		
10	エプロンシアターについて		エプロンシアターについて事前学習する。（1時間）		
11	エプロンシアターの原案作成		エプロンシアターについて事前学習する。（1時間）		
12	エプロンシアター製作		製作の仕方を理解して準備をする。（1時間）		
13	実習に必要な準備や手続き（施設）		テキストPart2-1・2を読む。（1時間）		
14	児童福祉施設の理解（施設）		テキストPart2-1・2を読む。（1時間）		
15	実習する施設の概要と理解（施設）		テキストPart2-1・2を読む。（1時間）		
16	実習の概要と書類の準備（保育所）		テキストPart1-6・7・8を読む。（1時間）		
17	実技指導①：エプロンシアターを演じる		事前に練習をする（1時間）		
18	実技指導②：エプロンシアターを演じる		事前に練習をする（1時間）		
19	オリエンテーション		テキストPart1-8・9を読む。（1時間）		
20	オリエンテーションのまとめ		テキストPart1-8・9を読む。（1時間）		
21	実習日誌の書き方①目標・概要		テキストPart2-4・5を読む。（1時間）		
22	実習日誌の書き方②日の記録		テキストPart2-4・5を読む。（1時間）		
23	実習日誌の書き方③所感（施設）		テキストPart2-3を読む。（1時間）		
24	実習日誌の書き方④課題・まとめ		テキストPart2-4・5を読む。（1時間）		
25	実習にあたっての諸注意・確認		実習の手引きを読む。（1時間）		
26	手作り絵本「自己紹介絵本」の作成		手作り絵本について事前学習と必要な準備をする。（1.5時間）		
27	手作り絵本「自己紹介絵本」の作成		手作り絵本について事前学習と必要な準備をする。（1.5時間）		
28	実習後の自己評価とまとめ。礼状の書き方		テキストPart3-1・2を読む。指示された課題に取り組む。（1.5時間）		
29	実習の共有		実習後の整理、発表（まとめ・課題）内容準備する。（1時間）		
30	評価に基づく個別面接		日誌・自己評価記入表		
テキスト	小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子著『幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』（わかば社） 聖霊女子短期大学『保育実習の手引き』				
指定図書	あり（巻末参照）。				

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：保育士を経て園長として保育園勤務（畠山君子）、保育士として保育園勤務（石井美和子）

教育内容：実習の計画、観察、記録に関する指導や教材準備、保育実技などの知識や技術の指導を行い実践的な指導力を身につける。

科目名	保育実習ⅠA	担当者	畠山君子、石井美和子
区分等	1年次・後期 [実習] 2単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	実習評価(50%)、実習日誌の書き方(40%)、実習のまとめと発表(10%)。		
課題に対するフィードバック	必要に応じて随時アドバイスをする。		
目的	実習を通して保育所の役割や保育士としての職務を理解する力を養う 子どもとののかかわりを通して子どもの姿や発達を理解し実践力が身に付く。		
到達目標	保育所の役割や機能、保育士の職務内容について理解が深まる。 実習において実践的を通して、子どもや保育についてより具体的に理解できるようになる。 体験的学習を通して部分指導計画書の作成の仕方がより理解でき、実践力が身に付く。		
履修上の注意	事前指導の内容を繰り返し確認し身に付くようにする。		
オフィスアワー	木曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実習期間 12月下旬に10日間（80時間） 実習内容 配属クラスにおいて観察・参加実習を行う。 保育を通して子どもの発達や保育者の役割、援助の方法など、実践を通して学ぶ。 実習日誌（日の記録）を通して子ども理解を深める。		「保育実習の手引き」を読み実習の心構えを持つ 実習における自己課題をしっかりと持つ。 実習開始までに子どもの発達を理解する。 健康的な生活を心がけ健康管理をしっかりと行う。 学生間においては特にマナーや言葉遣いに気をつけて生活をする。	
テキスト	小櫃智子、守巧、佐藤恵、小山朝子著『幼稚園・保育園・認定こども園実習パーフェクトガイド』（わかば社） 厚生労働省著、『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 聖霊女子短期大学『保育実習の手引き』		
指定図書	なし。		

科 目 名	保育実習ⅠB	担当者	畠山君子、石井美和子
区 分 等	2年次・前期 [実習] 2単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	実習評価（50%）、実習日誌の内容（40%）、実習報告（10%）。		
課題に対するフィードバック	必要に応じて随時アドバイスや提案をする。		
目 的	福祉施設についてより理解を深めることができるような力を養う。 施設における養護を学び、子どもにとって必要な支援する力を養う。 施設におけるプライバシーの保護や、守秘義務の遵守について理解する。		
到 達 目 標	施設の内容・機能の概要を具体的に学び、理解できる。 施設における子どもの生活と保育士の援助やかかわりなどを総合的に学び実践力が身に付く。 保育士の業務内容や職業倫理と子どもの最善の利益について学び実践できるようになる。		
履修上の注意	事前指導の内容を確認すること。		
オフィスアワー	木曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実習段階：観察・参加実習 実習期間：Ⅰ班 6月上旬から6月中旬。 Ⅱ班 7月下旬から8月上旬。 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において、実践や記録を通して施設の理解を深める。		実習グループで実習先施設の理解を共有する。 実習の手引きを読み「実習に対しての心構え」を持つ。 実習施設に応じて、課題や実践の準備を行う。	
テキスト	守巧・小櫃智子・二宮祐子・佐藤恵著『施設実習パーフェクトガイド』（わかば社） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 聖霊女子短期大学『施設実習の手引き』		
指定図書	なし。		

科 目 名		教職概論（幼稚園・保育所）	担当者	藤田洋子
区 分 等		1 年次・前期〔講義〕2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準		定期試験、主体的な演習（70%）、履修カード、授業参加態度（30%）		
課題に対するフィードバック		随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。		
目 的		教職の意義、幼稚園教諭及び保育者の役割、職務内容などの理解を図るとともに、職業への尊さを知り意欲の高まりに繋ぐ。また、学生一人一人の主体的・対話的な学びのもと、教職員の協働の必要性を認識するとともに、保護者・地域・小学校・専門家・専門機関との連携及びチーム対応における重要性和必要性について、実践と結びついた理解を深める。		
到達目標		①公教育の性質を有する幼児教育の目的や目標を認識するとともに、幼稚園教諭・保育士・保育教諭としての職務の普遍的な重要性を理解することができる。 ②教職員の協働や専門家及び専門機関等との連携及び必要性について理解する。 ③幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性について理解することができる。 ④求められる資質能力について理解を深めるとともに、実践的指導力の基礎を学び、教職や保育職に対する意思や意欲を高めることができる。		
履修上の注意		保育者（幼稚園教諭・保育教諭・保育士）への夢を強く持ち将来に向けて進むようにする。		
オフィスアワー		火曜日～木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション：「保育者への扉を開けよう」 保育者になるということ・子どもの目から見る保育者		保育者になりたいと思う理由を整理しておく。 授業の学びを継続的に活かせるように記録を視覚的にわかりやすくまとめる。（1 時間）	
2	幼児教育の現状 ・幼稚園教諭・保育教諭・保育士の制度的位置づけ		教育基本法第 1 条と第 2 条に掲げる目標及び、幼稚園教育要領の第 1 章総則第 1 幼稚園教育の基本を熟読する。 全国倫理綱領を熟読する。（1 時間）	
3	環境を通して行う教育		幼稚園教育要領の「総則」を熟読する。（解説を含む） （1 時間）	
4	保育者の仕事と役割 ・養護的・教育的なかわり、保護者・家庭・地域との連携		幼稚園教育要領の該当箇所を熟読する。（1 時間）	
5	保育者の仕事と役割 ・保育者の 1 日・1 年と役割や行事における仕事		ICT などを活用して調べる。（1 時間）	
6	保育者に求められる資質・能力 ・現代の保育者に期待される資質・学生時代に学ぶことは何か		幼稚園教育要領の該当箇所を熟読する。 ICT などを活用して調べ整理する。（1 時間）	
7	グループ活動（子どもの思いや学びを感じる）		仲間との語り合いから学んだことを整理する。（1 時間）	
8	保育者に求められる専門性 ・グループ活動（保育を構想する力）		課題となる絵本を読み内容を理解してする。（1 時間） グループ活動における多様な見方、考え方を整理する。	
9	保育者に求められる専門性 ・グループ活動（保育を構想する力）		課題となる絵本を読み内容を理解する。（1 時間） グループ活動における多様な見方、考え方を整理する。	
10	グループ活動（発表） ・得意分野が生かされた教職員チームの協働のあり方と必要性		教師の語り合いが、なぜ大切なのか考えを整理する。 （1 時間）	
11	保育者の専門的成長 ・キャリアステージに応じた研修、カリキュラムマネジメント等		幼稚園教育要領第 1 章総則第 3・6 を熟読する。 （1 時間）	
12	グループ活動 ・諸課題に対応するための専門機関等との連携のあり方と必要性		どのような専門機関があるのか、問いを見出しながら調べる。 （1 時間）	
13	幼児期に育成すべき資質・能力 ・幼児期の具体的な姿を通した資質・能力		幼稚園教育要領第 1 章総則を熟読する。（1 時間）	
14	子どものより良い成長のために求められる連携 ・保護者、小学校、地域社会との連携		幼稚園教育要領第 1 章総則を熟読する。（1 時間）	
15	ある新人保育者からの手紙 ・目指す保育者に向けた自己課題や目標の明確化		振り返りながら記録を整理する。（1 時間）	
テキスト		『幼稚園教育要領および解説』（フレーベル館） 『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（フレーベル館）		
指定図書		なし。		

科 目 名	幼稚園教育実習指導（1年次）		担当者	藤田洋子
区 分 等	1年次・2年次〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	課題（70%）、授業参加態度（30%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目 的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項の理解を深める力を養う。 1年次の実習を考察しながら必要となる実践力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解を深める力を養う。			
到 達 目 標	①教育実習Ⅰ・Ⅱの意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌・指導案の意義や役割を把握することができる。 ③実習Ⅰに参加するために必要な知識や技能を身に付けることができる。 ④責任実習に必要な実践力を身につけることができる。			
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	1年次 幼稚園教育実習の意義や目的について学ぶ。	幼稚園教育要領を読んでおく。 (1時間)		
2	教育実習の概要について学ぶ。 ー幼稚園・認定こども園ー	幼稚園のホームページをみて概要をとらえる。 (1時間)		
3	教育実習に対する心構えについて学ぶ	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。 (1時間)		
4	観察・参加実習について学ぶ	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。 (1時間)		
5	子どもの発達過程を学ぶ	日常的に子どもの姿の実際に関心持ち調べる。 (1時間)		
6	子どもの発達過程を学ぶ	日常的に子どもの姿の実際に関心持ち調べる。 (1時間)		
7	実習準備をする。 ー実習オリエンテーション・必要書類ー	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。 (1時間)		
8	実習に関する個別的課題を考える。	実習に向け自己課題を考える。 (1時間)		
9	実習日誌の書き方を学ぶ ー実習日誌に沿って・エピソード記録ー	子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を写真などから予想して記録する。 (1時間)		
10	実習日誌の書き方を学ぶ ー実習日誌に沿って・エピソード記録ー			
11	実習日誌の書き方を学ぶ ー実習日誌に沿って・エピソード記録ー			
12	実習を振り返る。 ー実習の評価・実習体験の共有ー	実習に関する課題と成果を整理する。 (1時間)		
13	実習を振り返る。 ー実習の評価・実習体験の共有ー	2年次の実習に繋げるためにまとめを工夫する。 (1時間)		
14	実習を振り返る。 ー実習の評価・実習体験の共有ー	2年次の実習に繋げるためにまとめを工夫する。 (1時間)		
テキスト	「幼稚園教育要領」及び解説（フレーベル館）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説（フレーベル館）			
指定図書	なし			

科 目 名	幼稚園教育実習指導（2年次）		担当者	藤田洋子
区 分 等	1年次・2年次〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	課題（70%）、授業参加態度（30%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目 的	幼稚園教育実習に臨むにあたり必要とされる基本的事項の理解を深める力を養う。 1年次の実習を考察しながら必要となる実践力を養う。 今後の課題を見出しながら教育者・保育者として必要となる事柄を習得するための力を養う。 各自の体験を他の学生とも共有し合い、幼児教育にあたって必要な環境構成や援助のあり方について理解を深める力を養う。			
到 達 目 標	①教育実習Ⅰ・Ⅱの意義や目的をよく理解することができる。 ②実習日誌・指導案の意義や役割を把握することができる。 ③実習Ⅰに参加するために必要な知識や技能を身に付けることができる。 ④責任実習に必要な実践力を身につけることができる。			
履修上の注意	実習に向けて自ら学ぶ姿勢をしっかりと持つこと。幼稚園実習のための指導なので、欠課した場合は必ず担当者のところに行き、指導を受けること。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
15	2年次 実習Ⅰの振り返りと教育実習Ⅱについて理解する。	『幼稚園教育実習の手引き』を理解する。 (1時間)		
16	幼児の発達過程・遊び環境を学ぶ。	教育要領「領域」・「育ってほしい10の姿」を熟読する。 (1時間)		
17	幼児の発達過程・遊び環境を学ぶ。	教育要領「領域」・「育ってほしい10の姿」を熟読する。 (1時間)		
18	部分実習と責任実習を学ぶ。	2019版幼稚園教育実習報告会資料を熟読する。 (1時間)		
19	部分実習に関する実践を学ぶ。	実践内容を考える。 (2時間)		
20	責任実習に関する実践を学ぶ。	実践内容を考える。 (2時間)		
21	実習に関する個別的課題を考える。	実習に向け自己課題を具体的に考える。(1時間)		
22	実習に必要な教材研究と準備をする。	指導案の実践に必要な教材を考える。(1時間)		
23	実習に必要な教材を準備する。	指導案の実践に必要な教材を考える。(1時間)		
24	指導案の書き方を学ぶ。－実習指導案の作成	指導案の必要性を自学する。(1.5時間)		
25	指導案の書き方を学ぶ。－実習指導案の作成	作成した指導案を振り返り見直す。(1.5時間)		
26	指導案の書き方を学ぶ。－実習指導案の作成	作成した指導案を振り返り見直す。(1時間)		
27	教育実習の自己課題について学ぶ。	実習に関する自己課題を整理する。(1時間)		
28	教育実習を振り返る。－実習のまとめ・自己評価－	実習内容を振り返り整理する。(1時間)		
29	教育実習を振り返る。－実習体験の共有と今後の学び－	学生同士の学び合いを自己課題や成果につなげる。 (1時間)		
30	就職への心構えや内定を受けてからについて学ぶ。	実習の成果や反省を今後の生活に活かせるよう整理する。 (1時間)		
テキスト	「幼稚園教育要領」及び解説（フレーベル館）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説（フレーベル館）			
指定図書	なし			

科 目 名	幼稚園教育実習		担当者	藤田洋子
区 分 等	1 年次・後期、2 年次・後期 [実習] 4 単位		選択／生活こども専攻	
評 価 基 準	実習評価、実習日誌記録、実習目標達成度 (100%)			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目 的	幼稚園教諭、保育教諭としての職務を理解すること。 教育・保育現場での実践を通して必要な資質・能力及び実践力を身につけること。			
到 達 目 標	1 年次の実習 ① 幼児の遊びや生活及び教育や保育の実際を理解することができる。 ② 学習で学んだ知識や技能を基盤に、意欲的に教育実習を行うことができる。			
	2 年次の実習 ① 学習で学んだ知識や技能を活かしながら幼児の思いに沿った関わりができる。 ② 教育や保育を試み、幼稚園教諭としての、資質・能力の基礎を体得することができる。			
履修上の注意	普段から品位ある行動とマナーを心がけること。 事前指導の内容を確認すること。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16 時 20 分～17 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
	『1 年次実習』 ① 実習期間 9 月中旬：2 週間 ② 実習計画 ・配属クラスにおいて、観察実習及び参加実習を行う。 ・実習において、子ども・保育者・自分の視点で、いつ・どんな場面で・どうして・どんなことを・どのようにしていたか・その事実の意味をどう考えたか、の一連を記録する。 ・教育や保育後の準備、清掃、園業務などを体験する。		・詳細については教育実習の手引きや資料を繰り返し読む。 ・毎日の実習を振り返り、翌日の準備をする。	
	『2 年次実習』 ① 実習期間 10 月下旬：2 週間 ② 実習計画 ・配属クラスにおいて、教育や保育を行う。 ・指導案や教材等を作成し、それを基に教育や保育を試みる。 部分実習、責任実習 ・教育や保育を振り返り、幼児観、保育観、教材観を形成する。		・詳細については教育実習の手引きや資料を繰り返し読む。 ・毎日の実習を振り返り、翌日の準備をすること。	
テキスト	幼稚園教育実習の手引き			
指定図書	なし			

科 目 名	人間関係論	担当者	大曾基宣
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	到達目標 1・2：レポートおよびシャトルカードにより評価する。(80%) 到達目標 3：授業中の取り組み姿勢により評価する。(20%)		
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。		
目 的	人間関係構築に関わる知識と技術、集団における人間関係のあり方についての基本的知識の習得および対人関係能力の向上を目的とする。		
到 達 目 標	1. 人間関係構築に関わる基本的知識を身につける。 2. 基礎的なコミュニケーション・スキルを身につける。 3. 他者を受け入れ、他者の感情に寄り添う態度をとることができる。		
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。		
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	自己理解：自己概念の確認	第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	他者理解：多様な価値観の受容	第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
3	他者理解と自己理解 〔視聴覚教材 映画「遠い空の向こうに」編集版〕	第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
4	ストレス・マネジメントの概要	第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
5	ストレス・マネジメントの実践	第5回の学習内容の振り返り、 ストレス・マネジメントの実践・記録（2時間）	
6	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
7	共感と思いやりを意識したコミュニケーション	第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
8	傾聴を意識したコミュニケーション	第8回の学習内容の振り返り、 第9回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
9	アサーションを意識したコミュニケーション	第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
10	合意形成のプロセスとワーク	第10回の学習内容の振り返り、 第11回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
11	職場における人間関係	第11回の学習内容の振り返り、 第12回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
12	学校におけるクラス集団の理解	第12回の学習内容の振り返り、 第13回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
13	いじめを取り巻く人間関係	第13回の学習内容の振り返り、 第14回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
14	いじめ問題への支援 〔視聴覚教材 映画「青い鳥」編集版〕	第14回の学習内容の振り返り、 第15回で学習予定の配付資料内容の確認（2時間）	
15	人間関係に関する基礎知識の言語化	第15回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	なし。		
指定図書	なし。		

科 目 名	社会福祉	担当者	米谷恭一
区 分 等	2年次・後期 [講義] 2単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	① 定期試験 (80%) ②授業への積極的な参加及び随時のレポート提出 (20%)		
課題に対するフィードバック	随時のレポートに対しては、コメントをつけて返却する。		
目 的	現代社会における社会福祉の意義と役割について理解し、社会福祉の中で保育の位置づけを学び、実践を深める基礎を養う。		
到 達 目 標	①社会福祉の意義と理念及び社会福祉制度全般を知ることができる。 ②社会福祉をめぐる背景と人々の生活課題を発見する力を身につける。 ③保育実践の中で社会福祉を広く理解した内容を生かせることを目指す。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	社会福祉の概念と理念	社会課題学習のため、配布資料を読み授業の理解を深め、社会への興味を深め広げる。	
2	こども家庭の支援と社会福祉	〃	
3	社会福祉の制度と体系	〃	
4	社会福祉の実施機関と従事者	〃	
5	社会福祉の専門職と役割	〃	
6	社会保障制度、特に所得保障・医療保障・雇用保険・労働災害	〃	
7	相談援助の理論	〃	
8	相談援助の理論と技術（1）	〃	
9	相談援助の理論と技術（2）	〃	
10	社会福祉の機能とプロセス	〃	
11	権利擁護と利用者保護とそのしくみ	〃	
12	少子高齢化と子育て支援	〃	
13	共生社会と障がい者福祉	〃	
14	社会的包摂と地域福祉	〃	
15	日本の福祉、世界の福祉	〃	
テキスト	『新・基本保育シリーズ 社会福祉』（中央法規）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	こども家庭福祉	担当者	落合晶子
区 分 等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修／生活こども専攻		
評 価 基 準	①小テスト (70%) ②レポート (20%) ③受講態度 (グループ発表を含む) (10%)		
課題に対するフィードバック	ニュース発表への感想・助言		
目 的	①保育の対象となる子どもたちを取り巻く状況 (家庭、社会等) に関心を持ち、理解を進める。 ②保育士の働く場 (施設等) について理解する。 ③子どもと家庭に関わる諸制度について理解する。		
到 達 目 標	子どもと家庭を取り巻く状況や福祉サービスについての知識を持って、子どもや家庭をサポートしていく保育者を目指す。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	授業終了後 10 分		
授業計画		準備学習 (予習・復習) の内容および、時間	
1	児童と家庭を取り巻く状況	社会で問題となっている「子ども」「家庭」に関するニュースに関心を持ち対応について考える。毎時間発表。	
2	子どもの権利	〃	
3	保育サービス	〃	
4	子どもの虐待防止とその対応	〃	
5	ドメスティックバイオレンス	〃	
6	母子保健サービス	〃	
7	ひとり親家庭への福祉	〃	
8	社会的養護	〃	
9	障がいのある子どもの福祉	〃	
10	情緒障害・少年非行問題	〃	
11	子育て支援サービス	〃	
12	児童家庭福祉の制度と法体系	〃	
13	児童家庭福祉行政と実施機関	〃	
14	児童家庭福祉の専門職と連携	〃	
15	まとめ		
テキスト	学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 『保育と児童家庭福祉第2版』		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科 目 名	こども家庭支援論		担当者	畠山君子
区 分 等	2年次・前期 [講義] 2単位 必修／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期試験（50%）、課題レポート（30%）、ノート提出（20%）			
課題に対するフィードバック	レポートなどの課題については随時コメントをつけて返却する。			
目 的	現代の子育て家庭の現状を理解し、子育て家庭に対する支援の考え方、方法、課題について考察する。子どもの発達・成長を支援する専門職である保育士として期待されている家庭支援に関する専門性について学びを深め実践する力を養う。 特に子育て家庭のニーズを理解し、他機関・多職種との連携を図ることや多様な支援が必要なことを認識して支援体制の在り方について理解する。			
到達目標	子育て家庭に対して保育士が行う支援の意義や役割について理解することで受容的気持ちを構築し実践できるようになる。 保育士による子ども家庭支援の基本について理解することにより、保護者への共感的態度を持って実践できる力が身に付く。 子育て家庭の現状について理解することにより、積極的に実践する力が身に付く。			
履修上の注意	グループワークは積極的に参加する。			
オフィスアワー	木曜日 16時 20～16時 50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 授業概要の説明		テキストと保育所保育指針を読む	
2	子ども家庭支援の意義と必要性 家族を取り巻く社会の変化		テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
3	子ども家庭支援の目標と機能 子ども家庭支援の意義と目標・原則		テキストと保育所指針を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
4	子ども家庭支援における保育士等の役割 社会の変化と保育士の専門性から求められる子育て家庭への支援		テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
5	保育士に求められる基本的態度 保育士と保護者の協働、バイステックの7原則		テキストと保育所保育指針を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
6	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援と子ども理解、保護者理解の視点		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
7	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係の構築		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
8	家庭の状況に応じた支援 子どもの発達に応じた支援		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
9	地域の活用と関係諸機関との連携協力 子どもや子育て家庭の支援を行う機関		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
10	子育て家庭の福祉を図るための社会資源とその役割 保護者・家庭・地域と連携した子育て支援		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
11	子ども家庭支援の内容と対象 個別・地域・環境を通じた支援		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
12	保育所等利用児童の家庭支援 保育所における支援の実際		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
13	地域の子育て家庭への支援 地域の中で子どもを育てる		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
14	要保護児童及びその家庭に対する支援 障害や慢性疾患を持つ保護者への対応		テキストと保育所保育指針解説を読み、ノートの整理と確認をする。（1時間）	
15	「ママたちは非常事態」のDVDを見て考察する		これまでの復習をする（1時間）	
テキスト	松村和子編著『シードブック 子ども家庭支援論』（建帛社） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 谷田貝公昭編集代表『新版 保育用語辞典』（一藝社）			
指定図書	なし。			

科目名	こども家庭支援の心理学		担当者	織田栄子
区分等	2年次・前期〔講義〕2単位 選択／生活こども専攻			
評価基準	定期試験でのテスト（30%）、授業で実施する課題作成（20%）、提出物（20%）、受講態度（30%）。			
課題に対するフィードバック	提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	生まれてから死ぬまでの人間の一生涯の発達の特徴を踏まえ、ライフコースを概観する。そのうえで、人間を取り巻く環境と個の特徴、特に、子どもと家族との関係性や子どもの心の問題についての理解を深めながら対応方法を身に付ける。			
到達目標	①子どもと家族との関係性について、子どもの視点、家族の視点、それぞれから理解できる。 ②子どもと家族の発達の特徴を踏まえたライフコースという視点から、子どもの心の問題、家族の問題について理解し、対応方法を考えることができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 乳幼児期から幼児期の発達の特徴		授業に関連した文献を読んでおく（1時間）	
2	学童期の発達の特徴		ノートの整理と確認（1時間）	
3	思春期から青年期の発達の特徴		ノートの整理と確認（1時間）	
4	成人期から高齢期の発達の特徴		1～4回までの授業の復習（1時間）	
5	家族システムと家族発達		ノートの整理と確認（1時間）	
6	親としての養育スタイルの形成と世代間伝達		ノートの整理と確認（1時間）	
7	子育て環境の社会状況的变化 ライフコースとワーク・ライフ・バランス		ノートの整理と確認（1時間）	
8	多様な子育て家庭への支援1 ・多様な家庭における子どもとは ・中間まとめと解説		5～8回までの授業の復習、及び2冊以上「子育て家庭への支援」に関連する参考文献を読み、要点をまとめる（2時間）	
9	多様な子育て家庭への支援2 ・多様な家庭における子どもへの対応		ノートの整理と確認（1時間）	
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援1 ・特別な配慮が必要な家庭とは		ノートの整理と確認（1時間）	
11	特別な配慮を必要とする家庭への支援2 ・背景や子どもと家庭の特徴を考える		9～11回までの授業の復習（1時間）	
12	特別な配慮を必要とする家庭への支援3 ・支援方法を考える		ノートの整理と確認（1時間）	
13	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康1 ・基本的生活習慣 ・事故防止と安全確保 ・災害、事件、事故等予期せぬ事態と子どもと家族への対応		ノートの整理と確認（1時間）	
14	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康2 ・子どもの心と健康		ノートの整理と確認（1時間）	
15	障害のある子どもの理解と対応		12～15回までの授業の復習（1時間）	
テキスト	本郷一夫、神谷哲司編著『子ども家庭支援の心理学』（建帛社）			
指定図書	あり（巻末参照）			

科 目 名	こどもの理解と援助		担当者	織田栄子
区 分 等	2年次・後期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期試験でのテスト（30%）、授業で実施する課題作成（20%）、提出物（20%）、受講態度（30%）。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目 的	子どもの発達過程、及び学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴を把握する方法、また、教育的対応、及び養護的対応について、実践力を身に付ける。			
到 達 目 標	①ワークや事例検討等を通して、子どもと保護者の理解が深まることで、具体的援助方法が分かり、実践に結びつけることができる。 ②子どもと保護者を理解する過程を通し、保育者となる自分自身を振り返ることで、保育者としての態度や基本的考え方が分かる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義		授業に関連した文献を読んでおく（1時間）	
2	子どもに対するかかわり方と共感的理解 1 ・保育者となる自分自身の特徴を知る		ノートの整理と確認（1時間）	
3	子どもに対するかかわり方と共感的理解 2 ・共感的理解とは何か		1～3回までの授業の復習（1時間）	
4	子どもを理解する視点 1 ・子どもの生活や遊び、保育の人的環境としての保育者と子どもの発達（グループワーク）		ノートの整理と確認（1時間）	
5	子どもを理解する視点 2 ・子ども相互のかかわりと関係づくり ・集団における経験と育ち ・発達における葛藤やつまずき、		ノートの整理と確認（1時間）	
6	子どもを理解する視点 3 ・保育の環境の理解と構成 ・環境の変化や移行 ・中間まとめと解説		4～6回までの授業の復習、及び2冊以上「環境の変化や移行」についての参考文献を読み、要点をまとめる（2時間）	
7	子どもを理解する方法 1 ・観察と記録		ノートの整理と確認（1時間）	
8	子どもを理解する方法 2 ・省察と評価		ノートの整理と確認（1時間）	
9	子どもを理解する方法 3 ・保護者との情報共有（事例検討）		ノートの整理と確認（1時間）	
10	子どもを理解する方法 4 ・職員間の対話（グループワーク）		7～10回までの授業の復習（1時間）	
11	子どもを理解に基づく発達援助 1 ・発達課題に応じた援助とかかわり①		ノートの整理と確認（1時間）	
12	子どもを理解に基づく発達援助 2 ・発達課題に応じた援助とかかわり② （グループワーク）		ノートの整理と確認（1時間）	
13	子ども理解に基づく発達援助 3 特別な配慮を要する子どもの理解と援助① ・子どもの特徴をつかむ		ノートの整理と確認（1時間）	
14	子ども理解に基づく発達援助 4 特別な配慮を要する子どもの理解と援助② ・周囲のかかわり方 ・発達援助の振り返り		ノートの整理と確認（1時間）	
15	発達の連続性と就学への支援		11～15回までの授業の復習（1時間）	
テキスト	なし。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	こどもの食と栄養	担当者	須磨亜沙子
区 分 等	2年次・通年〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	課題（40%） 定期試験（60%）		
課題に対するフィードバック	課題・テストを返却し解説する。		
目 的	食を通しての健全な心身の発育と小児期における好ましい食習慣の意義と必要性を理解する。保育者として保育との関連の中で、小児期に適切な食事を提供することの意義、食生活が心の健康にも影響することを理解する。		
到 達 目 標	①子どもの発育・発達の特徴、摂食機能や摂食行動を理解できるようになる。 ②各発育段階における栄養、食生活の重要性を理解できるようになる。 ③食育の演習を通して食育を計画し、実践できるようになる。 ④食生活指導及び食を通じた保護者への支援について理解できるようになる。		
履修上の注意	①調理の際は白衣またはエプロン、三角巾を着用のこと。 ②調理食材料費を徴収する。		
オフィスアワー	水曜日 9:00～10:00		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	子どもの健康と食生活の意義	テキストを読んでもくる（1時間）	
2	子どもの食生活の現状と課題	テキストを読んでもくる（1時間）	
3	子どもの心身の発達と食生活	ワークシートの整理と確認（1時間）	
4	栄養に関する基礎知識(1)	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
5	栄養に関する基礎知識(2)	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
6	子どもの食事の献立と調理法(1)	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
7	乳時期の授乳・離乳の意義と食生活	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
8	子どもの食事〔調乳・授乳〕理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
9	子どもの食事〔調乳・授乳〕調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（1時間）	
10	子どもの食事〔離乳食〕理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
11	子どもの食事〔離乳食〕調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（1時間）	
12	食育に関する指針	ワークシートの整理と確認をする（1時間）	
13	食事環境の配慮〔食育掲示物〕理論・計画	計画案：掲示物の検討をする（1時間）	
14	食事環境の配慮〔食育掲示物〕作成演習	演習内容をワークシートにまとめる（1時間）	
15	総合学習	これまでの内容の復習する（1時間）	
16	子どもの食事の献立と調理法(2)	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
17	子どもの食事〔幼児食〕理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
18	子どもの食事〔幼児食〕調理演習	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
19	子どもの食事〔おやつ〕理論・計画	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
20	子どもの食事〔おやつ〕調理演習	演習内容をワークシートにまとめる（1時間）	
21	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 食物アレルギー	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
22	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 食物アレルギー②	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
23	特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養 小児のやせ・肥満	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
24	保護者支援・地域支援	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
25	健康危機管理・緊急時対応	ワークシートをまとめて理解する（1時間）	
26	模擬食育指導 計画	食育指導案：指導の流れについて考察する（1時間）	
27	模擬食育指導 計画	食育指導案：教材について検討する（1時間）	
28	模擬食育指導の実施とまとめ	振り返りの整理と確認（1時間）	
29	模擬食育指導の実施とまとめ	振り返りの整理と確認（1時間）	
30	総合学習	これまでの復習をする（1時間）	
テキスト	太田百合子、堤 ちはる編『子どもの食と栄養 保育現場で活かせる食の基本』（羊土社）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	保育指導法		担当者	石井美和子
区 分 等	2 年次・前期 [講義] 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①定期試験（40％） ②課題提出・発表（40％） ③授業への取り組み姿勢（20％）。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案等、学生にフィードバックする。			
目 的	幼稚園教育要領に基づき、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、5 領域のねらい及び内容の関連について、情報機器及び教材の活用を実践的に学び、具体的な保育を想定した指導計画を作成する能力を身につけること。 幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて教材研究などを行い、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につけること。			
到達目標	①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本を理解している。 ②幼児期の発達をふまえ、幼稚園教育において育みたい資質能力を理解並びに全体構造を理解している。 ③幼稚園教育要領の各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を理解し保育構想に活用することができる。 ④幼稚園教育の指導計画の構想を理解し、模擬保育を行い具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ⑤幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を理解している。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 16 時 30 分～17 時 30 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション（授業の進め方） —幼稚園教育とは— —保育方法とは—		・指定図書などの実践記録の本を読んで、実践記録について学ぶ習慣をつける。 ・自分で時間を作ってボランティアを行い、幼児の理解・保育方法について自ら探究する。 ・事前に教科書を読み、予習を行う。（1 時間）	
2	「幼稚園教育要領」と保育内容 ① 保育内容に関する理解、具体的な教材を使って、環境構成を考える		・「幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。（1 時間）	
3	「幼稚園教育要領」と保育内容 ② 5 領域の趣旨や特質について		・「幼稚園教育要領」第 1 章・第 2 章を読む。（1 時間）	
4	幼稚園教育の基盤となる幼児の理解		・テキスト第 2 章を読む。（1 時間）	
5	環境を通しての教育① 環境を通しての学び		・テキスト第 5 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
6	環境を通しての教育② 環境構成の実際		・テキスト第 5 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
7	遊びを通しての指導① 幼児期の発達と遊び		・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
8	遊びを通しての指導② 幼児の遊びの展開		・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
9	遊びを通しての指導② 幼児の遊びに対する援助		・テキスト第 6 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
10	保育内容の指導法① 発達の時期に応じた指導のあり方		・テキスト第 8.9 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
11	保育内容の指導法② 協同的遊びの展開と援助		・テキスト第 9 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
12	保育内容の指導法③ 行事を生かした保育の展開		・テキスト第 7 章を読む。振り返り課題に取り組む。（1 時間）	
13	保育計画の実際（アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム）		・テキスト第 12 章を読む。（1 時間）	
14	情報機器の活用と課題 （視聴覚教材の活用法）		・テキスト第 14 章を読む。（1 時間） ・指示された課題に取り組む。（1 時間）	
15	課題発表・講評		・これまでの復習・課題をまとめて発表の練習。（2 時間）	
テキスト	保育方法・指導（大豆生田啓友、渡辺英則、編著ミネルヴァ書房） フォトランゲージで学ぶ—子どもの育ちと実習日誌・指導計画—（萌文書林） 幼稚園教育要領および解説（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	保育内容・健康		担当者	大曾基宣
区 分 等	2年次・後期〔演習〕 1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	到達目標 1：レポートの内容に基づき評価する。(30%) 到達目標 2：グループワーク、実践発表および提出物の内容に基づき評価する。(50%) 到達目標 3：シャトルカードの内容に基づき評価する。(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。			
目 的	心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する幼児の育ちを理解し、それらを踏まえて自らの保育を構想・改善できるようになることを目的とする。			
到 達 目 標	1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解し、幼児の心身の発育・発達、基本的生活習慣の獲得、運動発達、安全などに関する専門的事項について説明できる。 2. 領域「健康」に関わる幼児の育ちを理解し、遊びや生活のなかで育くまれる心情認識、思考および動き等を視野に入れた保育を構想し、具体的な指導案を作成することができる。 3. 主体的に自身の考えを述べ、他者の意見を取り入れながら、協働して取り組むことができる。			
履修上の注意	1. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション（健康の定義）		第1回の学習内容の振り返り（1時間）	
2	領域「健康」のねらい及び内容の理解－保護者の想いから考える－ 〔視聴覚教材：はなちゃんのみそ汁〕		第2回の学習内容の振り返り、 出生体重などに関する家族へのインタビュー（1時間）	
3	乳幼児の心身の発育発達		第3回の学習内容の振り返り、 幼児期の睡眠習慣などに関する家族へのインタビュー（1時間）	
4	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（生活リズム・睡眠）		第4回の学習内容の振り返り、 幼児期の食における困りごとなどに関する家族へのインタビュー（1時間）	
5	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（食習慣の形成・食育）		第5回の学習内容の振り返り、 幼児期の衣服着脱や衛生習慣における困りごとに関する家族へのインタビュー（1時間）	
6	基本的生活習慣の形成を支える環境構成と援助（衣服着脱・衛生習慣・排泄）		第6回の学習内容の振り返り、 保育者から受けた助言に関する家族へのインタビュー（1時間）	
7	基本的生活習慣の形成に関する相談支援（事例検討・プレゼンテーション）		第7回の学習内容の振り返り、 幼児期のヒヤリハットに関する家族へのインタビュー（1時間）	
8	園におけるリスクと安全管理		第8回の学習内容の振り返り、 幼児期のリスクプレイに関する家族へのインタビュー（1時間）	
9	幼児の安全教育（リスクプレイ）		第9回の学習内容の振り返り、 第10回で学習予定の配付資料の確認（1時間）	
10	散歩と安全管理（散歩・発表準備）		第10回の学習内容の振り返り、 第11回のための発表資料作成（1時間）	
11	散歩と安全管理（発表・授業内レポート作成）		第11回の学習内容の振り返り、 乳幼児期の運動発達に関する家族へのインタビュー（1時間）	
12	乳幼児の運動発達と運動遊び		第12回の学習内容の振り返り、 これまでの授業を通して学習した内容の家族との共有（1時間）	
13	多様な動きの経験を促す環境構成と援助（教材研究）		第13回の学習内容の振り返り、 第14回のための発表準備（1時間）	
14	多様な動きの経験を促す環境構成と援助（発表）		第14回の学習内容の振り返り、 第15回のための発表準備（1時間）	
15	多様な動きの経験を促す環境構成と援助（発表および相互評価）		第15回の学習内容の振り返り（1時間）	
テキスト	なし。			
指定図書	あり(巻末参照)。			

科 目 名	保育内容・環境A		担当者	畠山君子
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期テスト（50%）、観察記録、(30%)、課題（レポートなど）（20%）			
課題に対するフィードバック	観察記録や課題については適時アドバイスするなどフィードバックする。			
目 的	保育における「環境」の位置づけやねらい、内容、捉え方について『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』や事例、映像、体験を通して具体的、実践的に学ぶ。 幼児をとりまく様々な環境や、環境にかかわる力の発達について学びを深め実践力を養う。 適切な指導について実践できる力を養う。			
到 達 目 標	幼児期の特性を踏まえて、幼稚園教育の内容、方法を学び実践力が養われる。 幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、子どもが興味や関心を持てるような保育を構想することができ、指導の方法が身に付く。			
履修上の注意	自然の変化に興味や関心を持つ。植物の栽培など、グループで協力し合って行う。			
オフィスアワー	木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 幼稚園教育の基本（幼稚園教育要領について）		幼稚園教育要領/解説を読み保育内容について理解する。テキストを読み復習をする。（1時間）	
2	幼稚園教育要領から領域「環境」のねらい、内容、内容の取り扱いを及び評価		幼稚園教育要領/解説を読み保育内容について理解する。テキストを読み復習をする。（1時間）	
3	子どもを取り巻く環境 領域「環境」と子どもの育ち		幼稚園教育要領/解説を読み保育内容について理解する。テキストを読み復習をする。（1時間）	
4	幼児期の発達と「環境」とのかかわり 心が動くこと、子どもの育ちの実際		幼稚園教育要領/解説を読み保育内容について理解する。テキストを読み復習をする。（1時間）	
5	自然の美しさを感じ、動植物に触れ、植物の栽培や昆虫などの飼育の実際 準備や方法（グループワーク）		栽培や飼育の方法を調べてノートにまとめる。 （1時間）	
6	植物の栽培や昆虫などの飼育を実際 体験的に学ぶ/身近な生き物や植物 （グループワーク）		栽培や飼育の方法を調べてノートにまとめる。 （1時間）	
7	生活の中で育つ知的好奇心や探求心と保育者の役割		子どもの好奇心や探究心と環境構成の視点を考え ノートにまとめる。（1時間）	
8	生活の中で育つ文字・数量・図形などへの関心と保育者の役割		子どもと数量、図形などと環境構成の視点を考え ノートにまとめる。（1時間）	
9	生活の中で簡単な標識や文字などへの関心 決まりとしての標識、伝える手段としての文字		子どもが標識や文字などに関心を持つ環境構成の視点をノートにまとめる。（1時間）	
10	身近にある標識や文字を探し、カードを作成し 考察する		子どもが標識や文字などに関心を持つ環境構成の視点をノートにまとめる。（1時間）	
11	生活に関係の深い情報や施設に興味や関心持つ 身近にある施設などのマップをグループで作成		身近な施設の役割と社会との関係をまとめる （1時間）	
12	保育の中の情報機器の活用 栽培の取組、経過、指導の視点をまとめる		情報機器の活用方法を考える（1時間）	
13	保育の中の情報機器の活用 栽培の取組を基に指導案を作成する		指導案作成資料を準備する。（1時間）	
14	模倣保育の評価の視点を理解する 1 班 栽培の観察記録を基に模倣保育実施（情報機器）		模倣保育の評価をまとめる。（1時間）	
15	模倣保育の評価の視点を理解する 2 班 栽培の観察記録を基に模倣保育実施（情報機器）		模倣保育の評価をまとめる。（1時間）	
テキスト	榎沢良彦・入江礼子 編著『シードブック 保育内容 環境』第3版（建帛社） 文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（フレーベル館）			
指定図書	なし。			

科 目 名		保育内容・環境B	担当者	畠山君子
区 分 等		2年次・後期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準		定期試験（50％）、課題等提出（40％）、授業態度（10％）。		
課題に対するフィードバック		レポートは随時コメントをつけて返却する。		
目 的		子どもの発達の特性を理解して園や家庭での生活を理解し、より良い生活や育ちが保障される生活環境を総合的に学ぶ。特に人的環境と子どもの自主性や社会性の育ちを映像や事例を通してグループワークを中心に学び合う。また、自然環境、社会環境について目をむけ、子どもの興味や発見、地域とのかかわりを通して育つことの重要性を学ぶ。さらには自然物を利用して教材研究を行う力を養う。		
到 達 目 標		子どもの生活と環境の重要性を理解し、実践力が身に付く。 子どもの社会性や自立の課題を考えることが出来るようになる。 子どもの発達の特性を理解し、遊びを豊かに展開できる力が身に付く。		
履修上の注意		授業への積極的な参加を望む。		
オフィスアワー		木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 授業の概要の説明 季節による生活や自然の変化と気づく（年間）		事前にテキストを読む（1 時間）	
2	幼児期の発達と環境（視聴覚教材）グループワーク		グループワークの整理と確認（1 時間）	
3	幼児期の発達と環境① グループワーク －自主性と社会性の育ち・友達や大人との関係－		グループワークの整理と確認（1 時間）	
4	幼児期の発達と環境②： グループワーク －できることの喜び・子どもの生活－		グループワークの整理と確認（1 時間）	
5	幼児期の発達と環境③ グループワーク －社会性の発達・仲間関係－		グループワークの整理と確認（1 時間）	
6	日常生活の中で文化や伝統行事等に親しむ －様々な行事等と保育－		保育と伝承行事や社会的行事、園行事等の整理（1 時間）	
7	保育の中で子どもが体験する文化や伝統行事の 実際（事例検討）		保育と伝承行事や社会的行事、園行事の整理（1 時間）	
8	自然物の採取と教材としての事前準備		制作の事前準備（1 時間）	
9	教材研究①：自然物を使って制作する （制作の意図・テーマ）		必要な用具・材料などの整理と確認（1 時間）	
10	教材研究②：自然物を使って制作する （構想・イメージ）		イメージにあわせた教材の準備・確認（1 時間）	
11	教材研究③：自然物を使って制作する（工夫）		イメージにあわせた準備・確認（1 時間）	
12	情報機器の活用①：作品と制作過程を整理する		遊びの環境として、教材研究（1 時間）	
13	情報機器の活用②：作品と制作過程をまとめる		遊びの環境として、教材研究（1 時間）	
14	自然物を使って実践発表① 感想・講評 情報機器の活用：（1 グループ）		実践発表と保育を考える（1 時間）	
15	自然物を使って実践発表② 感想・まとめ 情報機器の活用（2 グループ）		実践発表のまとめレポート作成（1 時間）	
テキスト		文部科学省著『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（フレーベル館） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 内閣府・文部科学省・厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（フレーベル館）		
指定図書		なし。		

科 目 名	保育内容・言葉B		担当者	栗森 貢
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	授業への参加態度（50%）、実践的な言語表現力（50%）			
課題に対するフィードバック	課題別の実演に応じてアドバイスをし、課題レポートに必要なコメントを付して返却する。			
目 的	ことば遊びのリズムや響き体感したり、幼児期における言葉の獲得方法を理解したりして、いくつかの基本的な言葉に関する保育技法等を身に付けるようにする。			
到 達 目 標	①わらべ歌やことば遊びなど、日本語のもつリズムや響きの良さを理解し表現できる。 ②読み聞かせの基本的な知識や方法を理解し、実践的に行うことができる。			
履修上の注意	保育現場で役立つように、様々な手法を実践的に学ぼうとすること。			
オフィスアワー	月曜日～木曜日：放課後 金曜日：午後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	幼稚園教育要領に示されている言葉の領域を言語発達の視点から理解する			
2	ペープサートの良さを理解し、模擬保育をイメージしたペープサート制作の計画を立てる		お話の世界に誘うにふさわしい、ペープサートの作り方や演じ方を考える（1時間）	
3	ペープサートの効果を十分に生かせるように、小集団で工夫しながら作成する		よりよいペープサートについて、実物や資料を参考に調べる（1時間）	
4	ペープサートの効果を十分に生かせるように、部分的に実演しながら作成する		各自が知っている手遊び歌の実例の何通りかを演じて感想をもつ（1時間）	
5	ペープサートの効果を十分に生かした模擬保育を演示し、他グループの模擬保育の良さに気付く			
6	幼児が楽しむことば遊びのいろいろを知り、一通り実演する		幼児が喜びそうなことば遊びにどのようなものがあるか調べる（1時間）	
7	「早口言葉」やひらがなを使ったことば遊びの方法を知り、実演する		ことば遊びの中から数例を取り上げ、実演できるように練習する（1時間）	
8	「数え歌」や「名前の中に何がある」などのことば遊びを知り、演示できるようになる			
9	ひらがなを使うカルタ遊びの方法を知り、互いに模擬保育を提示するなどして技法を習熟する		導入段階のカルタ遊びから、遊びに慣れてきたいろいろなカルタ遊び等について実演する（1時間）	
10	「文字ビンゴ」による遊び方を知り、自作の文字ビンゴを制作する		「文字ビンゴ」を使った保育の方法を習熟する（1時間）	
11	「文字ビンゴ」と「名前の中に何がある」を使った模擬保育をする			
12	いくつかの「えかき歌」を知り、「えかき歌」を使った保育の方法を実践する			
13	パネルシアターの方法や保育場面の有効性を知り、数名で題材を決めて制作する		お話の世界に誘う、様々なパネルシアターの良さを調べる（1時間）	
14	自作のパネルシアターの演示方法を練習し、互いに発表して鑑賞し合う			
15	これまで取り扱ったことば遊びの中から選択し、模擬保育の方法で紹介し合う			
テキスト	幼稚園教育要領および解説（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	あそんで学ぶ文字・言葉（中島千恵子 執筆、黎明書房） 幼い子の文学（瀬田貞二著、中央公論社） 福沢周亮監修・藪中征代・玉瀬友美・星野美穂子編『新版 保育内容・言葉』（教育出版） 日本国語教育学会監修・福山多江子・伊澤永修・大澤洋美・生野金三編著「0～6歳児『言葉育てる』保育」（東洋館出版社）			

科 目 名	保育内容・表現（音楽B）		担当者	佐藤真由子
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	演奏技術(30%)、授業に対する姿勢(70%)。			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された表現活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。			
目 的	・劇遊びから、ミュージカルへと発展させ、総合芸術を体験させることによって、子どもたちと一緒に表現を楽しめる保育者を育てる授業を目指す。 ・ミュージカルを創り上げることによって、音楽表現を楽しむことは勿論のこと、「保育者としての必要な力」、すなわちコミュニケーション能力、自主性、問題を解決する力、協力、団結力、創造力を養う。			
到達目標	①滑舌よく話し、表情豊かにのびのびと歌うことが出来る。 ②音楽への関心・意欲を培い、演じながら歌う、踊るなどの表現によって積極性を身に付ける。 ③歌って、踊って、作って、演じてという総合芸術であるミュージカルによって、豊かな感性と表現力、創造力、感動体験、達成感を体験し、保育者としての必要な力と自信を身に付ける。			
履修上の注意	表現活動記録用紙、筆記用具、「母とおさなごの歌」、台本、歌の楽譜を持参する。			
オフィスアワー	授業の前後や放課後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス（授業内容、ミュージカルについて）		スケジュールと授業の流れの確認	
2	季節の歌、子どもの歌、手遊び 題材の理解・絵本を読む		題材の理解・内容の把握	
3	季節の歌、子どもの歌、手遊び 題材の理解・絵本を読む		題材の理解・内容の把握	
4	季節の歌、子どもの歌、手遊び 題材の理解・絵本を読む		台本の読み合せ・自分の役の理解・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作	
5	季節の歌、子どもの歌、手遊び、ミュージカルの台本の読み合せ、歌練習、大道具・小道具作り		台本の読み合せ・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
6	季節の歌、子どもの歌、手遊び、ミュージカルの台本の読み合せ、歌練習、大道具・小道具作り		台本の読み合せ・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
7	季節の歌、子どもの歌、手遊び、ミュージカルの台本の読み合せ、歌練習、大道具・小道具作り		台本の読み合せ・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
8	季節の歌、子どもの歌、手遊び、ミュージカルの台本の読み合せ、歌練習、大道具・小道具作り		台本の読み合せ・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
9	季節の歌、子どもの歌、手遊び、ミュージカルの台本の読み合せ、歌練習、大道具・小道具作り		台本の読み合せ・歌の練習。大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
10	手遊び、ミュージカルの歌練習・立ち稽古・大道具・小道具・衣装作り、セリフ練習		セリフ練習・立ち位置確認・立ち稽古・大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
11	手遊び、ミュージカルの歌練習・立ち稽古・大道具・小道具・衣装作り、セリフ練習		セリフ練習・立ち位置確認・立ち稽古・大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
12	手遊び、ミュージカルの歌練習・立ち稽古・大道具・小道具・衣装作り、セリフ練習		セリフ練習・立ち位置確認・立ち稽古・大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
13	手遊び、ミュージカルの歌練習・立ち稽古・大道具・小道具・衣装作り、セリフ練習		セリフ練習・立ち位置確認・立ち稽古・大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
14	手遊び、ミュージカルの歌練習・立ち稽古・大道具・小道具・衣装作り、セリフ練習		セリフ練習・立ち位置確認・立ち稽古・大道具制作・小道具・衣装制作・踊りの練習	
15	まとめ			
テキスト	『幼児のための音楽教育』（教育芸術社） 『母とおさなごの歌』（全音楽譜出版社） 随時プリント配付。			
指定図書	なし。			

科 目 名	特別支援教育	担当者	鈴木 徹
区 分 等	2年次・通年〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	小テスト(30%)、履修カード(30%)、受講態度(40%)		
目 的	保育・教育現場の現状を踏まえ、特別な支援を要する子どもの多様なニーズに対する理解を深めるとともに、グループディスカッション等を通し、必要な支援の在り方を具体的に考える力を培う。		
到 達 目 標	特別支援に関する保育・教育現場の現状を理解する。 特別な支援を要する子どものニーズを理解し、周囲と協力しながら主体的に適切な支援を考え、実施することができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	障害とは	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
2	特別支援教育の現状と課題	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
3	発達とは －個体能力的視点と関係発達の視点－	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
4	知的障害の特徴	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
5	知的障害のある子どもの生活①	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
6	知的障害のある子どもの生活②	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
7	グループディスカッション①	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
8	肢体不自由・病弱の子ども	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
9	視覚障害・聴覚障害のある子ども	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
10	情緒障害のある子ども	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
11	注意欠陥多動性障害のある子ども	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
12	学習障害のある子ども	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
13	自閉スペクトラム症のある子ども －認知の側面に着目して－	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
14	自閉スペクトラム症のある子どもの生活①	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
15	自閉スペクトラム症のある子どもの生活②	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
16	グループディスカッション②	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
17	行動障害への理解と対処	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
18	こだわり・常同行動・パニックの理解と対処	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
19	グループディスカッション③	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
20	アセスメント①	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
21	アセスメント②	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
22	子どもの内面と発達の機能連関	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
23	グループディスカッション④	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
24	愛着障害	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
25	児童虐待	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
26	保護者支援①	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
27	保護者支援②	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
28	グループディスカッション⑤	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
29	まとめ	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
30	まとめと小テスト	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1.5時間）。	
テキスト	適宜資料を配布する。		
指定図書	適宜推薦図書を紹介します。		

科目名	子育て支援		担当者	藤田洋子
区分等	2年次・後期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評価基準	定期試験、課題（70%）、履修カード、授業参加態度（30%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目的	保育現場における子育て支援の具体的な事例を通して、保護者や家族とともに子どもの成長の喜びを共有することの意義や、保育者に求められる支援の内容と基本的な方法、関係機関との協働や専門職との連携等も視野に入れた支援の実践を学ぶことを目的とする。			
到達目標	①保育の場や保育者に求められる支援の在り方を理解することができる。 ②実際に保育現場で見られる相談内容をもとにして、子育て支援・相談支援の基礎知識及び技術を身に付けることができる。			
履修上の注意	長期の休みを活用し、地域の子育て支援センターにおいて自主的にボランティア活動を行うこと。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16 時 20 分から 16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 子育て支援が求められる背景と制度の概要		日ごろから子どもたちや子育て家庭のニュース等に関心を持つ。 保育所保育指針の第 4 章を熟読する。（1 時間）	
2	保育の場における子育て支援について学ぶ 保育所などが行う子育て支援		保育所保育指針の第 4 章を熟読する。 子どもの権利条約を調べる。（1 時間）	
3	保護者支援と子育て支援について学ぶ 日常における継続的なかかわりを通じた保護者との信頼関係づくり		保育所保育指針の第 4 章を熟読する。（1 時間）	
4	保育者に求められている子育て支援について学ぶ 保護者支援の 10 の原則		保育所保育指針の該当箇所を熟読する。 プリントを振り返り整理する。（1 時間）	
5	保護者に対する多面的な子育て支援について学ぶ 親子で楽しむ遊び発見と魅力ある伝え方		保育所保育指針の該当箇所を熟読する。 プリントを振り返る。（1 時間）	
6	保護者に対する多面的な子育て支援について学ぶ① 親子で楽しむ遊び発見		子育て家庭を支える社会資源を調べる。 プリントを振り返り整理する。（1 時間）	
7	保護者に対する多面的な子育て支援について学ぶ② キーポイントに沿って親子で楽しむ遊びの発見と工夫		ICT などを活用して親子での遊びを調べる。	
8	保護者に対する多面的な子育て支援について学ぶ③ 調べて発見して工夫した親子で楽しむ遊びの工夫		ICT などを活用して親子での遊びを調べる。 （1 時間）	
9	保護者に対する多面的な子育て支援について学ぶ④ 調べて発見して工夫した親子で楽しむ遊びの発表		発表に向けて準備をする。（1 時間）	
10	子どもの虐待予防と対応について学ぶ 子ども虐待についての理解と保育所内等の組織的対応		ICT などを活用して児童虐待現状を調べる。 プリントを整理する。（1 時間）	
11	子どもの虐待予防と対応について学ぶ ー子ども虐待についての理解と連携機関との関わりー		ICT などを活用して児童虐待現状を調べる。 プリントを整理する。（1 時間）	
12	保護者に対する相談支援の実践を学ぶ バイステックの 7 原則・コミュニケーションスキル 子どもや保護者の状態にもとづいた相談技術のみがき		主体的に演習に参加し、活発に伝え合いができるように授業内容の振り返りをする。（1 時間）	
13	保護者に対する相談支援の実践を学ぶ 子どもや保護者の状態にもとづいた相談技術のみがき		主体的に演習に参加し、活発に伝え合いができるように授業内容の振り返りをする。（1 時間）	
14	保護者に対する相談支援の実践を学ぶ 海外に学ぶ子育て支援・多文化共生の現状		主体的に演習に参加し、活発に伝え合いができるように調べたことをまとめる。（1 時間）	
15	保育現場における子育て支援の課題と日常の保育との関連性を学ぶ。		これまでの学びを振り返り自分なりの考えを整理する。 （1 時間）	
テキスト	『保育所保育指針および解説』（フレーベル館）『幼稚園教育要領および解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（フレーベル館）			
指定図書	なし。			

目 名	こどもの英語	担当者	菅野 薫
区 分 等	2年次・後期〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	学習態度（40%）、宿題・小テスト（40%）、発表（20%）。		
課題に対するフィードバック	随時、提出課題へはフィードバックをし、返却をする。		
目 的	保育の現場で簡単な英語活動ができるようになるための知識と英語力をつける。		
到 達 目 標	学生は子どもの言語習得の過程を理解した上で、保育現場で活用できる表現やアクティビティを学び、実施できるようになる。		
履修上の注意	予習復習はもちろんのこと、授業では積極的な態度で臨んでください。 創作活動や英語の手遊び、絵本読み聞かせなどの実践的な活動を含みます。		
オフィスアワー	月・水・金曜日 12 時 15 分～13 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション・子どもの言語習得について・Unit 1	Unit1 復習、Unit2・3 予習（1 時間）	
2	Unit2・3、英語のゲーム	Unit2・3 復習、Unit4・5 予習（1 時間）	
3	Unit4・5・絵本読み聞かせ	Unit4・5 復習、Unit8 予習（1 時間）	
4	Unit6・7、英語のゲーム	単語の復習、Unit6・7 予習（1 時間）	
5	Unit8、絵本読み聞かせ	Unit8 復習、読み聞かせ練習（1 時間）	
6	読み聞かせ発表、英語の手遊び	読み聞かせ・手遊び復習、復習テスト勉強（1 時間）	
7	Unit1～8 復習テスト・解説	Unit1～8 復習、Unit9・10 予習（1 時間）	
8	Unit9・10	Unit9・10 復習、Unit 1 1 予習（1 時間）	
9	Unit11、絵本読み聞かせ	Unit11 復習、読み聞かせ練習（1 時間）	
10	絵本読み聞かせ練習、手遊び	Unit11 復習、読み聞かせ練習、Unit12 予習（1 時間）	
11	絵本読み聞かせ発表、Unit12	Unit12 復習、Unit13・14 予習（1 時間）	
12	Unit13・14、手遊び	Unit13・14 復習、手遊び練習（1 時間）	
13	Unit15、英語のゲーム	Unit15 復習、復習テスト勉強（1 時間）	
14	Unit9～15 復習テスト・解説	単語等復習（1 時間）	
15	まとめ	授業で行ってきたことの復習（1 時間）	
テキスト	Peter Vincent & Naoko Nakazato "Speaking of Childcare" (Nan'un-do)		
指定図書	あり（巻末参照）。 授業中に紹介します。		

科 目 名	鍵盤楽器奏法A	担当者	佐藤眞由子、山田朗子、阿部涼子、佐々木尚子
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	実技発表(50%)、授業に対する姿勢(50%)。		
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノ活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。		
目 的	① 幼児教育の現場や採用試験などに生かせる基本的な音楽知識とピアノ奏法の基礎技能を学ぶ。 ② こどもの歌を中心に伴奏法（コードの習得、弾き歌いの実践などをしながら保育現場での実践力をつける。		
到 達 目 標	①楽譜を読むために必要な読譜の基礎知識を詳しく学び、理解する。 ②コードを用いた伴奏法を習得し、色々な調や伴奏形で弾き歌いをできるようにする。 ③ピアノの演奏技術習得と、表現力の向上を目指す。		
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。		
オフィスアワー	授業の前後や放課後		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1 クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を45分ずつ受講する。			
1	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	楽典問題プリント宿題・ピアノ練習毎日30分。	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法	〃	
15	実技発表	ピアノレッスン室で1人ずつピアノの試験	
テキスト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1、2』（音楽之友社） 『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 『コードを覚えてピアノを弾こう』 個人個人に適した楽譜を渡す。		
指定図書	なし。		

科 目 名	鍵盤楽器奏法B		担当者	佐藤真由子、山田朗子、阿部涼子、 佐々木尚子
区 分 等	2年次・後期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	実技発表(50%)、授業に対する姿勢(50%)。			
課題に対するフィードバック	授業時に提出されたピアノ活動記録用紙には随時コメントをつけて返却する。			
目 的	①幼児教育の現場や採用試験などに生かせる音楽知識とピアノ奏法の技能や豊かな音楽表現を学ぶ。 ②弾いてみたかった曲にチャレンジし、さらに演奏技術、音楽表現を身に付ける。			
到 達 目 標	①楽譜を読むために必要な読譜の基礎知識をさらに詳しく学び、理解する。 ②コードを用いた伴奏法を確実に習得し、色々な調や伴奏形で弾き歌いをできるようにする。 ③ピアノの演奏技術習得と表現力のさらなる向上を目指す。			
履修上の注意	予習、復習を必ず行う。			
オフィスアワー	授業の前後や放課後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1 クラスを半分に分け、個人レッスンと講義を45分ずつ受講する。				
1	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		楽典問題プリント宿題・ピアノ練習毎日30分。	
2	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
3	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
4	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
5	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
6	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
7	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
8	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
9	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
10	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
11	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
12	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
13	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
14	ピアノ：個人レッスン 講義：ソルフェージュとコードを使った伴奏法		〃	
15	まとめ			
テキスト	『ブルグミュラー25の練習曲』・『ソナチネアルバム1、2』（音楽之友社） 『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 『コードを覚えてピアノを弾こう』 個人個人に適した楽譜			
指定図書	なし。			

科 目 名	教職実践演習(幼稚園・保育所)		担当者	織田栄子、藤田洋子、大曾基宜
区 分 等	2年次・後期〔演習〕2単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	発表内容・取り組み(40%)、提出物(30%)、受講態度(30%)。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目 的	卒業後幼稚園教諭・保育士として活動できるように、保育・教育の実践例を数多く知るとともに、それぞれの実践の意義と方法について詳しく学ぶ。またグループ学習を通して保育・教育実践における保育者の連携の重要性を体得し、将来の保育・教育実践力を身に付ける。			
到 達 目 標	①3名の担当教員別に学生をグループに分け、少人数指導を行う。各グループにおいて、指導案や教材作成のほか、ロールプレイングや模擬授業の発表・討論等を通して、現場での実践力を養うことを目標とする。 ②学生個々の学習状況等を把握できる「履修カルテ」の作成することで、学生が自己の学習状況を振り返り、目的を持つことで、主体的に演習に取り組むことができる。			
履修上の注意	初回の授業時に詳しく説明する。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	オリエンテーション ー授業の概要と進め方についてー 各担当教員の講義		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
2	各担当教員からの課題の確認 履修カルテの作成 グループ分け希望調査		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
A(織田) B(藤田) C(大曾)の3グループに分けて指導する				
3	(グループ別授業開始) 授業の説明、演習課題の検討		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
4	文献資料(実践記録)の収集、演習課題の検討(続き)		授業に関連した文献を読んでおく(3時間)	
5	演習課題の決定、学習計画の立案		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
6	指導案の作成1		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
7	指導案の作成2		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
8	教材の作成1		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
9	教材の作成2		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
10	模擬授業の練習1		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
11	模擬授業の練習2		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
12	模擬授業の練習3		授業に関連した文献を読んでおく(1時間)	
13	発表の準備		授業に関連した文献を読んでおく(3時間)	
(グループ別授業終了)				
14	発表と討論(各グループの発表と討論)		発表の準備と授業のまとめ(3時間)	
15	振り返り(履修カルテの作成など)と解説		これまでの授業内容の復習(3時間)	
テキスト	なし。			
指定図書	なし。			

科 目 名	保育実習指導Ⅱ A		担当者	畠山君子、石井美和子	
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻				
評 価 基 準	指導案作成・提出（30%）、実習日誌の内容（30%）、実習のまとめ（10%）、指導内容の理解（30%）。				
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスをするなど学生にフィードバックをする。				
目 的	2年次の保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び実践力を養う。 既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育士の専門的知識と技術を身に付ける。 実習の事後指導を通して、自己評価を行い、保育士を目指すための課題を明確にする。				
到 達 目 標	保育所や施設の理解を深め、目標を明確に持ち、積極的に実習に臨むことができる。 子どもの姿を読み取り、指導案を作成する力が身につく実践できる。 実習日誌の書き方や内容がより明確になり、観察力や表現力が身に付く。				
履修上の注意	欠席した場合には授業の内容を確認する。				
オフィスアワー	火曜日 16時20分～16時50分				
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	実習の理解、実習先確認、発送書類の準備		テキスト幼稚園・保育園・認定こども園実習『パーフェクトガイド』を読み実習の概要を理解する 課題に取り組む。（1時間）		
2	実習に関する心構えと諸注意		実習を振り返り、課題を明らかにする。（1時間）		
3	保育指導計画立案の考え方		テキスト Part2・3を読む。教材研究に取り組む。（1時間）		
4	保育指導計画の立案		教材研究に取り組む。課題に取り組む。（1時間）		
5	保育指導計画の立案		教材研究に取り組む。課題に取り組む。（1時間）		
6	実習日誌の書き方		テキスト Part 1を読む。課題に取り組む。（1時間）		
7	自己評価とまとめ、発送書類の準備		課題に取り組む。（1時間）		
8	実習に関する心構えと諸注意		実習を振り返り自分の課題を明らかにする。（1時間）		
9	保育指導計画立案の考え方		テキスト Part・3を読む。教材研究に取り組む。 （1時間）		
10	保育指導計画の立案		教材研究に取り組む。課題に取り組む。（1時間）		
11	保育指導計画の立案		教材研究に取り組む。課題に取り組む。（1時間）		
12	実習日誌の書き方		テキスト Part 1を読む。（1時間）		
13	保育指導計画立案		教材研究、課題に取り組む。（1時間）		
14	実習の振り返り、自己評価と課題の明確化		課題に取り組む。（1時間）		
15	実習のまとめと共有（発表）		実習のまとめと発表の準備をする。（1時間）		
テキスト	小櫃智子、守巧、佐藤恵、飯塚朝子著『実習日誌・保育所実習パーフェクトガイド』（わかば社） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（フレーベル館） 聖霊女子短期大学『施設実習の手引き』				
指定図書	なし。				

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：保育士を経て園長として保育園勤務（畠山君子）、保育士として保育園勤務（石井美和子）

教育内容：保育士の専門性と職業倫理について指導し、実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。

科 目 名	保育実習指導ⅡB		担当者	畠山君子、石井美和子
区 分 等	2年次・前期〔演習〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	授業内容の理解(30%)、実習指導計画案作成・提出(40%)、日誌の記述内容(30%)。			
課題に対するフィードバック	提出課題については適宜アドバイスをしてフィードバックする。			
目 的	実習の目的や内容を再確認し、実習に取り組む姿勢をしっかりと持ち、意欲を持って実習に臨み学びを深めるようにする。 児童福祉施設についてさらに学びを深め専門的知識や技術を実践できる力を養う。			
到 達 目 標	児童福祉施設の理解をより深め、実践に活かすことができる。 専門的知識や技術についてより理解することができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習(予習・復習)の内容および、時間	
1	実習の理解、実習先確認、発送書類の準備		施設に関する情報・や資料を収集し理解を深める。新聞やニュースなどの関連記事に関心を持って読む。(1 時間)	
2	実習に関する心構えと諸注意		テキストを読み、実習の課題を持ちノートにまとめる。(1 時間)	
3	実習施設の役割と機能		テキストを読みさらに理解を深める。(1 時間)	
4	実習目標の明確化		テキストなどで事前に現状を把握する。(1 時間)	
5	実習先とのオリエンテーション		事前に実習に必要な準備をする。(1 時間)	
6	ニーズの把握と子ども理解		各実習先によるニーズの違いを把握する。(1 時間)	
7	実践力の育成		イメージを持ち指導計画作成のための資料を準備する。(1 時間)	
8	指導計画の立案①		指導計画を立案する際のポイントを再確認する。(1 時間)	
9	指導計画の立案②		活動、教材を選ぶポイントを確認する。(1 時間)	
10	実習日誌の書き方①		実習日誌を読み返し、書き方などを確認する。(1 時間)	
11	実習日誌の書き方②		所感(考察)の書き方についてテキストで復習する。(1 時間)	
12	実習の振り返り(自己評価・まとめ・反省)		課題をまとめる。(1 時間)	
13	実習の振り返りの共有		課題をまとめる。(1 時間)	
14	実習課題の明確化		今後の学習にどのように繋いでいくのかをまとめる。(1 時間)	
15	自己評価と実習先からの評価に基づく個別指導		個別指導の内容をまとめ整理する。(1 時間)	
テキスト	守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』(わかば社) 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』(最新版)(フレーベル館)			
指定図書	なし。			

科目名	保育実習ⅡA	担当者	畠山君子、石井美和子
区分等	2年次・前期 [実習] 2単位 選択／生活こども専攻		
評価基準	実習評価（50%）、実習日誌の内容（20%）、指導計画案の作成提出（30%）。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをするなど学生にフィードバックする。		
目的	子どもの観察やかかわりの視点を明確にして、実習日誌を的確に書くことができるようにする。子どもの日々の姿を読み取り、必要な環境構成ができる力を身に付けること。 指導計画の作成の仕方を理解し実践できるようにする。 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。 自己の課題を明確にして実習に臨むようにする。		
到達目標	子どもの理解が深まり子どもへのかかわり方が身につく。 保育士としての職務や役割の理解が深まり意識をもって実習に臨む力が養われる。 一日の指導案の作成の仕方を身に付け、実際の保育を体験することでより力が身に付く。		
履修上の注意	事前指導の内容を確認すること。		
オフィスアワー	火曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実習段階：参加実習 実習期間：Ⅰ班 6月上旬から6月下旬。（10日間） Ⅱ班 7月下旬から8月上旬。（10日間） 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において実習指導担当者の指導のもとで実習を行い、子どもとのかかわり、保育士の援助、職務などを学ぶ。		・「実習の手引き」をしっかりと読む。 ・教材研究を行い、実践力を高める。 ・健康的な生活をして実習中に体調を崩すことのないようにする。	
テキスト	小櫃智子、守巧、佐藤恵、飯塚朝子著『実習日誌・保育所実習パーフェクトガイド』（わかば社） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 聖霊女子短期大学『保育実習の手引き』		
指定図書	なし。		

科 目 名	保育実習Ⅱ B	担当者	畠山君子、石井美和子
区 分 等	2年次・前期 [実習] 2単位 選択／生活こども専攻		
評 価 基 準	実習評価（50%）、指導案作成・提出（30%）、実習日誌の記述内容（20%）。		
課題に対するフィードバック	課題については随時アドバイスをするなど学生にフィードバックする。		
目 的	施設の役割、機能などの理解を深め実践力を身に付けること。 児童とのかかわりを通して養護や援助技術を習得すること。 施設保育士としての職務や役割を理解すること。		
到 達 目 標	施設についてより理解が深まり、実践力を身につける。 子どもと生活を共にして、施設の役割と機能をより深く理解し実践に結びつく。 施設における養護の理解が深まり実践できる。 施設におけるプライバシーの保護や、守秘義務の遵守の重要性について、理解でき実践できる力を身に付ける。		
履修上の注意	事前指導の内容を確認すること。		
オフィスアワー	木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実習時期：2年次 前期（10 日間/80 時間） 実習施設において事前のオリエンテーションを行う。 実習施設において指導担当者のもとで実習を行う。 実習期間中に訪問担当教員が施設を訪問し指導する。		それぞれの実習施設に応じて、課題や準備を行う。	
テキスト	守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵『施設実習パーフェクトガイド』（わかば社） 厚生労働省著『保育所保育指針および解説』（最新版）（フレーベル館） 聖霊女子短期大学『施設実習の手引き』		
指定図書	なし。		

科目名	教育制度論		担当者	佐藤光咲
区分等	2年次・後期〔講義〕1単位 選択／生活こども専攻			
評価基準	①レポート(60%) ②履修カード(20%) ③授業参加態度、演習での貢献度(20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポート等を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教育制度をめぐる課題について考察しながら、わが国の教育制度の特色や歴史的変遷とともに、チーム学校推進法の制定やその背景、学校と地域との連携について理解できるようにする。			
到達目標	教育制度に関する基礎的知識を理解するとともに、チーム学校としての新たな動きなど種々の教育課題に対する自分の考え方を論理的に説明できる。			
履修上の注意	必要に応じてグループワークを取り入れる。			
オフィスアワー	月曜日 15時～16時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	教育制度－その機能と歴史、子どもの権利条約		わが国の学校教育や幼児教育は、何に基づいて行われているか書籍やネット等をもとに調べ、考えをまとめる。(1時間) 授業のまとめと確認をする。(1時間)	
2	教育制度と法－憲法、教育基本法の理念と幼児教育		憲法で規定されている（幼児）教育を実施するためにはどんなことが必要か考えをまとめる。(1時間) 教育制度に関する法令の内容をまとめる。(1時間)	
3	教育制度と学校－学校とその設置、幼児教育の二元化（幼稚園・保育所）と認定こども園		法律で定める学校とはどういうものか、予想しまとめておく。(1時間) 学校やこども園等に関する法令の内容をまとめ確認する。(1時間)	
4	教育制度と教員（保育者）－その身分と任用、服務規程、教員評価など		教員（保育者）と会社員の違いは何か、考えをまとめておく。(1時間) 教員（保育者）の身分や服務についてまとめ確認する。(1時間)	
5	学校・こども園を支える教育行政－文部科学省と地方教育委員会、行政機関と認定こども園		教育委員会は何のためにあるのか予想しまとめておく。(1時間) 教育委員会の役割と学校、こども園との関係についてまとめ確認する。(1時間)	
6	特別の支援を必要とする幼児への対応や幼児の安全をめぐる制度 －特別支援教育、学校安全と危機管理、チーム学校、家庭・地域社会との連携		特別の支援を必要とする幼児への対応や保育をめぐる安全や危機管理には、どのようなもの考えをまとめる。(1時間) 授業の内容をまとめ確認する。(1時間)	
7	教育制度改革の動向と日本－学力の国際競争と幼児教育の無償化		全国学力テストや教育（幼児教育）の無償化の背景とその課題について考えをまとめる。(1時間) 各課題のまとめと確認をする。(1時間)	
8	わが国の幼児教育制度の課題と今後の動向 －認定こども園成立の背景としての少子化、女性労働力の活用		わが国の教育（幼児教育）制度の特色と課題について、これまでの学修を振り返り要点をまとめておく。(1時間) 教育制度をめぐる課題や動向についてまとめ、レポートの構想、執筆を行う。(3時間)	
テキスト		授業時に資料プリントを配付する。		
指定図書		幼稚園教育要領および解説（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館）		

科 目 名	教育課程総論		担当者	藤田洋子
区 分 等	2 年次・前期 [講義] 2 単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	定期試験、課題（70%）、履修カード、授業参加態度（30%）			
課題に対するフィードバック	随時アドバイスや提案するなど学生にフィードバックする。			
目 的	・改訂された幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解する力を養う。 ・教育課程の編成について理解し、教育要領と教育課程と指導計画の関連のもとで、カリキュラム・マネジメントを理解する力を養う。			
到 達 目 標	①幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の学びに主体的に取組み、理解することができる。 ②学生同士の主体的な伝え合いから、教育課程の編成や指導計画作成の理解を深めることができる。 ③カリキュラム・マネジメントの必要性や、柔軟的な取り組みを知ることができる。			
履修上の注意	常に要領・指針を読んで授業に臨むこと。			
オフィスアワー	火曜日～木曜日 16 時 20 分～16 時 50 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 幼児教育と幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		幼稚園教育要領の前文、第 1 章総則第 3 を幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第 1 章総則第 2、保育所保育指針の総則を熟読する。 (1 時間)	
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		授業を振り返り、概要をまとめる。(1 時間)	
3	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「幼児教育における見方・考え方」 ～幼児期において育みたい資質・能力の 3 つの柱～		幼稚園教育要領第 1 章総則第 2 1 と 2 を熟読する。 (1 時間)	
4	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「幼児教育における見方・考え方」 ～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10 の姿～		幼稚園教育要領第 1 総則第 2 2 と 3 を熟読する。 (1 時間)	
5	グループ活動 事例から 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を見出す。		幼稚園教育要領第 1 総則第 2 2 と 3 を熟読する。 (1 時間)	
6	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」 ～小学校との円滑な接続～ 学びを繋ぐ幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		3 と 4 の授業内容を復習する。 幼稚園教育要領第 1 章総則第 3 5 を熟読する。 (1 時間)	
7	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「幼児教育における見方・考え方」 ～主体的・対話的で 深い学びの必要性～		主体的・対話的で 深い学び（アクティブ・ラーニング）について調べる。 (1 時間)	
8	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「幼児教育における見方・考え方」 ～非認知的能力を育む重要性～ グループ活動（子どもの具体的な姿から 非認知的能力を見出す。）		自分なりに「非認知的能力」「子どもの姿に見る非認知的能力」「その重要性」について学び、主体的に伝え合うことができるように整理する。 (1 時間)	
9	キーワードで学ぶポイント・幼稚園教育要領 「教育課程・計画の作成・実施及び評価」 ～カリキュラム・マネジメントの確立～		幼稚園教育要領第 1 章総則第 3 を熟読する。 (1 時間)	
10	幼稚園教育課程・全体的な計画の役割と内容		幼稚園教育要領第 1 章総則第 3 を熟読する。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領第 1 章総則第 2 1 を熟読する。 (1.5 時間)	
11	幼稚園教育課程・全体的な計画の内容		幼稚園教育要領第 1 章総則第 3 を熟読する。 幼保連携型認定こども園教育・保育要領第 1 章総則第 2 1 を熟読する。 (1.5 時間)	
12	指導計画作成上の留意事項（グループでの学び合い）		主体的で対話的で深い学び合いにむけた予習をする。 (1 時間)	
13	指導計画の作成（保育ウェブの活用） 子どもの育ちの姿、環境構成、保育者の援助		幼児の発達過程を調べる。 前回の学びを振り返り理解する。(1 時間)	
14	指導計画の作成 子どもの育ちの姿、環境構成、保育者の援助		前回の学びを振り返り子どもの育ちの姿、環境構成、保育者の援助を深める。(1 時間)	
15	作成した指導計画の意図・内容の伝え合い		主体的・対話的で 深い学び合いができるようにシミュレーションをする。 (1 時間)	
テキスト	『幼稚園教育要領及び解説』（フレーベル館）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び解説』（フレーベル館）			
指定図書	なし			

科 目 名	教育方法論		担当者	栗森 貢、佐藤 恵	
区 分 等	2 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／生活こども専攻				
評 価 基 準	①授業に臨む積極性(30%) ②グループ作業時のコミュニケーション (20%) ③課題の完成度や模擬保育の方法 (50%)				
課題に対するフィードバック	学生の達成度に応じてアドバイスをし、発表等については学生の感想や指導者の意見をその場で伝える。				
目 的	○幼稚園教育要領に示されている保育理念を踏まえ、幼児の発達に応じた指導方法や、家庭や小学校と幼稚園との連携のあり方を身に付けること。 ○情報機器を活用して保育のねらいに合った教材を作成し、模擬保育を通して効果的な活用技術を身に付けること。				
到 達 目 標	①幼児教育における基本的な教育原理や方法を理解し、実践的に活用できるようになる。 ②情報機器を用いて幼児の興味を引きつける教材を作成し、模擬保育を通して効果的な使い方ができるようになる。				
履修上の注意	教材作成を通して、情報機器の具体的な活用に習熟すること。				
オフィスアワー	山岡：月曜日～木曜日は放課後 金曜日は午後、佐藤：金曜日の午前と放課後				
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間		
1	【1～6 回目担当：栗森貢】 ガイダンス 幼児教育の概要を知る		幼稚園教育要領を読み、概要を把握し不明な事項を整理する（2 時間）		
2	幼児教育の基礎的理論① 育むべく資質や能力について理解を深める		幼稚園教育要領や各園要覧等から、幼稚園教育の目標を調べておく（2 時間）		
3	幼児教育の基礎的理論② 多様な環境の中で育まれる幼児の成長を理解する		様々な環境が幼児の体験を豊かにし、成長を促していることを整理する（2 時間）		
4	幼児教育の基礎的理論③ 遊びの重要性を生かした保育を理解する		育てて欲しい姿と関連しながら、具体的な様々な保育場面を整理する（2 時間）		
5	情報機器を活用した教材作成の実際① ねらいに即したテーマや手法を考え、決定する		保育の領域ごとに求められている内容を確認しながら具体的な手法を整理する（2 時間）		
6	情報機器を活用した教材作成の実際② 目的に応じたストーリーや画面の基本形を作成する		ねらいや展開に応じた複数の画面を簡単なスケッチで表す（2 時間）		
7	【7～9 回目担当：佐藤恵】 情報機器を活用した教材作成の実際③ 役割分担に応じて教材を作成する		グループ内で分担した作業を進める（2 時間）		
8	情報機器を活用した教材作成の実際④ 役割分担に応じて教材を作成する		グループ内で分担した作業を進める（2 時間）		
9	情報機器を活用した教材作成の実際⑤ 作成した教材を実演をしながら修正等をする		グループ内で分担した作業を進める（2 時間）		
10	【10～15 回目担当：栗森貢】 自作教材を使用した模擬保育の実際① 前半グループの発表、感想交流、評価		保育のねらいを達成できるように、分担に応じて各自が何度もリハーサルをする（2 時間）		
11	自作教材を使用した模擬保育の実際② 後半グループの発表、感想交流、評価		自グループや他グループの発表から、よりよい模擬保育のあり方を整理する（2 時間）		
12	小学校教育との連携から主体的・対話的な保育のあり方を理解する		小学校教育と幼稚園教育との似ている点や異なっている点を整理する（2 時間）		
13	育みたい資質能力の視点で、幼児教育の評価のあり方を理解する		個々の幼児の良さを伸ばす視点で評価のあり方を整理する（2 時間）		
14	幼児の評価を生かした保護者との連携や家庭教育支援のあり方を理解する		具体的な場面を想定し、各家庭への支援に通じる方法を整理する（2 時間）		
15	評価を生かした幼児の成長記録や指導要録の役割、そしてそれらの記載方法の概要を理解する		個々の幼児の具体的な園生活を想定し、成長の足跡となるように、仮定した記録を書く（2 時間）		
テキスト	『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） 授業に使用するプリントや学習資料を配付する。				
指定図書	授業内で適宜紹介。				

科 目 名	幼児理解		担当者	佐藤光咲
区 分 等	2年次・後期〔講義〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	①レポート（60%） ②履修カード(20%) ③授業参加態度、演習での貢献度（20%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	子どもの心身の発達の特徴や諸問題について理解させるとともに、子ども一人ひとりの理解を踏まえた適切な支援方法を身に付けさせ、実践意欲を高める。			
到 達 目 標	(1)発達段階を見通した幼児理解と子どもの特性に応じた援助の重要性を説明できる。 (2)幼児教育における子どもや家庭教育へのよりよいかかわり方を理解し、実践しようとする。			
履修上の注意	テキストは必ず持参すること。必要に応じグループワークを取り入れる。			
オフィスアワー	月曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスー幼児理解の意義と目的、一般的理解と個別的理解		子ども（幼児）を理解するとはどういうことか、考えをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
2	発達とは何かー遺伝か環境か、		人の発達は遺伝によるか、その後の環境によるか考える。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
3	発達理論 1ーフロイトの理論（幼児期における人格形成への影響）、エリクソンの理論（8つの発達段階と発達課題）		フロイトやエリクソンについて、その人物像、研究業績などについて調べまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
4	発達理論 2ー幼児教育に影響を与えたピアジェとヴィゴツキーの理論		ピアジェやヴィゴツキーについて、その人物像、研究業績などについて調べまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
5	ライフサイクルと子ども臨床 1ー生涯発達、胎児期・乳児期・幼児期の特徴と心理的問題		胎児期から幼児期の特色についてテキストを読んで、その概要をまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
6	ライフサイクルと子ども臨床 2ー児童期・青年期の特徴と心理的問題		児童期から青年期の特色についてテキストを読んで、その概要をまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
7	幼児教育における幼児理解 1ー幼児教育に生きる幼児理解（理解の方法とその記録）、「理解と実践のPDCAサイクル」、実践記録の分析		保育実習で困ったこと、うれしかったことなどをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
8	幼児教育における幼児理解 2ー幼児理解を深めるカンファレンス（個と集団、保護者の心情等の視点を通した幼児理解）、実践記録の分析		保育実習のカンファレンスから学んだことをまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
テキスト	伊藤健次編著『子ども臨床とカウンセリング』（みらい） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	授業時に紹介する。			

科 目 名	教育相談		担当者	織田栄子
区 分 等	2年次・後期〔講義〕1単位 選択／生活こども専攻			
評 価 基 準	テスト(40%)、提出物(30%)、受講態度(30%)。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目 的	保育士・教員として子どもの心の問題等へ対応するために、心の問題等の捉え方、子どもや保護者への対応方法、教職員間や他機関等との連携方法を身に付ける。			
到 達 目 標	①子どもの心の問題等について、発達段階、発達課題を踏まえた臨床心理学的な捉え方ができる。 ②子どもの心の問題等に対する心理的支援方法を学び、子どもの自己理解を深め、好ましい人間関係を築き、自己成長を促す関わりができる。 ③子どもの心の問題等に、教職員間や他機関等と連携ができる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション ・教育相談とは何か ・子どもの心の問題の捉え方と臨床的なかわりについて1		授業に関連した文献を読んでおく（1時間）	
2	教育相談に生かす心理学的基礎1 ・教育相談の実際と事例検討 ・人間観、性格論、関わり方1（精神分析理論）		ノートの整理と確認（1時間）	
3	教育相談に生かす心理学的基礎2 ・人間観、性格論、関わり方2（行動理論、自己理論）		1～3回までの授業の復習（1時間）	
4	教育相談の技法1 ・カウンセリングとは（カウンセリングマインド、相談や心理療法との違い等） ・カウンセリングの領域と対象及び幼児期のカウンセリング		ノートの整理と確認（1時間）	
5	教育相談の技法2 カウンセリングの基本（ラポール、共感的理解、自己一致、無条件の肯定的配慮、受容、面接の構造と契約等）		ノートの整理と確認（1時間）	
6	教育相談の進め方 カウンセリングの過程（傾聴、主な技法、質問の仕方、転移と逆転移等）		4～6回までの授業の復習（1時間）	
7	子ども臨床と心理アセスメント ・発達段階・発達課題と子どもの心の問題（登園拒否、虐待等） ・子どもや保護者を客観的に理解する方法（面接、各種検査、行動観察等）		7回目の授業の復習（1時間）	
8	子ども臨床と心理アセスメント ・教職員間、園内体制の組織的整備、地域や他機関等との連携の仕方		これまでの授業内容の復習（2時間）	
テキスト	伊藤健次編著『子ども臨床とカウンセリング』（みらい）			
指定図書	『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領および解説』（最新版）（内閣府・文部科学省・厚生労働省著、フレーベル館） その他（巻末参照）。			

科 目 名	総合基礎（教職） A		担当者	佐藤光咲
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①授業及び授業外の取り組み（70%）、履修カード・授業内のミニ試験（30%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評、履修カードや提出物にコメントをつけて返却する。			
目 的	教職全般（栄養教諭）に関心をもち、栄養教諭として必要な基礎的、実践的な知識や技能を身に付ける。			
到 達 目 標	これまで学修した教職科目などを基に、栄養教諭として必要な基礎的、実践的な知識や技能を身につけ、将来の栄養教諭としての意欲を培う。			
履修上の注意	①栄養教諭に向けての教職科目履修者を対象とする。 ②毎時間の演習課題の予習や準備に取り組む。 ③栄養教諭として採用試験に向かう基礎的、実践的な学力を身に付ける。			
オフィスアワー	授業の前後、及び月～水曜日の 12:30～14:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、学ぶ立場と教える立場（栄養教諭として何が必要か）		栄養教諭（教師）になるためには何が必要か、まとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
2	栄養教諭の仕事（1）－食育を通して子どもの成長にかかわる～「食育基本法」「学校給食法」		栄養教諭の魅力について考えをまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
3	子ども理解と教師の働きかけ		こども理解とは何か。なぜそれが必要か考えをまとめる。（1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）	
4	困っている子への支援（発達障害その他）		学校生活に困り感をもつ子どもの内面を予想する。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
5	栄養教諭の仕事（2）学校給食管理と健康安全教育		学校給食における安全とは何か、自身の経験から考える。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
6	保護者との付き合い方		保護者とのトラブルの原因等について考えをまとめる。（1 時間）授業のまとめと確認（1 時間）	
7	栄養教諭の仕事（3）食育コーディネーター～管理職や他の教員、家庭や地域との連携		食育コーディネーターとしての栄養教諭の役割とは何か、調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
8	外国の教育史（1）		世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
9	外国の教育史（2）		世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
10	日本の教育史（1）		日本の教育の歴史や人物について調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
11	日本の教育史（2）		世界の教育の歴史や人物について調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
12	学習指導方法と理論 1（学習理論）		習得した学習理論をまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
13	学習指導方法と理論 2（学習評価と心理学）		学習評価方法について、自身の経験をもとにまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
14	全国、秋田における栄養教諭の採用と配置		本県教員採用試験についての特色や疑問についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
15	授業のまとめ－採用試験に向けて		これまでの学習内容のまとめと確認。（1 時間） 採用試験に向かう準備や心がまえについてまとめる。（1 時間）	
テキスト	なし。			
指定図書	適宜提示する。			

科 目 名	英語 A		担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・前期〔演習〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	(1) 定期試験 (70%) (2) 授業態度 (30%)			
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。			
目 的	漫画 <i>Peanuts</i> を題材にして基礎的な表現や文法を学び、(1)「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力(2) 食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築、を目指す。英語圏の文化的背景についても解説します。			
到 達 目 標	常用表現 30、常用語 80 を習得し、実際に運用できるようになる。			
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。			
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション		(1) [予習] 漫画 3 本を読んでみた上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2) [予習] GRAMMAR(文法)をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3) [予習] 余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4) [復習] VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5) [復習] 並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6) 学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。	
2	UNIT 1/They got tired of waiting so they left.			
3	UNIT 2/I' ll bet you haven' t...		上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
4	UNIT 3/It says here that...			
5	UNIT 4/Nobody knows for sure what happened to them.			
6	UNIT 5/I' ll go find a box to pack them in.			
7	UNIT 6/What am I staring at?			
8	UNIT 7/That' s the first time I' ve ever seen...			
9	UNIT 8/I' d like to buy a Christmas present for a girl I know.			
10	UNIT 9/We wonder what happened...			
11	UNIT 10/They say that the first thing is...			
12	応用 (UNIT 1～3 の復習)			
13	応用 (UNIT 4～6 の復習)			
14	応用 (UNIT 7～10 の復習)			
15	まとめ			
テキスト	Hidehiko Konaka, “ <i>Fun English with Snoopy</i> ” (CENGAGE Learning)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科 目 名	英語 B	担当者	近藤清兄
区 分 等	1 年次・後期〔演習〕 2 単位 必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	(1) 定期試験 (70%) (2) 授業態度 (30%)		
課題に対するフィードバック	随時助言・提案を行う。		
目 的	(1) 「辞書があればまあまあ読める」程度の読解力・文法力。 (2) 食品・健康・医療の英語を理解するための基礎力の再構築。		
到 達 目 標	常用表現 30、常用語 80 (英語 A からの合計で常用表現 60、常用語 160) を習得し、実際に運用できるようになる。		
履修上の注意	時に単調で退屈に思えるかもしれませんが、基礎は大切です。がんばって学習しましょう。英和辞書は必ず持参すること。		
オフィスアワー	火曜日 9 時～10 時 35 分、金曜日 14 時 45 分～16 時 15 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	UNIT 11/I know what I should have said.	(1) [予習] 漫画 3 本を読んでみた上で VOCABULARY の見当をつけましょう。 (2) [予習] GRAMMAR (文法) をざっと読み、EXERCISE をみておきましょう。 (3) [予習] 余力があれば並べ替え作文をやっておきましょう。 (4) [復習] VOCABULARY は重要なのでよく定着させること。 (5) [復習] 並べ替え作文の構成をよく見直しておくこと。 (6) 学生用共有ドライブに音声ファイルがあるので利用してください。	
2	UNIT 12/I don' t want to get hit…		
3	UNIT 13/Are you going to stay home this summer?	上記以外に指定図書、教室で指示する文献等を読む。	
4	UNIT 14/I' ll just impress her…		
5	UNIT 15/Being in love with two different girls…		
6	UNIT 16/It is often seen in persons with sedentary jobs.		
7	UNIT 17/After a trial, my clients are always…		
8	UNIT 18/I need help with my homework.		
9	UNIT 19/What you need is a real job.		
10	UNIT 20/What do you think I should say about it?		
11	復習 (Unit 11- Unit 12)		
12	復習 (Unit 13- Unit 14)		
13	復習 (Unit 15- Unit 16)		
14	復習 (Unit 17- Unit 18)		
15	復習 (Unit 19- Unit 20)		
テキスト	Hidehiko Konaka, “ Fun English with Snoopy ” (CENGAGE Learning)		
指定図書	あり (巻末参照)。		

科目名	解剖生理学Ⅰ		担当者	齋藤 謙
区分等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評価基準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。			
目的	生命、健康維持についての理解を深めるために、人体の構造と機能を学ぶ。			
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官を系統的に学習し、それらの働きについても理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時			
授業計画			授業外学習	
1	学習の動機付け（栄養士・管理栄養士の役割）：DVD「食べて治す」視聴。		感想文提出(1 時間)	
2	細胞の構造と機能。		生理 2-3, プリント(リン脂質二重膜構造)（1 時間）	
3	生体の恒常性。体液の区分と組成		生理 5, 156, 12-13(1 時間)	
4	細胞膜の性質と働き。		プリント(半透膜、浸透圧、能動輸送・受動輸送)（1 時間）。	
5	毛細血管領域での体液の交流(スターリングの仮説)。血液の成分。		生理 12-3, 病理 59-60, プリント(血圧勾配)。生理 13-4(1 時間)	
6	中間のまとめ。血液量、血漿の組成。上皮組織。		生理 14-5, 臨栄 93-4. 解剖 5-7, 病理 16(1 時間)	
7	結合組織、軟骨組織。		解剖 7-10(1 時間)	
8	骨組織、筋組織。		解剖 28-30, 11-2, 12-14, 生理 191(1 時間)	
9	神経組織。		解剖 14-17, 253, 272,260, 生理 204(1 時間)	
10	神経細胞の静止膜電位と活動電位。		生理 205-8(1 時間)	
11	神経細胞の興奮の伝導		生理 208-11(1 時間)	
12	中間のまとめ。消化器系。消化管の構造。機械的消化と化学的消化。		解剖 153, 170, 172. 解剖 151-4, 臨栄 15-7(1 時間)	
13	唾液腺、咽頭、食道、胃。		解剖 162-8, 生理 85(図 5-6), 170, 174-5(1 時間)	
14	胃(続き)、小腸。		解剖 168-77, 生理 80(下 5 行), 86-7, 臨栄 23-5, 34, 解剖 177-9(1 時間)	
15	小腸(続き)。		解剖 179-83, 生理 81(図 5-3), 臨栄 33-6(1 時間)	
テキスト	彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』（南江堂） 高橋 徹著『よくわかる病理学』（金原出版） 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』（南江堂）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	解剖生理学Ⅱ		担当者	齋藤 謙
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻 2 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	定期試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。			
目 的	人体の構造と機能を学ぶ。			
到 達 目 標	「解剖生理学Ⅰ」に続き人体の諸器官について学習し、それらの構造と機能を理解する。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時			
授業計画			授業外学習	
1	DVD「眠りの科学」視聴。		感想文提出(1 時間)	
2	循環(血管)。		解剖 103-107, 119, 121, 生理 40-2, 47(1 時間)	
3	循環(心臓)。		解剖 107-19(1 時間)	
4	呼吸。		生理 56-65(1 時間)	
5	中間のまとめ。泌尿器系の構成。		解剖 213-20(1 時間)	
6	尿の生成。		臨床栄養 147-51, 生理 102-3(1 時間)	
7	血漿浄化値、腎臓による体液の調節。		臨栄 150-2, 180-1(1 時間)	
8	内分泌系(下垂体、松小体)。		解剖 241-6, プリント(生理 6 版: p160, 表 9・6)(1 時間)	
9	内分泌系(甲状腺、上皮小体、副腎、膵島)		解剖 246-52, プリント(サイロキシンの合成)(1 時間)	
10	中間のまとめ。子宮、卵巣。		解剖 229-33, 生理 173-8(1 時間)	
11	神経系の構成、脊髄。		解剖 253-4, 256-60(1 時間)	
12	延髄、橋、小脳、中脳、間脳。		解剖 260-6(1 時間)	
13	大脳。		解剖 266-73(1 時間)	
14	自律神経。		解剖 300-305, 生理 224(1 時間)	
15	免疫。		解剖 147-9, 臨栄 241-4, プリント(免疫学への招待) (1 時間)	
テキスト	藤田恒夫著『入門人体解剖学』（南江堂） 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』（南江堂） 高橋 徹著『よくわかる病理学』（金原出版） 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』（南江堂）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	生化学		担当者	浅野純平
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	3 回の小テストおよび定期試験の結果により評価する (小テスト 50%、定期試験 50%)。			
課題に対するフィードバック	授業の中で課題に関する解説を行う。			
目 的	生体物質の構造とエネルギー代謝、生体の恒常性維持機構を理解させる。			
到 達 目 標	生体を構成する物質、栄養素の代謝を理解できる。			
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、栄養学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3. 生化学は一朝一夕に理解できるものではない。時間をかけて学習する必要がある。 4. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補講を実施する。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	序論 (細胞の構造と機能、有機化学の一般原理)		日頃から教科書・配布テキストを読み自学すること (2 時間)	
2	糖質 (単糖類、少糖類、多糖類)		〃	
3	脂質 (脂肪酸、単純脂質、複合脂質、複合脂質、誘導脂質)		〃	
4	アミノ酸とタンパク質 (アミノ酸の構造と分類、タンパク質の構造形成)		〃	
5	核酸 (DNA、RNA、転写、RNA プロセッシング、翻訳) 第 1 回小テストの実施 (中間まとめ)		〃	
6	第 1 回小テストの解説 酵素 (酵素の働きによる分類、酵素の性質、補因子)		〃	
7	ビタミンとミネラル (ビタミンの定義と種類、ミネラルの定義と分類)		〃	
8	生体のエネルギー源と代謝 (エネルギーの種類、ATP の役割、電子伝達系)		〃	
9	糖質代謝-(1) (解糖系、クエン酸回路) 第 2 回小テストの実施 (中間まとめ)		〃	
10	第 2 回小テストの解説 糖質代謝-(2) (酸化的リン酸化、グリコーゲンの分解・合成、糖新生)		〃	
11	糖質代謝-(3) (ペントースリン酸経路、グルクロン酸経路、血糖値の調整)		〃	
12	脂質代謝-(1) (脂肪酸、トリグリセリドの代謝) 第 3 回小テストの実施 (中間まとめ)		〃	
13	第 3 回小テストの解説 脂質代謝-(2) (ケトン体、胆汁酸、コレステロールの代謝)		〃	
14	アミノ酸代謝 (アミノ酸のタンパク質の分解、アミノ基転移反応、尿素回路、炭素骨格の代謝、アミノ酸の生合成)		〃	
15	核酸代謝 (プリン及びピリミジンの分解・合成)		〃	
テキスト	健康・栄養科学シリーズ 『生化学』-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち (南江堂)			
指定図書	あり (巻末参照)			

科 目 名	食品学総論		担当者	熊谷昌則
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの解説を授業内で行う。			
目 的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。			
到 達 目 標	1. 食品の成分について科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。 2. 食品の成分が調理や加工、保存によってどのように変化するか理解し、その特徴を正しく説明できる。 3. 食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。			
履修上の注意	1. 予習と復習をしっかりと行うこと。 2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3. 食生活論、食品学各論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 緒論、食品成分表		テキスト 1～ 19 頁の予習（2 時間）	
2	食品の一般成分（Ⅰ） 炭水化物		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 20～ 38 頁の予習（2 時間）	
3	食品の一般成分（Ⅱ） 脂質		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 38～ 48 頁の予習（2 時間）	
4	食品の一般成分（Ⅲ） タンパク質		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 48～ 59 頁の予習（2 時間）	
5	食品の一般成分（Ⅳ） ミネラル		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 59～ 64 頁の予習（2 時間）	
6	食品の一般成分（Ⅴ） ビタミン、核酸		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 64～ 75 頁の予習（2 時間）	
7	食品の一般成分（Ⅵ） 水		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 76～ 78 頁の予習（2 時間）	
8	食品の嗜好成分、他（Ⅰ） 色		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 79～ 88 頁の予習（2 時間）	
9	食品の嗜好成分、他（Ⅱ） 味		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 88～ 94 頁の予習（2 時間）	
10	食品の嗜好成分、他（Ⅲ） 香り、食感		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 94～104 頁の予習（2 時間）	
11	食品の嗜好成分、他（Ⅳ） 機能成分		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 104～109 頁の予習（2 時間）	
12	食品の嗜好成分、他（Ⅴ） 有害成分		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 109～114 頁の予習（2 時間）	
13	食品の加工、調理による変化（Ⅰ） タンパク質、デンプン		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 115～118 頁の予習（2 時間）	
14	食品の加工、調理による変化（Ⅱ） 油脂		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 118～120 頁の予習（2 時間）	
15	食品の加工、調理による変化（Ⅲ） 褐変、微生物		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 120～129 頁の予習（2 時間）と復習（2 時間）	
テキスト	『最新食品学 ―総論・各論―』（講談社） 『日本食品成分表 2022』（八訂）（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	食品学各論		担当者	熊谷昌則
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの解説を授業内で行う。			
目 的	栄養士に求められる業務内容において必要不可欠な、食品についての幅広く、深く、かつ確かな基礎知識を身に付けさせ、食品そのものを理解させることを目的とする。			
到達目標	1. 個々の食品そのものを科学的に理解し、その特徴を正しく説明できる。 2. 食品を利用する立場からその食品がもつ性状や機能を把握し、正しく説明できる。 3. 食品学の知識を、栄養学などの他の分野の学問とも関連付けて、健康の維持・増進のため役立てることができる。			
履修上の注意	1. 予習と復習をしっかりと行うこと。 2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3. 食品学総論、食生活論、食品衛生学などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 植物性食品（Ⅰ） 穀類		テキスト 130～137 頁の予習（2 時間）	
2	植物性食品（Ⅱ） いも類、豆類、種実類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 138～145 頁の予習（2 時間）	
3	植物性食品（Ⅲ） 野菜類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 145～155 頁の予習（2 時間）	
4	植物性食品（Ⅳ） 果実類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 155～159 頁の予習（2 時間）	
5	植物性食品（Ⅴ） きのこと類、藻類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 159～166 頁の予習（2 時間）	
6	動物性食品（Ⅰ） 食肉類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 166～174 頁の予習（2 時間）	
7	動物性食品（Ⅱ） 乳および乳製品		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 174～183 頁の予習（2 時間）	
8	動物性食品（Ⅲ） 卵類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 183～188 頁の予習（2 時間）	
9	植物性食品（Ⅳ） 魚介類		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 188～197 頁の予習（2 時間）	
10	食用油脂		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 197～201 頁の予習（2 時間）	
11	冷凍食品、冷蔵食品		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 202～205 頁の予習（2 時間）	
12	缶詰、瓶詰、レトルトパウチ食品		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 205～207 頁の予習（2 時間）	
13	調味料、香辛料		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 213～217、222～224 頁の予習（2 時間）	
14	嗜好飲料		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 224～226 頁の予習（2 時間）	
15	微生物利用食品、発酵食品		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 217～221、226～229 頁の予習（2 時間）と復習（2 時間）	
テキスト	『最新食品学 ―総論・各論―』（講談社） 『日本食品成分表 2022』（八訂）（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	食品衛生学		担当者	熊谷昌則
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	小テスト(50%)、定期試験(50%)で評価。			
課題に対するフィードバック	小テストの解説を授業内で行う。			
目 的	食物中に含まれる生体にとって有害となる様々な微生物、物質について理解し、その危険性を防ぐために個人レベル、社会レベルで行う方法について習得する。			
到 達 目 標	下記の 5 項目について理解し、その特徴を正しく説明できる。 1. HACCP による衛生管理 2. 食中毒（自然毒、微生物性、ウイルス性、感染症・寄生虫症など） 3. 環境から食品に取り込まれる可能性のある毒性物質 4. 食品添加物 5. 食品衛生行政と法規			
履修上の注意	1. 予習と復習をしっかりと行うこと。 2. 毎回、前週の内容について、理解度確認のための小テストを実施する。 3. 食生活論、食品学総論、食品学各論などの関連科目とのつながりを意識して学習すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	食品衛生学とその目的 食品の安全性の考え方、食中毒発生状況		テキスト 43～50 頁の予習と復習（2 時間）	
2	HACCP による衛生管理（Ⅰ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 121～140 の予習（2 時間）	
3	HACCP による衛生管理（Ⅱ） HACCP の考え方を取り入れた衛生管理のための手引書～委託給食事業者～		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） 補助資料の予習（2 時間）	
4	自然毒食中毒		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 50～66 頁の予習（2 時間）	
5	微生物性食中毒（Ⅰ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 67～79 頁の予習（2 時間）	
6	微生物性食中毒（Ⅱ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 79～85 頁の予習（2 時間）	
7	微生物性食中毒（Ⅲ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 85～93 頁の予習（2 時間）	
8	ウイルス性食中毒		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 93～97 頁の予習（2 時間）	
9	感染症・寄生虫症		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 101～119 頁の予習（2 時間）	
10	食品中の汚染物質		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 143～170 頁の予習（2 時間）	
11	食品の器具と容器包装		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 173～185 頁の予習（2 時間）	
12	食品添加物（Ⅰ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 187～201 頁の予習（2 時間）	
13	食品添加物（Ⅱ）		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 202～214 頁の予習（2 時間）	
14	新しい食品の安全性問題		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 217～230 頁の予習（2 時間）	
15	食品衛生行政と法規		小テストの振り返り、前週の復習（2 時間） テキスト 1～22 頁の予習（2 時間） 終了後 テキスト 1～22 頁の復習（2 時間）	
テキスト	『イラスト 食品の安全性 第 4 版』（東京教学社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	栄養学総論		担当者	浅野純平
区分等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評価基準	3 回の小テストと定期試験により評価する (小テスト 50%、定期試験 50%)。			
課題に対するフィードバック	授業の中で小テストに関する解説を行う。			
目的	栄養学の基本概念を理解させる。			
到達目標	栄養素が体内に吸収されるプロセス、各栄養素が身体に及ぼす影響を理解できる。			
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、食品学、生化学、臨床栄養学と共通する内容が多いので、これらと関連付けて学習すること。 3. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補講を実施する。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	栄養の概念、消化・吸収と栄養素の体内動態-(1) (栄養の定義、消化器系の構造と機能、消化過程		日頃から教科書・配布テキストを読み自学すること (2 時間)	
2	消化・吸収と栄養素の体内動態-(2) (管腔内消化の調節、膜消化・吸収)		〃	
3	食物の摂取、栄養と健康・疾患 (摂食量の調節、欠乏症と過剰症、遺伝子多型)		〃	
4	炭水化物の栄養-(1) (糖質の分類、血糖とその調節) 第 1 回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
5	第 1 回小テストの解説 炭水化物の栄養-(2) (糖質の体内代謝、食物繊維、生物学的利用度)		〃	
6	脂質の栄養-(1) (脂質の分類、脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝)		〃	
7	脂質の栄養-(2) (脂質の体内代謝、脂肪酸由来の生理活性物質)		〃	
8	タンパク質の栄養-(1) (アミノ酸・タンパク質の構造・機能と体内代謝)		〃	
9	タンパク質の栄養-(2) (アミノ酸の臓器間輸送と他の栄養素との関係)		〃	
10	ビタミンの栄養-(1) (ビタミンの構造と栄養学的機能) 第 2 回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
11	第 2 回小テストの解説 ビタミンの栄養-(2) (生物学的利用度と他の栄養素との関係)		〃	
12	ミネラルの栄養-(1) (ミネラルの構造と栄養学的機能)		〃	
13	水・電解質の栄養学的意義-(1) (生体内の水、水の出納) 第 3 回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
14	第 3 回小テストの解説 水・電解質の栄養学的意義-(2) (脱水・浮腫、電解質代謝と栄養)		〃	
15	エネルギー代謝 (エネルギー消費量、エネルギー代謝の測定方法)		〃	
テキスト	栄養科学イラストレイテッド『基礎栄養学』(羊土社)			
指定図書	あり (巻末参照)			

科 目 名	ライフステージ栄養学	担当者	高山裕子
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	小試験（40%）、定期試験（60%）		
課題に対するフィードバック	試験結果を返却し解説する。		
目 的	ヒトの各ライフステージの“食”に焦点をあて、健康の保持・増進・疾病予防のための栄養の理論と実践を学ぶ。		
到 達 目 標	ヒトの各ライフステージの特徴を理解でき、健康の保持・増進のためにどのようなことに留意すべきかを習得する。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	栄養ケア・マネジメント	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
2	発育・発達・加齢と栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
3	日本人の食事摂取基準	食事摂取基準を読んでくること（2 時間）	
4	妊娠期・授乳期の栄養 小試験①	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
5	乳児期の栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
6	幼児期の栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
7	学童期の栄養 小試験②	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
8	思春期の栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
9	成人期の栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
10	更年期の栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
11	高齢期の栄養 小試験③	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
12	運動と栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
13	特殊環境と栄養	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
14	ストレスと栄養、休養と睡眠	テキストをよく読んでくること（2 時間）	
15	授業のまとめ・解説 小テスト④	これまでの復習をしておくこと（2 時間）	
テキスト	栢下淳、上西一弘『応用栄養学 改訂第 2 版』（羊土社）		
指定図書	なし。		

科 目 名	臨床栄養学Ⅰ		担当者	須磨亜沙子
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	中間まとめ（50%）、定期試験（50%）			
課題に対するフィードバック	1. 中間まとめについては、解説しながら返却する。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目 的	傷病者の病態や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を身に付ける。			
到 達 目 標	1. 臨床栄養管理の意義と目的を理解できる。 2. 各疾患及び病態時の栄養管理の必要性を説明できる。 3. 各疾患別の身体状況や栄養状態を理解し、それに応じた栄養管理の基本を述べることができる。 4. 各疾患に応じた適切な栄養素・エネルギーなどを提案できる。			
履修上の注意	1. 解剖学、生理学、生化学の知識を身につけておくこと。（人はなぜ病気になるのか、どのように治療するのかを理解するためには、先に人体の構造、各器官、栄養素の代謝のしくみを学ぶことが大切である。） 2. 授業で学んだ知識を定着させるためには、復習が必須である。			
オフィスアワー	木曜日 16 時以降			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	臨床栄養学の意義と目的		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
2	糖尿病の栄養管理（1） 病態理解		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
3	糖尿病の栄養管理（2） 栄養ケア		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
4	肥満症・脂質異常症の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
5	炎症性腸疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
6	肝疾患の栄養管理（1） 病態理解		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
7	肝疾患の栄養管理（2） 栄養ケア		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
8	膵臓・胆嚢疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
9	高血圧・心疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
10	呼吸器疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
11	腎疾患の栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
12	経口摂取法		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
13	経腸栄養法		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
14	静脈栄養法		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
15	総合学習		予習：該当する教科書のページを読む（2 時間） 復習：ノートの整理と確認（2 時間）	
テキスト	友竹浩之、他編『栄養科学シリーズ NEXT		臨床栄養学概論』（講談社）	
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	給食管理		担当者	伊藤雅子
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①小テスト(80%)、②課題レポート(20%)、			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	給食管理学は栄養士業務を支える根幹である。その知識、技術を専門的、体系的に学習できる力を養う。			
到 達 目 標	①栄養学、食品学、食品衛生学、調理学を基盤とし、総体的に給食管理が実践できる。 ②大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理を実践する事ができる。 ③施設に合せた給与栄養目標量の設定方法、アセスメントを知ることができる。 ④リスクマネジメントの重要性を学び、実務に生かすことができる。			
履修上の注意	新聞・テレビ等 で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。			
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	給食管理の概要		ノートの整理と確認（2 時間）	
2	給食管理の基本		ノートの整理と確認（2 時間）	
3	特定給食施設の種類と関係法規		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
4	栄養・食事管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
5	メニュー管理 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
6	食材管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
7	衛生・安全管理		大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（2 時間）	
8	給食の原価管理		ノートの整理と確認（2 時間）	
9	調理作業管理、給食の食材管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
10	経営管理・人事・労務管理 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
11	施設・設備管理・安全衛生		大量調理施設衛生管理マニュアルを事前に読んでおくこと（2 時間）	
12	給食委託会社の仕事（外部講師）		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
13	各特定給食施設の特徴		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
14	対象者に合わせた食形態		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
15	危機管理		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
テキスト	高城孝助編著『実践 給食マネジメント論』（第一出版） 『調理の基本 まるわかり便利帳』（女子栄養大学出版部） 『日本人の食事摂取基準 2020 年版』			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	調理学		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 2 単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. 授業内試験及び提出物(80%) 2. 受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	授業時に提出された課題は適宜返却する。			
目 的	栄養士の実践活動に必要な調理理論を習得する。			
到 達 目 標	食品の調理特性、調理操作、調理機器の特徴を総合的に学び、栄養・健康面を考慮した食事設計の基本について理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	調理の概念		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
2	基礎調理操作 (1) 調理と温度 (2) 加熱方式・伝熱・熱媒体 (3) 食品の保存		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
3	基礎調理操作：加熱調理操作、小テスト①		小テストに備え、日本食品成分表 手ばかりの目安量を予習する。(2 時間)	
4	基礎調理操作：非加熱調理操作		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
5	基礎調理操作：調味操作、小テスト②		小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2 時間)	
6	調理機器と調理		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
7	食品の調理特性と調理 (1) 植物性食品 米・小麦粉・いも類・豆類・種実類、中間まとめ等		中間まとめテストに備え授業内容を復習する。(2 時間)	
8	食品の調理特性と調理 (2) 植物性食品 野菜類・果実類・きのこ類・藻類		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
9	食品の調理特性と調理 (1) 動物性食品 食肉類・魚介類、小テスト③		小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2 時間)	
10	食品の調理特性と調理 (2) 動物性食品 卵・牛乳・乳製品		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
11	食品の調理特性と調理：成分抽出素材、小テスト④		小テストに備え、日本食品成分表日常食品の目安量を予習する。(2 時間)	
12	調理と嗜好性・おいしさの評価法食事設計		中間まとめテストに備え授業内容を復習する。(2 時間)	
13	郷土料理、中間まとめ等		指定された課題を夏季休暇中に各自取り組み準備する。(2 時間)	
14	献立作成条件と手順		内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
15	郷土料理発表		他者の発表内容と自己の発表を振り返る (1 時間)	
テキスト	金谷昭子編著『食べ物と健康 調理学』(医歯薬出版)			
指定図書	あり (巻末参照)。			

科 目 名	食品学実験		担当者	塚本研一
区 分 等	1 年次・後期〔実験〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	授業の出席 4/5 以上の者に対し、実験技法の習熟度（40%）、レポート（50%）、実験操作内容（体を動かして実験を行っているか、理に適った操作が出来ているか等）（10%）で評価。			
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。			
目 的	食品学総論で学んだ食品成分の性質を、実験を通して理解する力を養う。 実験器具や装置の名称と取り扱い方法、食品分析の基礎技術を学ばせる。			
到 達 目 標	健康栄養専攻の学習成果の一番目に記載されている「栄養士としての基本的知識を身につける」ために、実験を通して、下記能力の獲得を目指す。 ・実験器具・装置の名称を覚え、実験の基本操作が正しくできる。 ・食品分析の理論を理解し、基礎技術が身につく。 ・実験結果を正しくレポートに纏めることができる。			
履修上の注意	実験専用の白衣を必ず着用すること。科目の性格上、出席日数と実験操作の体得が重視される。			
オフィスアワー	講義終了後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	実験に関する諸注意、実験の基本操作（Ⅰ）		実験器具の名称と基本操作を復習する（0.75 時間）	
2	実験の基本操作（Ⅱ） & 試薬の取り扱い方法と試験溶液の調製法		基本操作と試薬の特徴を復習する（0.75 時間）	
3	炭水化物の定性実験Ⅰ（呈色反応）		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
4	炭水化物の定性実験Ⅱ（還元反応）		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
5	たんぱく質の定性実験		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
6	水分と灰分の定量（Ⅰ）& 容量分析（Ⅰ）（中和滴定）		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
7	水分と灰分の定量（Ⅱ）		実験操作の復習とデータ整理（0.75 時間）	
8	水分と灰分の定量（Ⅲ）& 容量分析（Ⅱ）（沈殿滴定）		実験操作の復習とデータ整理（0.75 時間）	
9	水分と灰分の定量 & 容量分析のまとめ		実験操作の復習とデータ整理（0.75 時間）	
10	油脂の定性実験		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
11	酵素的、非酵素的褐変反応		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
12	水分活性の測定		実験操作の復習とデータ整理（0.75 時間）	
13	pH の測定		実験操作の復習とデータ整理（0.75 時間）	
14	Bx（糖度）の測定		実験結果をレポートに纏める（0.75 時間）	
15	全実験のまとめ		実験全体を復習し、記録整理する（0.75 時間）	
テキスト	なし（逐次配付するプリントを使用）。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	食品加工衛生学実験（前半）		担当者	熊谷昌則
区 分 等	1 年次・前期〔実験〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①レポート(90%) ②実験態度(10%)			
課題に対するフィードバック	レポートは随時コメントをつけて返却する。			
目 的	食品中などに含まれる細菌やカビ、化学物質による危険性を認識するため、実際に実験によってこれらを検出、定量し、防御のための方法を学ぶ。			
到 達 目 標	1. 食品、飲料水、調理器具中の細菌検出試験法について理解する。 2. 水質検査法と飲料水の規格基準について理解する。 3. 実習内容をレポートにきちんと纏めることができる。			
履修上の注意	1. 実験中は白衣、安全メガネを着用のこと。 2. A 4 の実験ノートを準備すること。 3. 手順等、予習をしっかりと行うこと。 4. 安全を第一に実習すること。 5. レポートは実験毎にていねいな作成を心掛け、期限を守って提出すること。			
オフィスアワー	12:30-13:00、16:30-17:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	細菌学実験を始めるにあたっての注意 ・顕微鏡の取り扱い ・滅菌法、消毒法 ・実験器具の取り扱い		テキストの予習(1 時間)。	
2	一般細菌試験 ―(1) 空中落下細菌の検査		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
3	一般細菌試験 ―(2) グラム染色による細菌の観察、手指の細菌検査		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
4	一般細菌試験 ―(3) 食品中の細菌数検査		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
5	一般細菌試験 ―(4) 紫外線による殺菌効果の観察		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
6	飲料水の水質検査－(1) 外観の検査・微生物試験		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
7	飲料水の水質検査－(2) 化学物質の検出		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
8	第 6 回、7 回の実験のまとめと発表		実験ノートの整理とレポート作成(2 時間)	
テキスト	なし（逐次配付するプリントを使用）。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	食品加工衛生学実験（後半）		担当者	塚本研一
区 分 等	1 年次・前期 [実験] 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	授業の出席が 4/5 以上の者に対し、作品（40%）、レポート(50%)、実習内容（体を動かして実習を行っているか、理に適った操作が出来ているか等）(10%)で評価。			
課題に対するフィードバック	各実習後に解説を行うとともに試作した加工品の評価も行う。レポートは随時コメントをつけて返却する。			
目 的	身の周りの加工食品を取り上げ、実際に製造する過程で、原料の特性や製造方法を学ばせるとともに加工食品の栄養価、必要性、食文化としての側面にも目を向ける力を養う。			
到 達 目 標	健康栄養専攻の学習成果の一番目に記載されている「栄養士としての基本的知識を身につける」ために、実験を通して、下記目標に到達することを目指す。 ・加工食品の製造方法と原料の特性に関する知識が身につく。 ・加工食品を正しい手順で効率よく製造し、製品を完成できる。 ・実習内容をレポートにきちんと纏めることができる。			
履修上の注意	材料費を徴収する。事前に加工食品について自学していると理解が深まる。			
オフィスアワー	講義終了後			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
9	講義（豆腐、うどん、アイスクリーム・バター、ところてん、叉焼肉）		講義内容を復習する（0.75 時間）	
10	実習（豆腐）		実習手順の事前確認と実習後の記録整理（0.75 時間）	
11	実習（うどん）		実習手順の事前確認と実習後の記録整理（0.75 時間）	
12	実習（アイスクリーム・バター）		実習手順の事前確認と実習後の記録整理（0.75 時間）	
13	実習（ところてん）		実習手順の事前確認と実習後の記録整理（0.75 時間）	
14	実習（叉焼肉）		実習手順の事前確認と実習後の記録整理（0.75 時間）	
15	実習のまとめ(レポート作成と解説)		実習全体を復習し、記録整理する（0.75 時間）	
テキスト	なし（逐次配付するプリントを使用）。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	基礎調理実習		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	1 年次・前期〔実習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. 実習記録(50%) 2. 調理技術(30%) 3. 実習に取り組む姿勢(20%)			
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。			
目 的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、より能率的、且つ的確に調理技術を身につけることを目的とする。			
到 達 目 標	1. 炊飯、出汁の引き方、様々な野菜の切り方ができるようになる。 2. 煮る、焼く、蒸す、炒める、揚げるなどの基本的な調理ができるようになる。 3. 栄養計算の方法がわかるようになる。			
履修上の注意	材料費を徴収する。指定の調理着、帽子、コックシューズを準備すること。			
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	調理実習の目的と諸注意・衛生管理について		実技試験のために各自練習する（1 時間）	
2	実技試験（きゅうりの輪切り・りんごの皮むき）		実技試験のために各自練習する（1 時間）	
3	炊飯、出汁の引き方、野菜の切り方指導		野菜の切り方について各自練習する。（1 時間）	
4	日本料理（三色丼、みそ汁、千草あえ）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
5	日本料理（椿寿司、筑前煮、若竹汁、みかん羹）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
6	お菓子		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
7	西洋料理（ドライカレー、オニオンスープ、コールスローサラダ）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
8	西洋料理（スパゲッティミートソース、ベジタブルスープ、キャロットケーキ）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
9	栄養計算		配付資料を読み、当日は食品成分表と電卓を持参する。栄養計算を復習する（1 時間）	
10	中国料理（涼拌三絲、芙蓉蟹、麻婆豆腐、馬拉糕）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
11	中国料理（炒飯、鶏茸粟米、涼拌粉絲黃瓜、豆沙麻球）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（0.5 時間）	
12	中国料理（冷拌麵、加爾比豆腐）		レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。 1～12 回分の記録をまとめてゲーグルクラスに提出する。（2 時間）	
13	グループごとに自由献立立案（ワンプレートランチ）		各自レシピを探して献立立案の際に持ってくる。（1 時間）	
14	実技試験（きゅうりの輪切り・りんごの皮むき） 衛生管理		実技試験に向けて各自練習する。（1 時間）	
15	自由献立の実習		実習後は記録用紙を記入し、栄養計算をする。（2 時間）	
テキスト	早坂千枝子、角野幸子編著『調理学実習』（アイ・ケイコーポレーション）			
指定図書	あり（巻末参照）			

科 目 名	応用調理実習	担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	1 年次・後期〔実習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	1. 実習記録(50%) 2. 調理技術 (30%) 3. 実習に取り組む姿勢(20%)		
課題に対するフィードバック	実習記録は適宜確認し、返却する。		
目 的	調理の基本となる理論に基づいて、その要点を会得し、効率的且つ的確に調理できるようになることを目的とする。		
到 達 目 標	1. 日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を理解し、献立立案及び実習ができるようになる。 2. 調理内容を多く取り入れ、更に実技テストを行うことによって調理技術が向上する。 3. 栄養計算ができるようになる。		
履修上の注意	材料費を徴収する。調理着、帽子、コックシューズを準備すること。		
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	栄養計算について	栄養計算をする。（2 時間）	
2	日本料理（鮭の香り漬け、みそ汁、キャベツとささみの和え物、みつ白玉）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
3	日本料理（さんまの蒲焼丼、みそ汁、深山和え、くるみまんじゅう）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
4	日本料理（かやくごはん、土瓶蒸し、春菊と菊の和え物、おしるこ）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
5	郷土料理（きりたんぽ、とんぶりの月見、さつまいもの花かご）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
6	西洋料理（マカロニグラタン、アボカドサラダ、ババロア）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
7	西洋料理（かぼちゃのポタージュ、ポークソテー、オレンジサラダ）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
8	西洋料理（煮込みハンバーグ、コーンスープ、ジャーマンキャベツ、カスタードプディング）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
9	お正月料理（茶碗蒸し、鶏もも肉のチャーシュー焼、岩石卵、紅白寒天、えびの甘煮、たたきごぼう、祝かまぼこ）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
10	クリスマス料理（アクアパッツァ、コーンチャウダー、ツナブレッドカップ、パンチ、パウンドケーキ）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間） 1～10 回目の記録をグーグルクラスに提出する。	
11	中国料理（八宝菜、黄花湯、炸八塊、彩色杏仁豆腐）	レシピを事前に読み、実習後は記録用紙を記入する。（1 時間）	
12	自由献立立案（日本料理・中国料理・西洋料理）	各自レシピを探して献立立案の際に持ってくる。（1 時間）	
13	実技試験（きゅうりの輪切り・りんごの皮むき）	実技試験のために各自練習する。（1 時間）	
14	自由献立の実習	記録用紙を記入し、栄養計算をする。（2 時間）	
15	衛生管理について	家庭でも衛生管理を実践する。（0.5 時間）	
テキスト	早坂千枝子監修『調理学実習』（アイ・ケイコーポレーション）		
指定図書	あり（巻末参照）		

科 目 名	学校栄養教育論	担当者	高山裕子
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 2 単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	定期試験（70%）、授業内で行う小試験（30%）。		
課題に対するフィードバック	試験結果の返却と解説		
目 的	栄養教諭の役割と職務内容、学校で食育をすすめるための、子どもたちの食生活や食環境について学ぶ。また、食に関する全体計画の作成や展開方法、学校給食を活用した食に関する指導の実践法を習得する。		
到 達 目 標	栄養教諭の意義、学校における役割や職務内容を理解する。また、現代の幼児・児童・生徒の栄養に係わる諸問題を理解し、食文化を含む現代の食に関する課題をふまえた上で、食に関する指導の方法を習得する。これらを通して栄養教諭としての基本的知識・実践法を身に付ける。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の 16 時 20 分～16 時 50 分		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	栄養教諭の役割と職務内容	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
2	学校給食の教育的意義と役割	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
3	子どもたちの健康と栄養に関する課題	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
4	学校給食の歴史と食文化の変遷	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
5	子どもたちの発育発達と食生活	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
6	食に関する指導の全体計画と展開法	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
7	給食の時間における食に関する指導	指導内容を検討しておくこと（2 時間）	
8	個別栄養相談指導のあり方	指導内容を検討しておくこと（2 時間）	
9	学習指導要領の理解と指導案作成	指導案の検討・教材研究をしておくこと（2 時間）	
10	給食の時間における食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと（2 時間）	
11	教科などにおける食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと（2 時間）	
12	教科などにおける食に関する指導	指導案の検討・教材研究をしておくこと（2 時間）	
13	指導案の作成と実践演習	これまでの授業内容を復習すること（2 時間）	
14	指導案の作成と実践演習	テキストを読んで予習しておくこと（2 時間）	
15	まとめ	これまでの授業内容を復習すること（2 時間）	
テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』（学建書院） 文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（建学社）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科目名	教職概論	担当者	佐藤光咲
区分等	1年次・前期〔講義〕2単位 選択／健康栄養専攻		
評価基準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）		
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。		
目的	教職の意義、チーム学校の一員としての教員の役割、職務内容に関する理解を深めさせることで、教員を志願する者が教職に対する自らの適性を考察し、教職への意欲や一体感の形成を図る。		
到達目標	(1)教員を志す者に理想とする教員像が明確になる。 (2)教員に求められる資質能力やチーム学校の一員としての役割を理解し、説明できる。 (3)教職に就くことについて多角的に考察することができる。 (4)教職への意欲・適性等を熟考し、進路選択を行うことができる。		
履修上の注意	グループワークをできるだけ取り入れる。		
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスー授業の概要と計画	教師を志す理由をまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
2	教職の意義、理想の教師像	理想の教師像等についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
3	法律の中の学校、教師ー学校とは、教員とは何か	学校とは何か、教師とは何か、についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
4	教員の任用と服務ー教員の義務と責任	教員の義務と責任についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
5	教師の役割と仕事 1ー学校における様々な教員等と役割（チーム学校の一員、組織と分掌）	学校にはどのような教員や職員がいるのだろうか、調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
6	教師の役割と仕事 2ー学級担任、教科担任～専門家として教科、その他の指導（生徒指導、道徳教育、特別活動など）	学級担任の仕事の内容及び毎日の教科の授業はどのようにして行われているのか、まとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
7	教師の役割と仕事 3ー食育推進の中心を担う栄養教諭の仕事	栄養教諭の仕事について情報を収集しまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
8	職務の実際 1ー教師（栄養教諭）の仕事の実際（1日の仕事・多忙化と働き方改革）	教員の多忙化やその背景を調べておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
9	職務の実際 2ー教師の力量形成と研修、教員評価	教員の研修とは何か、まとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
10	職務の実際 3ー教員のライフサイクルと異動	教員のライフサイクルや異動について自分の考えをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
11	職務の実際 4ー教師のおこなう教育評価（わが国における学習評価の特色）	わが国の学校における学習評価の特徴について調べ、まとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
12	国の教育施策と秋田県、市町村（学習指導要領、学校教育の指針等）	我が国及び秋田県の教育施策について、ネット等で調べまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
13	教教育実習の意義と心得ー教育実習への期待と不安、子どもとの触れ合いと授業実践	教育実習に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
14	教職への進路選択と教員採用選考ー秋田県の場合	栄養教諭採用選考試験に対する不安や期待、疑問についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
15	グループ討議ー教職の魅力、教師になるということ	これまでの学修を振り返り、教職の意義について再度考え、まとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認、レポートの構想と執筆をする。（1 時間）	
テキスト	学習資料配付（毎時間）。		
指定図書	佐藤晴雄著『教職概論』（学陽書房）、佐々木芳輝著『必携 教職入門』（本の森） 諸富祥彦著『教師の資質』（朝日新聞出版） 高橋勝著『教職概論（新・教職課程シリーズ）』（一藝社） 『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい）		

科 目 名	教育原理		担当者	大曾基宣
区 分 等	1 年次・前期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	到達目標 1・2・3：授業内確認テストおよびレポートにより評価する。(70%) 到達目標 4：シャトルカードにより評価する。(30%)			
課題に対するフィードバック	授業内確認テスト、レポートおよびシャトルカードは、添削後に返却する。			
目 的	教育の考え方や方法の基礎を知ることが目的とする。			
到達目標	1. 教育の意義、目的、歴史的変遷を理解し、教育の基礎となる子ども観、教育観を自身の言葉で説明できる。 2. 教育制度、教育実践の基礎理論について説明できる。 3. 教育の現状と課題について理解し、解決に向けた方略を提案できる。 4. 教育の現状や教育観などについて自身の考えをまとめるにあたり、他者の考えを取り入れて改善することができる。			
履修上の注意	1. 授業中に確認テストを行う。基礎知識をしっかりと理解すること。 2. 授業中に意見交換をする機会を多数設ける。他者の意見を肯定的に受け入れ、自身の考えを広げる姿勢で授業に臨むこと。			
オフィスアワー	金曜日 16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	教育の意義と目的		第1回の学習内容の振り返り（2時間）	
2	諸外国の教育思想と歴史		第2回の学習内容の振り返り、 第3回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
3	日本の教育思想と歴史		第3回の学習内容の振り返り、 第4回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
4	日本の教育制度		第4回の学習内容の振り返り、 第5回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
5	教育実践の基礎理論：内容、方法、計画と評価		第5回の学習内容の振り返り、 第6回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
6	教育実践の多様な取り組み		第6回の学習内容の振り返り、 第7回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
7	生涯学習社会と教育		第7回の学習内容の振り返り、 第8回で学習予定のテキスト内容の確認（2時間）	
8	現代の教育課題		第8回の学習内容の振り返り（2時間）	
テキスト	なし。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科目名	教育制度論		担当者	栗森 貢
区分等	1 年次・前期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	小テスト (60%)、履修カード(20%)、授業参加態度、演習での貢献度 (20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○小テストや履修カード（課題レポートを含む）に対し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教育制度をめぐる課題について考察しながら、わが国の教育制度の特色や歴史的変遷とともに、チーム学校推進法の制定やその背景、学校と地域との連携について理解できるようにする。			
到達目標	教育制度に関する基礎的知識を理解するとともに、チーム学校としての新たな動きなど種々の教育課題に対する自分の考え方を論理的に説明できる。			
履修上の注意	必要に応じてグループワークを取り入れる。			
オフィスアワー	月曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	教育制度－その機能と歴史、子どもの権利		わが国の教育は、何に基づいて行われているか、自身のこれまでの経験と照らし合わせて考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
2	教育制度と法－憲法、教育基本法の理念など		憲法で規定された教育を実施するためにはどんなコトやモノが必要か考えをまとめる。(1 時間) 教育制度に関する法令の内容をまとめる。(1 時間)	
3	教育制度と学校－学校の設置、組織と編成など、認定こども園、コミュニティスクール		学校とはどういうものか、予想しまとめる。(1 時間) 学校に関する法令の内容をまとめ確認する。(1 時間)	
4	教育制度と教職員－教職員の身分と任用、服務規程、教員評価など		教員と会社員の違いは何か。(1 時間) 教員の身分や服務規定についてまとめ確認する。(1 時間)	
5	学校を支える教育行政－文部科学省と地方教育委員会、学校評価、コミュニティスクールなど		教育委員会は何のためにあるのか予想しまとめる。(1 時間) 教育委員会の役割と学校との関係についてまとめ、確認する。(1 時間)	
6	教育制度をめぐる教育的課題－特別支援教育、学校安全と危機管理（いじめや虐待などへの対応）、チームとしての学校および地域との連携		いじめや虐待に関する法律にはどのようなものがあるか予想しまとめる。(1 時間) いじめや虐待に対して学校や教員がとるべき対応についてまとめ確認する。(1 時間)	
7	教育制度改革の動向と日本－学力の国際競争、全国学力・学習状況調査、教育費負担		全国学力テストや教育の無償化の背景とその課題について考えをまとめる。(1 時間) 各課題のまとめと確認をする。(1 時間)	
8	まとめ（わが国の教育制度の特色とその諸課題）と小テスト		わが国の教育制度の特色と課題について、これまでの学修を振り返り要点をまとめる。(1.5 時間) 教育制度についてのまとめと確認を行う。(0.5 時間)	
テキスト		『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。		
指定図書		星槎大学教員免許状更新講習センター編著『教育の最新事情 現代教育の動向と課題』（教育出版）		

科目名	教育心理学		担当者	織田栄子
区分等	1 年次・前期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	定期試験でのテスト（30%）、授業で実施する課題作成（20%）、提出物（20%）、受講態度（30%）。			
課題に対するフィードバック	①提出物については、随時、コメントを付けて返却する。 ②課題作成については、随時、アドバイスや提案をするなど、学生にフィードバックする。			
目的	子どもの学習過程を踏まえながら、子ども一人ひとりの特徴に応じた教育的対応を身に付ける。			
到達目標	①子どもの心身や人間関係等、発達の特徴や個人差に応じた教育的対応方法がわかる。 ②自己理解を通して、保育者としての心構えができ、子どもや保護者等への理解が深まる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	火曜日 16:20～16:50			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 教育と発達 ・教育心理学とは ・遺伝と環境の関係、成熟と学習		授業に関連した文献を読んでおく（1 時間）	
2	学習の原理 ・学習とは ・行動の変化を重視する立場からの知見 ・内的システムを重視する立場からの知見 意欲と動機づけ ・やる気を高めるためには		ノートの整理と確認（1 時間）	
3	知能と学力 ・知能の構造、知能測定、知能と学力の関係 教授－学習過程 ・教授－学習過程のモデル ・授業の計画と実施、授業の評価・分析		1～3 回までの授業の復習（1 時間）	
4	教育評価 ・教育評価の意義、評価の問題点 教育測定と統計 ・教育測定の意義、教育測定の例 パーソナリティと適応 ・パーソナリティの捉え方、教育方法との関係 ・適応と適応機制		ノートの整理と確認（1 時間）	
5	学級集団 ・教師が学級集団に及ぼす影響 ・学級集団を捉える方法、学級が機能しない場合 ・学級をまとめるための教育プログラム ・中間まとめと解説		4～5 回までの授業の復習、及び 2 冊以上「学級」についての参考文献を読み、要点をまとめる（2 時間）	
6	不登校・いじめ・暴力行為 ・気になる子どもたち		ノートの整理と確認（1 時間）	
7	発達障害を持つこどもの理解と対応 ・発達障害の種類と特徴、対応 これからの特別支援教育		ノートの整理と確認（1 時間）	
8	教育相談の進め方 ・教育相談の歴史と今日的課題、役割 ・進路指導とキャリア教育 ・保護者対応と支援		6～8 回までの授業の復習（1 時間）	
テキスト	本郷一夫、八木成和編著『教育心理学』（建帛社）			
指定図書	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 『幼稚園教育要領および解説』（最新版）（文部科学省著、フレーベル館） その他（巻末参照）。			

科 目 名	特別支援教育	担当者	鈴木 徹
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	小テスト(60%)、履修カード(20%)、受講態度(20%)		
課題に対するフィードバック	履修カードは毎時返却し、質問には授業内で説明を行う。		
目 的	保育・教育現場の現状を踏まえ、特別な支援を要する子どもの多様なニーズに対する理解を深めるとともに、必要な支援の在り方を考える。		
到 達 目 標	特別支援に関する保育・教育現場の現状を理解する。 特別な支援を要する子どものニーズを理解し、適切な支援を考えることができる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー			
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	障害とは	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
2	特別支援教育の現状と課題	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
3	知的障害	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
4	発達障害①注意欠陥多動性障害	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
5	発達障害②学習障害	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
6	発達障害③自閉スペクトラム症	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
7	保護者と向き合うこと	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
8	まとめと小テスト	授業内で紹介した書籍や配布資料を読む（1 時間）。	
テキスト	適宜資料を配布します。		
指定図書	必要に応じて推薦図書を紹介します。		

科目名	教育課程総論		担当者	佐藤光咲
区分等	1 年次・前期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評価基準	①レポート (60%)、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度 (20%)			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目的	教育課程編成の原理について理解し、学校における教育課程の編成の方法を学ぶ。とりわけ、学習指導要領の変遷を基軸として理解を深めさせる。さらに、教育課程編成における現代的な課題について、その背景を理解すると共に、その実践ができるような資質能力を養う。			
到達目標	日本の学校教育における教育課程（カリキュラム）について、その成立過程やその意図、あるいは当時の学力観をもとに、説明することができる。また、現代的な課題に関するカリキュラム開発のあり方について事例をあげて説明することができる。			
履修上の注意	テキストは必ず持参すること。			
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンスー学ぶとは、教育の目的		自身の経験と照らし合わせて、学ぶ意味や教育の目的について考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
2	教育課程、カリキュラムとは～その編成		全国すべての子どもに教育を実施するためには何が必要か考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
3	教育課程と学習指導要領、そして教科書		学習指導要領や教科書の役割をまとめておく。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
4	学習指導要領の歴史的変遷①ー戦後の教育と経験主義（コア・カリキュラムの展開）		テキストの指定ページを読み概要をまとめる。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
5	学習指導要領の歴史的変遷②ー高度経済成長期と系統主義（教育内容の現代化と子どもの学力）		テキストの指定ページを読み概要をまとめる。 (1 時間) 授業のまとめと確認 (1 時間)	
6	カリキュラム改革とその背景ー「ゆとり」と個性、「生きる力」と確かな学力、「知識基盤社会」		自身が受けてきたゆとり教育について振り返り、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
7	新しい時代に求められる資質・能力と「社会に開かれた教育課程」、カリキュラム・マネジメントー食育のカリキュラムの事例を通して		現行学習指導要領の趣旨や特色等について調べる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
8	わが国の教育課程の特色と課題ー学力格差とその対応等		わが国の教育課程の特色と課題について調べ、考えをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
テキスト	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	授業内で適宜紹介。			

科 目 名	教育方法論		担当者	佐藤光咲、佐藤 恵
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①学習指導案作成と模擬授業（50%） ②プレゼンテーション・情報機器の活用力（40%） ③履修カード（10%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題（レポート等）を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	(1) よい授業とはどんな授業であるかを知り、授業のデザインにとって必要かつ重要な事項を理解させる。 (2) 授業デザインや教育効果を高める情報機器の効果的な活用の基礎的技能を身につけさせる。 (3) 授業デザインと模擬授業の実践を通して、基礎的な実践力を育てる。			
到 達 目 標	授業とは何かを理解し、小・中学生が授業を受けようとする動機づけを意識しながら教材を考えるとともに、指導案の作成、授業の運営など、教育の方法を身につける。			
履修上の注意	「説得力をもって相手に伝えるにはどうすれば良いか」という問題意識をもって、積極的に授業に参加すること。			
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、授業とは何かー授業の目標と授業を行う上で必要な準備と教材、児童生徒の実態把握の意義と方法など（佐藤光咲、佐藤恵）		自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてよい授業や思い出に残る授業についてまとめる。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
2	児童生徒の発達に応じた教材とその活用法（佐藤光咲）		授業における教材や資料がどのような働きをもつか、自身が受けてきた教育経験と照らし合わせてまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
3	授業の形態と活用、指導言と発問（佐藤光咲）		教師が授業中に話す言葉や働きかけにはどんな働きがあるか考えをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする (1 時間)	
4	食に関する指導の授業展開と評価法（佐藤光咲）		食に関する授業について、自分の構想をまとめる。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
5	情報機器とその活用法（佐藤恵）		情報機器の授業における活用法について自身の経験をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
6	プレゼンテーションと評価・改善（佐藤恵）		プレゼンテーション練習をする。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
7	情報機器を活用した指導の構想と指導案づくり（佐藤光咲）		授業の構想と指導案づくりをする。(3 時間)	
8	模擬授業と評価・改善（佐藤光咲、佐藤恵）		模擬授業の準備や練習をする。(1 時間) 模擬授業の評価及び授業のまとめをする。(1 時間)	
テキスト		講座で作成・配付する。		
指定図書		『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 『新・教育の方法と技術』（平田啓一他著、教育出版） 『教育方法論（新・教職課程シリーズ）』（広石英記著、一藝社） 『子どもに向き合う授業づくり』（生田孝至著、図書文化） 『新しい時代の教育方法』（田中耕治他著、有斐閣）		

科 目 名	道徳・特別活動及び総合的な学習		担当者	佐藤光咲
区 分 等	1 年次・後期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポート（課題）を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	学校教育の中で教科のほかに、子どもの成長や自己実現にとって重要な役割を担う「道徳教育」や「特別活動」、「総合的な学習の時間」の意義や目標を理解する。また、「道徳教育」や「道徳科」の指導、「総合的な学習の時間」及び「特別活動」の指導の実際を学びながら、これらの内容や指導方法の基本について理解を深める。			
到達目標	(1)道徳教育の意義と役割、ねらいについて学び、道徳的な実践意欲と態度を育てる「道徳科」の指導方法の基本を理解する。 (2)特別活動の意義と特質、ねらいについて学び、「学級活動」「生徒会活動」など4つの内容と指導方法の基本を理解する。 (3)「総合的な学習の時間」の意義と特質、ねらいについて学び、指導計画の作成、指導方法の基本を理解する。 (4)「道徳科」及び「学級活動」、「総合的な学習の時間」における食に関する授業の具体例を考察しながら指導案の作成や指導法の基本を理解し、教育実習において授業が実践できるようにする。			
履修上の注意	講義と演習を併用しながら進める。			
オフィスアワー	金曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、「道徳教育」、「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の意義と役割		自身の経験から道徳教育、特別活動及び総合的な学習の時間について特色をまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
2	学習指導要領における「道徳教育」、「道徳科」の目標と内容		テキストを読み、道徳教育、道徳科の目標のポイントをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
3	「道徳科」の授業の実際、指導方法の基本～「手品師」の授業を通して		小・中学校における道徳の時間の授業を振り返り、授業の進め方のポイントをまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
4	「総合的な学習の時間」の目標、及び全体計画と指導計画について		自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、総合的な学習の時間についての意義や活動の思い出をまとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
5	「総合的な学習の時間」の指導構想と評価		総合的な時間の計画を構想し、ポイントをまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
6	特別活動の目標と内容、「学級活動」における指導の特色と実際		自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて、特別活動についての意義や活動の思い出をまとめる。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
7	「児童（生徒）会活動」、「クラブ（部）活動」、「学校行事」の目標、内容と指導の実際		テキストを読み、学級活動の授業（食に関する指導）の進め方についてポイントをまとめておく。 (1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
8	特別活動における食に関する指導事例と授業づくり		学級活動の特質を生かした食に関する指導構想をまとめておく。(1.5 時間) 授業のまとめと確認をする。(0.5 時間)	
テキスト	『小学校学習指導要領解説 道徳編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版） 『中学校学習指導要領解説 道徳編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版） 『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に適宜紹介する。			

科 目 名	総合基礎（教職）B		担当者	佐藤光咲
区 分 等	2 年次・前期〔演習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①演習における授業内、及び授業外の取り組み（60%）、②履修カード（10%）、③レポート（30%）			
課題に対するフィードバック	授業内での講評、履修カードや提出物にコメントをつけて返却する。			
目 的	教職全般に関心をもち、1 年次の「教職総合基礎 A」で培った学習の上に、栄養教諭として必要な総合的発展的な知識や技能を身に付ける。			
到 達 目 標	1 年次で学修した教職科目や「教職総合基礎 I」で培った栄養教諭として必要な実践的知識や技能及び教職科目の学修内容を、より総合的発展的に高め、採用試験に取り組む。			
履修上の注意	① 1 年次の教職科目や「教職総合基礎 A」の学修を基に、より総合的発展的な演習を行う。 ②演習課題の予習や準備を行う。 ③栄養教諭として採用選抜試験に向かう総合的発展的な学力を身に付ける。			
オフィスアワー	授業の前後、及び月～水曜日の 12:30～14:00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	全国及び秋田県における教員採用の動向 （秋田県の栄養教諭の採用試験と特色）		わが国における教員（栄養教諭）の養成や採用はどのように行われているのだろうか、予想したり、調べてみたりする。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
2	国の教育施策の具体とその特色 1 （憲法と教育施策）		わが国の教育政策にはどんなものがあるか、自身の経験から書き出してみる。1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
3	国の教育施策の具体とその特色 2 （学習指導要領の特色と教育施策）		学習指導要領は何のために作られているか。現行の学習指導要領の特色を調べてみる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
4	教育の今日的課題と教育施策		わが国の今日的課題について調べておく。 （1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
5	国の施策と地方教育行政		の施策は地方行政にどのように反映されているのだろうか、予想し、調べてみる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
6	秋田県の施策（県の施策と教育振興計画）		県の施策と教育振興計画の特色を調べておく。 （1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
7	秋田県学校教育の指針 1 （本県学校教育の目指すもの）		秋田県の学校教育の目標や何か。また、大事にしているものは何かを調べてみる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
8	秋田県学校教育の指針 2 （学校教育共通実践課題～ふるさと教育、キャリア教育その他）		ふるさと教育やキャリア教育を大事にしているのはなぜだろうか。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
9	秋田県学校教育の指針 3 （全教育活動と課題～生徒指導など）		秋田県の学校教育において、生徒指導、道徳教育、人権教育、情報教育の重点は何か。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
10	秋田県学校教育の指針 4 （全教育活動を通して取り組む教育課題）		秋田県におけるコミュニティスクールや働き方改革の特色や動向について調べる。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
11	食育基本法・学校給食法と栄養教諭		栄養教諭の職務と法律についてまとめてみる。 （1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
12	食に関する指導（学習指導） 1		より実践的な指導案作りをしよう。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
13	食に関する指導（学習指導） 2		模擬授業をしよう。（1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
14	採用試験に必要な資質能力 1		採用試験要項の確認と志願理由をまとめてみる。 （1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
15	採用試験に必要な資質能力 2		過去問や面接等へ対応についてと準備しよう。 （1 時間） 授業のまとめと確認（1 時間）	
テキスト	なし。			
指定図書	適宜提示する。			

科 目 名	社会福祉概論	担当者	伊藤雅子
区 分 等	2年次・後期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	①小テスト(80%)、②課題レポート(20%)。		
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。		
目 的	健康で文化的な生活の方向性を社会的サービスと社会制度の体系の中から学ぶ。		
到 達 目 標	公共の福祉と地域福祉、国民の社会保障制度を理解することができる。 少子・高齢化社会、家庭機能の変化、障害者の自立と社会参加の時代を迎え、栄養士の視点から社会福祉を理解することができる。		
履修上の注意	社会福祉制度とその仕組みが日常どのように動いているかを毎日の報道でチェックする。 (新聞・テレビ・ネットニュース等)		
オフィスアワー	月曜日 16時～17時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	社会福祉の概念	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
2	社会福祉の歴史	ノートの整理と確認（2時間）	
3	社会補修制度の意義	ノートの整理と確認（2時間）	
4	生活困窮者のための福祉制度・施設	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
5	子どものための福祉制度・施設	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
6	高齢者のための福祉制度・施設 小テストと解説	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2時間）	
7	障害者の福祉制度・施設	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2時間）	
8	介護を必要とする人々と介護の概要	参考文献・指定図書を読んでおくこと（2時間）	
9	社会福祉実践の場	事前に配布する資料を読んでおくこと（2時間）	
10	母子保健	事前に配布する資料を読んでおくこと（2時間）	
11	秋田ナラティブブックについて 小テストと解説	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
12	アドバンス・ケア・プランニング（ACP）・DNRについて	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
13	雇用保険について（外部講師）	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
14	地域保健	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
15	災害福祉	指定した教科書を事前に読んでおくこと（2時間）	
テキスト	金子光一編著『新版 社会福祉概論〔第3版〕』（建帛社）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	公衆衛生学	担当者	高山裕子
区 分 等	2年次・前期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	レポート(50%) 定期試験(50%)		
課題に対するフィードバック	レポートは講評し、授業内で返却する。試験は解答を配付する。		
目 的	集団として健康を守るために行われてきた公衆衛生対策の歴史と方法、また現在の公衆衛生活動の現状を学び、自分自身のライフスタイルを振り返る。		
到 達 目 標	1. 衛生行政の目的、内容、法令について理解する。 2. 衛生統計の用語に慣れ、各種統計値の意味を理解する。 3. 保健活動の内容を学び、地域、国内、世界における具体的活動を挙げることができる。		
履修上の注意	グラフ用紙、計算機を持参すること。 ①レポートの多くは衛生統計の資料をグラフや表に作成し、考察するものである。グラフの作成法の注意点（横軸、縦軸が何を示しているかを書き込む、単位をつける、時間軸を均一にする、グラフの表題を書くなど）を守ること。 ②公衆衛生学で衛生学の用語に慣れることによって、新聞のほとんどが理解できるようになる。逆に新聞を読むことにより、公衆衛生学に興味を湧く。暇な時間を見つけ、新聞を読むことを薦める。 ③指定図書には現代の感染症など医学的な問題、環境などの社会問題など衛生学上の様々な分野の読み物がそろっている。図書館で見てほしい。読んで感想を述べてくれれば、いっそうよい。		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	公衆衛生の課題 国際的な活動（DVD視聴）	授業前後：教科書第1章、20章を読む（30分）	
2	国際保健、世界の人口、日本の人口（人口統計に関する第1回レポート出題）	授業前：教科書第2章を読む（30分） 授業後：第1回レポート作成準備(30分)	
3	出生・死亡統計	授業後：第1回レポート作成(60分)	
4	疫学的方法による健康の理解（疫学の指標に関する第2回レポート出題）	授業前：教科書第3章を読む（30分） 授業後：第2回レポート作成（60分）	
5	日常生活環境と健康	授業前後：教科書第4章を読む(30分)	
6	環境汚染と公害	授業前後：教科書第5章、7章を読む、(30分)	
7	感染症とその予防（1）感染症法（感染症に関する第3回レポート出題）	授業後：第3回レポート作成、栄養士実力試験公衆衛生学の前半部分を解く（60分）	
8	感染症とその予防（2）DVD視聴	授業前：第3回レポート作成	
9	母子保健（母子保健に関する第4回レポート出題）	授業後：第4回レポート作成 授業前：教科書第10章を読む(30分)	
10	学校保健	授業前後：第4回レポート作成（60分） 授業前：教科書第11章を読む(30分)	
11	労働と健康・精神保健福祉	授業前：教科書第12・13章を読む(30分)	
12	成人保健（成人保健に関する第5回レポート出題）	授業後：第5回レポート作成（60分） 授業前：教科書第14章を読む(30分)	
13	地域保健行政	授業前：教科書第17章を読む(30分)	
14	医療制度と医療政策・国際保健	授業前：教科書第19・20章を読む(60分)	
15	レポートの講評・まとめ	授業前：栄養士実力試験公衆衛生学の後半部分を解く（60分）	
テキスト	『コンパクト公衆衛生学（第6版）』		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	運動生理学		担当者	齋藤 謙
区 分 等	2年次・後期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。			
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所 の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の 説明をする。			
目 的	健康と運動について学習し、栄養士としての指導能力を高める。			
到 達 目 標	運動の仕組み、エネルギー代謝、トレーニングについて理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時			
授業計画			授業外学習	
1	健康増進とは。現代人の生活状況の問題点。 肥満。		運動生理 1-5(1 時間)	
2	肥満度の判定、加齢、精神的ストレス。 運動の意義と栄養士の役割		運動生理 4-10, 12-15(1 時間)	
3	骨格筋の構造と筋収縮のしくみ。収縮の様式。		運動生理 17-22(1 時間)	
4	骨格筋収縮の神経系による調節。速筋と遅筋。		運動生理 22-5, 運動生理 25-8(1 時間)	
5	骨格筋収縮時のエネルギー供給。		運動生理 28-32(1 時間)	
6	中間のまとめ。身体運動と呼吸器系の働き。		運動生理 32-38(1 時間)	
7	身体運動と循環器系の働き 1：心臓。		運動生理 38-41(1 時間)	
8	身体運動と循環器系の働き 2：血管。		運動生理 42-6(1 時間)	
9	食物のエネルギー、エネルギー代謝率の測定、呼 吸比、非蛋白呼吸比。		運動生理 49-54(1 時間)	
10	基礎代謝率、食事誘発性熱産生、運動時のエネ ルギー代謝率、メッツ、身体活動レベル、推定エネ ルギー心要量。		運動生理 54-61(1 時間)	
11	最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値。		運動生理 61-67(1 時間)	
12	中間のまとめ。トレーニング運動の種類と方法。		運動生理 69-73(1 時間)	
13	トレーニングの原則。		運動生理 73-77(1 時間)	
14	トレーニングの効果。		運動生理 77-82(1 時間)	
15	肥満の解消。骨粗鬆症を予防するトレーニング。 トレーニング時の栄養・水分・電解質補給。		運動生理 83-4, 運動生理 102-5(1 時間)	
テキスト	杉 晴夫著『やさしい運動生理学』（南江堂）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	臨床栄養学Ⅱ	担当者	齋藤 謙
区 分 等	2 年次・後期〔講義〕 1 単位 必修／健康栄養専攻		
評 価 基 準	試験（80%）、授業への取り組み・態度（20%）により評価する。		
課題に対するフィードバック	科目についての質問を随時受け付ける。学力が不足する学生に対しては、試験の間違い箇所の復習と訂正を指示する。復習後、個別に面談して訂正箇所を確認し、必要があれば補足の説明をする。		
目 的	食物と人体のかかわりについて学ぶ。幾つかの重要な疾患を解説し、疾患と食物・栄養の関係について学ぶ。		
到 達 目 標	主要疾患の食事療法を理解できる。		
履修上の注意	特になし。		
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	食物アレルギー。	臨栄 244-7 (1 時間)	
2	ヘマトクリット。赤血球。貧血。	臨栄 219-20, 220-3, 229-34 (1 時間)	
3	貧血(続き)。血液凝固と線溶系。	臨栄 234-7, 226-8, 生理 22 (表 2-5) (1 時間)	
4	糖尿病。	病理 244-7 (1 時間)	
5	中間のまとめ。脂質代謝。	臨栄 67-76. 臨栄 78-86 (1 時間)	
6	脂質異常症。動脈硬化症。	臨栄 86-91. 病理 135-8 (1 時間)	
7	蛋白質代謝とその異常	臨栄 92-5 (1 時間)	
7.5	高尿酸血症。	臨栄 95-6 (1 時間)	
テキスト	後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』（南江堂） 高橋 徹著『よくわかる病理学』（金原出版） 藤田恒夫著『入門人体解剖学』（南江堂） 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』（南江堂）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	スポーツ栄養学		担当者	浅野純平
区 分 等	2年次・後期〔講義〕 1単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	2回の小テストと定期試験により評価する(小テスト 50%、定期試験 50%)。			
課題に対するフィードバック	授業の中で小テストに関する解説を行う。			
目 的	競技スポーツにおける栄養サポートの理論と実践力を身に付けさせる。また、身体活動による生活習慣病、運動器症候群の予防法を学ばせる。			
到 達 目 標	ヒトの栄養素代謝、運動によって変化する生理機能・身体組成を学び、競技者に対する栄養指導方法を理解できる。			
履修上の注意	1. 限られた時間では要点のみを扱うに留まるので、自主自学が基本である。 2. 解剖生理学、基礎栄養学、運動生理学の知識が必要不可欠なので、これらの科目を復習しておくこと。 3. 必要に応じてオフィスアワーの時間帯に補講を実施する。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	運動の効用：身体活動、運動 (疾病との関わり、健康づくりの運動)		日頃から教科書・配布テキストを読み自学すること (2 時間)	
2	運動によって変化する生理機能、身体組成 (骨・骨格筋、循環器、呼吸器、内分泌への影響)		〃	
3	身体を作る栄養素、身体の機能調節をする栄養素 (タンパク質、脂質、ビタミン、ミネラル)		〃	
4	スポーツ・運動のエネルギー供給系、運動と糖質の栄養・代謝 (身体活動のためのエネルギー、糖質と運動パフォーマンス) 第1回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
5	第1回小テストの解説 運動と脂質およびタンパク質の栄養・代謝 (持久トレーニングと脂質代謝、筋タンパク質の合成・分解機構)		〃	
6	運動とビタミン、試合前後の食事内容 (身体づくりとビタミン、食事によるコンディション調整方法)		〃	
7	運動と水分、運動時の体温と循環調節 (体内の水分分布と体液量調節、脱水症、暑熱順化、熱中症のメカニズム) 第2回小テストの実施(中間まとめ)		〃	
8	第2回小テストの解説 運動と食事 (競技種目別エネルギー摂取量、献立の工夫、ウエイトコントロール)		〃	
テキスト	栄養・健康科学シリーズ『スポーツ栄養学』(化学同人)			
指定図書	あり(巻末参照)			

科 目 名	公衆栄養学		担当者	高山裕子
区 分 等	2年次・後期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	授業内の複数回試験(40%)、定期試験(60%)			
課題に対するフィードバック	試験結果の返却と解説			
目 的	個人、地域社会や集団を対象とした、食と生活環境要因と関連づけた公衆栄養の展開を学ぶ。			
到 達 目 標	①少子高齢化の進展と要介護の増大や生活習慣病の増加など、問題が生じている中、健康寿命を延伸させるまでのプロセスを理解できる。 ②2020年度版、食事摂取基準の基礎理論を理解し活用できるようになる。 ③わが国の栄養・食料政策についてその現状を理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	公衆栄養学の概念		テキスト pp. 1-15 をよく読み予習をしてくること	
2	高齢社会の健康問題		テキスト pp. 17-36 をよく読み予習をしてくること	
3	わが国の健康・栄養問題の現状と課題		テキスト pp. 36-49 をよく読み予習をしてくること	
4	わが国の健康・栄養問題の現状と課題		テキスト pp. 49-60 をよく読み予習をしてくること	
5	公衆栄養マネジメント		テキスト pp. 63-72 をよく読み予習をしてくること	
6	公衆栄養プログラムの展開		テキスト pp. 73-89 をよく読み予習をしてくること	
7	栄養疫学		テキスト pp. 91-103 をよく読み予習をしてくること	
8	食事調査の方法と活用		テキスト pp. 98-103 をよく読み予習をしてくること	
9	日本人の食事摂取基準（2020年版）		テキスト pp. 155-172 をよく読み予習をしてくること	
10	活用の基礎理論の考え方		テキスト pp. 155-172 をよく読み予習をしてくること	
11	わが国の健康・栄養政策		テキスト pp. 105-132 をよく読み予習をしてくること	
12	諸外国の健康・栄養政策		テキスト pp. 135-152 をよく読み予習をしてくること	
13	公衆栄養関連法規		テキスト pp. 192-227 をよく読み予習をしてくること	
14	公衆栄養活動と行政栄養士の業務		テキスト pp. 105-107 をよく読み予習をしてくること	
15	行政栄養士の業務・これまでのまとめ		テキストをよく読み復習をすること	
テキスト	芦川修貳監修『エスカパーシク公衆栄養学概論』（同文書院）			
指定図書	なし。			

科 目 名	栄養指導論		担当者	伊藤雅子
区 分 等	2年次・前期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①小テスト(60%)、②グループ発表(30%)、③課題レポート(10%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	健康教育の専門家として適切な指導能力を身につける。			
到 達 目 標	栄養指導の意義、歴史、制度、関係法令を学びながら、必要な栄養知識を学び、栄養指導 カウンセリングの技術その専門能力を身につけ実践できる。			
履修上の注意	新聞・テレビ等 で報道される食関係のニュース内容を確認しておく。			
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	栄養教育・指導の概念 栄養指導とは、目標、目的		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
2	栄養指導の役割、歴史		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
3	栄養指導に関連する法令(1) 健康増進法、食育基本法、地域保健法		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
4	栄養指導に関連する法令(2) 高齢者医療、母子保健法等		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
5	栄養指導に関する指標 小テストと解説		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
6	各法令についてグループワーク		自分の担当の法令についてまとめる（2 時間）	
7	各法令についてグループワーク		自分の担当の法令についてまとめる（2 時間）	
8	各法令についてグループワーク・発表（1）		自分の担当の法令について発表を充実させる工夫 を考え、実践してみる（2 時間）	
9	各法令についてグループワーク・発表（2）		自分の担当の法令について発表を充実させる工夫 を考え、実践してみる（2 時間）	
10	日本人の食事摂取基準 2020 について（1）		日本人の食事摂取基準 2020 を事前に読んで おくこと（2 時間）	
11	日本人の食事摂取基準 2020 について（2） 小テストと解説		日本人の食事摂取基準 2020 を事前に読んで おくこと（2 時間）	
12	栄養指導に必要な基礎知識 栄養指導の教材・媒体の特徴		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
13	栄養指導とカウンセリング(1) カウンセリングの基本と理解		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
14	栄養指導とカウンセリング(2) カウンセリングの基本と理解		指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
15	効果的な栄養指導について		これまでの復習（2 時間）	
テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』（学建書院） 『日本人の食事摂取基準 2020 年版』			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	ライフステージ栄養指導論		担当者	須磨亜沙子
区 分 等	2年次・後期〔講義〕2単位 必修／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. 受講態度（質問及び回数、ノート記入等）（40%） 2. 定期試験（60%）			
課題に対するフィードバック	授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目 的	各ライフステージにおける生理的特徴を理解し、起こりうる栄養代謝の異常・栄養状態に応じた栄養管理・栄養指導法を身に付ける。			
到 達 目 標	1. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養、食生活の諸問題、課題を説明することができるようになる。 2. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方と栄養教育カリキュラムのポイントを理解できる。 3. ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育について効果的な方法を説明することができるようになる。 4. ヘルスプロモーションの考え方をふまえ、食環境づくりの関係及びその必要性を説明することができるようになる。 5. 栄養指導を行う代表的疾患の特徴とその指導方法について理解できる。			
履修上の注意	なし。			
オフィスアワー	月曜日 9～10時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ライフステージ別栄養指導の意義と目的		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
2	妊娠期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
3	妊娠期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
4	授乳期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
5	授乳期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
6	幼児期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
7	幼児期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
8	思春期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
9	思春期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
10	青年期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
11	青年期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
12	老年期の栄養管理・栄養指導①		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
13	老年期の栄養管理・栄養指導②		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
14	老年期の栄養管理・栄養指導③		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
15	総合学習		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートの整理と確認（1時間）	
テキスト	本田佳子編『新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント』（医歯薬出版）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	解剖生理学実験		担当者	齋藤 謙
区 分 等	2 年次・前期〔実験〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	レポート提出 (80%) と実験態度 (20%) により評価。			
課題に対するフィードバック	毎回、実習中に巡回して質問に答え、必要に応じて補足の説明を行う。			
目 的	解剖生理学 I, II の講義で理解したことを、実際の観察によってより確かなものとする。			
到 達 目 標	人体の構造および生理現象の実験を通して、各臓器・組織の構造と働きを理解できる。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	水曜日 13 時～14 時			
授業計画			授業外学習	
1	顕微鏡の観察法、組織標本の染色法、 組織実習：大腸(消化管壁の 5 層構造)		プリント、臨床栄養 36-7, 解剖 151, 183-5(1 時間)	
2	組織実習：大腸(粘膜下の小動静脈、筋層の 平滑筋細胞、粘膜下・筋間神経叢)		解剖 151, 185, 生理 42, 47, 229-30, プリント(写真) (1 時間)	
3	NHKDVD「人体 I－3 (胃)」視聴 組織実習：胃 (胃体部)		解剖 168-77, 生理 3(図 1-1), 臨床栄養 23-5(1 時間)	
4	NHKDVD「人体 I－3 (腸)」視聴 組織実習：小腸 (空腸)		解剖 177-83, 臨床栄養 35-6(1 時間)	
5	組織実習：肝臓		解剖 185-9, 130-1(1 時間)	
6	組織実習：膵臓 (外分泌、内分泌)		解剖 190-3, 251-2, 臨床栄養 33-5, 19-20(1 時間)	
7	生理実習：味覚 (塩味、甘味) NHKDVD「歯の手入れ」視聴		解剖 162-4, 159-62, 261, 308, 268(図 13-13) (1 時間)	
8	組織実習：心臓 (左心室)		解剖 111-4, 13-4(1 時間)	
9	組織実習：肺		解剖 199-208, 211(1 時間)	
10	組織実習：腎臓		解剖 213-8、生理 102(図 6-3), 臨栄 151(図 7-5) (1 時間)	
11	組織実習：副腎皮質・髄質		解剖 249-51, 生理 175(図 10-4), 解剖 242(図 12-1), 244, 臨栄 127(1 時間)	
12	組織実習：末梢血塗抹標本		解剖 146-9, 臨床栄養 283	
13	生理実習：視覚、嗅覚		解剖 313-8, 309(図 13-50), 196-9, 285, 解剖生理学実験 141, 143(1 時間)	
14	DVD「アトピー性皮膚炎 (皮膚バリアの保持)」視聴 組織実習：皮膚		解剖 326-32, プリント(表皮) (1 時間)	
15	生理実習：血圧測定		臨床栄養 126, 生理 41(図 3-12) 解剖 123(図 7-23), 解剖生理学実験 87-9(1 時間)	
テキスト	青峰、藤田、他共著『イラスト解剖生理学実験』(東京教学社) 藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 彼末一之、能勢 博編『やさしい生理学』(南江堂) 後藤昌義、瀧下修一著『新しい臨床栄養学』(南江堂)			
指定図書	なし。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：医師として病院勤務

教育内容：人体の構造および生理現象を人体の計測、生理実習、組織実習により実践的に学び、各臓器・組織の構造と働きを学習する。

科 目 名	生化学実験	担当者	浅野純平
区 分 等	2 年次・後期〔実験〕 1 単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	1. 複数回のレポート (50%) 2. 実験に取り組む姿勢 (50%)		
課題に対するフィードバック	実験の中でレポートに関する解説を行う。		
目 的	生体物質の特性を理解し、実験技術を習得させる。		
到 達 目 標	1. タンパク質の定量法について学び、理解を深めることができる。 2. 酵素の諸性質について理解を深めることができる。 3. 尿・唾液等を用いて様々な生化学的検査を行い、検査値について理解できる。 4. 検体検査、生理機能検査を理解できる。		
履修上の注意	1. 実験中は白衣を着用すること。 2. レポートは実験毎に提出すること。 3. グラフ用紙、計算機、実験ノート、生化学の教科書を持参すること。 4. 班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。 時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成するのが望ましい。		
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	官能基・アミノ酸の構造	第 1 回レポートの準備(1 時間)	
2	緩衝液の調製	第 2 回レポートの準備(1 時間)	
3	タンパク質の定量	第 3 回レポートの準備(1 時間)	
4	分光分析	第 4 回レポートの準備(1 時間)	
5	酵素反応一(1)	第 5 回レポートの準備(1 時間)	
6	酵素反応一(2)	第 6 回レポートの準備(1 時間)	
7	第 1 回から第 6 回までのまとめと解説	第 1 回から第 6 回までのレポートの見直(1 時間)	
8	アルコール感受性試験およびヒト遺伝子に関する講義	第 7 回レポートの準備(1 時間)	
9	簡易血糖測定装置による食事前後の血糖値測定による耐糖能の観察	第 8 回レポートの準備(1 時間)	
10	唾液と尿を用いた生化学的検査-(1)尿を用いた酵素反応実験の応用	第 9 回レポートの準備(1 時間)	
11	唾液と尿を用いた生化学的検査-(2)ろ紙ディスク法による味覚実験	第 10 回レポートの準備(1 時間)	
12	唾液と尿を用いた生化学的検査-(3)尿中、唾液中の Na+濃度、K+濃度	第 11 回レポートの準備(1 時間)	
13	唾液と尿を用いた生化学的検査-(4)唾液アミラーゼの実験	第 12 回レポートの準備(1 時間)	
14	唾液と尿を用いた生化学的検査-(5)尿中クレアチニンの定量	第 13 回レポートの準備(1 時間)	
15	第 7 回から第 13 回までのまとめと解説	第 7 回から第 13 回までのレポートの見直し(1 時間)	
テキスト	『2022 年度版 生化学実験書』		
指定図書	あり（巻末参照）		

科 目 名	栄養学実習		担当者	浅野純平
区 分 等	2 年次・前期〔実習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. レポート (50%) 2. 実験に取り組む姿勢 (50%)			
課題に対するフィードバック	実習の中でレポートに関する解説を行う。			
目 的	栄養学の意義を理解し、実験技術を習得させる。			
到 達 目 標	1. 栄養素や酵素に関する実験を行い、それらの諸性質を理解できる。 2. 動物実験を行い、生体試料の調製方法を学びながら、生命の尊厳を考えることができる。 3. パソコンを活用した栄養計算、栄養補正、栄養評価方法を理解できる。			
履修上の注意	1. 実験中は白衣を着用すること。 2. レポートは実験毎に提出すること。 3. グラフ用紙、計算機、実験ノートを持参すること。 4. 班毎の実験ではあるが、必ず各人が身体を動かし実験すること。時間を有効に利用して実習時間内にレポートを作成するのが望ましい。			
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30 以降			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	体組成計を用いる自己の身体状況の評価 (BMI、筋肉量、骨密度などの測定)		第 1 回レポートの準備 (1 時間)	
2	栄養価計算 (パソコンを用いる栄養価計算)		第 2 回レポートの準備 (1 時間)	
3	自己の食物摂取状況の評価-(1) (食事調査、摂取エネルギー量の算出)		第 3 回レポートの準備 (1 時間)	
4	デンプンのヨウ素反応 (粗デンプンの調製とヨウ素反応)		第 4 回レポートの準備 (1 時間)	
5	等電点沈殿を利用した牛乳からのカゼインの分離 (カゼインの分離、タンパク質とリンの定性)		第 5 回レポートの準備 (1 時間)	
6	脂質の定性とコレステロールの反応 (乳化反応、リーベルマン・ブルアルト反応)		第 6 回レポートの準備 (1 時間)	
7	ビタミン C の定量 (緑茶、紅茶中のビタミン C の定量)		第 7 回レポートの準備 (1 時間)	
8	第 1 回から第 7 回までのまとめと解説		第 1 回から第 7 回までのレポートの見直し (1 時間)	
9	動物実験に関する教育訓練		動物実験に関する教育訓練配付資料の通読 (1 時間)	
10	ラットの解剖 (摂食と絶食による臓器所見の比較、臓器所見の作成、血清と肝臓の採取)		第 8 回レポートの準備 (1 時間)	
11	ラット血清中の血糖値の定量 (絶食が血糖値に及ぼす影響を調べる)		第 9 回レポートの準備 (1 時間)	
12	ラット血清中のトリグリセリドの定量 (絶食がトリグリセリド量に及ぼす影響を調べる)		第 10 回レポートの準備 (1 時間)	
13	ラット血清・肝臓タンパク質の定量 (ローリ法) (絶食がタンパク質量に与える影響を調べる)		第 11 回レポートの準備 (1 時間)	
14	肝グルコース-6-ホスファターゼ活性の測定 (絶食が酵素活性に及ぼす影響を調べる)		第 12 回レポートの準備 (1 時間)	
15	自己の消費エネルギー量の算出 第 10 回から第 14 回までのまとめと解説		第 13 回レポートの準備 (1 時間)	
テキスト	『2022 年度版 栄養学実習書』			
指定図書	あり (巻末参照)			

科 目 名	ライフステージ栄養学実習		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	2年次・前期〔実習〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. レポート(60%) 2. 調理技術 (20%) 3. 受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。			
目 的	ライフステージに対応した栄養マネジメント能力を養う。			
到 達 目 標	ライフステージの特性を理解した上で、対象者に応じた栄養計画、実施、評価ができる。			
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. 食品成分表と電卓を持参すること。			
オフィスアワー	月曜日 11：00～12：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション (1) 実習の目標と内容 (2) 栄養アセスメントおよび栄養計画		1. 各ライフステージの特性を十分理解した上で授業に臨む。 2. 授業後は、対象者に応じた栄養管理についてレポートを作成する。	
2	妊娠期、乳児期の栄養管理 (1) 生後 5～6 か月 調乳・離乳食、		乳児期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(1 時間)	
3	乳児期の栄養管理 (2) 生後 7～8 か月、9～11 か月、12～18 か月 離乳食		乳児期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(1 時間)	
4	幼児期の栄養管理 (1) 4 歳女子の栄養アセスメントと栄養計画		幼児期の栄養管理について教科書で予習する。 (30 分)	
5	幼児期の栄養管理 (2) 実施、評価		幼児期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(1 時間)	
6	学童期の栄養管理 (1) 8 歳女子の栄養アセスメントと栄養計画		学童期の栄養管理について教科書で予習する。 (30 分)	
7	学童期の栄養管理 (2) 実施、評価		学童期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(1 時間)	
8	思春期の栄養管理 (1) 16 歳女子の栄養アセスメントと栄養計画 3・1・2 弁当箱法		思春期の栄養管理について教科書で予習する。 (30 分)	
9	思春期の栄養管理 (2) 実施、評価		思春期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(2 時間)	
10	青年期の栄養管理 (1)		青年期の栄養管理について教科書で予習する。 (30 分)	
11	青年期の栄養管理 (2)		青年期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(2 時間)	
12	高齢期の栄養管理 (1) 70 歳女性の栄養アセスメントと栄養計画		高齢期の栄養管理について教科書で予習する。 (30 分)	
13	高齢期の栄養管理 (2) 実施、評価		高齢期の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(2 時間)	
14	壮年期スポーツ選手の栄養管理 (1) 30 歳男性スポーツ選手の栄養アセスメントと計画		スポーツ選手の栄養管理について教科書で予習する。(30 分)	
15	スポーツ選手の栄養管理 (2) 実施、評価		スポーツ選手の栄養管理について教科書で予習し、実習後はレポートを作成する。(2 時間)	
テキスト	東愛子・原田まつ子編『応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理』（講談社サイエンスフィク）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	臨床栄養学実習		担当者	須磨亜沙子
区 分 等	2年次・前期〔実習〕1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	受講態度（質問及び回数、ノート記入等）（40%）、課題（60%）			
課題に対するフィードバック	1. 課題について評価し、随時解説やアドバイスをしながら返却する。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目 的	傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を養う。			
到達目標	1. 常食から治療食への展開食の計画、調整ができるようになる。 2. 各疾患の食事調整・献立計画・調理実習を通して、栄養管理の意義を理解できる。 3. 成分別栄養管理および疾病別栄養管理について理解できる。 4. 糖尿病・腎臓病交換表により献立作成ができ、活用方法を説明できるようになる。			
履修上の注意	1. 調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを準備すること。 2. 『日本食品成分表 2021 年版（八訂）』・電卓を持参すること。 3. 材料費を徴収する。			
オフィスアワー	月曜日 15～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション 臨床栄養学実習の目標、食事療養の意義 治療食の種類（一般食と特別治療食）、献立の展開		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
2	献立展開の実際 一般食（常食、軟食、流動食）の調理		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
3	一般食の展開		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
4	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→塩分コントロール食		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
5	特別治療食の食事計画 塩分コントロール食の調理		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
6	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→脂質コントロール食		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
7	特別治療食の食事計画 脂質コントロール食の献立作成		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
8	特別治療食の食事計画 脂質コントロール食の調理		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
9	一般食から特別治療食への献立の展開 常食→エネルギーコントロール食		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
10	特別治療食の食事計画 エネルギーコントロール食の献立作成		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
11	特別治療食の食事計画 エネルギーコントロール食の調理		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
12	食品交換表を活用した食事計画の考え方(1) 糖尿病		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
13	食品交換表を活用した食事計画の考え方(2) 腎臓病		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
14	特別治療食の食事計画 タンパク質制限食 治療用特殊食品を利用した献立の考え方		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
15	評価を含むまとめ		予習：該当する教科書のページを読む（1 時間） 復習：実習書の整理（2 時間）	
テキスト		芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・食事療養実務入門』（学建書院） 芦川修貳、ほか編集『栄養士になるための臨床栄養学実習・別冊・食事療養実務実習書』（学建書院） 松本伸子監修『調理の基本 まるわかり便利帳』（女子栄養大出版部） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（文光堂） 浅野誠一他著『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版）		
指定図書		あり（巻末参照）。		

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：傷病者の病態や栄養状態に基づき、適切な栄養管理を行うための栄養食事計画の技術を、食事調整・献立作成・調理実習等の実践的教育により養う。

科 目 名	栄養指導実習		担当者	伊藤雅子
区 分 等	2年次・後期〔実習〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	実習記録の提出(60%)、プレゼンテーション (20%)、課題レポート(20%)。			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。			
目 的	各対象者における栄養指導のあり方、方法について学習する。			
到 達 目 標	①行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できる。 ②実際の場面を想定して栄養指導ができる。 ③対象者に合わせてコミュニケーション方法を選択する事が出来る。			
履修上の注意	栄養学総論・各論、臨床栄養学、調理学、栄養指導論などの科目を基礎とし、演習方式で授業を行う。			
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	病態別別栄養教育の概要		指定した教科書を事前に読んでおくこと	
2	話し方の基礎 パワーポイントの有効な活用 (1)		事前に配布する資料を読んでおくこと	
3	話し方の基礎 パワーポイントの有効な活用 (2)		事前に配布する資料を読んでおくこと	
4	教育・媒体の種類と活用 (1)		事前に配布する資料を読んでおくこと	
5	教育・媒体の種類と活用 (2)		事前に配布する資料をまとめておくこと	
6	1～6 回のまとめ プレゼンテーション		発表内容をまとめておくこと	
7	栄養指導の方法（個別指導・集団指導）(1)		指定した教科書を事前に読んでおくこと	
8	栄養指導の方法（個別指導・集団指導）(2)		指定した教科書を事前に読んでおくこと	
9	栄養指導案作り (1)		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
10	栄養指導案作り (2)		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
11	栄養指導実施		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
12	病態別栄養指導案作り (1)		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
13	病態別栄養指導案作り (2)		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
14	病態別栄養指導実施		担当の対象者の栄養指導関連文献を読んでおくこと	
15	栄養指導におけるコミュニケーションの取り方		指定した教科書を事前に読んでおくこと	
テキスト	芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』（学建書院） 『日本人の食事摂取基準 2020 年版』			
指定図書	あり（巻末参照）。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：集団指導の実践を通して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。

科 目 名	ライフステージ栄養指導実習		担当者	須磨亜沙子
区 分 等	2年次・後期〔実習〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	実習態度（30%）、課題提出（30%）、発表内容（40%）			
課題に対するフィードバック	1. 課題、発表内容について評価し、留意点について授業内でフィードバックを行う。 2. 授業毎に行う振り返りで得た質問に関しては、随時アドバイスや提案をする等、学生へフィードバックする。			
目 的	理論で学んだ基礎知識を応用して、食生活全般にわたる教育・指導に必要な企画力、教育・指導力を養う。			
到達目標	1. ライフステージ別に栄養教育の課題を理解し、指導計画を立案できるようになる。 2. 対象に応じた指導案を作成できるようになる。 3. 指導内容にあった媒体を選択し、適切に活用できるようになる。 4. 集団・個別指導技術を身に付け、指導を円滑に進めることができるようになる。 5. 集団・個別指導の実践を通して対象者に効果的な指導方法とはどのようなものかについて理解できる。			
履修上の注意	指導対象者の実態把握のための情報収集、栄養指導方法の検討、指導媒体の検討をするために図書館の図書を積極的に利用してほしい。			
オフィスアワー	火曜日 15～16時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ライフステージ別栄養管理		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
2	妊娠期・授乳期 栄養指導計画書作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
3	妊娠期・授乳期 栄養指導案作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
4	乳児期・幼児期 栄養指導計画書作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
5	乳児期・幼児期 栄養指導案作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
6	学童期・思春期 栄養指導計画書作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
7	学童期・思春期 栄養指導案作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
8	青年期・壮年期 栄養指導計画書作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
9	青年期・壮年期 栄養指導案作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
10	高齢期 栄養指導計画書作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
11	高齢期 栄養指導案作成		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
12	栄養指導媒体作成（1）		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
13	栄養指導媒体作成（2）		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
14	栄養指導の実際 模擬指導		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
15	栄養指導の評価		予習：該当する教科書のページを読む（1時間） 復習：ノートや資料の整理（2時間）	
テキスト	木戸康博、小林ゆき子編『栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学実習』（講談社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の実務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院勤務

教育内容：行動科学やカウンセリングなどの理論を理解し、栄養指導の計画を立案できるよう、実際の場面を想定したライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養指導のあり方を実践的に学ぶ。

科 目 名	給食管理実習 I		担当者	伊藤雅子
区 分 等	2 年次・前期〔実習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	レポート (50%) 実習態度 (40%) 実技テスト (10%)			
課題に対するフィードバック	随時、アドバイスや提案をする等、学生にフィードバックする。 提出物については、随時コメントを付けて返却する。			
目 的	各専門科目の学習で得た知識を応用して給食施設の特徴を知り、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につけること。			
到 達 目 標	①給食施設での栄養士の役割について知ることができる。 ②予算にあった献立作成ができるようにする。 ③大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく調理作業管理ができるようにする。 ④発注業務管理ができるようにする。			
履修上の注意	①『八訂日本食品成分表』、電卓準備。 ②調理の日は指定の白衣、帽子、コックシューズを着用。 ③材料費を徴収する。			
オフィスアワー	月曜日 16 時～17 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	給食管理実習オリエンテーション 給食管理実習の意義と目的、実習室の説明、作業と衛生の留意点。実技テスト		シラバスの確認と指定した教科書を事前に読んでおくこと（2 時間）	
2	大量調理の基本		指定した教科書を事前に読んでおくこと	
3	学校給食 発注		対象献立を考えておくこと	
4	学校給食（実習 1 班）		作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
5	学校給食（実習 2 班）		作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
6	学校給食（実習 3 班）		作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
7	学校給食（実習 4 班）		作業工程表・作業指示書を作成しておくこと	
8	コンベクションオーブンの使い方（外部講師）		配布した資料を読んでおくこと	
9	ランチ献立作成（1）学会分類 2021 について（1）		配布した資料を読んでおくこと	
10	ランチ献立作成（2）学会分類 2021 について（2）		配布した資料を読んでおくこと	
11	ランチ試作（1）		試作により改善すべき点を見出しておくこと	
12	ランチ試作（2）		試作により改善すべき点を見出しておくこと	
13	ランチ試作（3）		試作により改善すべき点を見出しておくこと	
14	ランチ試作（4）		試作により改善すべき点を見出しておくこと	
15	ランチ提供反省・実技テスト		これまでの復習をしておくこと	
テキスト	藤原政嘉編著『給食経営管理実習ワークブック第 3 版』（みらい） 『衛生管理＆調理技術マニュアル』（文部科学省スポーツ青年局学校健康教育課）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

※実務経験のある教員による授業科目の担当教員の实務経験および、教育内容

実務経験：管理栄養士として病院・福祉施設で勤務

教育内容：大量調理施設衛生管理マニュアルに基づき調理作業管理等を実践的に学び、給食管理に必要な管理能力を総合的に身につける。

科 目 名	給食管理実習Ⅱ	担当者	伊藤雅子
区 分 等	2年次・集中〔校外実習〕2単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	校外実習レポート（60%）、報告会の発表内容（30%）実習現場先の総合的評価（10%）		
課題に対するフィードバック	提出物については、随時コメントを付けて返却する。		
目 的	給食施設における給食管理の実際を体験し、栄養士に必要な知識・技術・応用力を身につける。		
到 達 目 標	①給食運営の実際を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。 ②献立管理のポイントを知ることができる。 ③食数管理の方法を知ることができる。 ④発注管理のポイントを知ることができる。 ⑤在庫管理の重要性を知ることができる。 ⑥事務管理のポイントを知ることができる。 ⑦衛生管理の重要性を知ることができる。		
履修上の注意	『八訂日本食品成分表』、電卓準備。		
オフィスアワー	月曜日 16時～17時		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
①校外実習先の概要を学び、その施設について理解、指導者の計画に基づき実習訓練を受ける。 ②個人の目標として、その施設の事務管理、衛生管理、作業管理、栄養管理について目標を持って実習に入る。 ③対象者に合わせた食形態、病態に合わせた食事内容について確認 ④研究テーマの設定（1課題） ⑤校外実習時間 80時間 ⑥報告会の発表準備 ⑦報告会の実施		大量調理施設衛生管理マニュアルを熟読しておく。 校外実習先対応の参考文献を読んでおく。 研究テーマについての関連文献を読んでおく。	
テキスト	松崎政三編著『臨地実習マニュアル(給食経営管理・給食の運営)』第3版(建帛社) 藤原政嘉編『給食経営管理実習ワークブック第3版』(みらい) 『衛生管理&調理技術マニュアル』(文部科学省スポーツ青年局学校健康教育課) 芦川修貳編著『栄養士のための栄養指導論』(学建書院) 日本人の食事摂取基準 2020年版		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	調理学実験		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	2年次・後期〔実験〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. レポート(80%) 2. 受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、評価をつけて返却する。			
目 的	調理過程における食品の変化を理解し、健康を考えた調理を再現できる応用力と想像力を養う。			
到 達 目 標	食品の性質を理解した上で、調理操作による科学的変化を説明できる。			
履修上の注意	1. 材料費は別途で徴収する。 2. 食品を取り扱うので、調理用白衣・帽子・コックシューズを着用し、衛生管理の徹底を心がけること。 3. フードスペシャリスト資格取得を目指す者は必ず履修すること。			
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	オリエンテーション：(1) 実験の導入と心がけ (2) レポートの書き方		授業後は、実験結果に基づいたレポートを作成し、どのような点が明らかになったか、科学的根拠に基づいた考察を行う。	
2	測定の基礎：(1) 食品の体積と密度 (2) 嗅覚～たまねぎのにおいの調理による変化		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。実験後はレポートを作成する（1時間）	
3	栄養・健康性：(1) 咀嚼のしやすさと調理 (2) 粥・ご飯の食べ方と一口量		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
4	栄養・健康性：(1) 舌でつぶせる硬さの程度 (2) 刻み食・ブレンダー食		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
5	栄養・健康性：(1) 汁物の調理方法と塩分摂取量 (2) 香ばしさ・油のコク・辛味・酸味の減塩効果		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
6	レポートのまとめ		レポートを考察する。	
7	調理による理化学的变化：(1) うるち米、もち米の浸漬による変化 (2) 米粉シフォンケーキの調理特性		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
8	調理による理化学的变化：スポンジケーキの品質に及ぼす卵の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
9	調理による理化学的变化：(1) 野菜の色と調理変化 (2) 果物の変色・褐変		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
10	調理による理化学的变化：(1) さつまいもの加熱調理と甘味 (2) あずきあんの調製と性状		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
11	調理による理化学的变化：(1) ハンバーグにおける食塩や副材料の役割 (2) 湿式加熱による肉の硬さとスープの食味における加熱時間の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
12	調理による理化学的变化：切り身魚を調味液に入れる時期の影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
13	調理による理化学的变化：(1) 鶏卵の鮮度鑑別と各部重量 (2) 卵の起泡性と泡の安定性～添加物の影響～		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
14	調理による理化学的变化：砂糖添加がゲルの性状とテクスチャーに及ぼす影響		実験の目的、方法について理解した上で授業に臨む。 実験後はレポートを作成する（1時間）	
15	衛生管理について		衛生管理を確認する。（0.5時間）	
テキスト	なし。別途実験書を配付する。			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	フードコーディネート論		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	2年次・後期〔講義〕2単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①レポート(80%) ②受講態度(20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。			
目 的	この授業では生活者としての視点とビジネスとしての視点を兼ね備え、「食のアメニティの創造」と「ホスピタリティ」をもって仕事をすることができるようになるためにフードコーディネートの基礎概念を学ぶ。			
到 達 目 標	食の演出ができるようになるための知識と技能を身につける。			
履修上の注意	特になし。			
オフィスアワー	月曜日 15：00～16：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	フードコーディネートの基本理念		フードスペシャリストの資格を取得する目的だけではなく、自分の感性を豊かにするための努力をすること。(0.5時間)	
2	フードスペシャリスト過去問題模擬試験		フードスペシャリストの過去問を解いて模擬試験に臨む。(2時間)	
3	食事の文化・日本の食事・外国の食事		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
4	食卓のコーディネート		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
5	日本・中国・西洋の食卓のコーディネート		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
6	食卓のサービスとマナー（日本・中国・西洋）		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
7	メニュープランニングとは		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
8	メニュープランニングの要件		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
9	料理様式とメニュー開発の基礎		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
10	食空間のコーディネート・フードマネジメント		フードスペシャリストの過去問を解いて授業に臨む。(0.5時間)	
11	食卓の演出のための作品制作（クリスマスコーディネート）		食卓の演出を各自考え、授業に臨む。（1時間）	
12	テーブルコーディネートの基礎		当該単元を読んで授業に臨む。(0.5時間)	
13	フードコーディネートの基礎①濃淡、構図		当該単元を読んで授業に臨む。(0.5時間)	
14	フードコーディネートの基礎②質感、総仕上げ		当該単元を読んで授業に臨む。(0.5時間)	
15	食卓の演出のための作品制作・発表		当該単元を読んで授業に臨み、レポートを作成する。(2時間)	
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『フードコーディネート論』（建帛社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	食品の官能評価・鑑別演習		担当者	豊嶋瑠美子
区 分 等	2 年次・後期〔演習〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	1. 授業内試験 (50%) 2. レポート (30%) 3. 受講態度 (20%)			
課題に対するフィードバック	レポートは適宜確認し、返却する。			
目 的	フードスペシャリストにとって必要な食品の官能評価・鑑別についての知識や技術を習得する。			
到 達 目 標	食品の品質、化学的評価法、物理的評価法を理解した上で個別食品の官能評価・鑑別ができる。			
履修上の注意	フードスペシャリスト資格取得を目指す者は必ず履修すること。			
オフィスアワー	火曜日 15：00～16：00			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	フードスペシャリストに必要とされる知識と技能		次回内容に該当する部分のテキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(0.5 時間)	
2	食品の品質、食品の概要、食品の表示		テキストを読み、概要を把握した上で授業に臨む。(1 時間)	
3	官能検査、官能検査の概要、官能検査の基本と実施法		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(1 時間)	
4	官能評価の実施：塩味の濃度差テスト		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(1 時間)	
5	官能評価の実施：2 点識別・嗜好試験		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(1 時間)	
6	個別食品の鑑別		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習する。(1 時間)	
7	2020 年度フードスペシャリスト資格認定試験問題		認定試験問題を解いて授業に臨む。(1 時間)	
8	2019 年度フードスペシャリスト資格認定試験問題		認定試験問題を解いて授業に臨む。(1 時間)	
9	2018 年度フードスペシャリスト資格認定試験問題		認定試験問題を解いて授業に臨む。(1 時間)	
10	化学的評価法、食品成分と品質、化学的品質評価		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
11	物理的評価法、食品の状態、レオロジーとテクスチャー		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
12	官能評価の実施：スピアマンの順位相関係数		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
13	官能評価の実施：ケンドールの一致性の係数		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
14	官能評価の実施：評点法		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
15	官能評価の実施：SD 法		テキストおよび配付資料を参考にして授業内容を復習し、レポートを作成する。(1 時間)	
テキスト	日本フードスペシャリスト協会編『新版食品の官能評価・鑑別演習第 3 版』（建帛社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	生徒指導		担当者	佐藤光咲
区 分 等	2 年次・前期〔講義〕 1 単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	生徒指導の意義や基本的な概念を理解し、学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方や対応についての基礎的な力を培う。			
到 達 目 標	(1)生徒指導の意義、目的、機能を理解し、学校教育における生徒指導上の諸課題とその解決に向けた考え方を説明できる。 (2)学校における生徒指導の実際を学び、課題解決のための具体的な指導及び、対応を考えることができる。			
履修上の注意	講義を軸にグループディスカッションを適宜取り入れる。			
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、生徒指導の意義と役割		自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて生徒指導について自分なりの考えをもつ。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
2	生徒指導と教育課程との関連、生徒指導の組織と計画（学校における事例を通して）		テキストの指定したページを読み、予習する。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
3	生徒理解の意義と方法―発達段階の特徴と課題		生徒理解とは何をすることか考えをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
4	生徒指導の方法―集団指導と個別指導		集団指導と個別指導の特色、意義についてまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
5	問題行動とその対応（いじめその他）―チーム学校としての取り組み		いじめの起こりやすい状況、環境について自分の考えをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
6	授業における生徒指導―生徒指導の 3 機能、教師の実践事例を通して		授業における生徒指導とは何か、自分の考えをまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
7	生徒指導と法律―校則、懲戒と出席停止、青少年育成条例など		自己の学校生活を振り返り、校則について考えをまとめておく。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
8	自己実現に向かう生徒指導―キャリア教育等との関わり、社会的スキルの支援等		児童生徒が自己実現に向かう態度を育てる生徒指導はどうあるべきか、自分の考えをまとめる。（1 時間） 授業のまとめと確認をする。（1 時間）	
テキスト	『生徒指導提要』（最新版）（文部科学省著、教育図書） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	『小学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、東洋館出版社） 『中学校学習指導要領解説総則編』（最新版）（文部科学省著、ぎょうせい） 授業時に適宜紹介する。			

科 目 名	教育相談		担当者	佐藤光咲
区 分 等	2年次・前期〔講義〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①レポート（60%）、②履修カード(20%)、③授業参加態度、演習での貢献度（20%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○レポートを課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	教育相談の意義と役割を確認し、子どもや保護者の理解を促すために、教育相談の進め方として心理アセスメント及び各種相談技法について理解を深める。また、チーム学校としての教育相談の取り組みの実際を学び、子どもが自力解決できるための対応や支援の基礎を養う。			
到 達 目 標	(1)教育相談の意義と役割、児童生徒理解の基本知識を説明できる。 (2)教育相談に必要なカウンセリングなどの技法の基礎を学び、教育相談の実際を通して理解を深める。 (3)不登校、虐待、発達障害等の問題を抱える保護者や子どもとの教育相談の在り方について理解を深める。 (4)教育相談における開発的支援として、社会的スキル、グループエンカウンター等の意義を理解し、指導方法の基礎を身に付ける。			
履修上の注意	グループワークやロールプレイングを取り入れる。			
オフィスアワー	火曜日 15 時～16 時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、教育相談(及びカウンセリング)とは何かー学校における教育相談の意義や目的など		自身が受けてきた教育経験と照らし合わせて教育相談について自分なりの考えをもつ。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
2	教育相談に生かす子ども理解ー一般的理解と個別的理解、発達理解（胎児期・幼児期・児童期・青年期）		教育相談において子ども理解はなぜ不可欠か考えをまとめ、理解の方法を予想する。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
3	教育相談に生かす心理学的基礎ー欲求・葛藤・自我の防衛機制など		前時に提示した防衛機能について種類、内容を図書やネットで調べ、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
4	教育相談の歴史とカウンセリング理論ーフロイト、ロジャーズ等		フロイトとロジャーズのカウンセリング（療法）の特色を図書やネットで調べ、まとめる。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
5	カウンセリングマインドを生かした教育相談ー事例を通した演習		望ましいカウンセリングとは何か、相談者の立場からまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
6	問題行動（反社会的・非社会的）への対応と教育相談ーチーム学校としての取り組み		テキストやネット等から不登校、虐待等の事例等についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
7	特別な支援を必要とする子どもと教育相談ー育てる教育相談と支援		テキスト等から主な発達障害の概要についてまとめておく。(1 時間) 授業のまとめと確認をする。(1 時間)	
8	開発的教育相談ー進路指導、キャリア教育、コーチングなど		自己実現に向かう相談、支援はどうあるべきか自身を振り返り、まとめておく。(1 時間) 授業のまとめとレポート作成を構想する。(1 時間)	
テキスト	『生徒指導提要』（最新版）（文部科学省著、教育図書） 授業時に資料プリントを配付する。			
指定図書	授業時に適宜紹介する。			

科 目 名	栄養教育実習指導		担当者	高山裕子、佐藤光咲
区 分 等	2年次・前期〔講義〕 1単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	課題提出（50%）、報告会の発表内容（30%）、受講態度（20%）。			
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説			
目 的	栄養教育実習の事前・事後指導を主とする。事前指導は、教育実習生としての意識を高め、教育実習における自己目標の設定、研究授業における学習指導案・教材作成等の実践力を養う。事後指導では、設定した目標の達成度、研究授業実践における反省を含めて、教育実習を通して捉えた課題をまとめる。			
到 達 目 標	栄養教育実習に際して、十分な準備、終了後の振り返りと整理・まとめを行い、栄養教諭の職務である「学校給食の管理」および「食に関する指導」を実践できる能力を修得する。			
履修上の注意	日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。			
オフィスアワー	月曜・木曜・金曜の16時20分～16時50分			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	教育実習の意義と目的・実習内容、教育実習校の把握と確認（高山）		授業内容の整理・まとめ（2時間）	
2	学校および児童・生徒の実態 実習計画と目標設定（高山）		授業内容の整理・まとめ（2時間）	
3	教育実習の形態と関わり方（観察実習・参加実習・授業実習・研究授業）（高山）		授業内容の整理・まとめ（2時間）	
4	研究授業準備 教材研究と学習指導案作成（佐藤）		授業内容の整理・まとめ（2時間）	
5	研究授業準備 模擬授業と評価・改善（佐藤）		授業内容の整理・まとめ（2時間）	
6	教育実習終了後の必要事項の確認（高山）		実習日誌の整理、課題レポートの作成（2時間）	
7	教育実習後の反省・教育実習報告会発表準備（高山）		実習報告会資料の作成・発表準備（2時間）	
8	教育実習報告会（佐藤）		実習報告会の反省・履修カルテの記載（2時間）	
テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』（学建書院） 文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（建学社）			
指定図書	あり（巻末参照）。			

科 目 名	栄養教育実習	担当者	高山裕子、佐藤光咲
区 分 等	2年次・前期〔実習〕 1単位 選択／健康栄養専攻		
評 価 基 準	実習校からの評価（60%）、実習日誌（20%）、受講態度（20%）。		
課題に対するフィードバック	課題の返却と解説		
目 的	教育現場における栄養教諭の役割と職務「学校給食の管理」および「食に関する指導」を捉え、栄養教諭が行う、給食時間における食に関する指導や食に関する指導の授業の実践に取り組み、栄養教諭としての資質と実践力を習得する。		
到 達 目 標	教育実習において、授業の参観と活動を主体的かつ積極的に行い、栄養教諭としての知識と教育方法、実践力を身に付ける。		
履修上の注意	目的意識を持ち積極的に取り組むこと。 日頃から、礼節、言葉づかいなど、学生としての品位を保つよう心がけること。		
オフィスアワー	月曜、木曜、金曜日の 16:20～16:50		
授業計画		準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
実習校が指定した教育実習期間・時間帯に 5 日間（40 時間）の教育実習を行う。 ＜実習内容＞ 1. 学校組織・学校運営・学校行事、学級活動などの参加・観察 2. 学校給食管理の実践・観察 3. 給食時間における食に関する指導の実践 4. 食に関連した授業およびその他の授業の観察 5. 研究授業の教材研究・授業実践・授業の反省		実習計画に基づき自己課題研究、研究授業のための教材研究などの準備とふり返りをしっかり行なうこと。	
テキスト	芦川修貳『栄養教諭のための教職実践演習・栄養教育実習ノート』（学建書院） 文部科学省『食に関する指導の手引』（第二次改定版）（建学社）		
指定図書	あり（巻末参照）。		

科 目 名	教職実践演習（栄養教諭）		担当者	佐藤光咲、織田栄子、高山裕子
区 分 等	2年次・後期〔演習〕 2単位 選択／健康栄養専攻			
評 価 基 準	①自己課題研究の発表とレポート提出（70%） ②授業参加態度、演習での貢献度（20%） ③履修カードの内容と提出（10%）			
課題に対するフィードバック	○毎時間の履修カードに記された課題や質問、感想について、コメントを付し返却し、必要に応じて授業で解説する。 ○課題やレポート等を課し、返却時に評価を付し解説する。			
目 的	健康栄養専攻においてこれまで学んできた知識と教育実習との体験を統合し、栄養教諭として学校給食管理と食に関する指導を行うための実践力を養う。			
到 達 目 標	教員に求められている資質・力量を振り返り、自らの課題を自覚し、それを解決しようとする意欲と解決できる実践的能力の育成をめざすとともに、将来にわたる職能成長の素地を培う。			
履修上の注意	複数教員によるオムニバス形式の授業である。授業の形態として、講義、演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて用いる。			
オフィスアワー	火曜日 15時～16時			
授業計画			準備学習（予習・復習）の内容および、時間	
1	ガイダンス、授業の意義及び目標と内容 （佐藤・織田・高山）		これまで短大で履修した教職科目の内容とそのポイントについて、まとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認をする。（0.5時間）	
2	望ましい栄養教諭とは （佐藤）		自分の理想の栄養教諭像をまとめておく。（1時間） 授業のまとめと確認をする。（0.5時間）	
3	学校給食施設の管理の実際（フィールドワーク） （高山）		授業のまとめと確認をする。（2時間）	
4	地場産物を活用した学校給食と食に関する指導 （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
5	食育推進コーディネータとしての役割（校内・家庭・地域） （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
6	幼児・児童・生徒の発達段階と食に関する指導 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
7	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応 1 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
8	個別相談指導における児童生徒：保護者への対応 2 （織田）		授業のまとめと確認（1時間）	
9	学校の安全管理（食中毒対応を含む） （高山）		授業のまとめと確認をする（2時間）	
10	食に関する指導技術の理解 （高山）		授業のまとめと確認をする（2時間）	
11	給食の時間における食に関する指導 （高山）		課題をまとめてレポートを作成する（2時間）	
12	教科などにおける食に関する指導（食育の大切さ、楽しさを育てる授業づくり） （佐藤）		教科などにおける食に関する指導について、授業や教育実習で学んだことを振り返り、そのポイントをまとめる。（0.5時間） 授業のまとめと確認をする。（1時間）	
13	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究 （佐藤・織田・高山）		これまでの授業や実習内容から自己課題を設定し、研究をする。（1時間）	
14	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題研究 （佐藤・織田・高山）		研究とそのまとめを行う。（3時間）	
15	栄養教諭としての資質・能力向上のための自己課題（発表） （佐藤・織田・高山）		研究のまとめと発表の準備を行う。（3時間） これまでの学修のまとめを行う（1時間）	
テキスト	各回の担当教員が適宜紹介する。			
指定図書	適宜紹介。			

◎教養教育科目 全学共通

キリスト教学Ⅰ・Ⅱ		片山桃子	
(書 名)	(著者・編者)	(出版社)	(冊)
人間と聖書 1～3	ラシャペル・アンドレ	サンパウロ	各 1
パノラマバイブル 体験する聖書 (2F 聖書コーナ-)		日本聖書協会	1
イエス・キリストの生涯	三浦綾子	講談社	1
みんなの聖書絵本シリーズ全 36 巻		日本聖書協会	各 1
*絵本は保育コーナーにあり			

女性論Ⅰ・Ⅱ		菅野 薫	
世界を変えた 10 人の女性	池上 彰	文藝春秋	2
女性学・男性学ジェンダー論入門	伊藤公雄・樹村みのり他	有斐閣アルマ	1
こども SDGs なぜ SDGs が必要なのかがわかる本	秋山宏次郎	カンゼン	1
戦争は女の顔をしていない	スヴェトラナ・アレクシェーヴィチ	岩波書店	1
世界がぐっと近くなる SDGs とボくらをつなぐ本	池上彰	G a k k e n	1
未来を変える目標 SDGs アイデアブック	Think the earth	紀伊國屋	1
わたしは 13 歳、学校に行けずに花嫁になる	久保田恭代ほか	合同出版	1
未来をうばわれる 2 億人の女の子たち	国境なき子どもたち	合同出版	1
ぼくは 12 歳、路上で暮らしはじめたわけ	国境なき子どもたち	合同出版	1
わたしは 13 歳、シリア難民	七條千恵美	青春出版社	1
礼節を磨くとなぜ人が集まるのか	七條千恵美	アルファポリス	1
人生を決める「ありがとう」と「すみません」の使い分け	江上いずみ	Discover	1
JAL ファーストクラスのチーフ CA を務めた「おもてなし達人」が教える“心づかい”の極意	山崎ナオコーラ	集英社	1
肉体のジェンダーを笑うな	信田さよ子・上間陽子	筑摩書房	1
言葉を失ったあとで	松岡宗嗣	柏書房	1
あいつゲイだって アウディングはなぜ問題なのか？	ダフナ・ジョエルほか	紀伊國屋書店	1
ジェンダーと脳 性別を超える脳の可能性	ケア・コレクティブ	大月書店	1
ケア宣言 相互依存の政治へ	アルテシヤ	大和書房	1
モヤる言葉、ヤバイ人	治部れんげ	小学館新書	1
男女格差後進国の衝撃	エミリー・V・ゴードン	ギャガ	1
DVD 「ビッグ・シック ぼくたちの大いなる目ざめ」	他		
*DVD は AV コーナーにあり			

キャリアデザインⅠ		近藤清兄	
常用字解	白川 静	平凡社	1
日本語力をつける ことばと漢字のレッスン	日栄社編集所	日栄社	2

情報システム論		小林弥生	
考える 伝える 分かち合う 情報活用力	本田直也	noa 出版	1
情報モラル&情報セキュリティ		FOM 出版	1
情報セキュリティ読本	情報処理推進機構	実教出版	1

国語表現Ⅰ・Ⅱ		栗森 貢	
作文に強くなる	馬場博治	岩波書店	2
日本語を反省してみませんか	金田一春彦	角川書店	1
日本語練習帳	大野 晋	岩波書店	2
論文の教室	戸田山和久	日本放送出版協会	2
「超」文章法	野口悠紀雄	中央公論社	1

受かる小論文・作文模範文例		新星出版社	2
日本語教室	井上ひさし	新潮社	2
書くことが思いつかない人のための文章教室	近藤勝重	幻冬舎	2
思考の整理学	外山滋比古	筑摩書房	2
子育ては言葉の教育から	外山滋比古	P H P 研究所	2
頭のよい子は「ことば」で育つ	外山滋比古	P H P 研究所	2

◎専門教育科目

Basic English Skills I・II		近藤清兄	
Soup Should Be Seen, Not Heard	Beth Brainard ほか	Dell Publishing	4
What's What 英語図詳大辞典	レジナルト・マラゴニア・ジュニア	小学館	1
スヌーピーの 50 年	チャールズ・M・シュルツ	朝日新聞出版	1

Listening I・II・III		近藤清兄	
新版 英語音声学・音韻論入門	フィリップ・カー	研究社	1

TOEFL I・II		菅野 薫	
表現英文法	田中茂範	コスモピア	1
天声人語 春・夏・秋・冬(2019～)	朝日新聞社	原書房	各 1
英語ことば選び辞典	小野史子	学研プラス	1
キリスト教・ユダヤ教・イスラム教の知識と英語を身につける	石井隆之	ベレ出版	1
文章力の基本の基本	阿部紘久	日本実業出版社	1
文章力の基本	阿部紘久	日本実業出版社	1
文章力を伸ばす	阿部紘久	日本実業出版社	1
DVD「しあわせの隠れ場所」		ワーナーホームビデオ	1
DVD「エリン・プロコピッチ」		ソニーピクチャーズ	1
*DVDはAVコーナーにあり			

TOEIC I・II		菅野 薫	
公式 TOEIC Listening&Reading プラクティスリスニング編		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading プラクティスリーディング編		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
TOEIC Listening&Reading 公式ボキャブラリーブック		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 5～7		国際ビジネスコミュニケーション協会	各 1
イチから鍛える英語リスニング入門編	武藤一也ほか	学研プラス	1
イチから鍛える英語リスニング必修編	武藤一也ほか	学研プラス	1
イチから鍛える英語長文 500	武藤一也ほか	学研教育出版	1
イチから鍛える英語長文 700	武藤一也ほか	学研教育出版	1
公式 TOEIC Listening&Reading 問題集 8		国際ビジネスコミュニケーション協会	1
TOEIC Bridge Listening&Reading 公式ワークブック		国際ビジネスコミュニケーション協会	1

ドイツ語 I・II		横溝眞理	
メモ式ドイツ語早わかり	在間 進	三修社	2
メモ式ドイツ語早わかりチェックテスト	在間 進	三修社	2
標準ドイツ語 新訂版	常木 実	郁文堂	3

心理学A		織田栄子	
社会心理学	池田謙一 ほか	有斐閣	1
臨床心理学	丹野義彦 ほか	有斐閣	1
心理学 新版	無藤 隆 ほか	有斐閣	1
司法犯罪心理学	越智啓太	サイエンス社	1

Newton ゼロからわかる心理学（増補第2版）		ニュートンプレス	1
Newton 心理学実践編		ニュートンプレス	1
心理学大図鑑		ニュートンプレス	1
心のしくみと働き図鑑	黒木俊秀	創元社	1

心理学B		織田栄子	
認知心理学	箱田裕司 ほか	有斐閣	1
心理学ビジュアル百科	越智啓太 ほか	創元社	1
図説 世界を変えた 50 の心理学	ジェレミー・スタンルーム	原書房	1
Newton ゼロからわかる心理学		ニュートンプレス	1
Newton ゼロからわかる心理学（増補第2版）		ニュートンプレス	1
Newton 心理学実践編		ニュートンプレス	1
Newton 脳とは何か（改訂第2版）		ニュートンプレス	1
Newton 脳とは何か活用編（改訂第2版）		ニュートンプレス	1
Newton 睡眠の教科書（増補第2版）		ニュートンプレス	1

プログラミングⅠ・Ⅱ		小林弥生	
HTML5&CSS3 標準デザイン講座	草野あけみ	翔泳社	1
JavaScript 本格入門	山田祥寛	技術評論社	1
30 時間アカデミック Web デザイン	影山明俊・石山美季子	実教出版	1
30 時間アカデミック JavaScript 入門	大川晃一・小澤慎太郎	実教出版	1

情報科学入門		小林弥生	
教養のコンピュータサイエンス情報科学入門	小館香椎子ほか	丸善出版	1
楽しく学ぶアルゴリズムとプログラミングの図鑑	森 巧尚	マイナビ出版	1

比較文化A		菅野 薫	
国際語としての英語	若本夏美 ほか	松柏社	1
日本語と英語 その違いを楽しむ	片岡義男	NHK出版	1
国際共通語としての英語	鳥飼玖美子	講談社	1

比較文化B		横溝眞理	
クリスマスの文化史	若林ひとみ	白水社	2
ドイツ クリスマスマーケットめぐり	見市 知	産業編集センター	1
きらめくドイツクリスマスマーケットの旅	久保田由希	マイナビ出版	1

日本文化史A		渡部育子	
図説 秋田市の歴史	秋田市	秋田市	2

日本文化史B		渡部育子	
元明天皇 元正天皇	渡部育子	ミネルヴァ書房	3

スポーツ科学B		渡邊和仁	
観るまえに読む大修館スポーツルール 2022	大修館書店編集部	大修館書店	1

ドイツ語圏文化A		横溝眞理	
現代ドイツ情報ハンドブック	在間 進 ほか	三修社	1
最新ドイツ事情を知るための 50 章	浜本隆志	明石書店	1
ドイツのシンプル家事	久保田由希	大和書房	1

食生活論		熊谷昌則	
食生活論	岡崎光子	光生館	1
食文化論	吉川誠次	建帛社	1

調理演習 A・B		松田律子	
初めての料理 肉と卵 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 魚と豆腐 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 野菜と芋 (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	2
初めての料理 ご飯とめん (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	3
初めての手作り お菓子とパン (基本の基本シリーズ)	栄養と料理 家庭料理研究グループ	女子栄養大学出版部	3

基礎経済論		荒井壮一	
最新日本経済入門	小峰隆夫 ほか	日本評論社	1
市場主義の限界	マイケル・サンデル	早川書房	1
「社会を変える」を仕事にする	駒崎弘樹	筑摩書房	1
地域再生の失敗学	飯田泰之 ほか	光文社	1

時事経済		荒井壮一	
最新日本経済入門	小峰隆夫 ほか	日本評論社	1
戦後経済史 私たちはどこで間違えたのか	野口悠紀雄	東洋経済新報社	1
「就活」の社会史	難波功士	祥伝社	1
若者と労働	濱口桂一郎	中央公論新社	1

消費生活論		小野寺倫子	
18 歳からはじめる民法	潮見佳男ほか	法律文化社	1
新しい消費者教育	神山久美ほか	慶応義塾大学出版部	1

食料経済		佐藤 了	
図説食料・農業・農村白書	農林水産省	農林統計協会	1
現代の経営 上・下 (ドラッカー名著集 2・3)	P. E. ドラッカー	ダイヤモンド社	各 1
わかりやすいマーケティング戦略 新版	沼上 幹	有斐閣	1
ドラッカー (経営学史叢書 X)	河野大機	文真堂	1
飢餓と飽食のマーケティング	小林富雄	ブイツソリューション	1
世界の農業と食料問題のすべてがわかる本	八木宏典	ナツメ社	5
農山村は消滅しない	小田切徳美	岩波書店	1
知っておきたい「味」の世界史	宮崎正勝	角川学芸出版	1
図解 知識ゼロからのコメ入門	八木宏典	家の光協会	1
食と日本人の知恵	小泉武夫	岩波書店	1
すごい和食	小泉武夫	ベストセラーズ	1
日本料理の歴史	熊倉功夫	吉川弘文館	1
日本人は何を食べてきたのか	永山久夫	青春出版社	1
イザベラ・バードの日本紀行 上・下	イザベラ・バード	講談社	各 1
水田農業と期待される農政転換	佐藤 了 ほか	筑波書房	各 1
戦争と農業	藤原辰史	集英社	1
日本人はなにをたべてきたか	原田信男	角川学芸出版	1

秘書実務 I・II		小林紀子	
入門ビジネス文書 新訂	三沢 仁	産能大学出版部	2
ビジネス敬語に慣れる本	宮腰 賢	チクマ秀版社	2
秘書英語	田中篤子	有斐閣	4

ビジネス実務総論		佐藤 恵	
組織を動かすコミュニケーション力	高橋眞知子	実教出版	2

ビジネス実務演習Ⅰ			佐藤 恵
集団コミュニケーション	浅井亜紀子	実教出版	2
日本人 礼儀作法のしきたり	飯倉晴武	青春出版社	2

卒業研究			横溝眞理
ドイツ 2021/22 地球の歩き方	地球の歩き方編集室	ダイヤモンドブックス	1
ワールドガイド ドイツ		JTBパブリッシング	1
いい旅・街歩き ドイツ	いい旅・街歩き編集部	成美堂出版	1

卒業研究			佐藤光咲
世界食物百科	マグロンヌ・トゥーサン＝サマ	原書房	1
知っておきたい「食」の世界史	宮崎正勝	角川学芸出版	1
コメを選んだ日本の歴史	原田信男	文藝春秋	1
ジャガイモの世界史	伊藤章治	中央公論新社	2
肉食の思想	鯖田豊之	中央公論新社	2
世界の食べもの 食の文化地理	石毛直道	講談社	1
物語 食の文化	北岡正三郎	中央公論新社	2
世界史を大きく動かした植物	稲垣栄洋	PHP	1
図解 食の歴史	高平鳴海	新紀元社	1

卒業研究			栗森 貢
SDGsのきほん	稲葉茂勝	ポプラ社	1
未来の授業 SDGs ライフキャリアBOOK	佐藤真久	宣伝会議	1
世界がぐっと近くなる SDGs とボクらをつなぐ本	池上 彰	Gakken	1

卒業研究			近藤清兄
秋田のことば	秋田県教育委員会	無明舎出版	1
解説秋田方言 その諸相を探る	北条忠雄	「解説秋田方言」刊行会	1
方言の地図帳	佐藤亮一	講談社	1

卒業研究			菅野 薫
もうひとつの秋田	アートNPOゼロダテ	アートNPOゼロダテ	1
あきたをおしえて	こばやしたけし	くまがい書房	1
地方は活性化するか否か	こばやしたけし	学研プラス	1
やさしいデザインの教科書	瀧上園枝	エムティエヌコーポレーション	1
地域を変えるデザインコミュニティが元気になる 30 のアイデア	Issue+design project	英治出版	1
デザインの基本ノート	尾沢早飛	SBクリエイティブ	1
全予測 2020 年代の日本 図解・未来の年表	河合雅司	講談社	1
グローバルビジネスのすすめ	奥山雅之	紫州書院	1
勝平得之 創作版画の世界	加藤隆子	秋田魁新報社	1

ListeningⅣ			近藤清兄
英語で読むシャーロック・ホームズ	コナン・ドイル	IBC パブリッシング	1

Essay and Speech			菅野 薫
相手を必ず動かす! 英会話のテクニック	清水崇文	アルク	1
英語で聴く世界を変えた感動の名スピーチ	平野次郎	KADOKAWA	1
セレブたちの卒業式スピーチ		朝日出版社	1
はじめての英語スピーチアクト	鈴木利彦	南雲堂	1
英語を話すために知っておきたい いらない英文法	Mami	KADOKAWA	1
イラストと図解でばっとわかる 英文法図鑑	田地野彰	KADOKAWA	1

ドイツ語Ⅲ			横溝眞理
ドイツ留学案内			
大学篇	山本浩司 ほか	三修社	1
語学学校・サマーコース篇	山本浩司 ほか	三修社	1
ワーキングホリデー in ドイツ	オセアニア交流センター	三修社	1

ドイツ語Ⅳ			横溝眞理
トラブルないトラベル会話			
ドイツ語 ドイツを旅する	沖島博美	三修社	1
ドイツ語 スイスを旅する	鈴木光子	三修社	1
おいしく食べて楽しいドイツ語	祐子・タム	三修社	1

社会情報学			小林弥生
よくわかる Microsoft Access 2010 基礎	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1
よくわかる Microsoft Access 2010 応用	富士通エフ・オー・エム	富士通オフィス機器	1

ドイツ語圏文化B			横溝眞理
ドイツ家庭料理		中央公論社	1
野田シェフのドイツ料理	野田浩資	里文出版	1
ドイツおいしい物語	大島楨子	東京書籍	1

保育学			石井美和子
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	1
母親というものは	葉 祥明	学研プラス	2
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第1巻 睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	1
第2巻 運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第3巻 言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
新保育学	岡野雅子 ほか	南山堂	2

簿記			佐藤 恵
検定簿記ワークブック 3級 商業簿記	渡部裕亘 ほか	中央経済社	3
やさしく学ぶ簿記入門	市川利夫	産業能率大学出版部	2
プレステップ簿記	帆足俊彦	弘文堂	2

ビジネス実務演習Ⅱ			佐藤 恵
コミュニケーション・スキルの学び	木下直子 ほか	実教出版	3

情報処理演習			小林弥生
保育者のためのパソコン講座	阿部正平 ほか	萌文書林	1

教育原理			大曾基宣
小学校学習指導要領〈平成29年告示〉	文部科学法令	東洋館出版社	

教育心理学			織田栄子
こどもとむかいあうための教育心理学演習	会田元明	ミネルヴァ書房	2
こどもとむかいあうための教育心理学概論	会田元明	ミネルヴァ書房	2
発達心理学辞典		ミネルヴァ書房	1

保育内容総論			畠山君子
非認知能力を育てるあそびのレシピ	大豆生田啓友	講談社	2
子どものこころを感じてみようよ	葉 祥明	サンマーク出版	2

保育内容・言葉A			栗森 貢
保育内容 言葉	秋田喜代美 ほか	光生館	1
子どもとことば	岡本夏木	岩波書店	2
新版 保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
0～6歳児 言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1

乳児保育Ⅰ・Ⅱ			石井美和子
---------	--	--	-------

伝わる心がめばえるこ	神田英雄	かもがわ出版	1
子どもの発達と子育て・子育て支援	丸山美和子	かもがわ出版	1
赤ちゃん学で理解する乳児の発達と保育			
第1巻 睡眠・食事・生活の基本	池田輝久 ほか	中央法規	2
第2巻 運動・遊び・音楽	小西行郎 ほか	中央法規	1
第3巻 言葉・非認知的な心・学ぶ力	小椋たみ子 ほか	中央法規	1
育ちのきほん	神田英雄	ひとなる 書房	1
保育のまなざし	井桁容子	チャイルド本社	2
演習で学ぶ乳児保育	善本眞弓	わかば社	2

こどもの音楽A・B		佐藤眞由子	
こどものうた 200 正・続		チャイルド本社	各 2
*保育コーナーにあり			

鍵盤楽器奏法A・B		山田朗子	
60 歳からピアノをはじめなさい	元吉ひろみ	YAMAHA 出版	2

保育実習指導 I		畠山君子・石井美和子	
乳児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
幼児のあそび大図鑑	あそび編集委員会	かもがわ出版	3
小林雅代のかならずできる ベストパネルシアター	小林雅代	ひかりのくに	3
楽しいエプロンシアター	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター2	中谷真弓	メイト	3
楽しいエプロンシアター3	中谷真弓	メイト	3
保育の表現活動	植草一世	学文社	2

社会福祉		米谷恭一	
貧困と保育	秋田喜代美 ほか	かもがわ出版	3

こども家庭福祉		落合晶子	
保育福祉小六法	保育福祉小六法編集委員会	みらい	1

こども家庭支援の心理学		織田栄子	
子ども家庭支援の心理学	白川佳子 ほか	中央法規	1
子ども家庭支援の心理学	青木紀久代	みらい	1
子ども家庭支援の心理学	松本園子 ほか	ななみ書房	1

こどもの理解と援助		織田栄子	
こどもの詩	川崎 洋	文藝春秋	1
ほお…、ここが地球のほいくえんか	てい先生	ベストセラーズ	2
のっぽさんの「小さな人」となかよくできるかな？	高見のっぽ	小学館	1

こどもの食と栄養		須磨亜沙子	
図解でよくわかる 新・食育ガイドブック	堤ちはる	メイト	1
0～5 歳児 食育まるわかりサポート&素材データブック		学研プラス	1
組み合わせが生きる！保育園の献立 300	文京区保育園栄養士会	芽ばえ社	1
食育パワーアップ掲示板 天地人ベスト版	「月刊食育フォーラム」編集部	健学社	1

保育指導法		石井美和子	
実習における遊びの援助と展開	久富陽子	萌文書林	1
保育実習・教育実習の設定保育	片山紀子 ほか	朱鷺書房	1
おてて絵本入門	サトシン	小学館	3
ここがポイント！3 法令ガイドブック	無藤 隆 ほか	フレーベル館	5

保育内容・健康		大曾基宣	
----------------	--	-------------	--

保育内容「健康」(新しい保育講座)	川邊貴子ほか	ミネルヴァ書房	1
-------------------	--------	---------	---

保育内容・環境A			畠山君子
思いをつなぐ 保育の環境構成			
0・1 歳児クラス編 触れて感じて人とかわる	宮里暁美	中央法規	3
2・3 歳児クラス編 遊んで感じて自分らしく	宮里暁美	中央法規	3
4・5 歳児クラス編 遊びを広げて学びに変える	宮里暁美	中央法規	3

保育内容・環境B			畠山君子
マークの図鑑	小学館	小学館	2
森の工作図鑑			
Vol.1 どんぐり・まつぼっくり	岩藤しおい	いかだ社	1
Vol.2 落ち葉	岩藤しおい	いかだ社	1

保育内容・言葉B			栗森 貢
遊んで学ぶ文字・言葉	中島千恵子	黎明書房	1
0～6 歳児 言葉を育てる保育	福山多江子ほか	東洋館出版社	1
新版 保育内容・言葉	藪中征代ほか	教育出版	1
幼い子の文学	瀬田貞二	中央公論新社	1

こどもの英語			菅野 薫
Yummy Yucky	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Baby Happy Baby Sad	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Boo	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1
Fa La La	Leslie Patricelli	Candlewick;Brdbk	1

英語A・B			菅野 薫
やさしい英語の相性図鑑	すずきひろし	ソシム	1
もう一度始める英語入門	菅谷とも子	成美堂出版	1
I spy letters	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
I spy animals	Jean Marzollo	Scholastic Inc	1
コアラ式英語のニュアンス図鑑	こあら为学校	KADOKAWA	1
ワードセンス 伝えるための単語力	大西泰斗ほか	桐原書店	1

教育制度論			佐藤光咲
幼児教育の経済学	ジェームズ・J・ヘックマン	東洋経済新聞社	1
NEW認定 幼稚園の未来	全国認定 幼稚園協会	フレーベル館	1
新しい時代の教育制度と経営	岡本 徹 ほか	ミネルヴァ書房	1

幼児理解			佐藤光咲
自我のめばえ	津守 真	岩波書店	1
幼児の心理と保育	無藤 隆	ミネルヴァ書房	1
保育のためのエピソード記述入門	鯨岡 俊 ほか	ミネルヴァ書房	1
保育臨床相談	民秋 言 ほか	北大路書房	1
子ども理解とカウンセリングマインド	青木久子	萌文書林	1
指導と評価に生かす記録	文部科学省	チャイルド本社	2
幼児理解に基づいた評価	文部科学省	ぎょうせい	1
発達心理学辞典	岩田純一 ほか	ミネルヴァ書房	1

教育相談			織田栄子
カウンセリングの話	平木典子	朝日新聞社	1
カウンセリングを学ぶ	水島恵一 ほか	有斐閣	1
河合隼雄のカウンセリング入門	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング講話	河合隼雄	創元社	1
河合隼雄のカウンセリング教室	河合隼雄	創元社	1
心理臨床大事典	氏原 寛 ほか	培風館	1

健康栄養専攻共通			
Nブックスシリーズ		建帛社	各 1
健康・栄養科学シリーズ		南江堂	各 1
ヒューマン・ニュートリション	J. S Garrow ほか	医歯薬出版	2
活躍する管理栄養士	田中浩子	文理閣	5
海を渡った栄養士たち		青年海外協力協会	1

英語 A・B		近藤清兄	
スヌーピーの 50 年	チャールズ・M・シュルツ	朝日新聞出版	1
A peanuts book featuring Snoopy (8)～(10)		角川書店	各 1

解剖生理学 I・II		齋藤 謙	
解剖学 1～3	森 於菟 ほか	金原出版	各 1
解剖学 続巻	森 優	金原出版	1
図説 ヒトのからだ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 からだの仕組みと働き	中野昭一	医歯薬出版	2
からだの構造と機能	A. シェラー	西村書店	2
新入門解剖図譜	三井但夫 ほか	建帛社	1

生化学		浅野純平	
細胞機能と代謝マップ I	日本生化学会	東京化学同人	1
ホートン生化学	H. Robert Horton	東京化学同人	1
生化学辞典 第 4 版	今堀和友 ほか	東京化学同人	1
基礎の生化学 第 2 版	猪飼 篤	東京化学同人	1
図説 生化学	石倉久之 ほか	丸善	1
標準生化学	藤田道也	医学書院	1
鎌田の化学基礎をはじめからていねいに	鎌田真彰	ナガセ	1
基礎から考える化学	山崎昶	化学同人	1
理系なら知っておきたい化学の基本ノート(無機化学編)	岡島光洋	中経出版	1
有機化学概論	塩田三千夫 ほか	裳華房	1
基礎化学 (栄養科学シリーズ NEXT)	辻 英明 ほか	講談社	1
ステップアップ 大学の総合化学	齋藤勝裕	裳華房	1
ネオパルノート 化学講座		第一学習社	1

食品学総論		熊谷昌則	
新訂 原色食品図鑑	小原哲二郎 ほか	建帛社	3
食品化学 改訂新版	藤巻正生 ほか	朝倉書店	3
食品学 I	水品善之 ほか	羊土社	5
新版 食品化学用語辞典	岡本 奨	建帛社	2
栄養・生化学辞典 (普及版)		同文書院	1

食品学各論		熊谷昌則	
食品材料 (エスカ・シリーズ)	五十嵐 脩 ほか	同文書院	3
食品図鑑 オールカラー版	芦澤正和 ほか	女子栄養大学出版部	2
食品学 II	水品善之 ほか	羊土社	5
新櫻井総合食品辞典		同文書院	3

食品衛生学		熊谷昌則	
新訂 原色食品衛生図鑑	辺野喜正夫 ほか	建帛社	2
食中毒の科学	本田武司	裳華房	1
食品表示検定認定テキスト 初級		ダイヤモンド・フリードマン社	1
食品衛生基本テキスト	コーデックス食品規格委員会	鶏卵肉情報センター	1
食品添加物インデックス PLUS	日本輸入食品安全推進協会	中央法規出版	1
食品機能の表示と科学	清水俊雄	同文書院	1
食品添加物の使用基準便覧		日本食品衛生会	1

栄養学総論		浅野純平	
-------	--	------	--

基礎栄養学（栄養科学シリーズ NEXT）	木戸康博 ほか	講談社	1
コンパクト栄養学	脊山洋石	南江堂	1
栄養の基本がわかる図解事典	中村丁次	成美堂出版	1
知っておきたい栄養学	白鳥早奈英	学研パブリッシング	1
栄養の教科書	中嶋洋子	新星出版社	1
最新 基礎栄養学	吉田 勉 ほか	医歯薬出版	1

臨床栄養学Ⅰ		須磨亜沙子	
病気がみえる全 14 巻	医療情報科学研究所	メディックメディア	各 1
カラー図解 人体の正常構造と機能Ⅰ～Ⅹ	医療情報科学研究所	日本医事新報社	各 1
管理栄養士のためのステップアップ解剖生理学	開道貴信	講談社	1
潰瘍性大腸炎とクローン病の栄養管理	中東真紀	講談社	1
人体の構造と機能	内田さえ	医歯薬出版	1
エッセンシャル 臨床栄養学	佐藤和人	医歯薬出版	1

給食管理		伊藤雅子	
介護食メニュー集	田中弥生	ニチブン	1
栄養食事管理のための施設別給食献立集	鈴木久乃 ほか	建帛社	1
メディカル栄養管理総説	田花利男 ほか	第一出版	1
新・実践給食経営管理論	藤原正嘉 ほか	みらい	1
給食の運営管理論（エスカベリック）	芦川修貳 ほか	同文書院	1
給食経営管理論	日本栄養改善学会	医歯薬出版	1

調理学		豊嶋瑠美子	
料理の科学大図鑑	シュチュアート・ファリモンド	河出書房新社	1
からだにおいしい魚の便利帳	藤原昌高	高橋書店	1
新・野菜の便利帳 健康編		高橋書店	1
新・野菜の便利帳 おいしい編		高橋書店	1
旬の野菜の栄養事典	吉田企世子	エクスナレッジ	1

食品学実験		熊谷昌則	
化学基礎食品学実験 新版	揚田富子 ほか	三共出版	2
要説栄養・食品学実験－50	大西正三	医歯薬出版	3
食品学実験	橋本俊二郎 ほか	講談社	3
食品学実験書	青柳康夫 ほか	建帛社	1
食品学実験・実習	長澤治子	青山社	1
新・図解食品学実験	新美康隆	（株）みらい	1
栄養学・食品学を学ぶための 食品学実験	川端 彰	啓明出版	1

食品加工衛生学実験		熊谷昌則	
衛生試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
乳製品試験法・注解	日本薬学会	金原出版	1
初心者のための食品製造学	中島一郎	光琳	3
食品加工実習	浅利喬泰 ほか	樹村房	3
食品加工実習	相沢孝亮	地人書館	3
原色食品加工工程図鑑	小原哲二郎 ほか	建帛社	3
てがるにできる加工食品	峰下 雄 ほか	建帛社	3
新しい食品加工学	小川 正 ほか	南江堂	3

基礎調理実習		豊嶋瑠美子	
家庭料理技能検定公式ガイド 3 級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
知っておいしい肉事典	実業之日本社	実業之日本社	1
美しい盛りつけの基本	久保香菜子	成美堂出版	1
新装版 包丁の教科書	野崎洋光	新星出版社	1
なぜ？からはじめるかんたん和食	野崎洋光	ぴあ	1

応用調理実習			豊嶋瑠美子
家庭料理技能検定公式ガイド筆記試験編 1級から2級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2
家庭料理技能検定公式ガイド実技試験編 1級から2級	家庭料理技能検定専門委員会	女子栄養大学出版部	2

学校栄養教育論			高山裕子
学校給食アレルギー事故防止マニュアル	赤城智美	合同出版	1
食育白書	農林水産省	日経印刷	1
ごはんがすすむ にいがた給食レシピ	新潟県学校栄養士協議会	新潟日報事業社	1
東京足立区の給食室	足立区教育委員会	泰文堂	2
組み合わせ自由 3段式学校給食の献立	藤原勝子	群羊社	1

教職概論			佐藤光咲
教職概論	佐藤晴雄	学陽書房	1
必携 教職入門	佐々木芳輝	本の森	1
教師の資質	諸富祥彦	朝日新聞出版	1
教職概論（新・教職課程シリーズ）	高橋 勝	一藝社	1
教職論（Minerva はじめて学ぶ教職）	吉田武男	ミネルヴァ書房	1
公立学校の底力	志水宏吉	ちくま新書	1

教育制度論			栗森 貢
学力の経済学	中室牧子	ディスカヴァー・トゥエンティワン	1
学校法	佐々木幸寿	学文社	1
現代の教育制度と経営	岡本 徹 ほか	ミネルヴァ書房	1
教育の最新事情 現代教育の動向と課題		教育出版	

教育心理学			織田栄子
いじめ、虐待、そして犯罪の深層	町沢静夫	丸善	1
池上彰が聞く「僕たちが学校に行かなかった理由」	池上 彰	オクムラ書店	2
非行少年の加害と被害	藤岡淳子	誠信書房	1
教職をめざす人のための教育心理学	藤田主一 ほか	福村出版	1
問題行動と学校の荒れ	加藤弘通	ナカニシヤ出版	1

教育課程総論			佐藤光咲
実践に活かす 教育課程論・教育方法論	樋口直宏 ほか	学事出版	1
教育課程（教師教育テキストシリーズ）	山崎準二	学文社	2
取り残される日本の教育	尾木直樹	講談社	1
2020年の大学入試問題	石川一郎	講談社	1
「カリキュラム・マネジメント」の進め方	矢ノ浦勝之	小学館	1

教育方法論			佐藤光咲
新・教育の方法と技術	平田啓一 ほか	教育出版	1
教育方法論（新・教職課程シリーズ）	広石英記	一藝社	1
子どもに向き合う授業づくり	生田孝至	図書文化	1
新しい時代の教育方法	田中耕治 ほか	有斐閣	1

道徳・特別活動及び総合的な学習			佐藤光咲
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東洋館出版	1
中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	ぎょうせい	1
特別活動研究	高橋哲夫 ほか	教育出版	1
道徳教育論（新・教職課程シリーズ）	松下良平	一藝社	1
特別活動論（新・教職課程シリーズ）	犬塚文雄	一藝社	1
特別の教科 道徳Q&A	松本美奈 ほか	ミネルヴァ書房	1

社会福祉概論			伊藤雅子
--------	--	--	------

社会福祉概論	小田兼三ほか	勁草書房	1
わかりやすい社会福祉	阿部 實	同文書院	1
社会福祉概論	立花直樹 ほか	ミネルヴァ書房	1
新版 福祉のための家政学	中川英子	建帛社	1
「平穏死」のすすめ	石飛幸三	講談社	1
平穏死という生きかた	石飛幸三	幻冬舎	1
老人の美学	筒井康隆	新潮社	1
ひとりでも最後まで自宅で	森 清	教文館	1
母の家がごみ屋敷 高齢者セルフネグレクト	工藤 哲	毎日新聞出版	1
エンド・オブ・ライフ	佐々涼子	集英社インターナショナル	1
在宅ひとり死のススメ	上野千鶴子	文春新書	1
日本国憲法	松本弦人	TAC 出	1

公衆衛生学		高山裕子	
国民衛生の動向	厚生統計協会	厚生統計協会	1
公衆衛生がみえる		メディックメディア	1
岩波ブックレット			
アスベスト問題	宮本憲一 ほか	岩波書店	1
アメリカ産牛肉から食の安全を考える	岡田幹治	岩波書店	1
いのちの選択	小松美彦 ほか	岩波書店	1
介護認定	小竹雅子 ほか	岩波書店	1
学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
新型インフル ハンデミックを防ぐために	外岡立人	岩波書店	1
データでわかる世界と日本のエネルギー大転換	レスター・R. ブラウン	岩波書店	1
地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます	明日香壽川	岩波書店	1
内部被曝	矢ヶ崎克馬 ほか	岩波書店	1
B型肝炎	奥泉尚洋 ほか	岩波書店	2
放射能汚染と学校給食	牧下圭貴	岩波書店	1
母乳と環境	本郷寛子	岩波書店	1
血液と健康	三浦恭定	裳華房	1
したたかなウイルスたち	生田和良	裳華房	1
アレルギーとアトピー	矢田純一	裳華房	1
糖尿病の本当のはなし	清野 裕 ほか	裳華房	1
動き出した遺伝子医療	松田一郎	裳華房	1
ヒトゲノムの光と影	佐伯洋子	裳華房	1
脳と心の化学	大木幸介	裳華房	1
現代の感染症	相川正道 ほか	岩波書店	1

運動生理学		齋藤 謙	
運動の仕組みと応用	中野昭一	医歯薬出版	2

臨床栄養学Ⅱ		齋藤 謙	
図説 病気の成立ちとからだⅠ	中野昭一	医歯薬出版	2
図説 病気の成立ちとからだⅡ	中野昭一	医歯薬出版	2
人体の構造・機能と疾病の成り立ち	奈良信雄	医歯薬出版	1
イラスト人体の構造と機能および疾病の成り立ち	加藤昌彦	東京数学社	2

スポーツ栄養学		浅野純平	
強くなるスポーツ栄養学	成田和子	日本文芸社	2
栄養と運動	跡見順子 ほか	杏林書院	3
スポーツと健康の栄養学	下村吉治	ナッパ	2
これでなっとく使えるスポーツサイエンス	征矢英昭 ほか	講談社	1
これからの健康とスポーツの科学	安部 孝 ほか	講談社	1
実践的スポーツ栄養学	鈴木正成	文光堂	1
基礎から学ぶ！スポーツ栄養学	鈴木志保子	ベースボールマガジン社	2
アスリートのためのスポーツ栄養学	柳沢香絵	学研	1
スポーツ・運動栄養学（栄養科学シリーズ NEXT）	加藤秀雄 ほか	講談社	1
新版 コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口 満	市村書店	1

公衆栄養学			高山裕子
食事調査マニュアル	日本栄養改善学会	南山堂	1

栄養指導論			伊藤雅子
食事バランスガイド	第一出版編集部	第一出版	2
イラスト栄養教育・栄養指導論	城田知子 ほか	東京数学社	1
演習栄養教育	大里進子 ほか	医歯薬出版	1
医師の感情「平静の心」がゆれるとき	ダニエル・オーフリー	医学書院	1
食事摂取基準入門	佐々木 敏	同文書院	1
栄養指導論（エスカベリック）	古畑 公 ほか	同文書院	1
イラストで学ぶ栄養士・管理栄養士の世界	末永美雪	学建書院	1
データ栄養学のすすめ	佐々木 敏	女子栄養大学出版部	1
栄養・運動で予防するサルコペニア	雨海照祥	医歯薬出版	1
高齢者を低栄養にしない 20 のアプローチ	吉田貞夫	メディカ出版	1
リハビリテーション栄養Q&A+症例7	田村佳奈美	メディカ出版	1
食品成分最新ガイド栄養素の通になる	上西一弘	女子栄養大学出版部	1
実践に役立つ栄養指導実例集	井川聡子	理工図書	1
身体診察 免許皆伝	平島 修	医学書院	1
私の患者になってくれてありがとう	井上義文	フジメディカル出版	1

ライフステージ栄養指導論			須磨亜沙子
食物アレルギーAtoZ	中村丁次 ほか	第一出版	1
食物アレルギー診療ガイドライン	宇理須厚雄 ほか	協和企画	1
保護者と学校の先生に伝えたい食物アレルギーの基礎知識	小林陽之助	診断と治療社	1
小児・思春期糖尿病管理の手引き		南江堂	1
摂食障害		金剛出版	1
嚥下障害の臨床	荏安 誠	医歯薬出版	1
小児思春期1型糖尿病診療ガイド	日本糖尿病学会	南江堂	1
保護者からの質問に自信を持って答える 小児食物アレルギーQ&A	海老澤元宏	日本医事新報社	1
こどもの糖尿病と治療	浦上達彦	メディカ出版	1
おいしく食べたい食べさせたい	金丸晶子	インカーメディア	1
そのまま使える！シブ別アレルギーの栄養食事指導	海老澤元宏	南山堂	1
精神疾患の栄養指導	功刀 浩	講談社	1
摂食嚥下障害の栄養食事指導マニュアル	藤谷順子	医歯薬出版	1

生化学実験			浅野純平
新生化学受験講座			
第1巻 タンパク質Ⅰ	日本生化学会	東京化学同人	1
第1巻 タンパク質Ⅴ	日本生化学会	東京化学同人	1
第2巻 核酸Ⅰ	日本生化学会	東京化学同人	1
栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ	奈良信雄	医歯薬出版	2
ワラック検査値ハンドブック		医歯薬出版	1
タンパク質実験ノート 上・下	岡田雅人 ほか	羊土社	各1

栄養学実習			浅野純平
基礎栄養学実験（Nブックス実験シリーズ）	木元幸一 ほか	建帛社	1
栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル	小野廣紀 ほか	化学同人	1

ライフステージ栄養学実習			豊嶋瑠美子
高齢者の食介護ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	1
食物アレルギーの栄養指導	海老澤元宏	医歯薬出版	1
介護食ハンドブック	手嶋登志子	医歯薬出版	3
食べるのが好きになる離乳食	猪野雅孝	女子栄養大学出版部	1
食べない子が食べてくれる幼児食	加藤初枝 ほか	女子栄養大学出版部	1
これからの応用学演習・実習	渡邊早苗	朝倉書店	1
子どもが喜ぶ食物アレルギーレシピ	海老澤元宏	成美堂出版	1
病院・施設のための嚥下食	栢下 淳	医歯薬出版	1

ピラミッドによる咀嚼・嚥下困難者レシピ 100 JISS 国立スポーツ科学センターアスリートレシピ あんしん、やさしい最新離乳食オールガイド	JISS 国立スポーツ科学センター 堤ちはる	主婦と生活社 新星出版社	2 1
--	---------------------------	-----------------	--------

臨床栄養学実習		須磨亜沙子	
カラー版 一品料理 500 選	宗像伸子	医歯薬出版	2
カラー版 ビジュアル治療食 300		医歯薬出版	1
せんぼ東京高輪病院 500kcal 台のけんこう定食	足立香代子	ワニブックス	1
せんぼ東京高輪病院 日本一の減る塩定食	足立香代子	ワニブックス	1
国循の美味しい！かるしおレシピ	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
国循の美味しい！かるしおレシピ (続)	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
国循の美味しい！かるしおレシピ (続々)	国立循環器医療センター	セブン&アイ出版	1
塩分一日 6g の健康献立	香川達雄	女子栄養大学出版部	1
腎臓病たんぱく質 30g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版	1
腎臓病たんぱく質 40g の献立集	宮本佳代子 ほか	女子栄養大学出版	1
聖路加国際病院の愛情健康レシピ	聖路加国際病院	永岡書店	1
長寿一位の長野県式・減塩ごはん	長野県栄養士会	マイナビ	2
きよせの森総合病院の極上健康レシピ	土屋忠保	ソフトバンク	1
奥菌壽子の超かんたん！極うま減塩レッスン	奥菌壽子	PHP 研究所	1
奥菌壽子の超かんたん！糖尿病ごはん	奥菌壽子	PHP 研究所	1
女子栄養大学栄養クリニック 糖尿病バランスレシピ	女子栄養大学クリニック	西東社	1
東京医科大学病院のおいしい コレステロール・中性脂肪対策レシピ	榎本眞理	主婦の友社	1
「かる塩」「かる糖」料理帖	山脇リン	小学館	1
亀田総合病院の血圧が高めの人のための おいしい減塩レシピ	亀田総合病院栄養管理室	PHP 研究所	1
ホテルシェフと大学病院の管理栄養士が考えた おいしくやせる 480kcal レシピ	横山雅好 ほか	PHP 研究所	1
おいしい血圧対策レシピ	検見崎聡美	主婦の友社	1
透析を予防する！専門医が教える腎臓病の治療法と おいしいレシピ	金沢良枝	ナツメ社	1
100 歳まで元気！強い血管をつくる塩分カットレシピ	高沢謙二	角川マガジズ	1
関西電力病院のおいしい糖尿病レシピ	清野 裕 ほか	主婦の友社	1
高血圧を下げる！ラクラクへるしお減塩レシピ	今泉久美	主婦の友社	1
長野県栄養士会の野菜たっぷり減塩レシピ	長野県栄養士会	マイナビ	1
京都医療センター メタボ外来の 3 か月で確実にやせるレシピ	京都医療センター	セブン&アイ出版	1
糖尿病専門病院が教える日本で一番おいしいレシピ	池田医院	世界文化社	1
おいしい+予算内の病院食レシピと治療食への展開	武蔵裕子 ほか	瀬谷出版	1
臨床調理	玉川和子	医歯薬出版	1

栄養指導実習		伊藤雅子	
一分で一生の信頼を勝ち取る法	矢野 香	ダイヤモンド社	1
「話し方」に自信がもてる	秋竹朋子	ダイヤモンド社	1
会話が上がる 大人のはきはき「滑舌」上達ドリル	花形一実	メイツ出版	1
栄養管理プロセスを活用した栄養指導・実例集	中村丁次	日本医療企画	1
プレゼンテーション ZEN	ガーレイノルズ	丸善出版	1
佐々木敏の栄養データはこう読む！	佐々木敏	女子栄養大学出版部	1
CD 桂文我 上方落語全集第 1 巻 (上)	桂 文我	パンローリング (株)	1
CD 桂文我 怪噺 5	桂 文我	パンローリング (株)	1
DVD 言いたいことは 1 分で 10 倍伝わる話し方 *CD・DVD は AV コーナーにあり	渡辺美紀	ビスバーツ	1

ライフステージ栄養指導実習		須磨亜沙子	
たべもの・食育図鑑	井上幸子 ほか	群羊社	2
はじめよう食育	長嶋正實 ほか	東山書房	1
効果の見える栄養指導の方法と実際	井上正子	南江堂	1
実践に役立つ栄養指導事例集	井川聡子 ほか	少年写真新聞社	1

学校教育相談	丸藤太郎 ほか	ミネルヴァ書房	1
こころの科学叢書 教育相談入門	高野久美子	日本評論社	1
教育相談 その理論と方法	江川玫成	学芸図書	1

栄養教育実習指導		高山裕子・佐藤光咲	
栄養教育実習			
食の授業アイデア集ーワークショップでつくる	藤本勇二	全国学校給食協会	1
基礎からわかる・授業に活かせる食育指導ガイドブック	中村丁次 ほか	丸善	1
すぐにできるアイデア食育	京都食育キャラバン隊	東山書房	1
朝ごはん指導実践事例集	金田雅代	少年写真新聞社	1
給食&食育だよりセレクトブック	橋本秀美	少年写真新聞社	1
食育早わかり図鑑 1～2	稲村 修	群羊社	各 2
入門・食育実践集	藤本勇二	全国学校給食協会	2
はじめての食育授業	江口敏幸 ほか	群羊社	1

教職実践演習（栄養教諭）		佐藤光咲	
新・教職リニューアル	篠原清昭	ミネルヴァ書房	1
よくわかる栄養教諭	藤澤良知	同文書院	1
給食・食育で子どもが変わる	新村洋史	新日本出版社	2

教職実践演習（栄養教諭）		高山裕子	
はじめての食育授業	江口敏幸	群羊社	1
家庭とつながる！新食育ブック			
1. 子どもの食と健康	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1
2. 食事のマナーと環境	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1
3. 成長期に大切な食品	小川万紀子 ほか	少年写真新聞社	1